



# **Bulk Administration Tool ユーザ ガイド**

Release 5.2(1)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB ( University of California, Berkeley ) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもので、「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

*Bulk Administration Tool ユーザガイド*

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



<b>このマニュアルについて</b>	<b>xvii</b>
目的	xviii
対象読者	xviii
マニュアルの構成	xix
関連マニュアル	xxi
表記法	xxii
技術情報の入手方法	xxiv
Cisco.com	xxiv
マニュアルの発注方法（英語版）	xxiv
シスコシステムズマニュアルセンター	xxv
シスコ製品のセキュリティの概要	xxvi
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xxvii
テクニカル サポート	xxviii
Cisco Technical Support Web サイト	xxviii
Japan TAC Web サイト	xxix
サービス リクエストの発行	xxix
サービス リクエストのシミュレーションの定義	xxx
その他の資料および情報の入手方法	xxxi
<b>CHAPTER 1</b>	<b>Bulk Administration Tool (BAT) の概要</b> <b>1-1</b>
	BAT データ入力ファイル <b>1-3</b>
	BAT 設定プロセス <b>1-4</b>

BAT テンプレートの使用方法	1-6
マスター電話機テンプレート	1-7
CSV データ ファイルの処理	1-7
新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル	1-8
既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル	1-9
CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ	1-10
BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法	1-13
BAT データ入力ファイルの確認	1-15
BAT データ入力ファイルの挿入	1-16
BAT アプリケーションの使用方法	1-18
仕様	1-18
Cisco CallManager Administration および BAT へのアクセス	1-19
BAT の起動	1-20
BAT へのログイン	1-20
BAT 内の移動	1-20
オンライン ヘルプの使用方法	1-21
BAT バージョンの表示	1-22
BAT トランザクションの停止	1-23
関連項目	1-24

CHAPTER 2

<b>BAT アプリケーションのインストール</b>	<b>2-1</b>
BAT のアップグレード	2-3
BAT のインストール	2-4
Microsoft Excel がインストールされているワークステーションへの BAT スプレッドシートの移動	2-5
BAT のアンインストール	2-6

関連項目 2-7

---

CHAPTER 3

**電話機、および IP テレフォニー デバイスの一括処理** 3-1

電話機の追加 3-2

BAT 電話機テンプレートの使用方法 3-4

新しい BAT 電話機テンプレートの作成 3-4

BAT 電話機テンプレートの表示または修正 3-9

BAT 電話機テンプレートのコピー 3-9

テンプレートの削除 3-11

BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 3-11

BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 3-30

BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 3-46

BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明 3-51

テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成 3-59

ファイル形式の作成 3-60

ファイル形式のコピー 3-62

ファイル形式の修正 3-63

ファイル形式の削除 3-64

CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け 3-65

電話機レコードの確認 3-66

Cisco CallManager への電話機の挿入 3-67

電話機の更新 3-71

クエリーを使用した電話機の更新 3-71

カスタム ファイルを使用した電話機の更新 3-72

更新パラメータの選択	3-74
電話機を更新する場合のフィールドの説明	3-75
回線の更新	3-84
回線を更新する場合のフィールドの説明	3-86
既存の電話機および UDP への回線の追加	3-97
BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加	3-99
BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明	3-101
電話機の削除	3-104
クエリーを使用した電話機の削除	3-104
カスタム ファイルを使用した電話機の削除	3-106
電話機のリセットまたは再起動	3-108
クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動	3-108
カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動	3-110
CAPF の設定	3-112
LSC のアップグレード	3-112
関連項目	3-116

CHAPTER 4

<b>ユーザの一括処理</b>	4-1
ユーザの追加	4-2
BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成	4-3
Cisco CallManager へのユーザの挿入	4-7
ユーザの更新	4-12
格納済みの値の保持	4-12

BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成	4-13
Cisco CallManager 内のユーザの更新	4-16
Cisco CallManager 内のユーザの削除	4-19
クエリーを使用したユーザの削除	4-19
カスタム ファイルを使用したユーザの削除	4-21
パスワードと PIN のリセット	4-23
クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット	4-23
カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリ セット	4-25
新しい電話機とユーザの追加	4-27
BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加	4-29
電話機レコードとユーザ レコードの検証	4-30
Cisco CallManager への電話機とユーザの挿入	4-31
関連項目	4-35

## CHAPTER 5

**Cisco IP Manager Assistant の使用方法** 5-1

Cisco IPMA で使用する電話機と回線の概要	5-2
プロキシ回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定	5-2
IPMA マネージャとアシスタントの電話機テンプレートの デフォルト設定値	5-3
マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定	5-5
プロキシ回線を使用した IPMA マネージャとアシスタ ント用の新しい電話機の設定	5-9
既存の電話機に対する IPMA プロキシ回線の設定	5-10
共有回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定	5-11

共有回線モードにおけるマネージャの電話機	5-11
共有回線モードにおけるアシスタントの電話機	5-12
マネージャとアシスタントの共有回線の設定	5-13
マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成	5-15
BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタント のアソシエーションの追加または更新	5-15
デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成	5-16
カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファ イルの作成	5-18
Cisco CallManager へのマネージャとアシスタントのアソシエー ションの挿入	5-21
Cisco CallManager 内のマネージャとアシスタントのアソシエー ションの削除	5-24
Cisco CallManager からのマネージャの削除	5-26
クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除	5-26
カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーション の削除	5-28
Cisco CallManager からのアシスタントの削除	5-30
クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除	5-30
カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーシ ョンの削除	5-32
関連項目	5-34

<b>ユーザ デバイス プロファイルの一括処理</b>	<b>6-1</b>
ユーザ デバイス プロファイルの追加	6-2

ユーザ デバイス プロファイル用の BAT テンプレートの作成	
6-4	
テンプレートの修正	6-6
テンプレートのコピー	6-7
テンプレートの削除	6-8
BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成	6-9
BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明	6-12
テキスト エディタを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV ファイルの作成	6-24
ファイル形式の作成	6-24
ファイル形式のコピー	6-26
ファイル形式の修正	6-27
ファイル形式の削除	6-28
CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け	6-29
ユーザ デバイス プロファイルの確認	6-30
ユーザ デバイス プロファイルの挿入	6-31
ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの生成	6-34
ユーザ デバイス プロファイルに対する回線の更新	6-36
ユーザ デバイス プロファイルの削除	6-37
関連項目	6-39

## CHAPTER 7

<b>ゲートウェイとポートの一括処理</b>	7-1
Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理	7-2
Cisco VG200 ゲートウェイの追加	7-3

FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成	
7-3	
Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成	7-4
エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加	7-7
T1 CAS エンドポイントとポートの Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加	7-9
Cisco VG200 Gateway テンプレート用のエンドポイント識別子の更新	7-10
Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成	7-12
Cisco VG200 FXS または FXO ゲートウェイ用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用法	7-12
Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用法	7-15
Cisco VG200 ゲートウェイの Cisco CallManager への挿入	7-18
Cisco VG200 ゲートウェイの削除	7-20
Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理	7-22
Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールポートの追加	7-23
Cisco Catalyst 6000 (FXS) Ports テンプレートの作成	7-23
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成	7-24
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートの Cisco CallManager への挿入	7-26
Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新	7-29

Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除	7-31
ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	7-32
Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明	7-32
Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS Ports テンプレートのフィールドの説明	7-44
Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明	7-47
Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明	7-49
T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明	7-52
Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明	7-54
Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明	7-66
関連項目	7-68

## CHAPTER 8

**Client Matter Codes と Forced Authorization Codes の一括処理**

## 8-1

CMC および FAC の設定チェックリスト	8-3
BAT の重要な考慮事項	8-4
BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成	8-6
テキスト エディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データ ファイルの作成	8-8
既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集	8-9
コードの設定の削除	8-11
CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値	8-15
BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新	8-17
Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定	8-19

関連項目 8-20

CHAPTER 9

**コール ピックアップ グループの使用法** 9-1

BAT の重要な考慮事項 9-2

BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 9-3

テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 9-4

既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 9-5

クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除 9-7

コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 9-9

BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新 9-11

Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定 9-13

関連項目 9-14

CHAPTER 10

**エクスポート ユーティリティの使用法** 10-1

Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動 10-2

電話機エクスポートの使用法 10-4

電話機レコードのエクスポート 10-7

エクスポートされた電話機レコードの検索 10-9

複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート 10-10

ユーザ エクスポートの使用法 10-11

ユーザ レコードのエクスポート 10-13

ユーザ デバイス プロファイル エクスポートの使用法 10-15

All User Device Profile Details 形式 10-15

Default User Device Profile 形式 10-17

ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート  
10-18

エクスポート ログ ファイルの表示 10-20

関連項目 10-21

---

CHAPTER 11

**レポートの生成** 11-1

電話機のレポートの生成 11-2

電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート 11-4

ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成 11-6

ユーザのレポートの生成 11-8

ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 11-10

ユーザ デバイス プロファイルのレポート 11-12

Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 11-14

IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 11-16

レポート ログ ファイルの表示 11-18

関連項目 11-18

---

CHAPTER 12

**Tool for Auto-Registered Phones Support の使用方法** 12-1

TAPS の概要 12-2

TAPS の自動登録オプション 12-3

新しい電話機での TAPS の使用方法 12-3

設定をリロードするための TAPS の使用方法 12-4

電話番号の保護 12-5

TAPS ユーザ用の言語プロンプト 12-5

TAPS のインストール 12-6

Cisco CallManager での TAPS の設定 12-8

CRS アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーション  
の設定 12-9

TAPS のアンインストール	12-10
TAPS のアンインストールの完了	12-11
TAPS の起動	12-12
TAPS の停止	12-13
TAPS オプションの設定	12-14
TAPS 用の自動登録オプションの設定	12-14
電話番号の保護の設定	12-15
電話番号の制限	12-16
電話番号に対する制限の解除	12-17
すべての電話番号の削除	12-18
制限された電話番号のリストの表示	12-19
TAPS のユーザ ロケールの設定	12-20
TAPS プロンプトの言語の追加	12-20
TAPS プロンプトの言語の削除	12-21
エンド ユーザ用の TAPS 情報	12-22
関連項目	12-23

CHAPTER 13

<b>BAT および TAPS のトラブルシューティング</b>	<b>13-1</b>
BAT ログ ファイル	13-2
BAT ログ ファイルの表示	13-2
BAT のトラブルシューティング	13-4
BAT パフォーマンスのトラブルシューティング	13-8
TAPS のトラブルシューティング	13-9
TAPS ログ ファイルの表示	13-9
TAPS エラー メッセージ	13-10
関連項目	13-11

<b>テキストベースの CSV ファイル</b>	<b>A-1</b>
電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成	<b>A-3</b>
電話機用の CSV データ ファイル形式	<b>A-4</b>
IP Phone、VGC Phone、および VGC Virtual Phone の ファイル形式	<b>A-5</b>
電話機とユーザの組み合わせのファイル形式	<b>A-6</b>
CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式	<b>A-6</b>
CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライア ントとユーザの組み合わせのファイル形式	<b>A-7</b>
All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルの フィールド	<b>A-8</b>
電話機 CSV ファイルの例	<b>A-11</b>
ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成	<b>A-13</b>
ユーザのファイル形式	<b>A-14</b>
ユーザのファイル形式の更新	<b>A-16</b>
ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイル の作成	<b>A-18</b>
ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式	<b>A-19</b>
2 回線と 2 短縮ダイヤルを持つユーザ デバイス プロファ イル	<b>A-20</b>
All Details オプションを使用するユーザ デバイス プロ ファイルのエクスポート ファイルのフィールド	<b>A-21</b>
Cisco IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション用の テキストベース CSV ファイルの作成	<b>A-24</b>
マネージャおよびアシスタントのファイル形式	<b>A-25</b>
デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエー ション	<b>A-25</b>
デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエー ション	<b>A-25</b>

カスタムマネージャとアシスタントのアソシエーション	A-26
Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-27
FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式	A-28
T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式	A-29
Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-31
Cisco Catalyst 6000 ( FXS ) ポートのファイル形式	A-32
Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成	A-34
CMC ファイル形式	A-36
CMC ファイル形式の更新	A-36
FAC ファイル形式	A-37
FAC ファイル形式の更新	A-37
コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成	A-38
CPG ファイル形式	A-39
CPG ファイル形式の更新	A-40
関連項目	A-41



# このマニュアルについて

---

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法について説明します。また、関連マニュアルを入手する方法についても説明します。

次のトピックについて取り上げます。

- [目的 \( P.xviii \)](#)
- [対象読者 \( P.xviii \)](#)
- [マニュアルの構成 \( P.xix \)](#)
- [関連マニュアル \( P.xxi \)](#)
- [表記法 \( P.xxii \)](#)
- [技術情報の入手方法 \( P.xxiv \)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \( P.xxvi \)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \( P.xxvi \)](#)
- [テクニカル サポート \( P.xxviii \)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \( P.xxxi \)](#)

## 目的

『*Bulk Administration Tool ユーザガイド*』では、Bulk Administrative Tool (BAT) の使用方法について説明します。

## 対象読者

本書は、Cisco CallManager システムの管理を担当するネットワーク管理者または技術者を対象にしています。BAT の管理には、テレフォニーおよび IP ネットワーキング技術に関する知識も必要となります。

## マニュアルの構成

表 1 に、このマニュアルの構成を示します。

表 1 BAT Tool ユーザ ガイドの構成

章番号	説明
第 1 章「Bulk Administration Tool( BAT )の概要」	BAT ( Bulk Administration Tool ) の概要について説明します。
第 2 章「BAT アプリケーションのインストール」	BAT および TAPS( Tools for Auto-Registered Phone Support ) のインストール、アップグレード、およびアンインストールの手順について説明します。
第 3 章「電話機、および IP テレフォニー デバイスの一括処理」	電話機、電話機とユーザ、CTI( computer telephony integration ) ポート、および、CTI ポートとユーザを、個別に追加するのではなく、一括して追加する方法を説明します。また、回線や電話サービス、短縮ダイヤルを追加または更新する方法、電話機を更新および削除する方法についても説明します。
第 4 章「ユーザの一括処理」	複数のユーザを一括して追加、更新、削除する方法を説明します。
第 5 章「Cisco IP Manager Assistant の使用方法」	Manager Assistant Association を追加、更新、削除する方法を説明します。
第 6 章「ユーザ デバイス プロファイル の一括処理」	ユーザ デバイス プロファイルを追加、更新、削除する方法を説明します。
第 7 章「ゲートウェイとポートの一括処理」	Cisco VG200 ゲートウェイとポートを追加、更新、または削除する方法、Cisco Catalyst 6000 アナログ インターフェイス モジュール用の FXS ( Foreign Exchange Station ) ポートを追加または削除する方法を説明します。また、FXS ポートで使用するための Gateway Directory Number テンプレートを作成する方法も説明します。
第 8 章「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes の一括処理」	Client Matter Codes と Forced Authorization Codes を追加、更新、削除する方法を説明します。
第 9 章「コール ピックアップ グループ の使用方法」	コール ピックアップ グループを追加、更新、削除する方法を説明します。

## ■ マニュアルの構成

表1 BAT Tool ユーザ ガイドの構成 (続き)

章番号	説明
第10章「エクスポートユーティリティの使用法」	エクスポートユーティリティの使用法を説明します。
第11章「レポートの生成」	レポートの生成方法と使用法を説明します。
第12章「Tool for Auto-Registered Phones Support の使用法」	TAPS のインストール方法や設定方法、使用法を説明します。
第13章「BAT および TAPS のトラブルシューティング」	バルク トランザクション用のログ ファイルの一般的なシナリオについて説明し、BAT または TAPS の使用時に表示される可能性がある各種エラーメッセージの説明と解決方法を記述します。
付録 A「テキストベースの CSV ファイル」	バルク トランザクション用のデバイスやユーザについてテキストベースのファイルを作成する方法を説明します。また、さまざまなシナリオにおけるファイル形式の例も示します。

## 関連マニュアル

Cisco IP テレフォニー関連のアプリケーションと製品の詳細は、次の資料を参照してください。

- *Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager システム ガイド*
- *Release Notes for Cisco CallManager Release*
- *Cisco CallManager インストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド*
- *Cisco CallManager Serviceability システム ガイド*
- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*
- *Hardware Configuration Guide for the Cisco VG200*
- *Cisco VG200 ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド*
- *Cisco VG248 Analog Phone Gateway ソフトウェア コンフィギュレーション ガイド*
- *Cisco IP Phone アドミニストレーション ガイド for Cisco CallManager*
- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco CallManager トラブルシューティング ガイド*
- *Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド*

## 表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、 <b>太字</b> で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
istring	引用符を付けない一組の文字。istringの前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてistringとみなされます。
screen フォント	端末セッションおよびシステム情報の表示出力には、 <code>screen</code> フォントを使用します。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 <b>太字の screen</b> フォントで示しています。

(注) は、次のように表しています。



**(注)** 「注釈」を表しています。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



**ワンポイント・アドバイス**

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



**ヒント**

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



**注意**

「注意」が必要であることを意味します。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



**警告**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の作業を行うときは、電気回路の危険性および一般的な事故防止対策に十分注意してください。

## 技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカル サポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

### Cisco.com

マニュアルの最新版は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/univercd/home/home.htm>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

各国のシスコ Web サイトには、次の URL からアクセスできます。

[http://www.cisco.com/public/countries\\_languages.shtml](http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml)

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

### マニュアルの発注方法（英語版）

英文マニュアルの発注方法については、次の URL にアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es\\_inpk/pdi.htm](http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/es_inpk/pdi.htm)

シスコ製品の英文マニュアルは、次の方法で発注できます。

- Cisco.com 登録ユーザ（Cisco Direct Customers）の場合、Ordering ツールからシスコ製品の英文マニュアルを発注できます。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/partner/ordering/index.shtml>

- Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

## シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

## シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意する必要があります。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

シスコの暗号化製品に適用される米国の法律の概要については、次の URL で参照できます。 <http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

何かご不明な点があれば、[export@cisco.com](mailto:export@cisco.com) まで電子メールを送信してください。

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル（英文のみ）を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_psirt\\_rss\\_feed.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html)

## シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合: [security-alert@cisco.com](mailto:security-alert@cisco.com) (英語のみ)  
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合: [psirt@cisco.com](mailto:psirt@cisco.com) (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



### ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

[http://www.cisco.com/en/US/products/products\\_security\\_vulnerability\\_policy.html](http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html)

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

## テクニカル サポート

シスコと正式なサービス契約を交わしているすべてのお客様、パートナー、および代理店は、Cisco Technical Support で 24 時間テクニカル サポートを利用することができます。Cisco.com の Cisco Technical Support Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

### Cisco Technical Support Web サイト

Cisco Technical Support Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間 365 日、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>

## Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

## サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3 : ネットワークに軽微な障害が発生した、S4 : 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が自動的に検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、Cisco TAC のエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1 : ネットワークがダウンした、S2 : ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、Cisco TAC のエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

## サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

## その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- 『Cisco Product Catalog』には、シスコシステムズが提供するネットワーキング製品のほか、発注方法やカスタマー サポート サービスについての情報が記載されています。『Cisco Product Catalog』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://cisco.com/univercd/cc/td/doc/pcat/>

- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版物やその他の情報を調べるには、次の URL から Cisco Press にアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンライン サービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『*iQ Magazine*』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、実例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『*iQ Magazine*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

- 『*Internet Protocol Journal*』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『*Internet Protocol Journal*』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



# Bulk Administration Tool (BAT) の概要

Bulk Administration Tool (BAT) は、Web ベースのアプリケーションで、Cisco CallManager データベースに対してバルク トランザクションを実行します。同種の電話機、ユーザ、およびポートを多数一括で追加、更新、または削除することができます。今まで、Cisco CallManager Administration では、データベース トランザクションを個々に手作業で処理する必要がありましたが、BAT を使用すると、プロセスを自動化し、追加、更新、および削除の操作をはるかに高速に処理できるようになります。

BAT で処理できるデバイスとレコードのタイプは、次のとおりです。

- Cisco IP Phone、たとえば Voice Gateway Chalice (VGC) 電話機、Computer Telephony Interface (CTI) ポート、および H.323 クライアントの追加、更新、および削除
- ユーザの追加、更新、および削除
- Cisco IP Manager Assistant (IPMA) マネージャおよびアシスタントの追加、更新、および削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、および削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上のポートの追加、更新、および削除
- Cisco VG200 アナログ ゲートウェイおよびポートの追加、および削除
- Forced Authorization Codes コードの追加、および削除
- Client Matter Codes の追加、および削除

- コールピックアップグループの追加または削除

デバイスは、ユーザ情報と組み合わせて処理することも可能です。たとえば、CTIポートおよびユーザを追加する場合、BATの「Enable CTI Application Use」を選択して、CTIポートを必要とするアプリケーション、たとえばCisco IP SoftPhoneを使用するユーザを短時間で追加できます。

BATのオプションコンポーネントであるTool for Auto-Registered Phones Support (TAPS)を使用すると、大型システムの管理に伴う手作業がさらに減少します。たとえば、新しい電話機を大量に追加する必要がある場合、BATを使用すれば、ダミーのメディアアクセス制御(MAC)アドレスを持つデバイスを追加することで、MACアドレスを1つずつデータ入力ファイルに入力しなくて済みます。電話機をインストールしたら、電話機のユーザまたは管理者は、TAPS電話番号にダイヤルしていくつかの音声プロンプトに従うだけで、電話機に適切なユーザデバイスプロファイルをダウンロードできます。TAPSツールの詳細については、第12章「Tool for Auto-Registered Phones Support の使用方法」を参照してください。

次のトピックでは、BATの使用方法について説明します。

- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT アプリケーションの使用方法 \(P.1-18\)](#)

## BAT データ入力ファイル

すべてのデバイスには、個々のアトリビュート、設定、情報フィールドが数多くあり、それらの設定によってデバイスはネットワークで正しく動作し、テレフォニー機能を提供します。アトリビュートと設定には、多くのデバイスに共通しているものもあれば、電話番号のように特定のユーザやデバイスで固有の値をとるものもあります。BAT データ入力ファイルの内容をできるだけ圧縮するため、BAT は、共通のデバイス設定に対してテンプレートを使用します。

Cisco CallManager データベースに対するバルク設定トランザクションでは、2つのコンポーネント、つまり、デバイスタイプに対するテンプレートと、コンマ区切り値(CSV)形式のデータファイルがBAT プロセスによって使用されます。CSV形式のデータファイルには、新しいデバイスを設定するため、またはデータベース内の既存のレコードを更新するために使用する固有の値を定義します。CSV データファイルは、デバイステンプレートと連携して動作します。

たとえば、Cisco IP Phone グループ用のバルク トランザクションを作成する場合、各電話機に固有な情報、たとえば電話番号や MAC アドレスを記載した CSV データファイルを設定します。さらに、トランザクション内のすべての電話機に共通の設定を記載した BAT テンプレート、たとえば Cisco IP Phone 7960 テンプレートを設定または選択します。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT 設定プロセス

BAT は、複数のステップから成るプロセスを使用して、バルク設定トランザクションを準備します。BAT が提供するウィザード インターフェイスを使用して、設定タスクを順に処理することができます。BAT プロセスには、次のタスクが含まれています。

1. データ入力用のテンプレートを設定する。
2. CSV データ ファイルの形式を定義する。
3. バルク トランザクションにおける各デバイス用データを収集する。
4. Cisco CallManager データベースを使用してデータ入力ファイルを確認する。
5. Cisco CallManager データベースにデバイスを挿入する。

### BAT ウィザードの使用方法

BAT ウィザードは、すべての BAT タスクについて、ステップごとに処理します。BAT を起動すると、メイン ウィンドウが現れ、上部に次のメニュー オプションが表示されます。

- Configure
- Applications
- Help

Configure メニューでは、次のデバイス オプションまたは設定オプションのいずれかを選択して、ウィザード ウィンドウにアクセスします。

- Phones
- Users
- Manager/Assistants
- User Device Profiles
- Gateways
- Forced Authorization Codesforced authorization codes
- Client Matter Codesclient matter codes
- Pickup Group
- TAPS (インストールされている場合のみ)

デバイス オプションまたは設定オプションを選択すると、ウィザードには、そのオプションに特有の設定タスクのリストが表示されます。たとえば、Phones を選択すると、次のタスクのリストが表示されます。

- Insert Phones : 新しい電話機を追加します。
- Update Phones : 既存の電話機を見つけて修正します。
- Delete Phones : 電話機を見つけて削除します。
- Export Phones : 特定の電話機レコードまたはすべての電話機レコードを見つけてエクスポートします。
- Update Lines : 既存の電話機の回線を見つけて修正します。
- Add Lines : 既存の電話機に新しい回線を追加します。
- Reset/Restart Phones : 電話機を見つけてリセットまたは再起動します。
- Insert Phones with Users : 新しい電話機およびユーザを追加します。
- Generate Phone Reports : 電話機に関するカスタマイズされたレポートを生成します。
- CAPF Configuration : 既存の CAPF 設定を検索し、修正または削除します。

設定タスクを選択すると、ウィザードには、そのタスクに特有のステップのリストが表示されます。たとえば、Insert Phones タスクを選択した場合、次のステップが表示されます。

ステップ 1 : 既存の電話機テンプレートを追加、表示、または修正します。

ステップ 2 : CSV データ ファイルを作成します。

ステップ 3 : 電話機レコードを確認します。

ステップ 4 : 電話機を挿入します。

タスク リストからステップを選択すると、設定ウィンドウ、たとえば Phone Template Configuration ウィンドウが表示されます。設定ウィンドウには、テンプレートを定義するための入力フィールドがあります。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT テンプレートの使用方法

BAT 設定プロセスの最初のタスクでは、設定するデバイス用のテンプレートを設定します。追加または修正する電話機またはデバイスのタイプを指定し、次に、バルク トランザクション内のすべての電話機またはデバイスに共通の機能を記載した BAT テンプレートを作成します。

BAT テンプレートを作成できるデバイス オプションのタイプは、次のとおりです。

- 電話機：すべての Cisco IP Phone モデル、Cisco ATA 186、Cisco VGC 電話機、CTI ポート、および H.323 クライアント
- ゲートウェイ：Cisco VG200、および Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール用のポート
- ユーザ デバイス プロファイル：Cisco IP Phone 7900 シリーズおよび Cisco SoftPhone

バルク トランザクションにおいてすべてのデバイスに共通のテンプレート フィールドに値を指定して、BAT テンプレートを定義します。BAT テンプレート フィールドに必要な値は、Cisco CallManager Administration でデバイスを追加するときに入力する値とほぼ同じです。

BAT テンプレートを作成する前に、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレートなどの設定値が、Cisco CallManager Administration に設定されていることを確認してください。BAT を使用して、Cisco CallManager Administration の新しい設定やボタン テンプレートを作成することはできません。

BAT テンプレートを作成したら、名前を付けて保存します。設定プロセスの後の部分で、このテンプレート名に CSV データ ファイルを関連付けます。テンプレートはシステムに保存されるので、今後のバルク トランザクションでこれらのテンプレートを再利用できます。たとえば、特定のボタン テンプレートとコーリング サーチ スペースを使用して Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定した後で、違うボタン テンプレートを使用してエクステンション モビリティ機能が有効になっている別の Cisco IP Phone 7960 用テンプレートを設定できます。同じ設定を持つ多数の電話機を追加する必要があるときに、既存の BAT テンプレートを再利用できます。

## マスター電話機テンプレート

複数の回線を持つ電話機のグループを追加する場合、複数の回線を備え、特定の電話機モデルに広く使用される値を持つマスター電話機テンプレートを作成します。マスターテンプレートを使用すると、マスター電話機テンプレートの回線数を上限として、異なる数の回線を持つ複数の電話機を追加できます。たとえば、8回線を持つ Cisco IP Phone 7960 用のマスター電話機テンプレートを作成するとします。このテンプレートを使用すると、1回線または2回線から最大で8回線を持つ電話機を追加できます。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CSV データ ファイルの処理

CSV データ ファイルには、各デバイスに固有な設定や情報、たとえば、電話番号、MAC アドレス、および説明が含まれています。CSV データ ファイル内のすべての電話機とデバイスが、同じ電話機モデルとデバイスモデルであること、BAT テンプレートと一致していることを確認してください。CSV データ ファイルには、BAT テンプレートの値の一部を複写できます。CSV データ ファイル内で値を設定すると、BAT テンプレートで設定されている値は上書きされます。この上書き機能によって、特殊な設定が可能になります。

### テンプレート値の上書きの例

バルク トランザクション内の大部分の電話機を、ボイス メッセージ システムにリダイレクトする場合、Call Forward Busy (Internal/External) (CFB) フィールドおよび Call Forward No Answer (Internal/External) (CFNA) フィールドにボイス メッセージ番号を設定します。しかし、バルク トランザクション内の一部の電話機を、ボイス メッセージ システムではなく秘書にリダイレクトする場合は、CSV データ ファイル内の CFB フィールドおよび CFNA フィールドに、秘書の電話番号を指定できます。このように設定することによって、大部分の電話機は、BAT 電話機テンプレートから CFB および CFNA の値を使用しますが、一部の電話機は、CSV データ ファイルに指定されている秘書の電話番号を使用します。

電話機用の CSV データ ファイルには、複数の電話番号が含まれる場合があります。CSV データ ファイルに入力する電話番号の数は、BAT 電話機テンプレートで設定されている回線数を超えることはできません。回線数が設定値を超えると、エラーが発生します。

次のトピックでは、CSV データ ファイルのタイプについて説明します。

- [新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル \(P.1-8\)](#)
- [既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル \(P.1-9\)](#)
- [CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ \(P.1-10\)](#)

## 新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル

システムに新しいデバイスを追加する場合、BAT 専用に設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。BAT スプレッドシートには、次に挙げる便利な機能があります。

- 異なるデバイス用のマクロを含むデータ ファイル テンプレート
- カスタマイズされたファイル形式定義
- 複数の電話回線のサポート
- エラー チェックの記録
- CSV 形式へのファイル変換

新しいレコードを作成する場合、BAT.xlt という名前の BAT スプレッドシートを使用します。このスプレッドシートを使用すると、CSV 形式にエクスポートするときにデータが自動的に確認されます。BAT スプレッドシートの使用方法の詳細については、[P.1-13 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用方法」](#)を参照してください。

CSV 形式のファイルの処理に精通している BAT ユーザであれば、テキスト エディタを使用して、デバイス挿入タスク ウィンドウに用意されているサンプル テキスト ファイルに準じて CSV データ ファイルを作成できます。テキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、[付録 A「テキストベースの CSV ファイル」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 既存デバイスの更新用の CSV データ ファイル

既存の電話機とデバイスを修正または更新するには、これらのデバイスのレコードを検索する必要があります。BAT では、2 つの方法で電話機、ゲートウェイ、およびデバイス プロファイルを検索できます。つまり、カスタマイズされたクエリーを使用する方法とカスタム ファイルを使用する方法です。

### カスタマイズされたクエリー

BAT には、クエリー基準を定義するためのウィンドウがあります。特定のデバイス モデルを選択するか、デバイス詳細のリストと回線詳細のリストから検索基準を選択します。両方を選択することも可能です。特定のデバイス モデル、たとえば Cisco IP Phone 7912 のすべてのデバイスを検索する場合は、モデルは選択しますが、他の検索基準は追加しません。この処理によって、データベースに設定されている Cisco IP Phones 7912 すべてのレコードを取得できます。

### カスタム ファイル

クエリーで使用できる共通のアトリビュートがない場合は、BAT が提供するカスタム ファイル オプションを使用します。カスタム ファイルには、デバイス名または電話番号が記載されています。カスタム テキスト ファイルを作成するときは、それぞれのレコードを別々の行に記述します。検索を実行すると、基準に一致するレコードをすべて取得できます。

### エクスポート ファイル

電話機のグループを移動する必要がある場合は、エクスポート ユーティリティを使用します。エクスポート ユーティリティを使用すると、Cisco CallManager データベース内の既存レコードを抽出し、CSV データ ファイルに移動できます。電話機を移動するときは、Export Phones with the All Phone Details オプションを使用します。このオプションを使用すると、電話機に関連する情報（デバイス アトリビュート、回線アトリビュート、サービスなど）をすべて持つレコードを含むエクスポート ファイルが生成されます。同じような回線設定を持つ電話機が複数ある場合、テンプレートを使用すれば、特定の詳細情報を持つ電話機レコードをエクスポートすることもできます。エクスポート ユーティリティを使用したデバイスの更新の詳細については、[P.10-2 の「Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動」](#)を参照してください。

### 関連項目

- [新しいデバイスの追加用の CSV データ ファイル \(P.1-8\)](#)
- [CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ \(P.1-10\)](#)

## CSV データ ファイルのファイル形式のカスタマイズ

CSV データ ファイルには、デバイス アトリビュートを表す文字列と、コンマ区切り値 (CSV) 形式で記述された情報が格納されています。Cisco CallManager データベースにデータ レコードを挿入する場合は、各データ ファイルが CSV 形式であることを確認してください。以前のリリースの BAT では、CSV ファイルの形式は決まっており、次の 2 つのオプションがありました。

- Default format : 各デバイスに対して制限された固定数のアトリビュートと設定を持つ CSV ファイル
- All details format : エクスポート ユーティリティにより作成され、各デバイスのアトリビュートと設定すべてを持つ CSV ファイル

CSV データ ファイルの最初の行には、ファイル形式、つまり、CSV ファイルに含まれている各フィールドの名前が表示されます。このファイル形式情報を利用すると、CSV データ ファイル内の特定のフィールドのエントリを簡単に見つけることができます。たとえば、次に示す CSV ファイルの例では、USER ID はヘッダー内の 5 番目のフィールドを表しており、電話機に対応した CSV ファイルでは、5 番目のフィールドは「johns」になっています。

### デフォルトのファイル形式の CSV データ ファイルの例

```
NUMBER OF LINES,MAC ADDRESS,DESCRIPTION,LOCATION,USER ID,DIRECTORY  
NUMBER,DISPLAY,LINE TEXT LABEL,FORWARD BUSY EXTERNAL,FORWARD NO ANSWER  
EXTERNAL,FORWARD NO COVERAGE EXTERNAL,FORWARD BUSY INTERNAL,FORWARD NO  
ANSWER INTERNAL,FORWARD NO COVERAGE INTERNAL,CALL PICKUP GROUP,SPEED  
DIAL NUMBER, SPEED DIAL LABEL
```

```
1,1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike  
,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,Mar  
keting,1230000000,Helpdesk
```

このリリースでは、File Format Configuration ウィンドウを使用して、CSV データファイルのファイル形式をカスタマイズできるようになりました。BAT テンプレートに含まれているアトリビュートを、独自のファイル形式に追加できます。この機能を使用すると、テンプレートのエントリを、デバイス用の特定のアトリビュート値で上書きできます。たとえば、独自のファイル形式のルートパーティションアトリビュートを選択し、電話機ごとに、異なるパーティションを CSV データファイルに入力することができます。

このウィンドウでは、Device フィールドと Line フィールドから特定のアトリビュートを選択できます。

次のデバイスアトリビュートは、すべてのファイル形式に必ず含まれます。

- Number of Lines
- MAC Address
- Description



**(注)** すべての電話機 CSV データファイルで、Number of Lines が最初の項目になっていることを確認してください。

File Format Configuration ダイアログボックスでは、Device Field ボックスでデバイスアトリビュートを簡単に選択できます。矢印をクリックすると、そのアトリビュートを Selected Device Field ボックスに移動できます。Ctrl キーを押したまま選択すると、複数のアトリビュートを同時に選択できます。

ファイル形式内のデバイスアトリビュートフィールドと回線アトリビュートフィールドの順序は、上向き矢印と下向き矢印を使用して変更できます。アトリビュートを選択した後に、上向き矢印をクリックすると、その項目は前方に移動し、下向き矢印をクリックすると、その項目は後方に移動します。回線アトリビュートをデバイスアトリビュートより前に移動したり、短縮ダイヤルの順序を変更したりすることはできません。

**ヒント**

CSV ファイル形式は、別のデータベースに格納されている従業員の電話機情報の配列に合うようにカスタマイズすることもできます。この方法を利用すると、会社のデータベースと Cisco CallManager データベースとの間でデータを簡単にエクスポートできます。

**カスタマイズされたファイル形式の CSV データ ファイルの例**

**Device フィールド** : MAC Address、Description、Device Pool、Calling Search Space

**Line フィールド** : Directory number、Partition、Line Text Label (ファイル内では電話番号の後に移動)

File Format には、短縮ダイヤルのコードは含まれません。Include Speed Dials in the CSV Format チェックボックスをオンにすると、短縮ダイヤルを選択することができます。

```
NUMBER OF LINES,MAC ADDRESS,DESCRIPTION,DEVICE POOL,CSS,DIRECTORY  
NUMBER,LINE TEXT LABEL,PARTITION,  
1,2234900AEF01,SEP2234900AEF01,DP_1,CSS_Restricted,  
9725098827,Lobby Phone,Part1
```

**ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け**

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合、最初に、カスタマイズされたファイル形式を作成し、そのファイル形式で指定した順序で値を入力することができます。カスタマイズされたファイル形式のテキストベースの CSV データ ファイルを挿入する前に、その CSV データ ファイルにファイル形式名を関連付ける必要があります。1 つの CSV データ ファイルに関連付けられるファイル形式は 1 つだけです。

Add File Format ウィンドウを使用して、File Name ドロップダウン リストで CSV データ ファイル <CSVfilename>.txt を選択します。次に、File Format Name ドロップダウン リストで、希望するファイル形式を選択します。CSV データ ファイル内のデータは、選択したカスタム ファイル形式と一致している必要があります。

**その他の情報**

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法

BAT スプレッドシートを使用すると、CSV データ ファイルを簡単に作成できます。複数のデバイスを追加し、各デバイスのレコードをスプレッドシート形式で表示できます。スプレッドシート内のファイル形式はカスタマイズ可能です。確認とエラー チェックが自動的に行われるので、設定エラーを減少させることができます。BAT スプレッドシートの下部には複数のタブがあり、このタブを使用して、BAT 内のさまざまなデバイスとユーザの組み合わせに必要なデータ入力フィールドにアクセスできます。

CSV データ ファイルは、BAT テンプレートと連携して動作します。たとえば、BAT スプレッドシートの Phone タブでは、Location、Forward Busy Destination、または Call Pickup Group の各フィールドをブランクのままにすることができます。その場合、これらのフィールドには、BAT 電話機テンプレートからの値が使用されます。しかし、Forward Busy Destination フィールドまたは Call Pickup Group フィールドに値を指定すると、その値が BAT 電話機テンプレートでこれらのフィールドに対して設定されている値を上書きします。



### ヒント

BAT をインストールすると、スプレッドシート用の Microsoft Excel ファイルはパブリッシャ データベース サーバに置かれますが、通常、パブリッシャ データベース サーバは Microsoft Excel を実行していません。パブリッシャ データベースサーバから、作業用のローカル PC に BAT.xlt ファイルをコピーする必要があります。

ローカル マシンにファイルをコピーするには、フロッピーディスクまたはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、パブリッシャ データベースサーバ上のパス C:\CiscoWebs\BAT\ExcelTemplate を開きます。BAT.xlt ファイルを Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにコピーします。

BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成するには、BAT.xlt ファイルを見つけてダブルクリックします。BAT スプレッドシートを開くときは enable macros を選択しておく必要があります。

スプレッドシートには、アトリビュート ヘッダーを持つカラムのセットが表示されます。ヘッダーは、BAT フィールドの名前、必須フィールドであるかオプション フィールドであるかの区別、およびフィールドに入力可能な最大文字数を示すためのものです。

スプレッドシートの下部には、すべてのデバイスに対応するタブが表示されています。処理をするデバイス タイプのタブをクリックすると、カラムが調整され、選択したデバイスに関連するフィールドがすべて表示されます。たとえば、電話機とユーザを同時に追加するには、Phones-Users のマークが付いたタブをクリックします。

次に、**Create File Format** ボタンをクリックして、CSV データ ファイルのファイル形式を定義します。Field Selection ダイアログボックスを使用して、CSV データ ファイルに含める項目と、項目の順序を選択します。**Update** をクリックすると、スプレッドシート内のカラムは、指定した新しいファイル形式に合わせて調整されます。

最初の行では、すべての必須フィールドおよび該当するオプション フィールドに、デバイスのデータを入力します。デバイスごとにデータを新しい行に入力してください。



---

(注) スプレッドシート内に空白行がある場合、システムは「end of file」マーカーとして処理し、それ以降のレコードを廃棄します。

---

すべてのデバイス レコードの入力が完了したら、BAT スプレッドシート データを CSV ファイル形式でエクスポートします。BAT は、CSV ファイル形式を使用して、Cisco CallManager パブリッシャ データベースに対してバルク トランザクションを実行します。



---

(注) いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

---

CSV 形式ファイルは、テキストファイルとして、C:\XLSDataFiles フォルダ、またはユーザが選択した別のフォルダに保存されます。ファイル名の形式は次のとおりです。

```
<tabname><timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成したデバイス入力ファイルのタイプ ( phone、user device profiles など ) を表します。<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

次に、変換した CSV データ ファイル ( CSV 形式バージョン ) を Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバに戻し、BAT がアクセスできるようにします。そのためには、マッピングされたネットワーク ドライブまたはフロッピーディスクを使用して、<tabname><timestamp>.txt ファイルを、C:\XLSDataFiles フォルダからパブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles の下にある適切なフォルダにコピーします。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT データ入力ファイルの確認

BAT ウィザードの次のタスクでは、Validate File オプションを使用します。このタスクでは、CSV データ ファイルの名前およびデバイス用の BAT テンプレートを選択します。CSV データ ファイルにすべての詳細が記述されている場合は、モデルを選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

**Specific Details** : Default ファイル形式または Custom ファイル形式のレコードを確認します。

**All Details** : エクスポートユーティリティで All Details オプションを使用して生成したファイルのレコードを確認します。

Validate を選択すると、システムは、パブリッシャ データベースの情報と照合してエラーをチェックする確認ルーチンを実行します。チェックされる項目は、次のとおりです。

- データベース テーブルに依存しないフィールド、たとえば、Description、Display Text、Speed-dial Label に、有効な文字が使用されていること。

- Cisco CallManager で、グループ、プール、パーティション、および他の参照アトリビュートが設定されていること。
- デバイスに設定されている回線数が、デバイス テンプレートと一致していること ( Specific Details の場合のみ )

ここでは、ユーザが存在するかどうか、または BAT で定義した必須フィールドやオプション フィールド、たとえばダミーの MAC アドレスについてはチェックされません。

トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** を選択して、正しいと確認できなかったデバイスと、エラー コードを示すログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[第 13 章「BAT および TAPS のトラブルシューティング」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT データ入力ファイルの挿入

データ入力ファイルの確認が終了したら、Insert ウィンドウを使用して、デバイス レコードを Cisco CallManager パブリッシャ データベースに追加できます。このタスクでは、データ入力ファイルの名前、デバイス用の BAT テンプレート、およびモデル ( 必要に応じて ) を選択します。レコードの挿入方法としては、次のオプションがあります。

**Specific Details** : カスタマイズされたファイル形式のレコードを挿入します。

**All Details** : エクスポートユーティリティで All Details オプションを使用して生成したファイルのレコードを挿入します。

**Insert** をクリックすると、Cisco CallManager データベースにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**注意**

BAT は、オフピーク時間帯にだけ使用してください。それ以外のときに使用すると、バルク トランザクションが Cisco CallManager のパフォーマンスに影響を与え、コール処理に不具合が生じる場合があります。

OK をクリックすると、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** ボタンをクリックすると、進行中のトランザクションが表示されます。



**(注)** 電話機レコードの回線情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その電話機レコードを挿入しません。

トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックして、追加されたレコード数と追加に失敗したレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) を表示します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。

BAT トランザクションを開始した後で、Cisco CallManager のパフォーマンスの低下が認められた場合は、トランザクションを停止できます。進行中の BAT トランザクションを停止するツールの使用方法については、[P.1-23 の「BAT トランザクションの停止」](#) を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#) を参照してください。

## BAT アプリケーションの使用方法

次のトピックでは、BAT アプリケーションの基本情報、起動方法、および使用方法について説明します。

- [仕様 \(P.1-18\)](#)
- [Cisco CallManager Administration および BAT へのアクセス \(P.1-19\)](#)
- [BAT の起動 \(P.1-20\)](#)
- [BAT へのログイン \(P.1-20\)](#)
- [BAT 内の移動 \(P.1-20\)](#)
- [オンライン ヘルプの使用方法 \(P.1-21\)](#)
- [BAT トランザクションの停止 \(P.1-23\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)

### 仕様

BAT Release 5.2(x) の仕様は次のとおりです。

- BAT Release 5.2(x) は、Cisco CallManager Release 4.2(1) と互換性がある。
- BAT は、Cisco CallManager DC Directory (DCD)、Microsoft Active Directory (AD)、Netscape Directory Server をはじめとする Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) をサポートしている。
- BAT Release 5.2(1) は、TAPS を併用する場合、Customer Response Solutions (CRS) Version 4.0(2) と互換性がある。
- BAT Release 5.2(1) は、BAT/TAPS ページを使用した設定変更を確実に保護するため、これらのページで Secure HyperText Transfer Protocol (HTTPS) を実装している。BAT のインストール プロセスにより、BAT 仮想ディレクトリにセキュリティが設定されます。
- BAT は、Cisco CallManager のパブリッシャ データベースと同一サーバ上にインストールする必要がある。
- BAT アプリケーションは、Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) アプリケーションと併せて、アプリケーションとオンライン資料用に約 53 MB のハードディスク スペースを使用する (BAT が 11 MB、TAPS が 42 MB を使用)。

- TAPS は、Cisco Customer Response Solutions ( CRS )サーバのディスク スペースを約 1 MB 使用する。

BAT にアクセスする必要があるのは、Cisco CallManager システム管理者だけです。ただし、システム管理者から指示がある場合に限り、エンドユーザは TAPS を使用できます。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager Administration および BAT へのアクセス

BAT は、Web ベースのアプリケーションであるため Web ブラウザを使用します。Cisco CallManager Administration プログラムおよび BAT プログラムは、Microsoft Windows オペレーティング システムで動作する次のブラウザをサポートしています。

- Netscape Communicator 4.X。Netscape 6.0 以降はサポートしていません。
- Microsoft Internet Explorer 5 または 6。

BAT プログラムおよび Cisco CallManager Administration プログラムにアクセスするときは、Web サーバおよび Cisco CallManager サーバとは別の PC を使用するよう推奨します。



### 注意

Web ブラウザはリソース消費型のアプリケーションであるため、システム メモリと CPU サイクルを大量に消費します。Cisco CallManager が必要としているリソースを Web ブラウザが使用すると、コール処理に悪影響が及びます。Web サーバや Cisco CallManager と同じマシンで Web ブラウザを使用すると、発信音の遅延やコールの中断が発生する可能性があります。

Cisco CallManager Administration および BAT を実行しているサーバは、ネットワーク上の任意のユーザ PC から参照できます。ただし、ログインするには、管理者権限が必要です。

**(注)**

多数のユーザが BAT に同時にログインすると、パフォーマンスが低下する場合があります。同時にログインできるユーザおよび管理者の数は、できるだけ制限してください。

## BAT の起動

BAT を起動するには、次のいずれかの操作を行います。

- Cisco CallManager Administration で、**Application > BAT** の順に選択する。
- Start メニューで、**Start > Program > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool > BAT 5.2** の順に選択する。
- デスクトップで BAT アイコンをダブルクリックする。

また、リモート PC から BAT にアクセスするには、Cisco CallManager Administration まで移動します。Cisco CallManager Administration を開き、**Application > BAT** の順に選択します。

## BAT へのログイン

BAT を起動すると、ユーザ ID とパスワードを求めるプロンプトが表示されます。マシンに対して管理権限のあるユーザ ID とパスワードでログインします。

BAT アプリケーションは、Cisco CallManager Administration の Multilevel Administration (MLA) 機能には依存していません。

## BAT 内の移動

BAT にログインすると、メイン ウィンドウが現れ、上部に次のメニュー オプションが表示されます。

- Configure
- Applications
- Help

Configure メニューでは、次のデバイス タイプおよび TAPS ツール (インストールされている場合) の設定タスクにアクセスできます。

- Phones
- Users
- Manager/Assistants
- User Device Profiles
- Gateways
- Forced Authorization Codesforced authorization codes
- Client Matter Codesclient matter codes
- Pickup Group
- TAPS ( オプション )

Applications メニューでは、次のオプションにアクセスできます。

- Install Plugins
- Update Plugin URL
- Cisco CallManager Administration
- Cisco CallManager Serviceability

Help メニューでは、次のヘルプ情報にアクセスできます。

- Contents and Index
- For this page
- About Bulk Administration Tool

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## オンライン ヘルプの使用法

BAT オンライン ヘルプにアクセスするには、**Help** メニューを選択します。Help メニューには、次の2つのヘルプ機能があります。

- **Contents and Index** : BAT ヘルプ ファイルを表示し、情報の参照または索引の検索ができます。
- **For This Page** : 現在表示しているウィンドウについてのヘルプを直接開きます。引き続き、ヘルプの残りの項目を参照したり、インデックスを使用したりすることができます。

オンライン ヘルプに備えられたマルチボリューム システムにより、同じウィンドウから複数の異なるヘルプ システムにアクセスできます。総合的な検索エンジンとインデックスにもアクセスできます。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT バージョンの表示

BAT の現在のバージョンを確認するには、**Help > About Bulk Administration Tool > Details** の順に選択します。

Cisco CallManager Administration で BAT の現在のバージョンを確認するには、**Help > Component Versions** の順に選択します。

現在、BAT がインストールされていない場合、BAT をインストールしなくても Cisco CallManager で利用可能な BAT のバージョンを確認できます。そのためには、次の手順を実行します。

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager Install Plugins ウィンドウから BAT アプリケーションをダウンロードします。
- ステップ 2** ファイル `BulkAdministrationTool.exe` を右クリックし、**Properties** を選択してから、**Product Version** を選択します。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.1-24](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT トランザクションの停止

BAT には、進行中の BAT トランザクションを停止させるツールがあります。このツールは、BAT トランザクションを開始した後に Cisco CallManager のパフォーマンスが低下した場合、BAT トランザクションを停止するときに有効です。BAT トランザクションは、Cisco CallManager のパフォーマンスへの影響が少ないときに、いつでも実行できます。開始したトランザクションが間違っていると分かった場合、またはトランザクションの実行前に追加の変更を加える必要が生じた場合は、BAT を停止できます。

Stop BAT 機能には、パブリッシャ データベース サーバからだけアクセスできません。

BAT を停止するには、**Start > Programs > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool > Stop BAT** の順に選択します。

BAT トランザクションが停止します。ログ ファイルを表示し、BAT で処理されたレコードのうち、正常なレコード数と問題のあるレコード数の詳細を調べてください。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。



(注)

Stop BAT を実行しても、進行中のエクスポート トランザクションは停止しません。

### その他の情報

詳細については、[P.1-24 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [BAT データ入力ファイル \(P.1-3\)](#)
- [BAT 設定プロセス \(P.1-4\)](#)
- [BAT アプリケーションの使用方法 \(P.1-18\)](#)



# BAT アプリケーションのインストール

この章では、BAT のインストール、アップグレード、およびアンインストールについて説明します。BAT は、Cisco CallManager のパブリッシャ データベースと同一サーバ上にインストールする必要があります。

BAT には、オプション コンポーネントとして Tools for Auto-Registered Phone Support (TAPS) があり、TAPS は BAT と連携して、大型システムの管理に要する労力を軽減しています。TAPS は、BAT とは別に、Cisco CallManager パブリッシャ サーバと Cisco Customer Response System (CRS) アプリケーション サーバの両方にインストールされます。TAPS のインストール手順については、[P.12-6 の「TAPS のインストール」](#)を参照してください。

BAT をパブリッシャ データベース サーバにインストールまたは再インストールしている間、セットアップ プログラムは、次のサービスを一時的に停止させます。

- IIS Admin
- World Wide Web パブリッシング
- FTP パブリッシング

BAT と TAPS のインストールが完了すると、上記のサービスは自動的に再開します。



---

BAT は、Windows Terminal Services を使用しては、インストールすることも、アップグレードすることもできません。BAT は Cisco CallManager サーバから直接インストールする必要があります。

---

### その他の情報

詳細については、[P.2-7](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT のアップグレード

BAT Release 5.2(1) には、5.0(x) および 5.1(x) からアップグレードが可能です。BAT Release 5.0(x) および 5.1(x) (さらにその間のリリース) から Release 5.2(1) にアップグレードすると、テンプレートの移行が行われます。

この場合 BAT は、既存の BAT テンプレートを自動的に移行します。デフォルト値は提供されていますが、電話機およびゲートウェイに対する製品固有の設定は、移行時にブランクのままとなります。たとえば、Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランク用に作成された既存の BAT テンプレートを移行するとします。このテンプレートには、BAT Release 5.2(1) で提供される新しいフィールド (Common Profile など) は含まれますが、新しい Product Specific Configuration フィールド (Cisco VG200 ゲートウェイに表示される) はブランクのままとなります。デバイス プールやコーリング サーチ スペースなどの、すでにデータを指定したフィールドには、移行後も元のデータが指定されます。



(注)

BAT では、前のバージョンへのテンプレート移行はサポートされていません。BAT Release 5.2(1) がインストールされている環境に、前のリリースの BAT を再インストールしても、テンプレートの移行は行われません。

アップグレードでは、コンマ区切り値 (CSV) 形式の BAT データ ファイルは移行されません。BAT Release 5.2(1) にアップグレードするには、[P.2-4 の「BAT のインストール」](#)の手順を実行してください。



(注)

現在 BAT Release 3.0(3) を使用している場合、Release 5.2(1) にアップグレードはできますが、アップグレードによるテンプレートの移行は行われません。

### その他の情報

詳細については、[P.2-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

# BAT のインストール

## 始める前に

BAT Release 5.2(1) 用の BAT をインストールするには、次の前提条件が必要です。

- Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバに BAT をインストールする。
- BAT を Cisco CallManager サーバに直接インストールし、Terminal Services は使用しない。

BAT をインストールする手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** 管理者特権を使用して、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているシステムにログオンします。
  - ステップ 2** **Applications > Install Plugins** の順に選択します。Install Plugins ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** Cisco Bulk Administration Tool のセットアップアイコンをダブルクリックします。
  - ステップ 4** Windows の標準ダイアログボックスが表示されます。BAT インストール実行ファイルをシステムにコピーするか、現在の場所から実行するかを選択する必要があります。
- 既存バージョンの BAT がサーバ上で検出される場合、再インストールまたはアップグレードを確認するように求められます。OK をクリックして、BAT の再インストール、または旧バージョンからのアップグレードを実行します。
- ステップ 5** Welcome 画面が表示されます。Next をクリックします。Current Settings ウィンドウが表示されます。

- ステップ 6** デフォルト ロケーション C:\CiscoWebs\BAT にインストールするために、Next をクリックします。BAT が C:\ciscoweb\BAT にインストールされます。このパスは変更できません。Start Copying Files ウィンドウが表示されます。セットアッププログラムにより、ファイルのコピーが開始されます。
- ステップ 7** Setup Complete ウィンドウが表示されます。これで、BAT が正常にインストールされました。
- ステップ 8** Finish をクリックして、セットアッププログラムを終了します。
- 

### その他の情報

詳細については、P.2-7 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Microsoft Excel がインストールされているワークステーションへの BAT スプレッドシートの移動

BAT Excel スプレッドシート ファイルは、BAT のインストール プロセスで、パブリッシャ データベース サーバのデフォルト ロケーション (C:\CiscoWebs\BAT\ExcelTemplate) に置かれます。

パブリッシャ データベース サーバに Microsoft Excel がインストールされていない場合は、Microsoft Excel がインストールされているワークステーションに BAT.xlt という名前の Excel スプレッドシート ファイルをコピーして貼り付けます。ワークステーション上のこの BAT スプレッドシートを使用して BAT データ ファイルを作成します。

## BAT のアンインストール

BAT をアンインストールするには、次の手順を実行するか、Control Panel の Add/Remove Programs を使用します。

BAT 5.2(1) 用のアンインストール プログラムによって、BAT アプリケーション および C:\CiscoWebs\BAT\ExcelTemplate フォルダに保存されている BAT Excel スプレッドシートが削除されます。しかし、ユーザが作成して C:\BATFiles フォルダまたは C:\CiscoWebs\BAT\Templates フォルダに保存した BAT データ ファイルまたは BAT テンプレートは削除されません。



(注)

BAT をアンインストールして新しいバージョンをインストールする場合、旧バージョンから新バージョンへのテンプレートの移行は行われません。テンプレートを新しい BAT リリースに移行するには、BAT をアップグレードする必要があります。

BAT をアンインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上で、**Start > Programs > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool > Uninstall BAT** の順に選択します。

アンインストール要求を確認するように求めるダイアログボックスが表示されます。

**ステップ 2** BAT をアンインストールするには、**OK** をクリックします。アンインストーラを終了するには、**Cancel** をクリックします。

IIS Admin サービスが停止し、ファイルが削除された後、IIS Admin サービスが再開されます。

**ステップ 3** OK をクリックして、アンインストールを完了します。

---



**(注)** BAT Release 5.1(1) 以降は、BAT 用と TAPS 用のインストール プログラムとアンインストール プログラムが別々に用意されています。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.2-7 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [BAT のアップグレード \(P.2-3\)](#)
- [BAT のインストール \(P.2-4\)](#)
- [BAT のアンインストール \(P.2-6\)](#)





# 電話機、および IP テレフォニー デバイスの一括処理

BAT は、多数の電話機を一括して追加、更新、または削除する高速で効率的な方法を管理者に提供します。Cisco CallManager Administration を通じて個々に更新を行うわけではありません。BAT を使用して次のタイプの電話機を処理することができます。

- Cisco IP Phone (全モデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント
- Cisco VGC Virtual Phone および Cisco VGC Phone

次のトピックでは、BAT を使用して電話機と他の IP テレフォニー デバイスに関する作業を行う方法について説明します。

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [電話機の更新 \(P.3-71\)](#)
- [電話機エクスポートの使用方法 \(P.10-4\)](#)
- [回線の更新 \(P.3-84\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.3-97\)](#)
- [電話機の削除 \(P.3-104\)](#)
- [電話機のリセットまたは再起動 \(P.3-108\)](#)
- [CAPF の設定 \(P.3-112\)](#)
- [新しい電話機とユーザの追加 \(P.4-27\)](#)
- [電話機のレポートの生成 \(P.11-2\)](#)

## 電話機の追加

BAT を使用して、電話機と他の IP テレフォニー デバイスを Cisco CallManager データベースに追加する場合は、各電話機に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加することができます。CTI ポートと H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機用の CSV データ ファイルを作成する方法としては、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成する( 経験豊富なユーザ向け )。

電話機と IP テレフォニー デバイスを一括して追加するには、次の手順を実行します。

---

**ステップ 1** **Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Insert Phones** を選択して、**Next** をクリックします。Steps to Insert Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **Add, view, or modify phone templates** を選択し、**Next** をクリックします。

Phone Template Configuration ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、P.3-4 の「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

**ステップ 4** **Create the CSV data file** を選択し、**Next** をクリックします。

**ステップ 5** CSV データ ファイルの作成に使用するオプションを選択し、そのオプションの手順を使用します。

### BAT Spreadsheet for Phones, CTI Ports and H.323 Clients

BAT スプレッドシートを開き、CSV データ ファイルを作成します。詳細については、P.3-46 の「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

### Text Editor to Create the CSV Data File

- a. **Add, view, or modify file formats** を選択し、**Next** をクリックします。  
File Format Configuration ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、[P.3-59 の「テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
- b. **テキスト エディタ**を使用して、使用するファイル形式に従った電話機用の CSV データ ファイルを作成します。テキストベースの CSV ファイルの作成の詳細については、[P.A-3 の「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。
- c. **Associate file format with the CSV data file** を選択し、**Next** をクリックします。  
Add File to Format ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、[P.3-65 の「CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け」](#)を参照してください。

### ステップ 6 Validate phone records を選択して、Next をクリックします。

Validate Phones ウィンドウが表示されます。電話機レコードの確認の詳細については、[P.3-66 の「電話機レコードの確認」](#)を参照してください。

### ステップ 7 Insert Phones を選択して、Next をクリックします。

Insert Phones ウィンドウが表示されます。Cisco CallManager データベースへの電話機レコードの挿入の詳細については、[P.3-67 の「Cisco CallManager への電話機の挿入」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT 電話機テンプレートの使用方法

BAT 電話機テンプレートを使用して、一連の新しい電話機を追加するために共通の電話機アトリビュートを定義します。テンプレートの作成前に、電話機設定値、たとえば、デバイス プール、ロケーション、コーリング サーチ スペース、ボタン テンプレート、ソフトキー テンプレートが、Cisco CallManager Administration に設定されていることを確認してください。BAT で新しい設定値を作成することはできません。

次のトピックを使用して、BAT 電話機テンプレートに関する作業を行います。

- [新しい BAT 電話機テンプレートの作成 \(P.3-4\)](#)
- [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのコピー \(P.3-9\)](#)
- [テンプレートの削除 \(P.3-11\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明 \(P.3-11\)](#)

## 新しい BAT 電話機テンプレートの作成

電話機テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。電話機テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。電話機テンプレートを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Phone Templates Configuration ウィンドウで、**Add a new Phone Template** をクリックします。
  - ステップ 2** Phone Template Name フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、50 文字以内の英数字を指定することができます。例：Sales\_7960。
  - ステップ 3** Device Type ドロップダウン リストで、テンプレートを作成する電話機モデル、Cisco IP Phone、Cisco VGC Virtual Phone と Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを選択します。

デバイスを選択すると Phone Templates Configuration ウィンドウが更新され、選択したデバイス タイプに適用されるフィールドとデフォルトの入力値が表示されます。

- ステップ 4** Device Information 領域に、このバッチに共通する電話機設定値を入力します。フィールドの説明については、[表 3-1](#) を参照してください。電話機モデルとデバイス タイプによっては、表に記載されているアトリビュートすべてを備えていないものがあります。
- ステップ 5** この BAT 電話機テンプレートの設定値をすべて入力した後、**Insert** をクリックします。
- ステップ 6** トランザクションが完了したことがステータスに示されたら、スクロールダウンして Line Details 領域まで進み、回線アトリビュートを追加します。
- 

## BAT テンプレートにおける回線の追加または更新

次の手順を実行すると、BAT テンプレートに複数の回線を追加したり、既存の回線を更新したりすることができます。この BAT テンプレートで使用しているボタン テンプレートにより、追加または更新できる回線の数が決まります。複数の回線を持つマスター電話機テンプレートを作成することができます。さらに、マスター テンプレートを使用して、1 回線またはマスター テンプレートの回線数以下の複数回線を持つ電話機を追加することができます。詳細については、[P.1-7](#) の「[マスター電話機テンプレート](#)」を参照してください。

### 手順

---

- ステップ 1** Phone or User Device Profile Template Configuration ウィンドウで、回線を追加するテンプレートを選択します。
- ステップ 2** テンプレートの下部までスクロールし、**Add Line** をクリックします。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。



(注) BAT テンプレート用に表示される最大回線数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルとボタン テンプレートによって決まります。

**ステップ 3** 表3-2 で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。この回線用に選択する設定値は、このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルで使用されます。すべてのフィールドは、オプションです。

**ステップ 4** Insert and Close をクリックします。

BAT によって電話機テンプレート設定に回線が追加され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

**ステップ 5** その他の回線の設定値を追加するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。

**ステップ 6** 一部の Cisco IP Phone モデルでは、Cisco IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。次のトピックの手順を参照してください。

- [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
- [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-8\)](#)

## BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新

各種の Cisco IP Phone サービスが、この機能を備える Cisco IP Phone モデルに登録できます。



(注) 固有のサービス パラメータを持つ IP サービスではなく共通のサービス パラメータを持つ IP サービスに、ユーザまたは電話機をまとめて登録できます。

## 手順

- 
- ステップ 1** Phone or User Device Profile Template Configuration ウィンドウで、サービスを追加するテンプレートを選択します。
  - ステップ 2** ウィンドウの右上隅にある **Subscribe/Unsubscribe Services** をクリックします。  
  
ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、利用可能な Cisco IP Phone サービスを登録できます。
  - ステップ 3** Select a Service ボックスで、すべての電話機に登録するサービスを選択します。Service Description ボックスに、選択したサービスの詳細が表示されます。
  - ステップ 4** Continue をクリックします。
  - ステップ 5** 必要に応じて、Service Name フィールドでサービスの名前を変更します。
  - ステップ 6** Subscribe をクリックして、これらの電話サービスを電話機テンプレートに関連付けます。
  - ステップ 7** 他のサービスを追加するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
  - ステップ 8** すべてのサービスをテンプレートに追加するには、Update をクリックします。
  - ステップ 9** ポップアップ ウィンドウを閉じます。
  - ステップ 10** 引き続き [P.3-8](#) の「[BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新](#)」に進むことで、短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。
-

## ■ 電話機の追加

## BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新

BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加することも更新することもできます。

電話機ボタン テンプレートで短縮ダイヤル ボタンが設定されている場合は、電話機および Cisco VGC Phone に短縮ダイヤルを指定できます。

## 手順

---

**ステップ 1** Phone or User Device Profile Template Configuration ウィンドウで、短縮ダイヤルを追加するテンプレートを選択します。

**ステップ 2** ウィンドウの右上隅にある **Add/Update Speed Dials** をクリックします。

ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco IP Phone および拡張モジュールに対して、短縮ダイヤル ボタンを指定できます。この BAT テンプレートで使用している電話機ボタン テンプレートによって、使用可能な短縮ダイヤル ボタンの数が決まります。

**ステップ 3** Speed Dial Settings for Phone 領域で、アクセス コードや長距離コードを含めて、電話番号を **Speed Dial Number** フィールドに入力します。

**ステップ 4** Label フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。

**ステップ 5** ボタン領域に関連付けられていない Speed Dial Settings で、**ステップ 3** および **ステップ 4** を繰り返すと、該当する IP Phone モデルに省略短縮ダイヤルを設定することができます。

**ステップ 6** **Update and Close** をクリックします。

BAT によってテンプレートに短縮ダイヤル設定値が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

---

## その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT 電話機テンプレートの表示または修正

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイル テンプレートを表示または修正する手順は、次のとおりです。回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加または更新できます。

### 手順

- ステップ 1** Phone Template Configuration ウィンドウで、テンプレートのリストから既存のテンプレートを選択します。テンプレートの詳細が、テンプレートのフィールドに表示されます。
- ステップ 2** テンプレートの設定値を追加、変更、または削除します。詳細については、[P.3-12](#) の「電話機テンプレートのフィールドの説明」を参照してください。
- ステップ 3** 設定値を変更した後、**Update** をクリックしてテンプレートを更新します。
- ステップ 4** 他のアトリビュートを更新する場合は、次の手順のいずれかを選択します。
  - [BAT テンプレートにおける回線の追加または更新 \(P.3-5\)](#)
  - [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
  - [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-8\)](#)

## BAT 電話機テンプレートのコピー

変更するフィールドの数が少ない場合は、電話機テンプレートのプロパティを新しい電話機テンプレートにコピーできます。



(注)

作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません (たとえば、Cisco IP Phone Model 7960)。

既存の BAT 電話機テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** Phone Template Configuration ウィンドウで、コピーするテンプレートを Phone Templates カラムから選択します。選択したテンプレートの詳細が、Phone Template Configuration ウィンドウに表示されます。
  - ステップ 2** これが、コピーするテンプレートであることを確認してから、**Copy** をクリックします。

テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。
  - ステップ 3** Phone Template Name フィールドに、新しいテンプレート名を 50 文字以下の英数字で入力します。
  - ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。詳細については、[P.3-12 の「電話機テンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。
  - ステップ 5** **Insert** をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の Phone Templates 列に表示されます。
  - ステップ 6** **Add Line** をクリックして、回線のアトリビュートを設定します(該当する場合)。詳細については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。各種のサービスと短縮ダイヤル ボタンを定義することもできます。

---

## その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## テンプレートの削除

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Steps to Insert Phones ウィンドウで **Add, view, or modify phone templates** を選択して、**Next** をクリックします。Phone Templates Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 左側の Phone Templates カラムで、削除するテンプレートをクリックします。選択したテンプレートの詳細が、Template Configuration ウィンドウに表示されます。
- ステップ 3** これが、削除するテンプレートであることを確認してから、**Delete** をクリックします。  
  
削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4** **OK** をクリックして、テンプレートを削除します。このテンプレート名は、電話機テンプレートのリストに表示されなくなります。

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT 電話機テンプレートのフィールドの説明

[表 3-1](#) では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。関連情報については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
Owner User ID	プライマリ電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Device Pool	このグループの電話機またはポートのデバイス プールを選択します。  デバイスに対して、デバイス プールは、共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリングサーチスペース）を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	このグループの電話機またはポートのコーリングサーチスペースを選択します。  コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング（AAR）の実行時に使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	<p>このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
User Hold Audio Source	<p>このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオ ソースを選択します。</p> <p>ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。</p>
Network Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone またはポートのネットワーク保留オーディオ ソースを選択します。</p> <p>ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき) に再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。</p>
Location	<p>このグループの IP Phone またはポートの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを <i>None</i> に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を &lt;None&gt; に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
User Locale	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを選択します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Device Security Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default : 電話機はエンタープライズ パラメータ、Device Security Mode で指定した値を使用します。</li> <li>• Non-secure : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco CallManager が利用できます。</li> <li>• Authenticated : Cisco CallManager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</li> <li>• Encrypted : Cisco CallManager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</li> </ul> <p> <b>(注)</b> このフィールドが表示されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。</p>
Signal Packet Capture Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、信号パケットキャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• None : モードを指定しない場合は None を選択します。</li> <li>• Real-Time Mode : リアルタイム 信号パケット キャプチャに使用します。</li> <li>• Batch Processing Mode : 信号パケット キャプチャのバッチ処理に使用します。</li> </ul>
Packet Capture Duration	<p>パケット キャプチャの時間を分単位で入力します。最大 300 分の継続時間を入力できます。デフォルトの継続時間は 60 分です。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Built In Bridge	<p>Built In Bridge ドロップダウン リスト ボックスを使用して、割り込み機能のための組み込み会議ブリッジを有効または無効にします ( <i>On</i>、<i>Off</i>、または <i>Default</i> を選択します )。</p> <p>設定情報の詳細については、『<i>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</i>』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
Privacy	<p>プライバシーを必要とする電話機ごとに、Privacy ドロップダウン リスト ボックスで <i>On</i> を選択します。</p> <p>設定情報の詳細については、『<i>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</i>』の「割り込みとプライバシー」を参照してください。</p>
Device Mobility Mode	<p>このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにします。</p> <p><b>View Current Settings</b> をクリックし、これらのデバイス モビリティ パラメータの現在値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco CallManager Group</li> <li>• Roaming device pool</li> <li>• Location</li> <li>• Region</li> <li>• Network Locale</li> <li>• AAR Group</li> <li>• AAR Calling Search Space</li> <li>• Device Calling Search Space</li> <li>• Media Resource Group List</li> <li>• SRST</li> </ul> <p>コンフィギュレーションの詳細については、『<i>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</i>』を参照してください。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Retry Video Call as Audio	ビデオ コールをオーディオ コールとしてリトライするには、このチェックボックスをオンにします。
Ignore Presentation Indicators (Internal Calls Only)	内線コールで表示インジケータを無視するには、このチェックボックスをオンにします。
Logged into Hunt Group	ハント グループにログインしている場合は、このチェックボックスをオンにします。電話が属するすべてのハント グループからログアウトする場合は、このチェックボックスをオフのままにしておきます。
<b>Phone Button Template and Expansion Module Template Information (電話機ボタンテンプレートおよび拡張モジュールテンプレート情報)</b>	
Phone Button Template	このグループ内の全電話機のボタン テンプレートを選択します。ボタン テンプレートによって、ボタンの識別 (回線、短縮ダイヤル) と電話機上のボタンの位置が決まります。ボタン テンプレートには、拡張モジュールが含まれます。
<b>Softkey Template Information (ソフトキー テンプレート情報)</b>	
Softkey Template	このグループ内のすべての電話機に使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
<b>Expansion Module Information (拡張モジュール情報)</b>	
Module 1	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
Module 2	電話機に取り付けられている場合は拡張モジュールを選択します。
<b>Firmware Load Information (ファームウェア ロード情報)</b>	
Phone Load Name	該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。
	 <b>(注)</b> このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Module 1 Load Name	最初の Cisco IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
Module 2 Load Name	2 番目の Cisco IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。
<b>Cisco IP Phone - External Data Locations (Cisco IP Phone - 外部データの場所)</b>	
Information	Cisco IP Phone の情報ボタンのヘルプ テキスト URL を入力します。
Directory	Cisco IP Phone のディレクトリ サーバの URL を入力します。
Messages	Cisco IP Phone のボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
Services	Cisco IP Phone のサービス メニューの URL を入力します。
Authentication Server	電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco IP Phone モデルの拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドを空白のままにします。  デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Proxy Server	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。 cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Idle	<p>Idle Timer フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco IP Phone LCD スクリーンにアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、LCD スクリーンにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Idle Timer	<p>アイドル状態を許容する時間 (秒数) を入力します。この時間が経過すると、電話機は Idle フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>MultiLevel Precedence and Preemption (MLPP) Information ( マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)</b>	
MLPP Indication	<p data-bbox="615 358 1245 456">(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p data-bbox="615 480 1245 545">ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul data-bbox="628 570 1245 773" style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : デバイスは MLPP 表示設定をデバイスプールから継承します。</li> <li>• <b>Off</b> : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。</li> <li>• <b>On</b> : デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。</li> </ul> <p data-bbox="615 797 1245 959"> (注) 次の組み合わせでデバイスを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されているときに MLPP Indication を <i>Off</i> に設定します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
MLPP Preemption	<p data-bbox="615 285 1240 386">（使用可能な場合）進行中のコールをプリエンプション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p data-bbox="615 410 1240 475">ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul data-bbox="628 500 1240 735" style="list-style-type: none"> <li>• <b>Default</b> : デバイスは MLPP プリエンプション設定値をデバイス プールから継承します。</li> <li>• <b>Disabled</b> : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理しません。</li> <li>• <b>Forceful</b> : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンプション処理します。</li> </ul> <p data-bbox="615 760 1240 922"> <b>(注)</b> 次の組み合わせでデバイスを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されているときに MLPP Indication を <i>Off</i> に設定します。</p>
MLPP Domain ("0000FF" など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information (認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報)</b> (これらのパラメータは、認証または暗号化のサポート機能のあるデバイスの場合にだけ表示されます)	
Certificate Operation	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から実行する証明書のオペレーションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>No Pending Operation</b> : このデバイスには処理中の証明書のオペレーション リストが存在しません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドは無効になります。</li> <li>• <b>Install/Upgrade</b> : 証明書のオペレーションをインストールまたは更新します。</li> <li>• <b>Delete</b> : 証明書のオペレーションを削除します。</li> <li>• <b>Troubleshoot</b> : 証明書のオペレーションのトラブルシューティングを行います。</li> </ul>
Authentication Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイス用の認証モードを次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>By Authentication String</b> : Authentication string テキストボックスに認証文字列を入力するか、システム生成の文字列を入手することができます。</li> <li>• <b>By Null String</b> : ヌル文字列を使用します。</li> <li>• <b>By Existing LSC</b> : Local Significant Certificate (LSC; ローカルで有効な証明書) の設定を使用します。</li> <li>• <b>By Manufacture Installed Certificate</b> : 製造元でインストールされる証明書を使用します。</li> </ul>
Authentication String	<p>Authentication Mode が By Authentication String の場合は、Authentication String を入力します。または、システム生成の文字列を入手するために <b>Generate String</b> をクリックします。</p>
Key Size (Bits)	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、デバイスの認証キーサイズを選択します。デフォルトのキーサイズは 1024 ビットです。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Operation Completes By	証明書のオペレーションを完了する期限の日付を入力します。日付形式は、YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日付は現在のシステム日付の 10 日後です。
<b>Extension Mobility (Device Profile) Information (エクステンション モビリティ (デバイス プロファイル) 情報)</b>	
Enable Extension Mobility Feature	エクステンション モビリティ機能を使用可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド』を参照してください。
Log Out Profile	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトするときに電話機がロードするプロファイルを選択します。Cisco CallManager Administration でログアウト プロファイルを設定する必要があります。</p> <p>Use Current Device Settings : これを選択すると、自動生成されたデバイス プロファイルが、デフォルト デバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>Select a User Device Profile : これを選択すると、定義済みのユーザ デバイス プロファイルが割り当てられ、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルになります。</p> <p>選択されたユーザ デバイス プロファイルは、ログインしているユーザがないとき、デバイスにロードされません。</p>
<b>Product-Specific Configuration (製品固有の設定)</b>	
Disable Speakerphone	この BAT テンプレートを使用して追加された電話機すべてに対して、スピーカフォンの機能を無効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Disable Speakerphone and Headset	この BAT テンプレートを使用して追加された電話機すべてに対して、スピーカフォンとヘッドセットの機能を無効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。
Forwarding Delay	コールの転送前にポートを数秒間遅延させる場合、Enabled を選択します。デフォルトは Disabled です。
PC Port	内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続し、1つのネットワーク接続を共有します。
Settings Access	ユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Gratuitous ARP	Gratuitous ARP を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
PC Voice VLAN Access	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Video Capabilities	ビデオ機能アクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Auto Line Select	電話機での自動回線選択を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
<b>H.323 Device Information (H.323 デバイス情報)</b>	
Signaling Port	このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。  デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Retry Video Call as Audio	<p>このチェックボックスは、コールを受けるビデオ エンドポイントだけに適用されます。この電話機がビデオとして接続していないコールを受けると、コールはオーディオ コールとして接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっており、送信側デバイスが、オーディオ コールとして接続していないビデオ コールを即座に再実行し、その後で再ルーティングのためにコール制御にコールを送るよう指定されています。</p> <p>このチェックボックスをオフにすると、ビデオとして接続できないビデオ コールはコール制御を行えません。この時点で、コール制御はそのコールをルート リスト内で再ルーティングします。Automatic Alternate Routing (AAR) が設定され使用可能になっている場合、コール制御はルート リスト間のコールも再ルーティングします。</p>
Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set	<p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。これは、Cisco CallManager がデバイスと機能の交換を開始するように指定していることを意味します。このチェックボックスは、Cisco CallManager が、先に遠端の H.245 Terminal Capability Set を受信してから、その H.245 Terminal Capability Set を送信する必要があることを指定します。</p>
<b>H.323 Information ( H.323 情報 )</b>	
Outgoing Caller ID Pattern	<p>電話機への着信コールに対して、発信者 ID に使用するパターンを、0 ~ 24 桁で入力します。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Selection	<p>次のいずれかのオプションを選択して、送信される電話番号を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (external) : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (external) : コールを最後にリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>
Calling Party Presentation	<p>セントラル オフィスが発信者 ID を送信するか、非通知にするかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• セントラル オフィスが発信者 ID を送信する場合は、Allowed を選択します。</li> <li>• セントラル オフィスが発信者 ID を送信しない場合は、Restricted を選択します。</li> <li>• デフォルトでは、発信者 ID をコール ストリーム内で上記のレベルによって非通知にしていない限り、発信者 ID が表示されます。</li> </ul>
Display IE Delivery	<p>発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) を通知するには、このチェックボックスをオンにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Redirecting Number IE Delivery—Outbound	<p>コールの転送時に最初のリダイレクト番号とコールのリダイレクト理由を知らせるために、Cisco CallManager からの発信 SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージに最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を含めない場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>ボイス メッセージ統合だけの場合は、Redirecting Number IE を使用します。設定したボイス メッセージシステムが Redirecting Number IE をサポートしている場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
Redirecting Number IE delivery—Inbound	<p>Redirecting Number IE をサポートするボイス メッセージシステムを統合する場合は、Redirecting Number IE を使用します。</p> <p>Cisco CallManager への着信 SETUP メッセージで Redirecting Number IE を受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco CallManager に着信した SETUP メッセージから Redirecting Number IE を除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Termination Point Required	<p>H.323 がサポートしていない機能 (保留や転送など) の実装に Media Termination Point (MTP; メディア終端点) を使用するかどうかを指示する場合に使用します。</p> <p>メディア終端点を使用して機能を実装する場合は Media Termination Point Required チェックボックスをオンにします。メディア終端点を使用して機能を実装しない場合は Media Termination Point Required チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.245 Empty Capabilities Set をサポートしていない H.323 クライアントと H.323 デバイスに対してだけ、またはメディア ストリームが単一ソースを通じて終了するようにする場合にだけ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして MTP を要求し、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになると、コールはオーディオ専用として機能します。</p>
<b>Gatekeeper Information (ゲートキーパー情報)</b>	
Gatekeeper Name	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、ゲートキーパー制御の H.323 デバイス用のゲートキーパーを選択します。</p> <p> <b>(注)</b> デバイスを選択しない場合、E.164、Technology Prefix、および Zone の各フィールドは無効になります。</p> <p> <b>(注)</b> デバイ스에 複数の電話番号が設定されている場合、そのデバイスをゲートキーパー制御の電話機に変更することはできません。</p>

表 3-1 電話機テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Technology Prefix	<p>テクノロジー プレフィックスを入力して、<b>gw-type-prefix</b> コマンドの設定時に各 Cisco CallManager システムの IP アドレスを入力する必要がないようにします。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合、このフィールドには次のように 1#* と入力することができます。</p> <p><b>gw-type-prefix 1#* default-technology</b></p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
Zone	<p>ゲートキーパーで、Cisco CallManager が登録を行う特定のゾーンを入力します。ゾーンには、このゾーンと別のゾーンの間のコールに使用可能な合計帯域幅を指定します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の電話機用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ドット、およびアンダースコアだけです。</p>
Gatekeeper Controlled H.323 Client	<p>H.323 クライアント ゲートキーパーを制御対象のゲートキーパーとして設定する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

 (注)

BAT 電話機テンプレートの設定を続行するには、P.3-4 の「[新しい BAT 電話機テンプレートの作成](#)」に進みます。

## BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

表 3-2 では、BAT 電話機テンプレートに回線を追加する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。関連情報については、P.3-116 の「関連項目」を参照してください。

一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクの付いていないフィールドはオプションです。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Directory Number</b>	
Partition	<p>電話番号が属するルート パーティションを選択します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
<b>Directory Number Settings (電話番号の設定)</b>	
Voice Mail Profile	<p>パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイス メッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。</p> <p> (注) このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示される Pickup Group Names が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
<b>AAR 設定値</b>	
AAR Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、宛先に達するための帯域幅が不十分なコールの処理を指定します。これらのコールは、自動代替ルーティング（AAR）によって処理され、AAR Destination Mask または Voice Mail に転送されます。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。</p>
AAR Destination Mask	<p>ダイヤルする AAR 宛先を決定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定を使用します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング（AAR）グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を &lt;None&gt; に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Keep Call History	このフィールドで、コールの AAR 部分を Call Forwarding History に残すかどうかが決まります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- Remove this destination from the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残りません。</li> <li>- Retain this destination in the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残ります。</li> </ul>
User Hold Audio Source	ユーザが HOLD ボタンを押してコールを保留にするとときに再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき(たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコールパークを開始する間)に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Auto Answer	次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Auto Answer Off &lt; デフォルト &gt;</li> <li>• Auto Answer with Headset</li> <li>• Auto Answer with Speakerphone (Intercom)</li> </ul>  <p><b>(注)</b> Auto Answer with Headset または Auto Answer with Speakerphone を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
<b>Call Forward and Pickup Settings ( Call Forward と Call Pickup の設定 )</b>	
Forward All Voice Mail	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward All Destination フィールドと Forward All Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> <b>(注)</b> この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward All Calling Search Space	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> <b>(注)</b> この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward Busy External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward No Answer External Voice Mail	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した外部番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Externally Destination フィールドと External Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward No Coverage External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Unregistered Internal Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用しないで電話番号に転送される内部コールの転送処理を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward Unregistered Internal Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト メニューから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Voice MailForward Unregistered External Voice MailVoice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用せずに電話番号に転送される外部コールの転送処理を指定します。次の値を指定します。</p> <p>Voice MailVoice Mail Profile ConfigurationVoice Mail ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Voice MailCoverage/DestinationVoice Mail ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Voice MailForward Unregistered External Coverage/DestinationV oice Mail	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Voice MailCoverage/DestinationVoice Mail フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Voice MailCoverage/DestinationVoice Mail フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Voice MailForward Unregistered External Calling Search SpaceVoice Mail	ド롭ダウン リスト ボックスから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。   <b>(注)</b> 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。
No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。
Call Pickup Group	Pickup Group Name を選択してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
<b>Multilevel Precedence and Preemption Alternate Party Settings (マルチレベル優先順位およびプリエンプション代替パーティ設定)</b>	
Target (Destination)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。  値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space	ド롭ダウン リスト ボックスから、代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリングサーチスペースを選択します。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
No Answer Ring Duration	<p>優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間(4 ~ 30 秒)を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。</p> <p>Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。</p>
<b>Line Settings for This Phone (この電話機に対する回線設定値)</b>	
Line Text Label	<p>このフィールドは、回線の着信表示に電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。半角カタカナを指定することができますが、着信側の電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないで、注意が必要です。</p>
External Phone Number Mask	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に変換される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます（さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されません）。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Policy (The directory number refers to the service parameter “OMessage Waiting Lamp Policy” setting.)</li> <li>• Light and Prompt</li> <li>• Prompt Only</li> <li>• Light Only</li> <li>• None</li> </ul> <p>設定は、右にあるチェックボックス (Update Shared Device Settings ) をオンにして <b>Propagate selected</b> ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます (右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです)。</p>
Ring Setting (Phone Idle)	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、回線着信表示に対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> </ul>

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Ring Setting (Phone Active)	この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> <li>• Beep only</li> </ul>
Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)	ドロップダウン リスト ボックスから、電話がアイドルのときに提供されるコール ピックアップのオーディオ通知タイプを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default</li> <li>• Disable</li> <li>• Ring Once</li> </ul>
Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)	ドロップダウン リスト ボックスから、電話が使用中に提供されるコール ピックアップのオーディオ通知タイプを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default</li> <li>• Disable</li> <li>• Beep Only</li> </ul>
<b>Forwarded Call Information Display for this Device ( デバイスの転送コール情報の表示 )</b>	
Caller Name	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

表 3-2 BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Redirected Number	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Caller Number	転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Dialed Number	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。



**(注)** 手順を完了するには、[P.3-5](#)の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」に進みます。

## BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

新しい電話機または IP テレフォニー デバイスをシステムに追加する場合、BAT と共に使用するよう設計された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。このスプレッドシートは、選択されたデバイスのオプションを自動的に調整するマクロを備えています。スプレッドシート内でファイル形式を定義することができるので、BAT スプレッドシートはデータ ファイル形式を使用して CSV データ ファイルのフィールドを表示します。

新しい電話機と他の IP テレフォニー デバイスを追加するために BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストールおよび使用方法の詳細については、[P.1-13](#)の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** 電話機オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある **Phones** タブをクリックします。
- ステップ 4** 次のデバイス タイプのいずれかのオプション ボタンを選択します。
- Phones
  - CTI Port
  - H.323 Client
  - VGC Virtual Phone
  - VGC Phone

スプレッドシートには、選択されたデバイスで使用可能なオプションが表示されます。たとえば、Phones を選択すると、回線数と短縮ダイヤル数のフィールドが表示されます。



**(注)** 選択するデバイス タイプによって BAT スプレッドシート内のデータの検査基準が決まります。

- ステップ 5** 電話機ごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線フィールドを選択するには、**Create File Format** をクリックします。Field Selection ポップアップウィンドウが表示されます。
- ステップ 6** デバイス フィールドを選択するには、Device Field ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Device Fields ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、Number of Lines を最初のフィールドとして、MAC Address/Device Name、および Description を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。

**ヒント**

リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

**ステップ 7** Line Field ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Line Fields ボックスに移動します。

**ヒント**

Selected Line Fields ボックスおよび Selected Device Fields ボックスでは、最初のフィールド Number of Lines 以外の項目の順序を変更することができます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

**ステップ 8** Create をクリックして、CSV データ ファイル形式を修正します。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

**ステップ 9** OK をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

**ステップ 10** Number of Phone Lines ボックスが表示されるまで、右にスクロールします。ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定した回線数を超えることはできません。

**(注)**

CSV データ ファイルを挿入するとき、電話機の回線数は BAT 電話機テンプレートの回線数を超えることはできません。この数を超えると、エラーが発生します。

**ステップ 11** 電話機、VGC Phone、および VGC Virtual Phone の場合は、Number of Speed Dials ボックスに短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。



**(注)** データレコードを挿入するときは、BAT テンプレートで設定した短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。超えた場合は、CSV データファイルと BAT 電話機テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

**ステップ 12** スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを示しています。表 3-3 では、BAT スプレッドシートのすべての電話機フィールドを説明しています。

**ステップ 13** 電話機ごとに MAC アドレスを入力しなかった場合は、**Create Dummy MAC Address** チェックボックスをオンにします。

ダミー MAC アドレス オプションを選択した場合、後で、正しい MAC アドレスを使用して電話機を更新できます。この更新を行うには、Cisco CallManager Administration にこの情報を手作業で入力するか、TAPS ツールを使用します。TAPS の詳細については、[P.12-2 の「TAPS の概要」](#)を参照してください。



**(注)** CTI ポートを追加する場合、ダミー MAC アドレス オプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。  
H.323 クライアント、VGC Phone、および VGC Virtual Phone には、ダミー MAC アドレスを使用しないでください。

**ステップ 14** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、C:\XLSDataFiles（または指定したローカル ワークステーション上の別の既存フォルダ）に、次のファイル名で保存されます。

<tabname><timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



**(注)** いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするとき、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。ブランク行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。



**(注)** CSV ファイル名は、コンマ付き（abcd,e.txt など）では作成されません。コンマがあると、ファイルは abcd.txt と e.txt に分かれ、両方とも存在しないために BAT はファイルの挿入に失敗します。この問題を避けるために、CSV ファイル名にはコンマが含まれないようにしてください。

CSV データ ファイルを Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピーディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、CSV データ ファイルを C:\XLSDataFiles（または CSV ファイルの格納先として選択したフォルダ）からパブリッシャ データベース サーバ上の C:\BATFiles\Phones\Insert フォルダにコピーします。



**(注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の Insert Phones ウィンドウで **View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

## その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT スプレッドシートの電話機のフィールド説明

[表 3-3](#) では、CSV データ ファイルにデバイスと回線の詳細を追加する場合に使用可能な電話機フィールドについて説明します。関連情報については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

**表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明**

フィールド	説明
<b>Device Fields (Mandatory Fields) (デバイスフィールド (必須フィールド))</b>	
Number of Lines	この電話機の回線の数を入力します。BAT テンプレートの回線数よりも少ない数にできますが、そこに指定されている回線数を超えることはできません。
MAC Address/Device Name	電話機、VGC Virtual Phone、VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの固有の ID (デバイス名) を入力します。 <b>Create Dummy MAC Addresses</b> チェックボックスをオンにすると、固有のデバイス ID を自動的に生成できます。
Description	電話機またはデバイスを特定する説明、たとえば「Conference Room A」や「John Smith」を入力します。
<b>Device Fields (Optional Fields) (デバイスフィールド (オプションフィールド))</b>	
Location	このグループの IP Phone またはポートに適切なロケーションを入力します。  ロケーションは、このロケーションの着信コールおよび発信コールに使用可能な合計帯域幅を指定します。ロケーションを <i>None</i> に設定すると、ロケーション機能がこの Cisco IP Phone の消費する帯域幅を管理しないことを示します。BAT 電話機テンプレートでロケーションが指定されている場合は、このフィールドを空白のままにします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Device Pool	<p>このグループの電話機またはポートのデバイス プールを入力します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。</p>
Calling Search Space	<p>このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
AAR Calling Search Space	<p>デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを入力します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
Media Resource Group List	<p>このグループの電話機またはポートのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL に定義されている優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
User Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオ ソースを入力します。</p> <p>ユーザ保留オーディオ ソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。</p>
Network Hold Audio Source	<p>このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオ ソースを入力します。</p> <p>ネットワーク保留オーディオ ソースは、システムがコールを保留にするとき(たとえば、ユーザがコールを転送したときまたはコール パークに置いたとき)に再生される音楽のオーディオ ソースを特定します。</p>
User Locale	<p>このグループの IP Phone に関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このグループの電話機に関連付けるネットワーク ロケールを入力します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きします。</p> <p>値は CTI ポートには適用されません。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p> (注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御のデバイスとして設定されていることを確認します。</p> <p> (注) このフィールドには、ゲートキーパー制御の H.323 クライアント用の値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
<b>Line Fields (Optional) (回線フィールド (オプション))</b>	
Directory Number	電話機の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Partition	<p>電話番号が属するルート パーティションを入力します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
Line Text Label	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。半角カタカナを指定することができますが、電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないので、注意が必要です。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この機能は、この電話機に対してボイス メッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを入力します。  <b>(注)</b> このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示される Pickup Group Names が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。  AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Line User Hold Audio Source	ユーザが Hold ボタンを押してコールを保留にするとときに再生される保留オーディオ ソースの音楽を入力します。
Line Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときまたは電話会議やコールを開始したとき) に再生される保留オーディオ ソースの音楽を入力します。
Forward All	すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Forward Busy External	電話機が話し中の場合に、外部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Answer External	電話機が応答しない場合に、外部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Coverage External	電話機のカバレッジが対応しない場合に、外部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward Busy Internal	電話機が話し中の場合に、内部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Answer Internal	電話機が応答しない場合に、内部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Coverage Internal	電話機のカバレッジが対応しない場合に、内部番号からのコールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Display	<p>コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など)。半角カタカナを指定することができますが、着信側の電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないので、注意が必要です。</p> <p> (注) このフィールドをブランクにしておくと、Directory Number フィールドに入力された値が使用されます。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Call Pickup Group	<p>Pickup Group Name を選択してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。</p>
External Phone Number Mask	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
No Answer Ring Duration (CFNA)	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。</p>

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。  値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space (MLPP)	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。  Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
Maximum Number of Calls	クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。  デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。  CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。

表 3-3 BAT スプレッドシートの電話機フィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Busy Trigger	この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。  このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示される名前を表します。非共有電話番号の場合、アラート時には Display フィールドに入力された名前が使用されます。



(注) 手順を完了するには、P.3-59 の「テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成」に進みます。

## テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成

値がコンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、コンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。コンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。電話機用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、P.A-3 の「電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成」を参照してください。

次のファイル形式オプションのいずれかを使用して、CSV データ ファイル内のデバイスと回線のフィールドを識別します。

- Default Phone: 電話機のデバイス フィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。

- Simple Phone：電話機の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドを含む。
- Custom：独自に選択して順序付けしたデバイス フィールドと回線フィールドを含む。

Simple Phone または Default Phone のファイル形式は、修正することも削除することもできません。

次のトピックでは、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- [ファイル形式の作成 \(P.3-60\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.3-62\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.3-63\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.3-64\)](#)
- [CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け \(P.3-65\)](#)
- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-3\)](#)



(注)

BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でファイル形式を作成することができます。テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、Simple または Default のファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されている順序と同じ順序で入力します。

## ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ領域の下の Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して、**Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Add a new File Format** をクリックします。File Format Information ウィンドウがク  
リアされます。

**ステップ 3** File Format Name フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

**ステップ 4** Device Fields で、各電話機に定義するデバイス フィールド名を選択します。  
Device Fields ボックスで、デバイス フィールド名をクリックしてから矢印をク  
リックして、そのフィールドを Selected Device Fields ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、Number of Lines、MAC Address/Device Name、および  
Description を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選  
択された状態になっています。



#### ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印  
をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。  
Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

**ステップ 5** Line Field ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックし  
て、そのフィールドを Selected Line Fields ボックスに移動します。



#### ヒント

Selected Line Fields ボックスおよび Selected Device Fields ボックス内の項目の順  
序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前  
方に移動させるか、または下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動  
させます。

**ステップ 6** 短縮ダイヤルの詳細のフィールドを含める場合は、**Include Speed Dials in the CSV  
Format** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 7** カスタム ファイル形式を保存するには、**Insert** をクリックします。ファイル形式  
の名前が左側の File Format Names リストに表示されます。

## その他の情報

詳細については、[P.3-116](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイル形式のコピー

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** テキスト エディタ領域の下の Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して、**Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Format Name リストで、コピーするファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。
- ステップ 3** **Copy** をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。
- ステップ 4** File Format Name フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。
- ステップ 5** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
  - 新しいフィールドを追加するには、Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスに移動します。
  - フィールドを削除するには、Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスに移動します。
  - フィールドの順序を変更するには、Selected Device Field ボックスまたは Selected Line Fields ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

- ステップ 6** 変更を加えたら、**Insert** をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を修正する手順は、次のとおりです。修正できるのは、カスタム形式だけです。

### 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタ領域の下の **Create CSV data file** ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して、**Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Format Name リストで、修正するファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。
- ステップ 3** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
- 新しいフィールドを追加するには、Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスに移動します。
  - フィールドを削除するには、Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスに移動します。Number of lines、MAC Address、および Description の必須フィールドは削除できません。
  - フィールドの順序を変更するには、Selected Device Field ボックスまたは Selected Line Fields ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

**ステップ 4** 変更を加えたら、**Update** をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。削除できるのは、カスタム形式だけです。

### 手順

---

- ステップ 1** テキスト エディタ領域の下の **Create CSV data file** ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して、**Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Format Name リストで、削除するファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。これが、削除するファイルであることを確認します。
- ステップ 3** File Format Name リストからファイル形式を削除するには、**Delete** をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。**OK** をクリックして続行します。ファイル形式名がリストから削除されます。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成した場合は、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式をすでに作成したということになります。値は、ファイル形式で指定されている順序でテキスト ファイルに入力済みです。

CSV データ ファイルが完成したら、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルに関連付けると、各フィールドの名前は CSV データ ファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、各フィールドの値を正しい順序で入力してあることが確認できます。

テキストベースの CSV データ ファイルでファイル形式を追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** テキスト エディタ領域の下の **Create CSV data file** ウィンドウで、**Associate file format with the CSV data file** を選択して、**Next** をクリックします。Add File Format ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** File Name フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
  - ステップ 3** File Format Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
  - ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けるには、**Add** をクリックします。
  - ステップ 5** **View File** リンクをクリックして、ファイル形式を最初のレコードとする CSV データ ファイルを表示します。入力された値が CSV データ ファイルのフィールド名に対応していることを確認します。
-

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機レコードの確認

Validate Phones を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データファイルと BAT 電話機テンプレートが、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドを指定しているかどうかをチェックします。確認ではさらに、パブリッシャ データベースとの不一致がないかどうかをチェックします。

### 始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、[P.1-7](#)の「[マスター電話機テンプレート](#)」を参照してください。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むコマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。

CSV データ ファイルの電話機レコードを確認する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Steps to Insert Phones ウィンドウで **Validate Phone Records** を選択して、**Next** をクリックします。Validate Phones ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** File Name フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
  - ステップ 3** CSV データ ファイルに対応する Insert オプションを選択します。
    - **Specific Details** : カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを確認する場合。
    - **All Details** : All Details オプションを使用して生成したエクスポート電話機ファイルから電話機レコードを確認する場合。 [ステップ 5](#) に進みます。

- ステップ 4** Phone Template Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 5** All Details オプションの場合は、IP テレフォニー デバイスのモデルを選択する必要があります。BAT には、現時点で Cisco CallManager データベースに登録されているモデルだけが表示されます。
- ステップ 6** **Validate** をクリックすると、選択した CSV データ ファイルとパブリッシャ データベースが検証されます。検証ルーチンは、エラーをログ ファイルに記録します。
- ステップ 7** 検証が完了したら、**View Latest Log File** をクリックして、デバイスとの不一致やエラー コードを記録したログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco CallManager への電話機の挿入

Cisco CallManager データベースに電話機、Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細を含むコンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- 電話機を挿入する前に、電話機レコードを確認します。

## 手順

- ステップ 1** Steps to Insert Phones ウィンドウで **Insert Phones** を選択して、**Next** をクリックします。Insert Phones ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Name フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** **Enable CTI Application Use** チェックボックスをオンにして、Cisco IP SoftPhone などのアプリケーションの使用を可能にします (CTI ポートのみ)。
- ステップ 4** CSV データ ファイルに対応する Insert オプションを選択します。
- **Specific Details** : カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを挿入する場合。
  - **All Details** : All Details オプションを使用して生成したエクスポート電話機ファイルから電話機レコードを挿入する場合。 [ステップ 6](#) に進みます。
- ステップ 5** Phone Template Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。



**(注)** エクスポート ユーティリティを使用して生成したファイルを挿入する場合は、ファイルに付加されているサフィックスを参照すると、適切な回線設定とともに電話機テンプレートを選択できます。エクスポート ユーティリティは、電話機に対して設定される回線ごとに、数字のサフィックス `_n` を付加します。たとえば、「sales\_7960\_1\_3.txt」という名前のエクスポートファイルは、このファイル内のすべての電話機レコードに対して、回線 1 と回線 3 が設定されることを示しています。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、**Create Dummy MAC Address** チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、**ダミー MAC アドレス オプション**を使用すると、**ダミー MAC アドレス**の形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、XXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスが分からない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco CallManager Administration にこの情報を手作業で入力するか、または、TAPS を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。TAPS の詳細については、[P.12-2 の「TAPS の概要」](#)を参照してください。[ステップ 7](#)に進みます。

**ステップ 6** All Details オプションの場合は、IP テレフォニー デバイスのモデルを選択する必要があります。BAT には、現時点で Cisco CallManager にサポートされている電話機モデルがすべて表示されます。

**ステップ 7** Insert をクリックして、電話機レコードを挿入します。

Cisco CallManager データベースにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ 8** ユーザ デバイス プロファイルを挿入するには、OK をクリックします。トランザクションを取り消すには、Cancel をクリックします。

OK をクリックすると、Transaction Status ウィンドウが表示されます。トランザクションの進行状況を表示するには、Show Latest Status ボタンをクリックします。



**(注)** 電話機レコードの回線情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その電話機レコードを挿入しません。

- ステップ 9** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## 電話機の更新

デバイス プールの変更または追加、あるいは類似した一連の電話機のコーリング サーチ スペースなど、電話機の設定値を更新するには、Update Phones オプションを使用します。次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の更新 \(P.3-71\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(P.3-72\)](#)

### クエリーを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのクエリーを作成する手順は、次のとおりです。

#### 手順

**ステップ 1** Update Phones を選択して、Next をクリックします。Update Phones Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Use query を選択して、Next をクリックします。Update Phones (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。



**(注)** クエリーを指定しなければ、すべての電話機を更新できます。[P.3-74 の「更新パラメータの選択」](#)に進みます。

**ステップ 3** Select Phones to Query ドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド (Model や Directory Number など) を選択します。

**ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、begins with、contains、または is empty などの検索基準を選択します。

**ステップ 5** 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストからモデル名を選択するか、電話番号の範囲を入力します。

## ■ 電話機の更新

**ステップ 6** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

**ステップ 7** 複数のフィルタを追加するには、AND または OR をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。



**(注)** 最初のドロップダウン リストボックスで Directory Number を使用している場合、複数のクエリーは実行できません。これは、AND と OR が Directory Number に対しては有効な演算子として機能しないためです。

**ステップ 8** View Query Results をクリックして、必要な情報がクエリーに含まれていることをチェックします。

誤りがあった場合は、Clear Query ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

---

電話機を更新する手順を完了するには、[P.3-74](#) の「[更新パラメータの選択](#)」に進みます。

## カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を検索するためのカスタム ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. 更新が必要なデバイスを識別します。
2. 次のオプションのいずれかを別個の行に記載したテキスト ファイルを作成します。
  - MAC アドレスおよびデバイス名
  - 電話番号



(注) 同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は別のカスタム ファイルに入れる必要があります。

3. テキスト ファイルは、固有の名前をつけて C:\BATfiles\Phones\Query\Update フォルダに保存します。

カスタム ファイルの電話機のリストを使用して電話機を更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Update Phones を選択して、Next をクリックします。Update Phones Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Use a custom file を選択して、Next をクリックします。Update Phones (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Select phones where ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイルのタイプを Device Name ( MAC アドレスを含む ) または Directory Number から選択します。
- ステップ 4** カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。View Query Result に、カスタム ファイルのファイル名とタイプが表示されます。
- ステップ 5** カスタム ファイルをテストします。View Query Result をクリックすると、このカスタム ファイルを使用したクエリー結果を示すメッセージが表示されます。

クエリー結果が予想どおりではなかった場合は、カスタム ファイルの選択を変更することができます。

電話機を更新する手順を完了するには、P.3-74 の「更新パラメータの選択」に進みます。

## 更新パラメータの選択

電話機を検索するためのクエリーまたはカスタム ファイルを定義した後、電話機を更新するためのパラメータを選択して値を定義する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Update Phones ウィンドウで、**Next** をクリックします。Update Phones (Step 2 of 2) ウィンドウが表示され、選択したクエリーのタイプが示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。
- ステップ 2** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、P.3-75 の「電話機を更新する場合のフィールドの説明」を参照してください。
- ステップ 3** チェックマークが付いたパラメータの Value フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 4** Reset/Restart Phones 領域で、次の選択項目のいずれかを選択します。
  - **Don't Reset/Restart devices** : 後でデバイスをリセットまたは再起動する。
  - **Reset devices** : 電話機をリセット (電源をオン / オフ) する。
  - **Restart devices** : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットする。
- ステップ 5** 更新内容をレコードに適用するには、**Update** をクリックします。

Cisco CallManager データベースでレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ6** 電話機を更新するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**OK** をクリックすると、Transaction Status ウィンドウが表示されます。トランザクションの進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。



**(注)** 電話機レコードの回線情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その電話機レコードは更新しません。

**ステップ7** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、変更されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話機を更新する場合のフィールドの説明

[表 3-4](#) では、電話機を更新する場合に表示されるフィールドすべてについて説明します。一部のデバイス タイプには、すべての電話機設定値を必要としないものもあります。

一部のフィールドに示される値は、Cisco CallManager から表示されます。これらの値は、Cisco CallManager Administration を使用して設定する必要があります。

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Description	デバイスを識別しやすくする説明を入力します。
Phone Load Name	<p>該当する場合は、カスタム電話機ロードを入力します。</p> <p> (注) このフィールドに入力される値は、選択されたモデルのデフォルト値を上書きし、Cisco IP Phone 用のカスタム ソフトウェアを指定します。</p>
Device Pool	<p>このグループの電話機またはポートが属するデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。</p>
Calling Search Space	<p>このグループの電話機またはポートが属するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
Location	<p>このグループの電話機またはポートが属するロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
Information	情報ボタン用のヘルプ テキスト URL を入力します。
Directory	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
Messages	ボイス メッセージのアクセス パイロット番号を入力します。
Services	サービス メニューの URL を入力します。

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Authentication Server	<p>電話機の Web サーバに対する要求を認証するときに、電話機が使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合は、認証を必要とする Cisco IP Phone の拡張機能は動作しません。デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p> <p>デフォルトでは、この URL は、インストール時に設定された Cisco IP Phone User Options ウィンドウにアクセスします。</p>
Proxy Server	<p>電話機の HTTP クライアントから非ローカル ホスト アドレスにアクセスするために、プロキシ HTTP 要求に使用されるホストおよびポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機が、サービスの中で URL (たとえば、www.cisco.com) を受信するときに cisco.com ドメインで設定されていない場合、その電話機はプロキシサーバを使用してその URL にアクセスします。cisco.com ドメインで設定されている場合、電話機は、URL と同じドメインにいたので、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルト設定値を受け入れる場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>
Idle	<p>Idle Timer フィールドで指定された時間、電話機が使用されなかったときに、Cisco IP Phone ウィンドウに表示される URL を入力します。たとえば、電話機が 5 分間使用されなかったときに、ウィンドウにロゴを表示できます。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Idle Timer	電話機に許容される非動作時間 (秒数) を入力します。非動作のままこの時間が経過すると、電話機は Idle フィールドに指定された URL を表示します。デフォルト値を使用する場合には、このフィールドをブランクのままにします。
User Hold Audio Source	このグループの電話機またはポートのユーザ保留オーディオソースを選択します。  ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに音楽を再生します。
Network Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが利用するネットワーク保留オーディオソースを選択します。  ネットワーク保留オーディオソースは、システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したとき、またはコールパークに置いたとき) に音楽を再生します。
Media Resource Group List	このグループの電話機またはポートが属するメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。  MRGL は、優先順位が付けられたメディアリソースグループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位にしたがって、使用可能なメディアリソースの中から、必要なメディアリソースを選択できます。
Extension Mobility	この機能を無効にする場合は 0-Off を選択し、有効にする場合は 1-On を選択します。  エクステンション モビリティを使用すると、ユーザは、Cisco IP Phone にログインおよびログアウトすることができます。エクステンション モビリティの詳細については、『Cisco CallManager 機能およびサービスガイド』を参照してください。

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
User Locale	<p>このユーザに関連付ける国 / 地域と言語を選択します。</p> <p>この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。</p>
Network Locale	<p>このユーザに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
IP Services1	<p>設定されている任意のサービスを選択するには、Cisco CallManager Administration を使用します。</p>
IP Services2	<p>設定されている任意のサービスを選択するには、Cisco CallManager Administration を使用します。</p> <p> (注) BAT では、1 つのトランザクション内で複数の IP サービスを更新することはできません。</p>

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MLPP Indication	<p>(使用可能な場合) 優先トーンを再生する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default: デバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。</li> <li>• Off: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。</li> <li>• On: デバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。</li> </ul> <p> (注) 次の組み合わせでデバイスを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されているときに MLPP Indication を <i>Off</i> に設定します。</p>

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MLPP Preemption	<p>(使用可能な場合) 進行中のコールをプリエンブション処理する機能のあるデバイスが、MLPP 優先コールを行うときにその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このデバイスに割り当てる設定値を次のオプションから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Default : デバイスは MLPP プリエンブション設定値をデバイス プールから継承します。</li> <li>• Disabled : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理しません。</li> <li>• Forceful : デバイスは MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理します。</li> </ul> <p> (注) 次の組み合わせでデバイスを設定しないでください。MLPP Preemption が <i>Forceful</i> に設定されているときに MLPP Indication を <i>Off</i> に設定します。</p>
MLPP Domain ( "0000FF" など )	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Device Security Mode	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default : 電話機はエンタープライズ パラメータ、Device Security Mode で指定した値を使用します。</li> <li>• Non-secure : 電話機にセキュリティ機能はありません。TCP 接続で Cisco CallManager が利用できます。</li> <li>• Authenticated : Cisco CallManager は電話機の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</li> <li>• Encrypted : Cisco CallManager は電話機の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続を開始します。</li> </ul> <p> (注) このフィールドが適用されるのは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合だけです。</p>
Ignore Presentation Indicators	システムで表示インジケータを無視する必要がある場合に、このチェックボックスをオンにします。
Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles	重複した IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複したサービス登録が電話機とユーザ デバイス プロファイルから削除されます。IP システムでは、IP サービス名に基づいてサービスが削除されます。
Disable Speakerphone	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
Disable Speakerphone and Headset	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
Forwarding Delay	このフィールドを使用して転送遅延を有効または無効にします。コールの転送前にポートを数秒間遅延させる場合、有効にします。

表 3-4 電話機を更新する場合のフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
PC Port	このフィールドを使用して内部スイッチを持つ電話機の PC ポートを有効または無効にします。ユーザは、電話機背面の「10/100 PC」というラベルの付いたポートを使用して、PC またはワークステーションを電話機に接続できます。
Setting Access	このフィールドを使用してユーザが電話機設定値にアクセスするかどうかを選択します。Enabled および Disabled を選択できます。
Gratuitous ARP	Gratuitous ARP を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
PC Voice VLAN Access	PC ボイス VLAN へのアクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Video Capabilities	ビデオ機能アクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Auto Line Select	電話機での自動回線選択を制御するには、Enabled または Disabled を選択します。
Web Access	電話機での Web アクセスを制御するには、Enabled または Disabled を選択します。



(注) 手順を完了するには、[P.3-74](#) の「更新パラメータの選択」に進みます。

## 回線の更新

特定のデバイス グループまたは特定のユーザ デバイス プロファイル グループ用の回線アトリビュートを更新するには、Update Lines オプションを使用します。クエリー結果に電話機用の回線とユーザ デバイス プロファイル用の回線の両方が含まれている場合は、両回線が同時に更新されます。



**(注)** 電話機が Cisco CallManager データベースから削除された場合、電話番号はデータベース内に残っています。これらの孤立した電話番号を管理するには、Update Lines オプションを使用して割り当てられていない電話番号を検索し、これらの電話番号を削除または更新することができます。

回線を更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Update Lines を選択して Next をクリックします。Update Lines (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。



**(注)** クエリーを指定しなければ、すべての回線を更新できます。[P.3-86 の「回線を更新する場合のフィールドの説明」](#)に進みます。

**ステップ 2** Select lines where ドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド (Directory Number、Line Partition、Unassigned DN など) を選択します。



**(注)** 孤立した電話番号を検索して削除するには、「unassigned DN」を使用します。

**ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、begins with、contains、または is empty などの検索基準を選択します。

- ステップ 4** 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値を選択するか、入力します。たとえば、リストから Line Partition を選択するか、電話番号の範囲を入力します。
- ステップ 5** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** クエリーをさらに定義するには、AND または OR をクリックして複数のフィルタを追加し、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。



**(注)** 最初のドロップダウン リスト ボックスで Directory Number を使用している場合、複数のクエリーは実行できません。これは、AND と OR が Directory Number に対しては有効な演算子として機能しないためです。

- ステップ 7** View Query Result をクリックして、検索対象のレコードを表示します。
- ステップ 8** Next をクリックします。Update Lines (Step 2 of 2) ウィンドウが表示され、上部に選択したクエリーのタイプが示されます。クエリーのタイプを変更する場合は、Back をクリックします。
- ステップ 9** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。更新するパラメータは複数選択できます。パラメータの説明については、[P.3-86](#) の「[回線を更新する場合のフィールドの説明](#)」を参照してください。
- ステップ 10** チェックマークが付いたパラメータの Value フィールドに新しい値を入力するか、リスト ボックスから値を選択します。
- ステップ 11** 更新内容をレコードに適用するには、Update をクリックします。

Cisco CallManager データベースでレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

## ■ 回線の更新

**ステップ 12** 電話機を更新するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**OK** をクリックすると、Transaction Status ウィンドウが表示されます。トランザクションの進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。



**(注)** 回線レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT は、その回線レコードを更新しません。

**ステップ 13** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、変更されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 回線を更新する場合のフィールドの説明

[表 3-5](#) では、回線の詳細を更新する場合のフィールドについて説明します。

一部のフィールドに示される値は、Cisco CallManager から表示されます。これらの値は、Cisco CallManager Administration を使用して設定する必要があります。

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Line Partition	<p>パーティションを選択します。パーティションは、電話番号が属するルート パーティションを指定します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p>
Calling Search Space (Line)	<p>この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。</p> <p> (注) このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示される Pickup Group Names が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward All	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward All to Voice Mail	<p>すべてのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward All Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Calling Search Space Forward Busy External	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward Busy Internal	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Destination External	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Destination Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy to Voice Mail External	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールをボイスメッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy to Voice Mail Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールをボイスメッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Calling Search Space Forward No Answer External	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space Forward No Answer Internal	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送される ときに使用するコーリング サーチ スペースを選択しま す。この設定値は、システム内で設定されている場合だ け、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべての デバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Destination External	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転 送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) お よびこの電話番号を使用するすべてのデバイス に適用されます。</p>
Forward No Answer Destination Internal	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転 送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) お よびこの電話番号を使用するすべてのデバイス に適用されます。</p>
Forward No Answer to Voice Mail External	<p>応答されない外部番号からのコールをボイス メッセー ジ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、この チェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer to Voice Mail Internal	<p>応答されない内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Calling Search Space Forward No Coverage External	<p>外部番号からのコールが指定された宛先に転送される時に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Calling Search Space Forward No Coverage Internal	<p>内部番号からのコールが指定された宛先に転送される時に使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Destination External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage Destination Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む) およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage to Voice Mail External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage to Voice Mail Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Calling Search Space Forward on Failure External/Internal	<p>(CTI ポートのみ) 内線コールまたは外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward on Failure Destination External/Internal	(CTI ポートのみ) 電話機または CTI アプリケーションに障害が起きたときに、内部番号または外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。
Forward on Failure to Voice Mail External/Internal	(CTI ポートのみ) 外部番号または内部番号からの失敗したコールをボイス メッセージ プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。
Call Forward No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination フィールドで入力された電話番号にコールを転送します。   (注) Cisco CallManager サービスパラメータの Forward No Answer Timer で設定されている値を使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
User Hold Audio Source	ユーザが Hold ボタンまたはソフトキーを押してコールを保留にしたときに再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコールパークを開始したとき) に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Auto Answer	ここで更新されるすべての回線で自動応答機能を使用する場合は、このパラメータを選択します。自動応答を使用すると、ヘッドセットが使用中であるときに、Cisco CallManager が自動的にコールに応答します。着信コールが接続されていることをユーザに知らせるアラート音 (ジップ トーン) が再生されます。

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。このパラメータを選択すると、この電話機に対してボイス メッセージ サーバが設定されていない場合に役立ちます。
Ring Setting When Idle	電話機に着信コールがあった場合の呼び出し音のタイプを選択します。
Ring Setting when Active	この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される、着信コールの呼び出し音のタイプを選択します。
Call Pickup Group Name	Pickup Group Name を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。  AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
Target (Destination) MLPP	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。  値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
MLPP Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチスペースを選択します。

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
MLPP No Answer Ring Duration	<p>優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が応答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に応答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。</p> <p>Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。</p>
External Phone Number Mask	<p>この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に表示される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。</p>
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。</p> <p>このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>

表 3-5 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されず。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>



(注) 手順を完了するには、[P.3-84](#) の「[回線の更新](#)」に進みます。

## 既存の電話機および UDP への回線の追加

Cisco CallManager データベース内の既存の電話機のグループまたはユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加することができます。テンプレートを使用して新しい回線を追加すると、電話サービスまたは短縮ダイヤルを変更することはできません。既存の電話機に回線を追加する場合、BAT ではテンプレートのこれらのフィールドが無視されます。

既存の電話機またはユーザ デバイス プロファイルに回線を追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- このトランザクションには BAT テンプレートが必要です。詳細については、[P.3-5 の「BAT テンプレートにおける回線の追加または更新」](#)を参照してください。
- このトランザクションには CSV データ ファイルが必要です。詳細については、[P.3-99 の「BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** **Add Lines** を選択して、**Next** をクリックします。Steps to Add Lines ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** このトランザクション用に新しいテンプレートを作成するか、既存のテンプレートを変更する必要がある場合は、**Add, View, or Modify Phone Template** を選択します。
  - ステップ 3** **Add Lines to existing phones or device profiles** を選択します。Add Lines ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 4** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

## ■ 既存の電話機および UDP への回線の追加

- ステップ 5** テンプレート内にある既存の電話機の設定値を変更する場合は、**Override the existing configuration** チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。
- ステップ 6** Select Templates 領域で、次のオプションのいずれかを選択します。
- 電話機に回線を追加するには、**Phone Template** を選択します。  
Template Name フィールドで、このバルク トランザクションに使用する BAT 電話機テンプレートを選択します。
  - ユーザ デバイス プロファイルに回線を追加するには、**User Device Profile Template** を選択します。  
Template Name フィールドで、このバルク トランザクションに使用するユーザ デバイス プロファイルテンプレートを選択します。
- ステップ 7** Add をクリックします。Cisco CallManager データベースでレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。
- ステップ 8** トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。
- ステップ 9** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、正常に追加された回線の数が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への回線の追加

既存の電話機に回線を追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストールおよび使用方法の詳細については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある **Add Lines** タブをクリックします。
- ステップ 4** スプレッドシートで回線ごとに個々の電話機のデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各カラムの見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。[表 3-6](#) では、BAT スプレッドシートで回線を追加する場合のフィールドを説明しています。
- ステップ 5** **Export to BAT Format** をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。あるいは Browse を使用してローカル ワークステーション上の別の既存フォルダに保存することもできます。ファイル名は次のとおりです。

```
<tabname>#<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されているデータは BAT 形式に変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。

**ステップ 6** フロッピーディスクまたはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、CSV データ ファイルを、C:\XLSDataFiles (または CSV ファイルの格納先として選択したフォルダ) から、パブリッシャ データベース サーバ上の C:\BATFiles\AddLines フォルダにコピーします。



(注) エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の Insert Phones ウィンドウで **View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

### その他の情報

詳細については、P.3-116 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

表 3-6 では、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドについて説明します。

表 3-6 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
MAC Address	電話機、VGC Virtual Phone、VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有の ID を入力します。
Line Index	電話機の回線インデックスに 1 ~ 34 までの数字を入力します。
Directory Number	この回線の電話番号を、24 桁以下の数字と特殊文字で入力します。
Display	<p>コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します（たとえば、John Smith などのユーザ名や Conference Room 1 などの電話機の設置場所など）。半角カタカナを指定することができますが、着信側の電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないので、注意が必要です。</p> <p> (注) このフィールドをブランクにしておくと、Directory Number フィールドに入力された値が使用されます。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>

表 3-6 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Line Text Label	<p>回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。半角カタカナを指定することができますが、電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないため、注意が必要です。</p> <p> (注) デフォルトの言語は英語です。</p>
Forward Busy External	<p>回線が使用中のときに外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External	<p>電話機が応答しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に外部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 3-6 BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward Busy Internal	<p>回線が使用中のときに内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal	<p>電話機が応答しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に内部番号からのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号（制限されていない限り、外部の宛先を含む）およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Call Pickup Group	<p>Pickup Group Name を入力してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。</p>

## 電話機の削除

一連の電話機およびその他の IP テレフォニー デバイスを Cisco CallManager データベースから削除するには、ここで説明する手順を実行します。

Delete オプションにアクセスするには、**Configure > Phones** の順に選択します。Phone Options ウィンドウで **Delete Phones** を選択して、**Next** をクリックします。次の 2 つの方法を使用して既存の電話機レコードを検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機の削除 \(P.3-104\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の削除 \(P.3-106\)](#)

### クエリーを使用した電話機の削除

電話機レコードを検索するためのクエリーを作成して電話機を削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** Delete Phones Options ウィンドウで **Use query** を選択して、**Next** をクリックします。Delete Phones ウィンドウが表示されます。



#### 注意

クエリーを指定しない場合は、すべての電話機が削除されます。

- ステップ 2** Select Phones to Query ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド (Model や Directory Number など) を選択します。



- (注)** Select Phones to Query ドロップダウン リスト ボックスで Unassigned DN を選択すると、選択された未割り当ての電話番号が削除されます。

- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。

- ステップ 4** 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値（たとえば、リストのモデル名または電話番号の範囲）を選択するか、入力します。
- ステップ 5** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。



**(注)** 最初のドロップダウン リスト ボックスで Directory Number または Unassigned DN を使用している場合、複数のクエリーは実行できません。これは、**AND** と **OR** が Directory Number に対して有効な演算子として機能しないためです。

- ステップ 7** **View Query Results** をクリックして、クエリーが必要な結果をもたらすことをチェックします。



**(注)** 削除する電話機を正しく選択したことを確認してください。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 2](#) からやり直します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機レコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

- ステップ 8** **Delete** をクリックすると、レコードが削除されます。

## ■ 電話機の削除

**ステップ 9** Cisco CallManager データベースからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 10** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除された電話機数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## カスタム ファイルを使用した電話機の削除

テキスト エディタを使用して、削除する電話機のカスタム ファイルを作成することができます。同一のカスタム ファイルの中に、MAC アドレスとデバイス名の両方を含めることができますが、電話番号は同じファイルに入れることはできません。複数のファイルを作成する必要があります。1 つのファイルには、デバイス名と MAC アドレスを含め、もう 1 つのファイルには電話番号を含めます。



(注)

回線を共有している電話機は、カスタム ファイルを使用して削除することはできません。

---

### 始める前に

1. 削除する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
  - デバイス名および MAC アドレス
  - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルは、<filename.txt> という名前をつけて C:\BATfiles\Phones\Query\Delete フォルダに保存します。

カスタム ファイルに記載されている電話機を削除する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** Delete Phones Options ウィンドウで **Use a custom file** を選択して、**Next** をクリックします。Delete Phones ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Select Phones where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用したフィールドである **Device Name** または **Directory Number** を選択します。
- ステップ 3** Custom file where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** **View Query Results** をクリックして、クエリーに必要な情報が含まれていることを確認します。



### 注意

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機レコードが削除されます。

- ステップ 5** **Delete** をクリックすると、レコードが削除されます。
- ステップ 6** Cisco CallManager データベースからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 7** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除された電話機数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。

## その他の情報

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#) を参照してください。

## 電話機のリセットまたは再起動

アトリビュートを更新しなくても、デバイスをリセットまたは再起動できます。問題が発生したために、複数の電話機をバルク トランザクションによってリセットまたは再起動する必要がある場合に、この手順を使用します。

Reset/Restart オプションにアクセスするには、**Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウで **Reset/Restart Phones** を選択して、**Next** をクリックします。次の 2 つの方法のいずれかを使用して電話機を検索することができます。

- [クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.3-108\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(P.3-110\)](#)

### クエリーを使用した電話機のリセットまたは再起動

電話機を検索するためのクエリーを作成して電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- 
- ステップ 1** Reset/Restart Phones Options ウィンドウで **Use query** を選択して、**Next** をクリックします。Reset/Restart Phones ウィンドウが表示されます。



**(注)** すべての電話機をリセットまたは再起動する場合は、クエリー フィルタを指定しません。[ステップ 8](#)に進みます。

---

- ステップ 2** Select Phones to Query ドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド (たとえば、Model、Directory Number) を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。

- ステップ 4** 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値（たとえば、リストのモデル名または電話番号の範囲）を選択するか、入力します。
- ステップ 5** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 4](#) ~ [ステップ 7](#) を繰り返します。



**(注)** 最初のドロップダウン リストボックスで **Directory Number** を使用している場合、複数のクエリーは実行できません。これは、**AND** と **OR** が **Directory Number** に対しては有効な演算子として機能しないためです。

- ステップ 7** **View Query Results** をクリックして、必要な情報がクエリーに含まれていることをチェックします。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 4](#) からやり直します。



**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機がリセットまたは再起動されます。

- ステップ 8** 次のオプションのいずれかをクリックします。

- **Reset** : 電話機をリセット（電源をオン / オフ）します。
- **Restart** : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。

電話機をリセットまたは再起動するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

## ■ 電話機のリセットまたは再起動

- ステップ 9** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、[View Latest Log File](#) リンクをクリックします。ログ ファイルには、リセットまたは再起動された電話機の数が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動

テキスト エディタを使用して、リセットまたは再起動する電話機のカスタム ファイルを作成することができます。カスタム ファイルのデバイス名または電話番号のいずれかを使用できます。

### 始める前に

1. リセットまたは再起動する電話機について次の詳細のいずれかを記載するテキスト ファイルを作成します。
  - デバイス名
  - 電話番号
2. テキスト ファイルで 1 行に 1 項目ずつ配置します。
3. カスタム ファイルは、<filename.txt> という名前をつけて C:\BATfiles\Phones\Query\Update フォルダに保存します。

カスタム ファイルに記載されている電話機をリセットまたは再起動する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Reset/Restart Phones Options ウィンドウで **Use a custom file** を選択して、**Next** をクリックします。Reset/Restart Phones ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** Select Phones where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使  
用した項目である Device Name または Directory Number を選択します。
- ステップ 3** Custom file where ドロップダウン リスト ボックスで、作成したカスタム ファイ  
ルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** View Query Results をクリックして、必要な情報がクエリーに含まれていること  
をチェックします。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機がリセッ  
トまたは再起動されます。

- ステップ 5** 次のオプションのいずれかをクリックします。

- **Reset** : 電話機をリセット (電源をオン / オフ) します。
- **Restart** : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。

電話機をリセットまたは再起動するために必要な時間を通知するメッセージが  
表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理  
を続行することができます。

- ステップ 6** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、View Latest Log File リンクをク  
リックします。ログ ファイルには、リセットまたは再起動された電話機の数  
が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)  
を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.3-116 の「関連項目」](#)を参照してください。

## CAPF の設定

Certification Authority Proxy Function (CAPF) は、新しい要求の受信時に個々のデバイスに新しい証明書を発行する際に使用される Windows NT サービスを特定します。ローカルで有効な証明書 (LSC) をアップグレードまたは削除することができます。また、サポートされる CAPF デバイス用の証明書を一括更新することもできます。

CAPF Configuration オプションにアクセスする手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Bulk Administration Tool (BAT) で、**Configure > Phones** を選択します。Phone Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Phone Options ウィンドウで **CAPF Configuration** を選択して、**Next** をクリックします。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## LSC のアップグレード

共通のアトリビュートを持つ電話機を検索するクエリーを作成することにより、ローカルで有効な証明書 (LSC) をアップグレードまたは削除できます。LSC をアップグレードまたは削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** CAPF Configuration Options ウィンドウで **Upgrade LSC** を選択して、**Next** をクリックします。Upgrade LSC (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。



(注) すべての電話機の LSC をアップグレードまたは削除する場合は、クエリー フィルタを指定しません。ステップ 8 に進みます。

- ステップ 2** Select Phones Where ドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド (Device Type、Device Security Mode、LSC Status など) を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
- ステップ 4** 検索フィールド リスト ボックスで、検索する値 (リストのデバイス名や LSC ステータスなど) を選択するか、入力します。
- ステップ 5** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、AND または OR をクリックします。クエリーをさらに定義するには、ステップ 2 ~ ステップ 5 を繰り返します。
- ステップ 7** View Query Results をクリックして、必要な情報がクエリーに含まれていることをチェックします。

誤りがあった場合は、Clear Query ボタンをクリックして、そのクエリーを削除し、ステップ 2 から手順をやり直します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべての電話機の LSC が更新されます。

- ステップ 8** Next をクリックします。Upgrade LSC (Step 2 of 2) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 9** Certificate Operation ドロップダウン リスト ボックスから、Upgrade LSC または Delete LSC を選択します。

**ステップ 10** クエリーまたはカスタム ファイルで定義したレコードすべてに対して、更新または削除する設定を指定します。更新または削除するパラメータは複数選択できます。

**ステップ 11** Select parameters to Update 領域のドロップダウン リストボックスで、Authentication Mode を選択します。次のオプションがあります。

- By Authentication String
- By Null String
- By Existing Certificate (Precedence to LSC (Locally Significant Certificate))
- By Existing Certificate (Precedence to MIC (Manufactured Installed Certificate))

**ステップ 12** [ステップ 11](#) で By Authentication String を選択した場合は、チェックボックスをオンにすることによって、デバイスごとに固有の認証文字列を生成することができます。

**ステップ 13** Generate unique authentication string for each device チェックボックスをオンにしない場合は、テキストボックスに認証文字列を入力するか、Generate String をクリックして、認証文字列をシステムで生成します。



**(注)** [ステップ 12](#) で認証文字列を入力したか、生成した場合は、クエリーで選択されたすべてのデバイスが適用対象になります。

**ステップ 14** Key Size ドロップダウン リストボックスで、キー サイズを選択します。デフォルトのキー サイズは 1024 ビットです。

**ステップ 15** Operation Completes By フィールドに、証明書のオペレーションの完了予想日付を入力します。このフィールドの日付形式は YYYY: MM: DD: HH です。

**ステップ 16** 次のオプションのいずれかをクリックします。

- **Reset Phones** : 電話機をリセット (電源をオン / オフ) します (デフォルト)。
- **Restart Phones** : 電源のオン / オフをせずに電話機をリセットします。

- **Do not Reset/Restart Phones** : 電話機のリセットや再起動を行いません。

**ステップ 17** Update をクリックします。

電話機の LSC の更新または削除に必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.3-116](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## 関連項目

- [電話機の追加 \(P.3-2\)](#)
- [電話機の更新 \(P.3-71\)](#)
- [回線の更新 \(P.3-84\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.3-97\)](#)
- [電話機の削除 \(P.3-104\)](#)
- [電話機のリセットまたは再起動 \(P.3-108\)](#)
- [新しい電話機とユーザの追加 \(P.4-27\)](#)
- [CAPF の設定 \(P.3-112\)](#)
- [電話機エクスポートの使用方法 \(P.10-4\)](#)
- [電話機のレポートの生成 \(P.11-2\)](#)
- [TAPS の概要 \(P.12-2\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)
- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-3\)](#)
- [電話機用の CSV データ ファイル形式 \(P.A-4\)](#)



## ユーザの一括処理

---

BAT を使用して、新しいユーザのグループを追加し、ユーザを電話機や他の IP テレフォニー デバイスに関連付けることができます。また Cisco CallManager server の Cisco CallManager Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) Directory で、既存のユーザのグループを更新または削除できます。

この章では、ユーザの一括処理について説明します。

次のトピックでは、ユーザレコードを管理する方法について説明します。また、電話機とユーザ、または CTI ポートとユーザレコードなどの、Cisco CallManager LDAP 内のユーザの組み合わせを一括管理する方法について説明します。

- [ユーザの追加 \(P.4-2\)](#)
- [ユーザの更新 \(P.4-12\)](#)
- [Cisco CallManager 内のユーザの削除 \(P.4-19\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(P.10-13\)](#)
- [パスワードと PIN のリセット \(P.4-23\)](#)
- [新しい電話機とユーザの追加 \(P.4-27\)](#)
- [ユーザのレポートの生成 \(P.11-8\)](#)

## ユーザの追加

複数のユーザを Cisco CallManager LDAP Directory に一括して追加する手順は、次のとおりです。

1. コンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、追加するユーザごとに個々の値を定義します。
  - 詳細については、[P.4-3 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
  - ユーザ用のテキストベース CSV データ ファイルの作成方法については、[P.A-13 の「ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。
2. BAT を使用して、ユーザを Cisco CallManager ディレクトリに挿入します。詳細については、[P.4-7 の「Cisco CallManager へのユーザの挿入」](#)を参照してください。



**(注)** 追加するユーザに Cisco IP SoftPhone などの CTI ポートが必要とするアプリケーションがある場合、BAT を使用して CTI ポートを既存のユーザに関連付けられます。

### その他の情報

詳細については、[P.4-35 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用したユーザ用 CSV データ ファイルの作成

Cisco CallManager ディレクトリに新しいユーザを追加するために、詳細を BAT スプレッドシートに記述し、それを CSV データ ファイルに変換できます。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」を参照してください。

新しいユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを検索し、それをダブルクリックします。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** ユーザを追加するには、スプレッドシートの下部にある **Users** タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。

各行に、[表 4-1](#) で説明されている情報を指定します。ユーザが複数のデバイスを持つ場合、デバイス名フィールドは各デバイスに 1 つずつ設定します。

**表 4-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明**

フィールド	説明
First Name	電話機ユーザの名を 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Last Name	電話機ユーザの姓を 50 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。

表 4-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
User ID	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ~ 30 文字で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Password	<p>Cisco IP Phone Configuration ウィンドウへのアクセス時にユーザが使用するパスワードを、20 文字以内で入力します。</p> <p>パスワードは、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ファイルを挿入するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別のパスワードを適用する場合は、CSV データ ファイルでパスワード情報を指定してください。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、BAT 内でユーザを挿入するときにデフォルトのパスワードを設定します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。</p>
Manager	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
Department	電話機ユーザの所属部門番号を 30 文字以内で入力します。このフィールドには、半角英数文字しか指定できません。
PIN	<p>エクステンション モビリティで使用される Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) を 20 桁以内の数値で入力します。</p> <p>PIN は、CSV データ ファイルに指定する必要があります。または、ファイルを挿入するときに BAT ユーザ インターフェイスを使用して入力する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN を適用する場合は、CSV データ ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用するには、BAT にユーザを挿入するときにデフォルト PIN を指定します。このフィールドには、数字しか指定できません。</p>

表 4-1 ユーザ追加用の BAT スプレッドシート内のフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
User Device Profile	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイル を、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロフ ァイルは、BAT に表示される Cisco CallManager Administration 内の既存の UDP のリストから選択できます。
User Locale	このユーザに関連付ける言語と国 / 地域のセットを入力し ます。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケ ール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言 語で表示するかが決まります。
Controlled Device Name1	このユーザに関連付ける電話機またはデバイスの名前を 50 文字以内で入力します。
Directory Number	電話機のプライマリ内線 (通常は、回線 1) の電話番号を 50 桁以内で入力します。
Controlled Device Name 2	このユーザに関連付ける追加の電話機の名前を 50 文字以 内で入力します。   (注) まず、Controlled Device Name1 フィールドに値を入 力してから Controlled Device Name エントリを追加 する必要があります。

**ステップ 5** 新しいユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、Add More Devices ボタンをクリックします。

 (注) CTI ポート、ATA ポート、および H.323 クライアントなど、すべてのデ  
バイスをユーザに関連付けることができます。

 (注) BAT を使用して、自動生成されたデバイス プロファイルを新しいユーザ  
に関連付けるために、BAT 管理者は、xlt の User Device Profile カラムに  
ADP 名を入力することができます。

**ステップ 6** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles に保存されます。または、Browse を使用してファイルを別の既存フォルダに保存できます。ファイル名は次のとおりです。

<tabname>#<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。



**(注)** いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT がこのデータ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles（またはファイルの格納先として選択したフォルダ）から、パブリッシャ データベース サーバ上の次のフォルダにこのデータ ファイルをコピーします。

C:\BATFiles\Users\Insert Users



**(注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT 内の Insert Users ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

### その他の情報

詳細については、P.4-35 の「関連項目」を参照してください。

## Cisco CallManager へのユーザの挿入

ユーザのグループを Cisco CallManager ディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

ユーザ名、制御対象のデバイス名、および電話番号が格納されている CSV データファイルが必要です。この CSV データファイルは、次のいずれかの方法で作成できます。

- BAT スプレッドシートを CSV 形式に変換する。
- エクスポートユーティリティで、ユーザデータのエクスポートファイルを作成する。



#### 注意

BAT は、CSV データファイルを含むデバイス名が、Cisco CallManager データベースに存在するかどうかをチェックしません。この検証が実行されないので、BAT は CTI 制御でないデバイスもユーザに関連付けることができ、その結果誤った関連付けが生じます。

エクスポートユーティリティを使用して生成したファイルを挿入する場合は、\_MgrLevel# サフィックスに基づいて、降順でファイルを挿入します。ここで、# は 1 ~ 20 です。Manager User ID フィールドでマネージャの User ID が使用される前にマネージャのユーザレコードが配置されるようにするために、\_user サフィックスを持つファイルは最後に挿入します。



#### (注)

Cisco CallManager サーバからエクスポートした CSV データファイルが使用するディレクトリタイプが、新しい Cisco CallManager サーバが使用するディレクトリタイプと異なる場合は、その CSV データファイルを挿入しないでください。

## 手順

- ステップ 1** **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Insert Users** を選択し、**Next** をクリックします。Insert Users ページが表示されません。
- ステップ 3** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** エクスポート ユーティリティを使用して作成した CSV データ ファイルの場合は、**File created with Export Users** チェックボックスをオンにします。



- (注)** DC Directory (DCD) または Netscape Directory Service (NDS) から既存のユーザのファイルをエクスポートした場合、パスワードと PIN のフィールドが、エクスポートされた CSV データ ファイル内で暗号化されます。Active Directory からユーザをエクスポートした場合、パスワードはエクスポートされず、PIN はクリアテキストで表示されます。

- ステップ 5** 次に示すチェックボックスをオンにして、これらの機能を使用可能にします。これらの機能は、ユーザがすでに使用可能にしている場合は BAT によって使用不可にはなりません。



- (注)** エクスポート ユーティリティは、次の機能について同じ設定を持つすべてのユーザを同じファイルに保存します。

エクスポート ファイルに付加されたサフィックスによって、このユーザのグループの設定が識別されます。付加されているサフィックスに従って、適切な設定を選択します。詳細については、[P.10-11](#) の「**ユーザ エクスポートの使用方法**」を参照してください。

- **Enable Authentication Proxy Rights** : ユーザが、他の人に代わって電話機にログオンできるように許可する。認証プロキシ権限が使用可能になっているユーザは、すべてのユーザがエクステンション モビリティ用に接続するとき使用するシングルポイント認証の役目を果たします。Cisco CRS Server 上の Application Administration で、追加の設定が必要です。
- **Enable CTI Application Use** : すべてのユーザに対して、Cisco IP SoftPhone などのアプリケーションの使用を有効にする (CTI ポートに適用)。
- **Call Park Retrieval Allowed** : すべてのユーザに対してコールパーク取得を有効にする。
- **Enable Calling Party Number Modification** : Cisco Emergency Responder( CER ) などのアプリケーションが、機能が要求を開始するときに発信側の番号を変更できるよう許可する。

**ステップ 6** CSV データ ファイル内に次の情報が存在しない場合は、その情報を User Default Values 領域で指定します。

- **Password** : Cisco IP Phone User Options ウィンドウにログインするときにユーザが入力するパスワード (20 文字以内) を指定する。ここで値を指定する必要があるのは、Cisco IP Phone User Options ウィンドウへのアクセスに、デフォルトパスワードを指定する場合、および CSV データ ファイル内でユーザごとに個別のパスワードをまだ指定していない場合だけです。



(注) Password と PIN の値は、CSV データ ファイル上に指定するか、ファイル挿入プロセスで指定する必要があります。



(注) CSV データ ファイルで指定された Password 値が、ここで指定する値より優先されます。

- **Confirm Password** : パスワードをもう一度指定する。
- **PIN** : エクステンション モビリティ用に Cisco IP Phone にログインするときにユーザが入力する PIN (20 文字以内) を指定する。このフィールドは、エクステンション モビリティ用にデフォルトの PIN を指定するために使用します。また、CSV データ ファイル内でユーザごとに個別の PIN をまだ指定していないときに PIN を指定するために使用します。CSV データ ファイルで指定された PIN 値が、ここで指定する値より優先されます。



(注) リリース 3.1 より前の Cisco CallManager で設定されたユーザは、エクスポートされたユーザ レコードの PIN がブランクになっています。このようなユーザを挿入するときは、デフォルトの PIN を指定します。

- **Confirm PIN** : PIN をもう一度指定する。
- **User Locale** : このユーザに関連付ける言語と国 / 地域の組み合わせを選択する。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
- **User Device Profile** : このユーザとデバイスのユーザ デバイス プロファイルを入力する。



(注) User Device Profile、Controlled Device Name、および Directory Number は、すでに Cisco CallManager データベースに存在する必要があります。

BAT は、CSV データ ファイルに含まれるデバイス名が、Cisco CallManager データベースに存在するかどうかをチェックしません。この検証が実行されないため、BAT は CTI 制御でないデバイスもユーザに関連付けることができ、その結果誤った関連付けが生じます。

**ステップ 7** Insert をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起これるような場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ 8** ユーザを挿入するには、OK をクリックします。トランザクションを取り消すには、Cancel をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。Show Latest Status ボタンをクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ9** View Latest Log File をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードと障害の説明を含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「BAT ログ ファイル」を参照してください。



(注) 挿入対象のユーザがマネージャの場合は、そのユーザを BAT で挿入した後に CCMAdmin ページからマネージャをそのユーザに設定します。



(注) BAT は、デフォルトですべての新規ユーザについて CTI Super Provider を有効にします。



(注) エクスポートした BAT ファイルを使用してユーザを挿入している場合、複数のファイルにエクスポートされたユーザについて、「User ID がすでに存在している」というエラーが表示されることがあります。たとえば、1 つ目の回線マネージャのリストとユーザのリストが、どちらも同じマネージャ ユーザ ID を含んでいることがあります。

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「関連項目」を参照してください。

## ユーザの更新

Cisco CallManager LDAP ディレクトリにある既存のユーザ情報をバルク トランザクションで更新するには、次の手順が必要です。

1. コンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成して、更新するユーザごとに個々の値を定義します。
  - 詳細については、[P.4-13](#) の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成」を参照してください。
  - テキストベースの CSV ファイルについては、[P.A-16](#) の「ユーザのファイル形式の更新」を参照してください。



(注) Cisco CallManager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する方法については、[P.4-12](#) の「格納済みの値の保持」を参照してください。

2. BAT を使用して、Cisco CallManager ディレクトリにある更新されたユーザレコードを挿入します。詳細については、[P.4-16](#) の「Cisco CallManager 内のユーザの更新」を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「関連項目」を参照してください。

## 格納済みの値の保持

ユーザレコードを更新する場合、Cisco CallManager ディレクトリにすでに格納されている値や設定を保持する必要があることがあります。この場合、値を保持する必要があるフィールドに対して、「#」などの記号を使用することができます。次の CSV データ ファイルの例では、# を入力することによって、すでに DC ディレクトリに入力されている Manager フィールドの値が保持されます。

```
userid,#,department,,,123456789012,
```

格納されている値を保持するために使用する値を識別する手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** **Update Users** を選択し、**Next** をクリックします。Update Users ページが表示されます。
  - ステップ 3** **Value for fields to be ignored** ボックスを確認します。更新されたユーザの値を CSV データ ファイルに挿入する場合は、その値を保持するための記号をこのボックスに入力する必要があります。
  - ステップ 4** 値を保持するために使用する記号を決定します。
  - ステップ 5** **Value for fields to be ignored** ボックスと同じ値を BAT スプレッドシート ボックスに入力します。
  - ステップ 6** この記号を BAT スプレッドシート フィールドで保持する必要のある値に対して使用します。
- 

## その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成

既存のユーザのグループを更新するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- 
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索してダブルクリックし、BAT スプレッドシートを開きます。

## ■ ユーザの更新

- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** ユーザ情報を追加するには、スプレッドシート下部の **Update Users** タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの説明については、[表 4-2](#) を参照してください。

表 4-2 ユーザ更新用の BAT スプレッドシートのフィールドの説明

フィールド	説明
User ID	電話機ユーザのユーザ ID を 1 ~ 30 文字で入力します。
Manager	電話機ユーザのマネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力します。
Department	電話機ユーザの所属部門番号を 50 文字以内で入力します。
User Device Profile	このユーザとデバイス用のユーザ デバイス プロファイルを、50 文字以内で入力します。ユーザ デバイス プロファイルは、BAT に表示される Cisco CallManager Administration 内の既存の UDP のリストから選択できます。
User Locale	このユーザに関連付ける言語と国/地域のセットを 50 文字以内で入力します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Controlled Device MAC Address	このユーザに関連付ける電話機の MAC アドレスを 12 文字で入力します。
Directory Number	電話機のプライマリ内線（通常は、回線 1）の電話番号を 24 桁以内で入力します。

**ステップ5** DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を Value for fields to be ignored ボックスに入力します。

**ステップ6** BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、**Export to BAT format** ボタンをクリックします。

このファイルは、デフォルトのファイル名が付けられて C:\XLSDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

Update\_Users#timestamp.txt (または、別のファイル名を指定)



**(注)** いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルを Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT が CSV データ ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles (またはファイルの格納先として選択したフォルダ) から、パブリッシャ データベース サーバ上の C:\BATFiles\Users\Update Users フォルダに CSV データ ファイルをコピーします。



**(注)** CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Update Users ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

### その他の情報

詳細については、P.4-35 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager 内のユーザの更新

Cisco CallManager ディレクトリでユーザレコードのグループを更新する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

更新されたユーザ情報がある CSV データ ファイルが必要です。手順については、[P.4-13 の「BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Update Users** を選択し、**Next** をクリックします。Update Users ページが表示されます。
- ステップ 3** File Name ドロップダウン リストボックスで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** DC ディレクトリに格納済みの値を保持する場合は、値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を **Value for fields to be ignored** ボックスに入力します。詳細については、[P.4-12 の「格納済みの値の保持」](#)を参照してください。
- ステップ 5** 次に示すチェックボックスをオンにして、これらの機能を使用可能にします。これらの機能は、ユーザがすでに使用可能にしている場合は BAT によって使用不可にはなりません。



**(注)** エクスポート ユーティリティは、次の機能について同じ設定を持つすべてのユーザを同じファイルに保存します。

エクスポート ファイルに付加されたサフィックスによって、このユーザのグループの設定が識別されます。付加されているサフィックスに従って、適切な設定を選択します。詳細については、[P.10-11 の「ユーザ エクスポートの使用方法」](#)を参照してください。

- **Enable Authentication Proxy Rights** : ユーザが、他の人に代わって電話機にログオンできるように許可する。認証プロキシ権限が使用可能になっているユーザは、すべてのユーザがエクステンション モビリティ用に接続するときに使用するシングルポイント認証の役目を果たします。Cisco CRS Server 上の Application Administration で、追加の設定が必要です。
- **Enable CTI Application Use** : すべてのユーザに対して、Cisco IP SoftPhone などのアプリケーションの使用を有効にする。
- **Call Park Retrieval Allowed** : すべてのユーザに対してコールパーク取得を有効にする。
- **Enable Calling Party Number Modification** : Cisco Emergency Responder( CER ) などのアプリケーションが、機能の要求を開始するときに発信側の番号を変更できるよう許可する。
- **Set User Device Profile as Default Device Profile** : ユーザ デバイス プロファイルを、電話機からログオフしたときのデフォルトのプロファイルとして設定する。
- **Reset Password** : すべてのユーザのパスワードをリセットする。
- **Password** : Cisco IP Phone User Options ウィンドウにログインするときにユーザが入力するデフォルトのパスワードを指定する。ここで値を指定する必要があるのは、ユーザにデフォルトのパスワードを設定する場合だけです。
- **Confirm Password** : パスワードをもう一度指定する。
- **Reset PIN** : すべてのユーザの PIN をリセットする。
- **PIN** : Cisco IP Phone Model 7960/7940 にログインするときにユーザが入力するエクステンション モビリティ機能用のデフォルトの PIN を指定する。
- **Confirm PIN** : PIN をもう一度指定する。

**ステップ 6** User Default Values 領域の **User Locale** ドロップダウン リストボックスで、このユーザに関連付ける言語と国 / 地域の組み合わせを選択します。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。



**(注)** Update User ウィンドウの User Default Values 領域で指定する値よりも、CSV データ ファイルの User Locale と User Device Profile に入力した値の方が優先されます。

## ■ ユーザの更新

- ステップ7** User Device Profile ドロップダウン リストボックスで、このユーザに関連付けるユーザ情報を選択します。
- ステップ8** Update をクリックします。Cisco CallManager でレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ9** トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

View Latest Log File をクリックすると、更新されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.4-35 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager 内のユーザの削除

Cisco CallManager ディレクトリからユーザのグループを削除することができます。Delete Users オプションにアクセスするには、**Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウで、**Delete Users** を選択し、**Next** をクリックします。既存のユーザ レコードは、次の 2 つの方法のいずれかによって検索できます。

- [クエリーを使用したユーザの削除 \(P.4-19\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザの削除 \(P.4-21\)](#)

### クエリーを使用したユーザの削除

クエリー フィルタを作成してユーザ レコードを検索し、ユーザを削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Delete Users Options ウィンドウで、**Use Query**、**Next** の順にクリックします。Delete Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 削除するユーザを検索するために、クエリー フィルタを定義します。



#### 注意

---

フィルタを定義しないと、すべてのユーザが削除されます。

---

**ステップ 3** 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。

**ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、**contains** または **is exactly** を選択します。

**ステップ 5** 3 番目のボックス（検索フィールド）で、検索する値（たとえば、特定のユーザ）を入力します。



**(注)** ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 24 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

**ステップ 6** Add To Query ボタンをクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、Clear Query ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

**ステップ 7** View Query Result をクリックして、検索対象のレコードを表示します。



**(注)** 検索したレコードが、削除する正しいレコードであることを確認します。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

**ステップ 8** Delete をクリックすると、選択したユーザが削除されます。



**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのレコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

Cisco CallManager ディレクトリからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 9** トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ 10** View Latest Log File をクリックすると、削除されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.4-35 の「関連項目」](#)を参照してください。

## カスタム ファイルを使用したユーザの削除

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索して削除できます。

### 始める前に

1. テキストファイルを作成し、削除するユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを <filename.txt> という名前で、フォルダ C:\BATfiles\Users\Query\Delete に保存します。

カスタム ファイルを使用して電話機を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Delete Users Options ウィンドウで、**Use Custom File** を選択して **Next** をクリックします。Delete Users ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** Select Users where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用したフィールド、**User ID** を選択します。
  - ステップ 3** Custom file where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。
  - ステップ 4** **View Query Results** をクリックして、クエリーに必要な情報が含まれていることを確認します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのユーザ レコードが削除されます。

---

- ステップ 5** Delete をクリックすると、レコードが削除されます。
- ステップ 6** Cisco CallManager ディレクトリからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 7** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、View Latest Log File リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除されたユーザ数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。
- 

**その他の情報**

詳細については、[P.4-35 の「関連項目」](#)を参照してください。

## パスワードと PIN のリセット

Cisco IP Phone User Options ウィンドウにログインするときにユーザが入力するパスワードはリセットできます。また、ユーザが Cisco IP Phone にログインするときに使用するエクステンション モビリティ機能用の PIN もリセットできます。このリセット機能は、他のアトリビュートを更新せずに、ユーザのグループをデフォルトのパスワードやデフォルトの PIN にリセットする必要がある場合に使用します。

Reset User Password/PIN オプションにアクセスするには、**Configure > Users** を選択します。User Options ウィンドウで、**Reset Password/PIN** を選択し、**Next** をクリックします。パスワードと PIN をリセットするユーザの選択方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \( P.4-23 \)](#)
- [カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット \( P.4-25 \)](#)

### クエリーを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

クエリーを使用してユーザを検索し、パスワードと PIN をデフォルト値にリセットする手順は、次のとおりです。

#### 手順

---

**ステップ 1** Reset Password/PIN Options で、**Use Query** を選択し、**Next** をクリックします。Reset Password/PIN ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** リセットするユーザを検索するために、クエリー フィルタを定義します。



#### 注意

---

フィルタを定義しないと、すべてのユーザのパスワードまたは PIN がリセットされます。

---

**ステップ 3** 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。

## ■ パスワードとPINのリセット

**ステップ 4** 2番目のドロップダウン リストボックスで、**contains** または **is exactly** を選択します。

**ステップ 5** 3番目のボックス（検索フィールドまたはリストボックス）で、検索する値（たとえば、特定のユーザや所属部門番号）を入力します。



**(注)** ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署をコンマで区切って入力します。たとえば、部署 12 と部署 14 からユーザを選択するには、3番目のボックスに 12, 14 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

**ステップ 6** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

**ステップ 7** **View Query Result** をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

**ステップ 8** クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する値を入力します。

- **Password** : Cisco IP Phone User Options ウィンドウにログインするときにユーザが入力するデフォルトのパスワードを指定する。
- **Confirm Password** : パスワードをもう一度指定する。
- **PIN** : Cisco IP Phone にログインするときにユーザが入力するエクステンション モビリティ機能用のデフォルトの PIN を指定する。
- **Confirm PIN** : PIN をもう一度指定する。

**ステップ 9** 選択したユーザのパスワードまたは PIN を変更するには、**Reset** をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリでレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 10** トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ 11** **View Latest Log File** をクリックすると、リセットされたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

テキスト エディタを使用してユーザ ID のカスタム ファイルを作成し、ユーザを検索してパスワードと PIN をデフォルト値にリセットできます。

### 始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを <filename.txt> という名前で、フォルダ C:\BATfiles\Users\Query\Update に保存します。

カスタム ファイルを使用してユーザのパスワードと PIN をリセットする手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Reset Password/PIN** を選択し、**Next** をクリックします。Reset Password/PIN Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **Use Custom File** を選択し、**Next** をクリックします。Reset Password/PIN ウィンドウが表示されます。

## ■ パスワードとPINのリセット

- ステップ 4** Select Users where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用したフィールド、User ID を選択します。
- ステップ 5** Custom file where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 6** View Query Results をクリックして、クエリーに必要な情報が含まれていることを確認します。

**注意**

---

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのユーザ レコードが更新されます。

---

- ステップ 7** Reset をクリックすると、レコードが変更されます。
- ステップ 8** Cisco CallManager ディレクトリでレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 9** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、View Latest Log File リンクをクリックします。ログ ファイルには、更新されたユーザ数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

**その他の情報**

詳細については、[P.4-35 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 新しい電話機とユーザの追加

BAT を使用すると、Cisco CallManager サーバ上にユーザのグループとその電話機を 1 つのバルク トランザクションで追加できます。電話機用の CSV データファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用し、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキストファイルを作成する( 経験豊富なユーザ向け )

Insert Phones with Users オプションにアクセスするには、**Configure > Phones** を選択するか、または、BAT メイン メニューから **Configure > Users** を選択します。

電話機とユーザのグループを Cisco CallManager ディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

---

**ステップ 1** **Insert Phones with Users** を選択します。Steps to Insert Phones/Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Add, view, or modify phone templates** を選択し、**Next** をクリックします。

Phone Template Configuration ウィンドウが表示されます。電話機テンプレートの設定の詳細については、[P.3-4](#) の「[BAT 電話機テンプレートの使用方法](#)」を参照してください。

**ステップ 3** **Create the CSV data file** を選択し、**Next** をクリックします。

**ステップ 4** CSV データ ファイルを作成するために使用するオプションを選択し、そのオプションのステップを実行します。

### BAT Spreadsheet for Phones, CTI Ports and H.323 Clients

BAT スプレッドシートを開き、CSV データ ファイルを作成します。詳細については、[P.4-29](#) の「[BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加](#)」を参照してください。

### Text Editor to Create the CSV Data File

- a. **Add, view, or modify file formats** を選択し、**Next** をクリックします。  
File Format Configuration ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、[P.3-59](#) の「**テキスト エディタを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成**」を参照してください。
- b. テキスト エディタを使用して、電話機とユーザ用の CSV データ ファイルを適切なファイル形式に従って作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、[P.A-6](#) の「**電話機とユーザの組み合わせのファイル形式**」を参照してください。
- c. **Associate file format with the CSV data file** を選択し、**Next** をクリックします。  
Add File to Format ウィンドウが表示されます。ファイル形式の関連付けの詳細については、[P.3-65](#) の「**CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け**」を参照してください。

### ステップ 5 Validate Phones with users records を選択し、Next をクリックします。

Validate Phones/Users ウィンドウが表示されます。詳細については、[P.4-30](#) の「**電話機レコードとユーザレコードの検証**」を参照してください。

### ステップ 6 Insert Phones with users records を選択し、Next をクリックします。

Insert Phones/Users ウィンドウが表示されます。詳細については、[P.4-31](#) の「**Cisco CallManager への電話機とユーザの挿入**」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加

電話機とユーザを一括して追加するための CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索してダブルクリックし、BAT スプレッドシートを開きます。
  - ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
  - ステップ 3** スプレッドシートの下部にある **Phones-Users** タブをクリックします。
  - ステップ 4** [P.3-46](#) の「[BAT スプレッドシートを使用した電話機用 CSV データ ファイルの作成](#)」のステップ 4 ~ 14 の作業を行います。

ユーザ情報フィールドに値を入力する場合は、[表 4-1](#) を参照してください。

ファイルを CSV データ形式にエクスポートしたら、Phone-User CSV データ ファイルをパブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\PhonesUsers にコピーします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機レコードとユーザレコードの検証

Validate Phones/Users を選択すると、システムが検証ルーチンを実行して、CSV データ ファイルおよび BAT 電話機テンプレートで、デバイス プールやロケーションなどのすべての必須フィールドが指定されているかどうかをチェックします。この検証によってチェックされるのは、デバイス フィールドとそのデバイス フィールドが依存するフィールドだけです。ユーザ フィールドは検証されません。

### 始める前に

- 追加するデバイスの BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話機を追加するには、複数回線を持つマスター電話機テンプレートを使用できます。詳細については、[P.1-7 の「マスター電話機テンプレート」](#)を参照してください。
- 次のオプションのいずれかによって作成された CSV データ ファイルが必要です。
  - [P.4-29 の「BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加」](#)
  - [P.A-6 の「電話機とユーザの組み合わせのファイル形式」](#)で、テキストベースの CSV ファイルを作成

CSV データ ファイルのレコードを検証する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Insert Phones with Users** を選択します。Steps to Insert Phones/Users ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Validate Phones with users records** を選択し、**Next** をクリックします。Validate Phones/Users ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** File Name フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** Phone Template Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

- ステップ 5** **Validate** をクリックすると、選択した CSV データ ファイルとパブリッシャ データベースが検証されます。検証ルーチンは、エラーをログ ファイルに記録します。
- ステップ 6** 検証が完了したら、**View Latest Log File** をクリックして、デバイスとの不一致やエラー コードを記録したログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco CallManager への電話機とユーザの挿入

電話機とユーザのグループを Cisco CallManager データベースとディレクトリに追加するには、BAT メイン メニューから、**Configure > Phones** または **Configure > Users** の順に選択します。

### 始める前に

- 対象の電話機用の BAT 電話機テンプレートが必要です。
- 次のオプションのいずれかによって作成された CSV データ ファイルが必要です。
  - [P.4-29](#) の「**BAT スプレッドシートを使用した電話機とユーザの追加**」
  - [P.A-6](#) の「**電話機とユーザの組み合わせのファイル形式**」で、テキストベースの CSV ファイルを作成
- レコードを挿入する前に、電話機とユーザのレコードを検証し、エラーを識別して除去します。

電話機とユーザのグループを Cisco CallManager データベースとディレクトリに追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Insert Phones with Users** を選択し、**Next** をクリックします。Insert Phones/Users ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。

**ステップ 3** Phone Template フィールドで、このトランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

CSV データ ファイルに個々の MAC アドレスを入力しなかった場合は、**Create Dummy MAC Address** チェックボックスをオンにする必要があります。CTI ポートを追加する場合、**ダミー MAC アドレス オプション**を使用すると、**ダミー MAC アドレス**の形式で、CTI ポートごとに固有のデバイス名が指定されます。

このフィールドは、BATXXXXXXXXXXXX という形式でダミー MAC アドレスを自動生成します。

X は任意の 12 文字の 16 進数 (0 ~ 9 および A ~ F) を表します。

- ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスが分からない場合に、このオプションを使用します。電話機が接続されると、そのデバイスに対する MAC アドレスが登録されます。
- データ入力ファイルに MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

Cisco CallManager Administration にこの情報を手作業で入力するか、または、TAPS を使用すると、後で、電話機またはデバイスを正しい MAC アドレスで更新できます。TAPS の詳細については、[P.12-2 の「TAPS の概要」](#)を参照してください。

**ステップ 4** 次に示すチェックボックスをオンにして、これらの機能を使用可能にします。これらの機能は、ユーザがすでに使用可能にしている場合は BAT によって使用不可にはなりません。

- **Enable Authentication Proxy Rights** : ユーザが、他の人に代わって電話機にログオンできるように許可する。認証プロキシ権限が使用可能になっているユーザは、すべてのユーザがエクステンション モビリティ用に接続するときに使用するシングルポイント認証の役目を果たします。Cisco CRS Server 上の Application Administration で、追加の設定が必要です。
- **Enable CTI Application Use** : すべてのユーザに対して、Cisco IP SoftPhone などのアプリケーションの使用を有効にする (CTI ポート用)。
- **Call Park Retrieval Allowed** : すべてのユーザに対してコールパーク取得を有効にする。

- **Enable Calling Party Number Modification** : Cisco Emergency Responder( CER ) などのアプリケーションが、機能の要求を開始するときに発信側の番号を変更できるよう許可する。

**ステップ5** CSV データ ファイル内に次の情報が存在しない場合は、その情報を User Default Values 領域で指定します。

- **Password** : Cisco IP Phone User Options ウィンドウにログインするときにユーザが入力するパスワード ( 20 文字以内 ) を指定する。ここで値を指定する必要があるのは、Cisco IP Phone User Options ウィンドウへのアクセスに、デフォルトパスワードを指定する場合、および CSV データ ファイル内でユーザごとに個別のパスワードをまだ指定していない場合だけです。



(注) CSV データ ファイルで指定された Password 値が、ここで指定する値より優先されます。

- **Confirm Password** : パスワードをもう一度指定する。
- **PIN** : エクステンション モビリティ用に Cisco IP Phone にログインするときにユーザが入力する PIN ( 20 文字以内 ) を指定する。このフィールドは、エクステンション モビリティ用にデフォルトの PIN を指定するために使用します。また、CSV データ ファイル内でユーザごとに個別の PIN をまだ指定していないときに使用します。CSV データ ファイルで指定された PIN 値が、ここで指定する値より優先されます。
- **Confirm PIN** : PIN をもう一度指定する。



(注) PIN と Password の値は、CSV データ ファイル上に指定するか、ファイル挿入プロセスで指定する必要があります。

- **User Locale** : このユーザに関連付ける言語と国 / 地域の組み合わせを選択する。この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、および Cisco CallManager のユーザ ウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。

- **User Device Profile** : このユーザとデバイスのユーザ デバイス プロファイルを入力する。このレコードが Cisco CallManager データベースに正常に挿入されるには、ユーザ デバイス プロファイルが Cisco CallManager Administration に存在している必要があります。

**ステップ 6** **Insert** をクリックします。Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができません。

**ステップ 7** ユーザを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** ボタンをクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ 8** **View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードとエラーの説明を含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.4-35](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## 関連項目

- [ユーザの追加 \(P.4-2\)](#)
- [ユーザの更新 \(P.4-12\)](#)
- [Cisco CallManager 内のユーザの削除 \(P.4-19\)](#)
- [パスワードと PIN のリセット \(P.4-23\)](#)
- [新しい電話機とユーザの追加 \(P.4-27\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(P.10-13\)](#)
- [ユーザのレポートの生成 \(P.11-8\)](#)
- [BAT ログファイル \(P.13-2\)](#)
- [ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-13\)](#)
- [ユーザのファイル形式 \(P.A-14\)](#)
- [ユーザのファイル形式の更新 \(P.A-16\)](#)

■ 関連項目



# Cisco IP Manager Assistant の使用方法

BAT を使用して、Cisco CallManager の Cisco IP Manager Assistant ( IPMA ) 機能を管理できます。BAT では、マネージャやアシスタントの IP Phone を追加できます。詳細については、次の項を参照してください。

- [プロキシ回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定 \( P.5-2 \)](#)
- [共有回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定 \( P.5-11 \)](#)

マネージャまたはアシスタントとそのアソシエーションをバルク トランザクションで追加、更新、および削除できます。詳細については、[P.5-15 の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

次のトピックでは、BAT を使用して Cisco IPMA を管理するためのオプションについて説明します。

- [Cisco CallManager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 \( P.5-21 \)](#)
- [Cisco CallManager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \( P.5-24 \)](#)
- [Cisco CallManager からのマネージャの削除 \( P.5-26 \)](#)
- [Cisco CallManager からのアシスタントの削除 \( P.5-30 \)](#)
- [IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 \( P.11-16 \)](#)

Cisco IPMA の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド*

## Cisco IPMA で使用する電話機と回線の概要

Cisco IPMA 機能は、いくつかの Cisco IP Phone モデルとデバイス プロファイルに対して利用できます。Cisco IPMA には、マネージャとアシスタントの回線で Cisco IPMA 機能を利用するための設定モードとして、次の 2 つが用意されています。

- **プロキシ モード**：マネージャのプライマリ回線は、アシスタントの電話機とは異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられる。詳細については、[P.5-2 の「プロキシ回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定」](#)を参照してください。
- **共有回線モード**：マネージャとアシスタントの電話機が共有回線を持ち、同じ電話番号とパーティションを使用する。詳細については、[P.5-11 の「共有回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定」](#)を参照してください。

BAT を使用して、マネージャとアシスタントの電話機に、プロキシ回線または共有回線を設定することができます。

### プロキシ回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機が IPMA プロキシ回線をサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco IPMA Configuration ウィザードを使用して、システムに IPMA の要件を設定することをお勧めします。このウィザードは、IPMA マネージャとアシスタント、ルート ポイント、パーティション、変換パターン、および Cisco IPMA サービスのコーリング サーチ スペースについて、電話機テンプレートを自動的に作成します。Cisco IPMA Configuration ウィザードを実行するには、BAT とウィザードが同じサーバにある必要があります。Cisco IPMA Configuration ウィザードの実行方法については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』を参照してください。



(注) Cisco IPMA Configuration ウィザードは、システムの IPMA 設定上の要件を設定するときに一度だけ使用できます。この設定ウィザードを実行した後は、設定内容をウィザードで表示できますが、変更はできません。

2. マネージャとアシスタント用に新しい電話機とユーザを追加するには、Cisco IPMA Configuration ウィザードによって BAT サーバ上に作成される IPMA マネージャと IPMA アシスタントの電話機テンプレートを使用します。BAT テンプレートは、プロキシ モードの電話機を設定する場合にだけ使用します。テンプレートの詳細については、[P.5-3 の「IPMA マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値」](#)を参照してください。
3. 既存のマネージャとアシスタントの電話機については、次のいずれかの方法を使用して、IPMA 電話機テンプレートに対応するように変更できます。
  - BAT の Add Lines 機能を使用して、既存の電話機を IPMA 電話機テンプレートに類似した形式に変更できます。詳細については、[P.3-97 の「既存の電話機および UDP への回線の追加」](#)を参照してください。
  - マネージャとアシスタントの IPMA 電話機テンプレートを使用し、元の電話機を削除して、新しい電話機を追加できます。[P.3-2 の「電話機の追加」](#)の新しい電話機の設定手順に従ってください。
4. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて IPMA で制御できるようにします。IPMA 回線の設定については、[P.5-5 の「マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定」](#)を参照してください。

## IPMA マネージャとアシスタントの電話機テンプレートのデフォルト設定値

表 5-1 に、IPMA マネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 5-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
Softkey Template	Standard IPMA Manager
Phone Button Template	Standard Cisco IP Phone model 7960 ( 2 回線 )

表 5-1 プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値(続き)

フィールド	デフォルト値
Line1	プライマリ回線 <ul style="list-style-type: none"> <li>CSS = Generated_IPMA_CSS_I_E</li> <li>Partition = Generated_IPMA_Managers</li> </ul>
Line 2	着信インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> <li>CSS = Generated_IPMA_CSS_I_E</li> <li>Partition = Generated_IPMA_Everyone</li> <li>ヘッドセットでの自動応答またはスピーカフォンでの自動応答のオプションも設定します。</li> </ul>
Services	IPMA Service

表 5-2 に、IPMA アシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値を示します。

表 5-2 プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値

フィールド	デフォルト値
Softkey Template	Standard IPMA Assistant
Phone Button Template	Standard Cisco IP Phone 7960 Assistant
Expansion Module 1	14 ボタンの拡張モジュール
Line 1 ~ Line 6 ( IP Phone 7960 上 )	プロキシ回線 1 ~ 5( 各プロキシ回線のデフォルト値は次のとおり ) <ul style="list-style-type: none"> <li>CSS = IPMA_CSS_M_E</li> <li>Partition = Generated_IPMA_Everyone</li> </ul>
Line 2 ~ Line 5 ( 拡張モジュール上 )	
Line 7 ( 拡張モジュール上 )	インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> <li>CSS = Generated_IPMA_CSS_I_E</li> <li>Partition = Generated_IPMA_Everyone</li> <li>ヘッドセットでの自動応答またはスピーカフォンでの自動応答のオプションも設定します。</li> </ul>

## マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定

BAT は、マネージャの電話機のプロキシ回線をアシスタントの電話機のプロキシ回線にマッピングすることで、IPMA 回線設定を割り当てます。IPMA ウィザードで作成した IPMA マネージャと IPMA アシスタントのデフォルトのテンプレートを使用すると、1 ~ 5 回線のマネージャ回線を 1 人のアシスタントの電話機に関連付けることができます。IPMA テンプレートによって設定された電話機について、次の例では、2 つのマネージャの電話機を 1 つのアシスタントの電話機に関連付ける場合の回線設定を示します。

### マネージャ 1 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：インターコム回線

### マネージャ 2 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：インターコム回線

### アシスタントの電話機

- 回線 1：プライマリ回線
- 回線 2：マネージャ 1 用のプロキシ回線
- 回線 3：マネージャ 2 用のプロキシ回線
- 回線 4 ~ 6 は未割り当て
- 回線 7：インターコム回線

回線 4 ~ 6 は他のマネージャとのアソシエーションに使用できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャを関連付ける場合、プロキシ回線は、CSV データ ファイル内での順序に基づいて作成されます。マネージャとアシスタントの最初の回線は、マネージャのすべてのプライマリ回線を、アシスタントの電話機上の未割り当て回線にプロキシ回線として割り当てることで作成されます。アシスタントの電話機的全回線が割り当て済みになるか、CSV レコード内のすべてのマネージャが割り当てられるまで、CSV レコードの順序に基づいて、マネージャとアシスタントのプロキシ回線が 1 つずつ作成されていきます。

複数のアシスタントを 1 人のマネージャのプライマリ回線に関連付ける場合、BAT は CSV データ ファイル内での順序に基づいて、アシスタントをマネージャに割り当てます。BAT によって割り当てられるマネージャのプライマリ回線は、1 番目のアシスタントで利用可能な回線数に基づきます。たとえば、マネージャの電話機に 2 つの回線があるとします。CSV データ ファイルにある 1 番目のアシスタントが利用できるのは、1 回線だけです。結果として、BAT によって、マネージャの 1 つのプライマリ回線だけが、CSV レコードに含まれているすべてのアシスタントの電話機にある 1 つのプロキシ回線に関連付けられます。

### IPMA マネージャの電話機の設定

表 5-3 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションを使用する場合に、BAT がマネージャの電話機に対して設定できるすべての回線設定を示します。

表 5-3 マネージャの電話機のリ回線設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1 : プライマリ回線 (IPMA 制御) インターコム回線 (なし)
2 回線 (デフォルトの IPMA マネージャ電話機テンプレート)	回線 1 : プライマリ回線 (IPMA 制御) 回線 2 : インターコム回線 (オプション)
3 回線以上	最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 プロキシ回線に関連付けられるマネージャの回線数は、アシスタントの電話機で利用できる回線数によって決定されます。

## IPMA アシスタントの電話機の設定

表 5-4 に、マネージャとアシスタントのアソシエーションの作成中に、BAT がアシスタントの電話機に対して設定するデフォルトの回線設定を示します。

表 5-4 アシスタント電話機のリネン設定

利用可能回線数	設定
1 回線	回線 1: プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
2 回線	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
3 回線	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 回線 3: インターコム回線
4 回線以上	回線 1: プライマリ回線 回線 2: プロキシ回線 最後の回線が、インターコム回線として設定されます。 他の回線は、すべてプロキシ回線として設定されます。
7 回線 (デフォルトの IPMA アシスタント電話機 テンプレート)	回線 1: プライマリ回線 回線 2 ~ 6 は、5 人以下のマネージャをサポートする プロキシ回線として設定できます。 回線 7: インターコム回線

## Cisco IPMA マネージャとアシスタントの電話機用のプロキシ回線の例

ここでは、それぞれ 3 つの既存回線を持つ 2 人のマネージャを、6 つの未割り当て回線を持つ 1 人のアシスタントに関連付けます。BAT は、マネージャとアシスタントの電話機に、次の回線設定を行います。

### マネージャ 1 の電話機

- 回線 1：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2355）
- 回線 2：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2366）
- 回線 3：マネージャのインターコム回線

### マネージャ 2 の電話機

- 回線 1：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2656）
- 回線 2：マネージャのプライマリ回線（電話番号は 2666）
- 回線 3：マネージャのインターコム回線

### アシスタントの電話機

- 回線 1：アシスタントのプライマリ回線（電話番号は 3333）
- 回線 2：マネージャ 1 のプロキシ回線 1（電話番号は 3455）
- 回線 3：マネージャ 2 のプロキシ回線 1（電話番号は 3656）
- 回線 4：マネージャ 1 のプロキシ回線 2（電話番号は 3366）
- 回線 5：マネージャ 2 のプロキシ回線 2（電話番号は 3666）
- 回線 6：利用可能
- 回線 7：アシスタントのインターコム回線

すでにプライマリ回線を持つマネージャ電話機を関連付けるときは、アシスタントの電話機の未割り当て回線数が、マネージャの電話機のプライマリ回線数以上である必要があります。たとえば、4 つのプライマリ回線が設定済みの電話機を持つマネージャと、3 回線だけ利用可能なアシスタントとのアソシエーションは、BAT では作成できません。

### その他の情報

詳細については、[P.5-34 の「関連項目」](#)を参照してください。

## プロキシ回線を使用した IPMA マネージャとアシスタント用の新しい電話機の設定

プロキシ回線を使用する IPMA マネージャとアシスタントのために新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

1. IPMA Configuration ウィザードを実行して、IPMA テンプレート、パーティションおよびコーリング サーチ スペースを作成します。
2. 1人のアシスタントに6人以上のマネージャを関連付ける場合、IPMA Assistant Template にアクセスして、新しい名前でコピーを作成する必要があります。マネージャの追加に対応するには、テンプレートに行を追加します。

**ステップ 1** **Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウが表示されません。

**ステップ 2** **Insert Phones with Users** を選択し、**Next** をクリックします。Steps to Insert Phones ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** Steps to Insert Phones ウィンドウで **Add, view, or modify phone templates** を選択し、**Next** をクリックします。

Phone Template Configuration ウィンドウが表示され、Phone Templates List に IPMA マネージャと IPMA アシスタントの電話機テンプレートが表示されます。



**(注)** BAT IPMA テンプレートは書き込み禁止です。これらのテンプレートを変更する場合は、テンプレートのコピーを作成してから編集してください。

マネージャ電話機テンプレートのフィールドの説明は、[プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値 \(P.5-3\)](#) を参照してください。

アシスタント電話機テンプレートのフィールドの説明は、[プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値 \(P.5-4\)](#) を参照してください。

- ステップ 4** 次のオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データ ファイルを作成します。
- BAT スプレッドシートを使用して、**Phones** タブを選択する。
  - テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして参照する。
- ステップ 5** 新しい電話機を挿入する手順は、P.3-2 の「[電話機の追加](#)」を参照してください。
- 

## 既存の電話機に対する IPMA プロキシ回線の設定

既存の電話機に、マネージャとアシスタント用の回線を設定する手順は、次のとおりです。

---

- ステップ 1** **Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウが表示されません。
- ステップ 2** **Add Lines** を選択し、**Next** をクリックします。Add Lines (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** BAT 用に IPMA テンプレートのコピーや変更が必要な場合は、次のトピックを参照してください。
- [プロキシ回線用のマネージャ電話機テンプレートのデフォルト設定値 \(P.5-3\)](#)
  - [プロキシ回線用のアシスタント電話機テンプレートのデフォルト設定値 \(P.5-4\)](#)



**(注)** Cisco IPMA Configuration ウィザードの実行時に、設定情報（たとえば、パーティション名）を変更した場合は、テンプレートの編集時にもそのフィールドで同じ設定情報を使用する必要があります。

---

**ステップ 4** 次のいずれかのオプションを使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機に、それぞれ別の CSV データ ファイルを作成します。

- BAT スプレッドシートを使用して、**Add Lines** タブを選択する。
- テキスト エディタを使用して、マネージャまたはアシスタントのテンプレートのフィールドをガイドとして使用する。

**ステップ 5** P.3-97 の「[既存の電話機および UDP への回線の追加](#)」の手順により、既存の電話機にマネージャとアシスタントの回線を設定します。

---

### その他の情報

詳細については、P.5-34 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 共有回線モードでの Cisco IPMA 用の電話機の設定

マネージャの電話機とアシスタントの電話機が共有回線をサポートするよう設定するには、次のタスクを実行する必要があります。

1. Cisco CallManager で共有回線をサポートするための IPMA サービス パラメータを設定する必要があります。詳細については、『*Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*』を参照してください。
2. IP Phone model 7960 で 5 回線以上を使用する場合は、電話機ボタン テンプレートが必要です。
3. 次のガイドラインを使用してマネージャとアシスタントの電話機を設定します。

### 共有回線モードにおけるマネージャの電話機

P.3-2 の「[電話機の追加](#)」で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、マネージャの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- Softkey テンプレート、Standard IPMA Shared Mode Manager を割り当てる。

- 必要に応じて、アシスタントと共有するプライマリ回線を追加する。
- プライマリ回線に、ボイス メッセージ プロファイルを設定する。
- 着信インターコム回線を追加する（オプション）。
- 発信インターコムのターゲットに対して、短縮ダイヤル ボタンを追加する（オプション）。
- ユーザ ロケールを設定する。

## 共有回線モードにおけるアシスタントの電話機

P.3-2 の「電話機の追加」で説明している、BAT を使用した新しい電話機の設定の手順に従ってください。

BAT テンプレートを作成し、次に示す電話機の設定を使用して、アシスタントの新しい電話機を追加するか、既存の電話機を更新します。

- Softkey テンプレート、Standard IPMA Assistant を割り当てる。
- 追加の回線に Cisco 14 ボタン拡張モジュール（7914）を使用している場合、BAT テンプレートで拡張モジュールのタイプを指定する。



**(注)** Cisco IP Phone model 7960 電話機ボタン テンプレートには、拡張モジュール回線が含まれています。

- 個人用のプライマリ回線を追加する。
  - 関連付けられたマネージャに、共有回線を追加する。同じ電話番号とパーティションを、マネージャの電話機のプライマリ回線として使用する。
  - 着信インターコム回線を追加する（オプション）。
  - マネージャのインターコム回線に、短縮ダイヤルを追加する（オプション）。
  - ユーザ ロケールを設定する。
1. 既存のマネージャまたはアシスタントの電話機に回線を追加する方法については、P.3-97 の「既存の電話機および UDP への回線の追加」を参照してください。回線の設定については、次に示す項を参照してください。
    - 共有回線モードにおけるマネージャの電話機（P.5-11）
    - 共有回線モードにおけるアシスタントの電話機（P.5-12）

2. マネージャとアシスタントについて電話機と回線を設定し終わったら、マネージャとアシスタントの回線を関連付けて IPMA で制御できるようにします。P.5-15 の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」の手順に従ってください。

## マネージャとアシスタントの共有回線の設定

BAT は、Cisco IPMA の回線設定を、マネージャとアシスタントの電話機に割り当てた共有回線に関連付けます。共有回線モードは、アシスタントに関連付けるときにマネージャの設定で指定します。

共有回線モードでは、マネージャの回線が、アシスタントの電話機の共有回線に対応します。たとえば、2 人のマネージャを 1 人のアシスタントに関連付けるためには、マネージャの電話機のプライマリ回線と同じ電話番号とパーティションを持つアシスタントの電話機に、2 つの回線を追加します。

### マネージャ 1 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線（電話番号は 2355）
- 回線 2：インターコム回線（オプション）

### マネージャ 2 の電話機

- 回線 1：プライマリ回線（電話番号は 2875）
- 回線 2：インターコム回線（オプション）

### アシスタントの電話機

- 回線 1：アシスタントのプライマリ回線（電話番号は 3356）
- 回線 2：マネージャ 1 の共有回線（電話番号は 2355）
- 回線 3：マネージャ 2 の共有回線（電話番号は 2875）
- 回線 4 ~ 6 は利用可能
- 回線 7：インターコム回線（オプション）

回線 4 ~ 6 は、他のマネージャ用の共有回線として追加できます。

1 人のアシスタントの電話機に複数のマネージャの回線を追加する場合は、アシスタントの電話機にあるすべての回線で共有回線モードを使用する必要があります。アシスタントの電話機では、プロキシ回線と共有回線は共存できません。同様に、1 人のマネージャに複数のアシスタントがいる場合、すべてのアソシエーションで共有回線モードを使用する必要があります。

複数のアシスタントを共有回線モードの 1 人のマネージャに関連付けると、BAT は、共有回線モードを使用しているアシスタントにだけ IPMA アソシエーションを割り当てます。

### その他の情報

詳細については、[P.5-34 の「関連項目」](#)を参照してください。

## マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成

BAT を使用して、Cisco CallManager データベースに、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入する場合、新しいアソシエーションを追加することも、既存のアソシエーションを更新することもできます。

マネージャとアシスタントのアソシエーション用に CSV データ ファイルを作成するには、次の 2 つのオプションがあります。

- [BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新 \(P.5-15\)](#)
- テキスト エディタを使用した CSV 形式のテキスト ファイルの作成。詳細については、[P.A-25 の「マネージャおよびアシスタントのファイル形式」](#)を参照してください。

新しいマネージャ用のアソシエーションを作成する場合は、デバイス名を入力する必要があります。既存の IPMA レコードでマネージャを更新する場合、これらのフィールドはオプションです。マネージャとアシスタントの電話機に BAT がどのように回線設定を割り当てるかについては、[P.5-5 の「マネージャとアシスタントのプロキシ回線設定」](#)を参照してください。BAT では、アシスタント用のプロキシ回線にマネージャのインターコム回線を割り当てることができません。

## BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントのアソシエーションの追加または更新

BAT スプレッドシートにはマクロを持つデータ ファイル テンプレートがあり、マネージャとアシスタントのアソシエーションを容易に追加、更新、または削除できます。BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用して新しい IPMA アソシエーションを追加する手順は、次のとおりです。マネージャとアシスタントの設定には、次の 2 つの方法を使用できます。

## ■ マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成

- デフォルトの回線設定を使用してマネージャとアシスタントのアソシエーションを作成する方法については、P.5-16 の「[デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

表 5-3 と表 5-4 は、マネージャとアシスタントの電話機のデフォルトの回線設定を示しています。

- デフォルトの回線設定に従わないプロキシ回線を割り当てる場合、カスタムのマネージャとアシスタント用のファイルを作成するための手順は、P.5-18 の「[カスタムのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。

## デフォルトのマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

デフォルトの設定を使用して、プロキシ モードと共有モードの両方でマネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新するために CSV データ ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索してダブルクリックし、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある **Default Managers-Assistants** タブをクリックします。
- ステップ 4** テンプレートを右側にスクロールしてオプション ボタンを表示し、このトランザクションのアソシエーションのタイプを次のうちから選択します。
  - **One manager, multiple assistants**
  - **One assistant, multiple managers**

**ステップ 5** すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。

**One manager, multiple assistants** オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。

- **Manager ID** : マネージャのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。
- **Assistant ID#** : このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。  
# 記号は、マネージャに割り当てるアシスタントの数を表します。



**(注)** 別のアシスタントをさらに追加するには、**Add more Assistants** をクリックします。

**One assistant, multiple managers** オプション ボタンを選択する場合は、各行に次の情報を入力します。

- **Assistant ID** : アシスタントのユーザ ID を 30 文字以内で入力する。
- **Manager ID#** : このアシスタントに割り当てるマネージャのユーザ ID を、30 文字以内で入力する。  
# 記号は、アシスタントに割り当てるマネージャの数を表します。



**(注)** 別のマネージャをさらに追加するには、**Add more Managers** をクリックします。

**ステップ 6** 次のうちから、実行する操作を選択します。

- **Insert** をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションを作成します。
- **Delete** をクリックして、マネージャとアシスタントのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除します。

## ■ マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成

**ステップ 7** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

<type of operation>ManagerAssistants#timestamp.txt

<type of operation> には、ステップ 6 で選択した操作の種類が入力されます。「timestamp」は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles (またはファイルの格納先として選択したフォルダ) から、パブリッシャ データベース サーバ上の次のフォルダのいずれかに CSV データ ファイルをコピーします。

- 挿入または更新：C:\BATFiles\ManagersAssistants\Insert
- 削除：C:\BATFiles\ManagersAssistants\Delete

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Managers/Assistants ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## カスタムマネージャとアシスタントの CSV データ ファイルの作成

既存の電話機にマネージャとアシスタントのアソシエーションを設定する場合は、BAT スプレッドシートの Custom Managers-Assistants タブを使用できます。CSV データ ファイルを作成することによって、アシスタントの電話機のプロキシ回線で、マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入または更新する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索してダブルクリックし、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** マネージャとアシスタントのアソシエーションのオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある **Custom Managers-Assistants** タブをクリックします。
- ステップ 4** **Number of Proxy Lines** ボックスが表示されるまで、テンプレートを右側にスクロールします。このボックスで、アシスタントに割り当てるプロキシ回線の数を入力します。スプレッドシートは、入力した数値に基づいて、Proxy Line DN と Manager Line DN の列を追加します。

すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。

- **Manager ID** : マネージャのユーザ ID を入力する。
- **Device Name** : マネージャの電話機に割り当てられたデバイス名を入力する。
- **Intercom DN** : マネージャのインターコム回線の電話番号を入力する (オプション)。
- **Assistant ID** : このマネージャに割り当てるアシスタントのユーザ ID を入力する。
- **Device Name** : アシスタントの電話機に割り当てられたデバイス名を入力する。
- **Intercom DN** : アシスタントのインターコム回線の電話番号を入力する (オプション)。
- **Proxy Line DN#** : アシスタントのプロキシ回線の電話番号を入力する。
- **Manager Line DN#** : マネージャのプライマリ回線の電話番号を入力する。  
# 記号は、マネージャに関連付けるプロキシ回線の数を表します。

**ステップ 5** **Export to BAT Format** ボタンをクリックして、BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送します。

このファイルは C:\XLSDataFiles (または、別の既存フォルダを指定) に保存されます。ファイル名は次のとおりです。

Custom Managers-Assistants#timestamp.txt

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。フロッピーディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles (またはファイルの格納先として選択したフォルダ) から、パブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\ManagersAssistants\Insert フォルダに、CSV データ ファイルをコピーします。

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Managers/Assistants ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco CallManager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入

マネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを挿入したり、既存のアソシエーションを更新したりするには、CSV データ ファイルが必要です。詳細については、P.5-15 の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」を参照してください。

BAT がマネージャとアシスタントのアソシエーションを更新するときは、インターコムの電話番号や関連付けられているデバイスについて、既存の Cisco IPMA 回線設定は変更されません。



### 注意

Cisco IPMA の最小構成をサポートするために必要な数の回線をアシスタントの電話機が持っていない場合、マネージャとアシスタントのアソシエーション作成は失敗します。

Cisco CallManager データベースにマネージャとアシスタントの新しいアソシエーションを追加または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Managers/Assistants** の順に選択します。Manager/Assistant Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Insert Managers/Assistants** を選択し、**Next** をクリックします。Insert/ Managers/Assistants ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** **File Name** フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** マネージャがエクステンション モビリティを使用してログインする場合は、**Configure managers as mobile managers** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** すべての電話機に共有回線がある場合は、**Uses shared lines** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 6** Insert Options で、作成した CSV データ ファイルのタイプを次のうちから選択します。

- **Default** : 標準の CSV データ ファイルを作成した場合は、CSV ファイルのデータに基づいて、このトランザクションのアソシエーションのタイプを選択する。
  - Associate one or more assistants to a manager
  - Associate one or more managers to an assistant
- **Custom** : プロキシ モードのためのカスタム CSV データ ファイルを作成した場合に選択する。

**ステップ 7** Insert をクリックします。Cisco CallManager データベースにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ 8** マネージャとアシスタントのアソシエーションを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** ボタンをクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

**ステップ 9** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。



**(注)** アシスタントまたはマネージャの設定の更新を BAT で実行しているとき、利用可能回線数の不足が原因で変更が一部しか完了しなかった場合は、トランザクション レコード全体が失敗します。

**ステップ 10** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。  
http://<IPMA server IP address>/manager/list にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除

BAT を使用して、Cisco CallManager データベースにある、マネージャとアシスタントの特定のアソシエーションを削除できます。たとえば、*jmorgan* というユーザ ID のアシスタントが、*rcraig* と *dbaker* というユーザ ID を持つ 2 人のマネージャに割り当てられているとします。このマネージャとアシスタントのアソシエーションを変更する場合、たとえば、アシスタント *jmorgan* を *rcraig* だけに割り当てるときの場合は、次のようなエントリを持つ CSV データ ファイルを作成して、*jmorgan* と *dbaker* のアソシエーションを削除します。

### 例

```
jmorgan,dbaker
```

マネージャとアシスタントのすべてのアソシエーションから、マネージャまたはアシスタントを削除する場合は、次の項を参照してください。

- [Cisco CallManager からのマネージャの削除 \(P.5-26\)](#)
- [Cisco CallManager からのアシスタントの削除 \(P.5-30\)](#)

Cisco CallManager 内にある特定のマネージャとアシスタントのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

削除する特定のマネージャとアシスタントのアソシエーションのユーザ ID が含まれた CSV データ ファイルが必要です。詳細については、[P.5-15 の「マネージャとアシスタントのアソシエーション用の CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Managers/Assistants** の順に選択します。Manager/Assistant Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Delete Managers/Assistants** を選択し、**Next** をクリックします。Delete Managers/Assistants ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **File Name** フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した CSV ファイルを選択します。

**ステップ 4** 削除のタイプとして、次のいずれかを選択します。

- **Delete associated assistants for one manager**
- **Delete associated managers for one assistant**

**ステップ 5** **Delete** をクリックします。Cisco CallManager データベースからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができません。

トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、削除されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

**ステップ 6** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。http://<IPMA server IP address>/manager/list にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager からのマネージャの削除

IPMA マネージャを削除すると、Cisco CallManager は、そのマネージャの情報をディレクトリにユーザとして保持します。たとえば、*rmartinez* というユーザ ID を持つマネージャに 2 人のアシスタントがいて、それぞれ *dbell* と *jkent* というユーザ ID を持つ場合、マネージャとしての *rmartinez* を Cisco CallManager データベースで削除すれば、*rmartinez* と両方のアシスタントとの関連付けを解除できます。削除した後も、ディレクトリには *rmartinez* がユーザとして残ります。

Cisco CallManager データベースと LDAP Directory から、マネージャと、そのマネージャとアシスタントのアソシエーションをすべて削除できます。Delete Managers オプションにアクセスするには、**Configure > Managers/Assistants > Delete Managers** を選択します。

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.5-26\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除 \(P.5-28\)](#)

### クエリーを使用したマネージャのアソシエーションの削除

Cisco CallManager ディレクトリ内で、アシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除する手順は、次のとおりです。

#### 手順

- ステップ 1** Delete Managers ウィンドウで、**Use Query** を選択し、**Next** をクリックします。Delete Managers (Cisco IPMA) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 削除するマネージャを探すために、フィルタを定義します。



#### 注意

フィルタを定義しないと、すべてのマネージャが削除されます。

- ステップ 3** 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。
- ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、**contains** または **is exactly** を選択します。
- ステップ 5** 3 番目のボックス（検索フィールドまたはリストボックス）で、検索する値（たとえば、特定のマネージャ）を選択するか、入力します。



**(注)** マネージャを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、3 番目のボックスに 12, 24 と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

- ステップ 6** **Add To Query** ボタンをクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

- ステップ 7** **View Query Result** をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

- ステップ 8** **Delete** をクリックすると、選択したマネージャが削除されます。

Cisco CallManager ディレクトリでレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

- ステップ 9** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、削除されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

- ステップ 10** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。  
http://<IPMA server IP address>/manager/list にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34 の「関連項目」](#)を参照してください。

## カスタム ファイルを使用したマネージャのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のマネージャのアソシエーションを検索できます。

### 始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を指定したテキスト ファイルを作成します。
2. ユーザ ID は、1 行に 1 つずつ指定します。
3. カスタム ファイルを <filename.txt> という名前で、フォルダ C:\BATfiles\ManagersAssistants\Query\Delete に保存します。

カスタム ファイルを使用してマネージャのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Delete Managers ウィンドウで、**Use Custom File** を選択し、**Next** をクリックします。Delete Managers ( Cisco IPMA ) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Select managers where フィールドで、識別子 **User ID** を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドである Custom File ドロップダウン リストボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** をクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ3](#) からやり直します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのアシスタントレコードが削除されます。

**ステップ5** **View Query Result** をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

**ステップ6** **Delete** をクリックして、レコードを削除します。

Cisco CallManager データベースでレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ7** マネージャとアシスタントのアソシエーションを削除するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

**ステップ8** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。<http://<IPMA server IP address>/manager/list> にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

### その他の情報

詳細については、[P.5-34](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco CallManager からのアシスタントの削除

IPMA アシスタントを削除すると、Cisco CallManager は、そのアシスタントの情報をディレクトリにユーザとして保持します。たとえば、アシスタント *thudson* が、*hart* と *dstewart* という 2 人のマネージャに割り当てられているとします。*thudson* と 2 人のマネージャとのアソシエーションを削除するには、アシスタントとしての *thudson* を Cisco CallManager データベースから削除します。削除した後も、ディレクトリには *thudson* がユーザとして残ります。

Cisco CallManager データベースと LDAP Directory から、アシスタントとそのマネージャとアシスタントのアソシエーションをすべて削除できます。Delete Assistants オプションにアクセスするには、**Configure > Managers/Assistants > Delete Assistants** を選択します。

削除する既存のレコードを検索する方法には、次の 2 つがあります。

- [クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.5-30\)](#)
- [カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.5-32\)](#)

## クエリーを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

マネージャとのアソシエーションからアシスタントを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Delete Assistants ウィンドウで、**Use Query** を選択し、**Next** をクリックします。Delete Assistants (Cisco IPMA) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 削除するアシスタントを探すために、フィルタを定義します。



### 注意

フィルタを定義しないと、すべてのアシスタントが削除されます。

- ステップ 3** 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。
- ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、**contains** または **is exactly** を選択します。
- ステップ 5** 3 番目のボックス（検索フィールドまたはリストボックス）で、検索する値（たとえば、特定のアシスタント）を選択するか、入力します。



**(注)** アシスタントを複数の部署から選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からアシスタントを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力します。削除操作を 2 回繰り返す必要はありません。

- ステップ 6** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- 誤りがあった場合は、**Clear Query** をクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。
- ステップ 7** **View Query Result** をクリックして、検索対象のレコードを表示します。
- クエリーで定義したすべてのレコードに対して、更新する設定値を指定します。
- ステップ 8** **Delete** をクリックすると、選択したアシスタントが削除されます。
- Cisco CallManager データベースでレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 9** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

**ステップ 10** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。  
http://<IPMA server IP address>/manager/list にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.5-34](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## カスタム ファイルを使用したアシスタントのアソシエーションの削除

テキスト エディタを使用してカスタム ファイルを作成し、削除対象のアシスタントのアソシエーションを検索できます。

### 始める前に

1. テキスト ファイルを作成し、削除するアシスタントのユーザ ID を 1 行に 1 つずつ指定します。
2. カスタム ファイルを <filename.txt> という名前で、フォルダ C:\BATfiles\ManagersAssistants\Query\Delete に保存します。

カスタム ファイルを使用してアシスタントのアソシエーションを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Delete Assistants ウィンドウで、**Use Custom File** を選択し、**Next** をクリックします。Delete Assistants ( Cisco IPMA ) ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** Select Assistants where ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルで使用するフィールド、User ID を選択します。
  - ステップ 3** Custom File ドロップダウン リストボックスで、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
  - ステップ 4** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** をクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのアシスタントレコードが削除されます。

**ステップ 5** **View Query Result** をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

**ステップ 6** **Delete** をクリックすると、レコードが削除されます。

Cisco CallManager ディレクトリからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 7** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除したレコード数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

**ステップ 8** 変更内容を有効にするには、Cisco IPMA サービスを再起動する必要があります。<http://<IPMA server IP address>/manager/list> にアクセスし、管理者特権を使って Tomcat Manager Web ページにログインします。

### その他の情報

詳細については、[P.5-34](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco CallManager へのマネージャとアシスタントのアソシエーションの挿入 \(P.5-21\)](#)
- [Cisco CallManager 内のマネージャとアシスタントのアソシエーションの削除 \(P.5-24\)](#)
- [Cisco CallManager からのマネージャの削除 \(P.5-26\)](#)
- [Cisco CallManager からのアシスタントの削除 \(P.5-30\)](#)
- [IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 \(P.11-16\)](#)

Cisco IPMA の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

- *Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド*
- *Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド*



# ユーザ デバイス プロファイル の一括処理

---

BAT の User Device Profiles (UDP) オプションを使用すると、多数のユーザ デバイス プロファイルを追加または削除できます。さらに、ユーザ デバイス プロファイルの回線を追加または更新できます。システムはエクステンション モビリティ機能と一緒に UDP を使用します。

ユーザ デバイス プロファイルの管理用オプションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.6-2\)](#)
- [ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの生成 \(P.6-34\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.6-37\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.10-18\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルに対する回線の更新 \(P.6-36\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.3-97\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.11-10\)](#)

## ユーザデバイスプロファイルの追加

BAT を使用すると Cisco CallManager データベースにユーザデバイスプロファイルを追加するときに、複数の回線と他の機能を追加できます。

ユーザデバイスプロファイル用の CSV データファイルを作成するには次の2つのオプションから選択します。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式でエクスポートする。
- テキストエディタを使用して、CSV 形式のテキストファイルを作成する(経験豊富なユーザ向け)。

Cisco CallManager データベースにユーザデバイスプロファイルを一括で追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** **Configure > User Device Profile** の順に選択します。User Device Profiles Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Insert User Device Profiles** を選択して **Next** をクリックします。Steps to Insert User Device Profiles ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** **Add, view, or modify UDP templates** を選択して **Next** をクリックします。

UDP Template Configuration ウィンドウが表示されます。UDP テンプレートの設定の詳細については、[P.6-4](#) の「[ユーザデバイスプロファイル用の BAT テンプレートの作成](#)」を参照してください。

**ステップ 4** 次のオプションのどちらかの手順に従って CSV データファイルを作成します。

### BAT スプレッドシート オプション

BAT スプレッドシートを開き、CSV データファイルを作成します。詳細については、[P.6-9](#) の「[BAT スプレッドシートを使用したユーザデバイスプロファイル CSV データファイルの作成](#)」を参照してください。

## テキスト エディタ オプション

- a. **Add, view, or modify file formats** を選択し、**Next** をクリックします。  
File Format Configuration ウィンドウが表示されます。CSV データ ファイル用のファイル形式設定の詳細については、[P.6-24](#) の「**テキスト エディタを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV ファイルの作成**」を参照してください。
- b. テキスト エディタを使用して、ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを、採用するファイル形式に合うように作成します。テキストベースの CSV ファイル作成の詳細については、[付録 A](#)「**ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成**」を参照してください。
- c. **Associate file format with the CSV data file** を選択し、**Next** をクリックします。  
Add File to Format ウィンドウが表示されます。ファイル形式の詳細については、[P.6-29](#) の「**CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け**」を参照してください。

### ステップ 5 **Validate User Device Profile records** を選択して **Next** をクリックします。

Validate User Device Profiles ウィンドウが表示されます。ユーザ デバイス プロファイル レコードの確認の詳細については、[P.6-30](#) の「**ユーザ デバイス プロファイルの確認**」を参照してください。

### ステップ 6 **Insert User Device Profiles** を選択して **Next** をクリックします。

Insert User Device Profiles ウィンドウが表示されます。Cisco CallManager データベースへのユーザ デバイス プロファイル レコードの挿入の詳細については、[P.6-31](#) の「**ユーザ デバイス プロファイルの挿入**」を参照してください。

---

## その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ユーザデバイスプロフィール用のBATテンプレートの作成

ユーザデバイスプロフィールを一括して追加するためのテンプレートを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** **Add, view, or modify UDP templates** を選択して **Next** をクリックします。User Device Profile Template Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **User Device Profile Name** フィールドに、50 文字以下で固有の名前を入力します。

**ステップ 3** **Device Type** ドロップダウン リスト ボックスから、ユーザデバイスプロフィールのモデルを選択します。ウィンドウが更新され、ユーザデバイスプロフィールのモデル用に追加したフィールドが表示されます。デバイスのモデルによっては、次のフィールドの一部が表示されない場合があります。

- **User Hold Audio Source** : ユーザがコールを保留にしたときに再生されるオーディオソースを選択する。
- **User Locale** : このプロフィール用の国と言語の組み合わせを選択する。
- **Phone Button Template** : このプロフィール用の電話機ボタン テンプレートを選択する。



(注) テンプレート用の電話機ボタンのリストは、いつでも表示できます。表示するには、Phone Button Template フィールドの横にある View button list リンクを選択します。新しいダイアログボックスが表示され、指定の電話機テンプレートで使用できる電話機ボタンが表示されます。

- **Softkey Template** : このプロフィールに適切なソフトキー テンプレートを選択する。
- **MLPP Indication** : MLPP 優先コールを行うときにデバイスが優先トーンを再生できるかどうかを指定するには次のいずれかを選択する。
  - **Default** : MLPP 表示をデバイス プールから継承する。
  - **Off** : MLPP 表示トーンを送信しない。

- On : MLPP 優先コールの表示を送信する。
- **MLPP Preemption** : MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをデバイスがプリエンブション処理できるかどうかを指定するには、次のいずれかを選択する。
  - Default : MLPP プリエンブション設定値をデバイス プールから継承する。
  - Disabled : MLPP 優先コールを行うときにコールをプリエンブション処理しない。
  - Forceful : MLPP 優先コールを行うときに進行中のコールをプリエンブション処理する。



(注) デバイスの MLPP Preemption が *Forceful* に設定されているときは、MLPP Indication を *Off* に設定しないでください。

- **MLPP Domain** : このデバイスに関連した MLPP ドメインの 16 進数を入力する。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
- **Expansion Module Information** : 電話機に拡張モジュールが取り付けられている場合はそのタイプを選択し、Module 1 と Module 2 に対しては <None> を選択する。
- **Login User ID** : デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力する。ユーザがユーザデバイス プロファイルからログアウトすると、ユーザデバイス プロファイルは自動的にこのログイン ユーザ ID にログインしてデフォルト プロファイルを使用します。



#### ヒント

Login User ID フィールドの下にある Select Login User ID リンクを選択すると、有効なログイン ユーザ ID を見つけるのに役立つ機能を利用できます。新しいダイアログボックスが表示されます。使用するログイン ユーザ ID の最初の何文字かを Login User ID フィールドに入力すると、入力したパターンに一致するすべてのログイン ユーザ ID が、Selected login user ID フィールドに表示されます。目的の ID を選択し、OK をクリックします。

**ステップ 4** 必要に応じて **Ignore Presentation Indicators (Internal Calls Only)** チェックボックスをオンにします。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

- ステップ 5** **Insert** をクリックします。User Device Profile Templates リストの左ペインにテンプレートが表示されます。
- ステップ 6** ポップアップ ボックスが表示され、下方向にスクロールして回線を挿入するように求められます。**OK** をクリックし、下方向にスクロールします。
- ステップ 7** 選択した電話機ボタン テンプレートに応じて、回線を追加するリンクが表示されます。**Add Line 1** または **Add Line 2** のうち、いずれか適切なリンクをクリックします。Line Details ウィンドウが表示されます。
- ステップ 8** P.3-30 の「BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明」で説明されている回線設定値に対して、適切な値を入力または選択します。
- ステップ 9** **Insert** をクリックします。

一部の Cisco IP Phone モデルでは、Cisco IP Phone サービスと短縮ダイヤルをテンプレートに追加できます。次のトピックの手順を参照してください。

- [BAT テンプレートにおける IP サービスの追加または更新 \(P.3-6\)](#)
- [BAT テンプレートにおける短縮ダイヤルの追加または更新 \(P.3-8\)](#)

## テンプレートの修正

同じデバイスの一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを修正できます。

既存の BAT テンプレートの詳細を修正または更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Template Configuration ウィンドウで、変更するテンプレートを Templates カラムから選択します。選択したテンプレートの詳細が、Template Configuration ウィンドウに表示されます。

- ステップ2 それが修正するテンプレートであることを確認します。
  - ステップ3 必要に応じてテンプレート フィールドで詳細を修正します。
  - ステップ4 Update をクリックして既存のテンプレートに変更内容を保存します。
- 

### その他の情報

詳細については、P.6-39 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更するときは、テンプレートのプロパティを新しいテンプレートにコピーできます。



**(注)** 作成する新しいテンプレートは、元のテンプレートとデバイス タイプが同じでなければなりません（たとえば、Cisco IP User Device Profile Model 7960）。

---

既存の BAT テンプレートをコピーする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ1 Template Configuration ウィンドウで、コピーするテンプレートを Templates カラムから選択します。選択したテンプレートの詳細が、Template Configuration ウィンドウに表示されます。
- ステップ2 これが、コピーするテンプレートであることを確認してから、Copy をクリックします。テンプレートが複製され、コピーが作成されます。このコピーには、元のテンプレートで指定した値がすべて複写されます。
- ステップ3 Template Name フィールドに、新しいテンプレート名を 50 文字以下の英数字で入力します。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

- ステップ 4** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。
- ステップ 5** **Insert** をクリックします。BAT に追加されるテンプレートが、左側の **Templates** カラムに表示されます。
- 

**その他の情報**

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

**テンプレートの削除**

BAT テンプレートが不要になった場合は、削除することができます。テンプレートを削除する手順は、次のとおりです。

**手順**

- 
- ステップ 1** **Template Configuration** ウィンドウの左ペインのテンプレートのリストで、削除するテンプレートの名前を探します。
- ステップ 2** 削除するテンプレートをクリックします。選択したテンプレートの詳細が、**Template Configuration** ウィンドウに表示されます。
- ステップ 3** これが、削除するテンプレートであることを確認してから、**Delete** をクリックします。削除操作を確認するように求めるメッセージが表示されます。
- ステップ 4** **OK** をクリックして、レコードを削除します。そのテンプレート名は、左ペインのテンプレートのリストに表示されなくなります。
- 

**その他の情報**

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## BAT スプレッドシートを使用したユーザデバイス プロファイル CSV データファイルの作成

新しいユーザデバイス プロファイルを追加する場合、BAT スプレッドシートが使用できます。スプレッドシート内でファイル形式を定義できるので、スプレッドシートはデータファイル形式を使用して CSV データファイル用のフィールドを表示します。

BAT スプレッドシートの場所の確認と使用方法の詳細については、[P.1-13 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

新しいユーザデバイス プロファイルを追加するための BAT スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** ボタンをクリックして、スプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** User Device Profiles オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある **User Device Profile** タブをクリックします。
- ステップ 4** ユーザデバイス プロファイルごとに定義できるデバイス フィールドおよび回線 フィールドを選択するには、**Create File Format** をクリックします。Field Selection ポップアップウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス フィールドを選択するには、Device Field ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、次に矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Device Fields ボックスに移動します。

CSV データファイルは、最初のフィールドとして Number of Lines を、さらに Device Profile Name と Description を含む必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択されています。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

**ヒント**

リスト内の特定範囲のフィールドを複数同時に選択するには、Shift キーを押しながらフィールド名をクリックします。複数のフィールドを任意に選択するには、Ctrl キーを押しながらフィールド名をクリックします。

- ステップ 6** Line Field ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Line Fields ボックスに移動します。

**ヒント**

Selected Line Fields ボックスと Selected Device Fields ボックスの項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してその項目をリストの前方に移動させるか、下向き矢印を使用してその項目をリストの後方に移動させます。

- ステップ 7** CSV データ ファイル形式を修正するには、**Create** をクリックします。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを確認するメッセージが表示されます。

- ステップ 8** **OK** をクリックします。選択したフィールド用の新しいカラムが、指定した順序で BAT スプレッドシートに表示されます。

- ステップ 9** Number of Phone Lines ボックスを探すために、右にスクロールします。ここで指定する回線の数は、BAT テンプレートで設定された回線の数を超えることはできません。この数を超えると CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

- ステップ 10** Number of Speed Dials ボックスで短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。ボタン数を入力すると、各短縮ダイヤル番号用のカラムが表示されます。

**(注)**

User Device Profile テンプレートに設定した短縮ダイヤルの数を超えることはできません。その数を超えると CSV データ ファイルおよび UDP テンプレートを挿入するときにエラーが発生します。

**ステップ 11** スプレッドシートの回線ごとに、個々のユーザ デバイス プロファイルのデータを入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しは、フィールドの長さ、およびそのフィールドが必須かオプションかを指定しています。BAT スプレッドシートのフィールドの詳細については、表 6-1 を参照してください。

**ステップ 12** **Export to BAT Format** をクリックして BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した別の既存フォルダに保存されます。ファイル名は次のとおりです。

```
<tabname>#<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（たとえば、phones）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスクまたはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles（またはファイルの格納先として選択したフォルダ）からパブリッシャ データベース サーバの次のフォルダに CSV データ ファイルをコピーします。

```
C:\BATFiles\User Device Profiles
```



**(注)** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法の詳細については、BAT 内の Insert Users Device Profiles ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

### その他の情報

詳細については、P.6-39 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ■ ユーザデバイスプロファイルの追加

## BAT スプレッドシートの User Device Profile フィールドの説明

表 6-1 では、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザデバイスプロファイルフィールドについて説明します。

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Device Fields (Mandatory Fields) (デバイスフィールド (必須フィールド))</b>	
Number of Lines	この電話機の回線の数を入力します。BAT テンプレートの回線数よりも少ない数にできますが、そこに指定されている回線数を超えることはできません。
Device Profile Name	デバイスプロファイル名に固有の識別名を入力します。
Description	電話機またはデバイスの特定に役立つ説明、たとえば「Conference Room A」や「John Smith」を入力します。
<b>Device Fields (Optional Fields) (デバイスフィールド (オプションフィールド))</b>	
User Locale	このグループの IP Phone に関連付ける国 / 地域と言語の組み合わせを入力します。  この選択内容によって、言語やフォントを含むロケール属性のどれをこのユーザに適用するか、およびこのユーザの Cisco CallManager のユーザウィンドウと電話機をどの言語で表示するかが決まります。
Softkey Template	このグループ内の電話機すべてに使用されるソフトキーテンプレートを入力します。
User ID	この電話機ユーザのユーザ ID を入力します。
Login User ID	デフォルトプロファイル用のログインユーザ ID を入力します。  ユーザデバイスプロファイルがログアウトプロファイルとして使用されている場合は、電話機に関連付けるログインユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザデバイスプロファイルからログアウトすると、電話機は自動的にこのログインユーザ ID にログインします。

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
User Hold Audio Source	このグループの IP Phone または CTI ポートが使用するユーザ保留オーディオソースを入力します。  ユーザ保留オーディオソースは、ユーザがコールを保留にしたときに再生される音楽のオーディオソースを特定します。
Ignore Presentation Indicators (Internal Calls Only)	内線コールで表示インジケータを無視するには、このチェックボックスをオンにします。
<b>Line Fields (Optional Fields) (回線フィールド (オプションフィールド))</b>	
Directory Number	電話機の電話番号を入力します。
Partition	電話番号が属するルートパーティションを選択します。   <b>(注)</b> 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この機能は、この電話機に対してボイスメッセージサーバが設定されていない場合に役立ちます。
Line Calling Search Space	この電話番号から呼び出される番号を検索するパーティションを選択します。   <b>(注)</b> このフィールドに変更を加えると、Call Pickup Group フィールドのリストに表示されるコールピックアップ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を &lt;None&gt; に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Line User Hold Audio Source	ユーザが Hold を押してコールを保留したときに再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Line Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送する間や電話会議またはコールパークを開始する間) に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Auto Answer	<p>次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能をアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Auto Answer Off &lt; デフォルト &gt;</li> <li>• Auto Answer with Headset</li> <li>• Auto Answer with Speakerphone (Intercom)</li> </ul> <p> (注) Auto Answer with Headset または Auto Answer with Speakerphone を選択する場合、ヘッドセットまたはスピーカフォンが使用不可になっていないことを確認してください。</p>
Forward All	すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward Busy Internal	電話機が話し中の場合に、内線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward Busy External	電話機が話し中の場合に、外線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Answer Internal	電話機が応答しない場合に、内線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Answer External	電話機が応答しない場合に、外線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Coverage Internal	電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。
Forward No Coverage External	電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールを転送する電話番号を入力します。BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。

## ■ ユーザデバイスプロファイルの追加

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward Unregistered Internal Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用せずに電話番号に転送される内部コールの転送処理を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Forward Unregistered Internal Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p></p> <p><b>(注)</b> 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward Unregistered Calling Search Space	<p>ドロップダウン リストメニューから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>
Forward Unregistered External Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用せずに電話番号に転送される外部コールの転送処理を指定します。次の値を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Forward Unregistered External Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered External Calling Search Space	<p>ドロップダウンリストボックスから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>
No Answer Ring Duration (CFNA)	<p>コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間（秒数）を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。</p>
Call Pickup Group	<p>Pickup Group Name を入力してコール ピックアップグループを指定します。コール ピックアップグループでは、該当のピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答することができます。</p> <p> (注) BAT 電話機テンプレートの入力値を使用するには、このフィールドをブランクのままにします。</p>

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Target Destination (MLPP)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに回答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。  値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space (MLPP)	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
No Answer Ring Duration (MLPP)	優先コールに対してこの電話番号とそのコール転送先が回答するのを待つ時間 (4 ~ 30 秒) を入力します。この時間内に回答がないと、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティに向けて送られます。  Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。
Line Text Label	回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。   <b>(注)</b> デフォルトのテキストは英語です。
External Phone Number Mask	この回線からコールを行うときに発信者 ID 用に変えられる電話番号 (またはマスク) を入力します。  最大 30 桁の数字と「X」文字が入力できます。X は電話番号を表し、パターンの最後に表示する必要があります。たとえば、972813XXXX というマスクを指定すると、内線 1234 からの外線コールには発信者 ID 番号 9728131234 が表示されます。

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの1つの回線に対して最大200のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは4です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは2です。</p> <p>CTI ルートポイントに対しては、各ポートに対して最大10,000のコールを設定できます。デフォルトは5000コールです。このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が50に設定され、Busy Trigger が40に設定されている場合、着信コール41は話し中を理由として拒否されます（さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます）。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは4500コールです。</p>

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Message Waiting Lamp Policy	<p>このフィールドを使用してハンドセット ランプ照明ポリシーを設定します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Policy (The directory number refers to the service parameter “Message Waiting Lamp Policy” setting.)</li> <li>• Light and Prompt</li> <li>• Prompt Only</li> <li>• Light Only</li> <li>• None</li> </ul> <p>設定は、右にあるチェックボックス( Update Shared Device Settings ) をオンにして <b>Propagate selected</b> ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスだけに適用されます ( 右側のチェックボックスが表示されるのは、他のデバイスがこの電話番号を共有している場合だけです )。</p>
Ring Setting (Phone Idle)	<p>着信コールを受信し、デバイスに他のアクティブなコールがない場合の、回線着信表示に対する呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> </ul>

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Ring Setting (Phone Active)	この電話機に異なる回線で別のアクティブ コールがあった場合に使用される呼び出し音設定を選択します。次のオプションのいずれかを選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use system default</li> <li>• Disable</li> <li>• Flash only</li> <li>• Ring once</li> <li>• Ring</li> <li>• Beep only</li> </ul>
Caller Name	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
Caller Number	転送されたコールの受信時に、表示に発信者の番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Redirected Number	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Dialed Number	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトの設定では、このチェックボックスはオンになっています。
Call Pickup Group Audio Alert Setting ( Phone Idle )	ドロップダウン リスト ボックスから、電話がアイドル状態のときに提供されるコール ピックアップのオーディオ通知タイプを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default</li> <li>• Disable</li> <li>• Ring Once</li> </ul>

表 6-1 BAT スプレッドシート内の User Device Profile のフィールドの説明

フィールド	説明
Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、電話が使用中に提供されるコール ピックアップのオーディオ通知タイプを選択します。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Use System Default</li> <li>• Disable</li> <li>• Beep Only</li> </ul>
<b>AAR Settings (AAR 設定値)</b>	
AAR Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、宛先に達するための帯域幅が不十分なコールの処理を指定します。これらのコールは、自動代替ルーティング (AAR) によって処理され、AAR Destination Mask または Voice Mail に転送されます。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p> <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。</p>
AAR Destination Mask	ダイヤルする AAR 宛先を決定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定を使用します。
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。</p> <p>AAR Group を &lt;None&gt; に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

## ■ ユーザデバイスプロファイルの追加

**その他の情報**

詳細については、P.6-39 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## テキストエディタを使用したユーザデバイスプロファイル CSV ファイルの作成

CSV データファイルの作成にテキストエディタを使用する場合、デバイスフィールドと回線フィールドを CSV データファイル内で識別するファイル形式を使用する必要があります。このファイル形式には次のオプションがあります。

- Default User Device Profile : ユーザデバイスプロファイルのデバイスフィールドと回線フィールドの事前決定済みの組み合わせを含む。
- Simple User Device Profile : ユーザデバイスプロファイル用の基本的なデバイスフィールドと回線フィールドを含む。
- Customized : 独自に選択して順序付けしたデバイスフィールドと回線フィールドを含む。

テキストエディタで CSV ファイルを作成する前に、既存のファイル形式を選択するか新規のファイル形式を作成する必要があります。次にテキストベースの CSV データファイルのファイル形式で指定されたように値を入力します。

次のトピックでは、テキストエディタを使用して作成する CSV データファイルのファイル形式設定に関する情報を提供します。

- [ファイル形式の作成 \(P.6-24\)](#)
- [ファイル形式のコピー \(P.6-26\)](#)
- [ファイル形式の修正 \(P.6-27\)](#)
- [ファイル形式の削除 \(P.6-28\)](#)

## ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データファイル用のファイル形式を作成する手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して **Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Add a new File Format** をクリックします。File Format Information フィールドが表示されます。
- ステップ 3** File Format Name フィールドに、このカスタマイズされた形式の名前を入力します。
- ステップ 4** Device Fields で、各ユーザー デバイス プロファイルに定義するデバイス フィールド名を選択します。Device Field ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを Selected Device Fields ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、Number of Lines、Device Profile Name、および Description を含める必要があります。したがって、これらのフィールドは常に選択された状態になっています。



### ヒント

Ctrl キーを押しながらリスト内の複数のフィールド名を任意に選択し、次に矢印をクリックすると、その複数のフィールドを同時に選択することができます。Shift キーを使用すると、特定範囲の項目を複数同時に選択することができます。

- ステップ 5** Line Field ボックスで回線フィールド名をクリックしてから矢印をクリックして、そのフィールドを Selected Line Fields ボックスに移動します。



### ヒント

Selected Line Fields ボックスおよび Selected Device Fields ボックス内の項目の順序は変更できます。項目を選択し、上向き矢印を使用してフィールドをリストの前方に移動させるか、または下向き矢印を使用してリストの後方に移動させます。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

- ステップ6** 短縮ダイヤルの詳細フィールドを含める場合は、**Include Speed Dials in the CSV Format** チェックボックスをオンにします。
- ステップ7** **Insert** をクリックして、カスタマイズしたファイル形式を保存します。ファイル形式の名前が左側の **File Format Names** リストに表示されます。

---

**その他の情報**

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

**ファイル形式のコピー**

CSV データ ファイルの既存の形式をコピーする手順は、次のとおりです。

**手順**

- ステップ1** Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して **Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** File Format Name リストで、コピーするファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。
- ステップ3** **Copy** をクリックして選択されたファイル形式をコピーします。
- ステップ4** File Format Name フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。
- ステップ5** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。
- 新しいフィールドを追加するには、Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスに移動します。
  - フィールドを削除するには、Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスから削除するフィールドを選択してから矢印をクリックして、その選択したフィールドを Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスに移動します。

- フィールドの順序を変更するには、Selected Device Field ボックスまたは Selected Line Fields ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

**ステップ 6** 変更を加えたら、**Insert** をクリックして、コピーしたファイル形式を変更内容とともにリストに保存します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ファイル形式の修正

CSV データ ファイルの既存の形式を修正する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して **Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** File Format Name リストで、修正するファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。

**ステップ 3** 次の方式のいずれかを使用して、コピーした形式を修正します。

- 新しいフィールドを追加するには、Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスからフィールドを選択してから矢印をクリックして、選択したフィールドを Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスに移動します。
- フィールドを削除するには、Selected Device Fields ボックスまたは Selected Line Fields ボックスから削除するフィールドを選択してから矢印をクリックして、その選択したフィールドを Device Fields ボックスまたは Line Fields ボックスに移動します。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの追加

- フィールドの順序を変更するには、Selected Device Field ボックスまたは Selected Line Fields ボックスのフィールド名を選択し、上向き矢印または下向き矢印を使用してフィールドの位置を変更します。

**ステップ 4** 変更を加えたら、**Update** をクリックして変更内容をファイル形式に保存します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ファイル形式の削除

CSV データ ファイルの既存のファイル形式を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Create CSV data file ウィンドウで、**Add, view, or modify file formats** を選択して **Next** をクリックします。File Format Configuration ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** File Format Name リストで、削除するファイル形式を選択します。ファイル形式の詳細がフィールドに表示されます。このファイルを削除することを確認します。

**ステップ 3** File Format Name リストからファイル形式を削除するには、**Delete** をクリックします。ファイル形式の削除を確認するメッセージが表示されます。**OK** をクリックして続行します。リストからファイル形式名が削除されます。

---

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## CSV データ ファイルへのファイル形式の関連付け

すべての値をファイル形式が指定した順序でテキストベースの CSV データ ファイルに入力したら、そのテキストベースの CSV データ ファイルを、Cisco CallManager パブリッシュ上のユーザ デバイス プロファイル用フォルダ C:\BATFiles\User Device Profiles にコピーする必要があります。次にファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける必要があります。

テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付ける手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Create CSV data file ウィンドウで、**Associate file format with the CSV data file** を選択して **Next** をクリックします。Add File Format ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** File Format Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** **Add** をクリックして、一致するファイル形式を CSV データ ファイルに関連付けます。
- ステップ 5** **View File** リンクをクリックして、ファイル形式を最初のレコードとする CSV データ ファイルを表示します。入力された値が CSV データ ファイルのフィールド名に対応していることを確認します。
- ステップ 6** **Back** を 2 回クリックして Steps to Insert User Device Profiles ウィンドウに戻ります。

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ユーザデバイスプロファイルの確認

Validate User Device Profiles を選択すると、システムは確認ルーチンを実行して、CSV データファイルが要求されたフィールド、たとえば、デバイスプロファイル名、および電話番号をすべてを読み込んでいるかどうかをチェックし、パブリッシャデータベースとの不一致がないかをチェックします。

### 始める前に

- 追加するデバイス用のデバイスプロファイルテンプレートを用意します。1 回線のユーザデバイスプロファイルの追加には、複数回線のユーザデバイスプロファイルテンプレートが使用できます。詳細については、[P.6-4 の「ユーザデバイスプロファイル用の BAT テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- ユーザデバイスプロファイルに固有の詳細情報を含む CSV データファイルを用意します。次のオプションを参照してください。
  - [BAT スプレッドシートを使用したユーザデバイスプロファイル CSV データファイルの作成 \(P.6-9\)](#)
  - [テキストエディタを使用したユーザデバイスプロファイル CSV ファイルの作成 \(P.6-24\)](#)

CSV データファイルのユーザデバイスプロファイルレコードを確認する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Steps to Insert User Device Profiles ウィンドウで、**Validate user device profiles records** を選択して **Next** をクリックします。Validate User Device Profiles ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** File Name フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
  - ステップ 3** CSV データファイルに対応する Insert オプションを選択します。
    - **Specific Details** : ファイル形式を使用する User Device Profile レコードを確認する場合。

- **All Details** : All Details オプションを使用して生成されたエクスポート ファイルからのユーザ デバイス プロファイル レコードを確認する場合、[ステップ 5](#)に進みます。

**ステップ 4** User Device Profile Template Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT User Device Profile テンプレートを選択します。

**ステップ 5** All Details オプションの場合は、IP テレフォニー デバイスのモデルを選択する必要があります。BAT には、現時点で Cisco CallManager データベースに登録されているモデルだけが表示されます。

**ステップ 6** 選択した CSV データ ファイルをパブリッシャ データベースと比較して確認するには、**Validate** をクリックします。検証ルーチンは、エラーをログ ファイルに記録します。

**ステップ 7** 確認が完了したら、**View Latest Log File** をクリックして、不一致が検出されたレコードとそのエラー コードを記載したログ ファイルを表示します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#)の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#)の「**関連項目**」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルの挿入

新しいユーザ デバイス プロファイル レコードを一括で挿入する手順は、次のとおりです。これらの User Device Profile はユーザと関連付けられていません。これらの新しいプロファイルをユーザに関連付けるには、ユーザを更新する必要があります。この手順の詳細については、[P.4-16](#)の「**Cisco CallManager 内のユーザの更新**」を参照してください。

### 始める前に

- デバイス用の BAT User Device Profile テンプレートを用意します。
- User Device Profiles に固有の詳細情報を含む CSV データ ファイルを用意します。

## ■ ユーザデバイスプロファイルの追加

- ユーザデバイスプロファイルを挿入する前に、レコードを確認します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Steps to Insert User Device Profiles ウィンドウで、**Insert User Device Profiles** を選択して **Next** をクリックします。Insert User Device Profiles ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Name フィールドで、この特定のバルク トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** 要件に対応する Insert オプションを選択します。
- **Specific Details** : ファイル形式とテンプレートを使用するユーザデバイスプロファイルレコードを挿入する場合。Specific Details CSV ファイル形式はユーザ情報を含みません。別の BAT トランザクションでユーザデバイスプロファイルをユーザに関連付ける必要があります。
  - **All Details** : All Details オプションを使用してエクスポートユーティリティによって生成されたファイルからユーザデバイスプロファイルレコードを挿入する場合。エクスポートユーティリティで All Details オプションを使用して生成したファイルには、挿入操作中に、BAT がユーザをユーザデバイスプロファイルに関連付けるために使用する情報が含まれています。[ステップ 5](#) に進みます。
  - **Based on devices controlled by users** : BAT を使用して、ユーザの現在の IP ユーザデバイスプロファイルに基づいてユーザデバイスプロファイルレコードを生成して挿入する場合。このトランザクションはテンプレートまたは CSV データ ファイルを要求しません。この手順の詳細については、[P.6-34](#) の「[ユーザデバイス用のユーザデバイスプロファイルの生成](#)」を参照してください。
- ステップ 4** User Device Profile Template Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成したユーザデバイスプロファイルテンプレートを選択します。
- ステップ 5** All Details オプションを選択した場合、Model リストボックスでデバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。

**ステップ 6** Based on devices controlled by users オプションを選択した場合、**Set User Device Profile as Log Out Profile for the device** チェックボックスをオンにして、生成されたユーザ デバイス プロファイルをログアウト プロファイルとして使用できます。

**ステップ 7** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager データベースにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ 8** ユーザ デバイス プロファイルを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**OK** をクリックすると、Transaction Status ウィンドウが表示されます。トランザクションの進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。



**(注)** レコードの詳細に何らかの問題がある場合、BAT はユーザ デバイス プロファイルレコードを挿入しません。

**ステップ 9** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードとエラーの説明を含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.6-39 の「関連項目」](#)を参照してください。

## ユーザデバイス用のユーザデバイス プロファイルの生成

すべての IP Phone ユーザに対するプロファイルを生成して挿入することによって、BAT を使用してエクステンション モビリティを迅速にセットアップできます。BAT は、ユーザが制御するデバイス数に関係なく、すべての電話機に対してユーザデバイス プロファイルを生成します。たとえば、ユーザが2つのデバイスを制御している場合、BAT は2つの異なるユーザデバイス プロファイル（各デバイスに対して1つずつ）を生成し、それらのユーザデバイス プロファイルを同じユーザに関連付けます。BAT は生成されたユーザデバイス プロファイルの1つをユーザのデフォルト ユーザデバイス プロファイルとして設定します。BAT は各電話機モデル用の電話機ボタン テンプレートに基づいて、すべての IP Phone 用のユーザデバイス プロファイルを生成します。



(注)

このアクションの実行には、ユーザデバイス プロファイル テンプレートも CSV データ ファイルも使用しません。これらのユーザデバイス プロファイルは、BAT によって生成されたとき、ユーザに関連付けられます。

すべてのユーザ用のユーザデバイス プロファイルを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > User Device Profile** の順に選択します。User Device Profile Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Generate User Device Profiles** を選択して **Next** をクリックします。Insert User Device Profiles ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** ユーザの現在の IP Phone に基づいて、すべての電話機に対してユーザデバイス プロファイル レコードを生成して挿入するには、**Based on devices controlled by users** オプション ボタンを選択します。

**ステップ4** 生成済みのユーザデバイス プロファイルをデバイスのログアウト プロファイルとして使用する場合は、**Set User Device Profile as Log Out Profile for the device** チェックボックスをオンにします。

**ステップ5** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager データベースにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションがシステムのパフォーマンスの低下を引き起こす可能性がある場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ6** ユーザ デバイス プロファイルを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

**OK** をクリックすると、**Transaction Status** ウィンドウが表示されます。トランザクションの進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。



**(注)** レコードの情報に何らかの問題がある場合、BAT はユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入しません。

**ステップ7** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.6-39](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ユーザデバイスプロフィールに対する回線の更新

ユーザデバイスプロフィールおよび電話機に対する回線アトリビュートをクエリー結果で同時に更新できます。

回線を更新する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** **Configure > User Device Profile** の順に選択します。User Device Profile Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Update Lines** を選択して **Next** をクリックします。Update Lines (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。更新するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。

[P.3-84 の「回線の更新」](#) の手順に従います。

---

### その他の情報

詳細については、[P.6-39 の「関連項目」](#) を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルの削除

削除するレコードを探すには、クエリー フィルタを定義する必要があります。ユーザ デバイス プロファイルを Cisco CallManager から削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** **Configure > User Device Profile** の順に選択します。User Device Profile Options ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **Delete User Device Profiles** を選択して **Next** をクリックします。Delete User Device Profiles ウィンドウが表示されます。

Delete User Device Profiles ウィンドウが表示されます。削除するユーザ デバイス プロファイルを探すために、フィルタを定義します。



#### 注意

フィルタを定義しないと、すべてのユーザ デバイス プロファイルが削除されます。

**ステップ 3** 最初のドロップダウン リスト ボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、Model、Device Name、または Description）を選択します。

**ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次のリミッタから 1 つを選択します。contains（含む）、is exactly（完全一致）、not equal to（不一致）、begins with（～で始まる）、ends with（～で終わる）、is empty（空白）、または is not empty（空白でない）。

**ステップ 5** 3 番目のボックス（検索フィールドまたはリスト ボックス）で、検索する値（たとえば、特定のユーザ名）を選択するか、入力します。

**ステップ 6** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。

## ■ ユーザデバイスプロフィールの削除

**ステップ 7** Add To Query ボタンをクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、Clear Query ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

**ステップ 8** View Query Result をクリックして、検索対象のレコードを表示します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのユーザ デバイス プロファイル レコードが削除されます。

**ステップ 9** クエリー基準を満たす自動生成されたデバイス プロファイルを削除するには、Include Auto Generated Device Profiles チェックボックスをオンにします。

**ステップ 10** Delete をクリックすると、レコードが削除されます。

**ステップ 11** Cisco CallManager データベースからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 12** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、View Latest Log File リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除された電話機数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.6-39](#) の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(P.6-2\)](#)
- [ユーザ デバイス用のユーザ デバイス プロファイルの生成 \(P.6-34\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルに対する回線の更新 \(P.6-36\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(P.6-37\)](#)
- [既存の電話機および UDP への回線の追加 \(P.3-97\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(P.10-18\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)

■ 関連項目



# ゲートウェイとポートの一括処理

BAT を使用して、いくつかの Cisco ゲートウェイとそのポートを、Cisco CallManager データベースに一括して設定できます。各ゲートウェイとポートを個々に追加する必要はありません。次のタイプのゲートウェイを処理するには BAT を使用します。

- Cisco VG200 Voice Gateways をトランクおよびポートとともに追加、更新、または削除する。詳細については、[P.7-2 の「Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理」](#)を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Analog Interface Modules の Foreign Exchange Station ( FXS ) ポートを追加、更新、または削除する。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールポートの追加」](#)を参照してください。

## FXS ポート用のゲートウェイ電話番号

Gateway Directory Number テンプレートを使用すると、Cisco VG200 ゲートウェイまたは Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上の POTS ポート タイプに電話番号設定を指定できます。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理 \( P.7-2 \)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理 \( P.7-22 \)](#)
- [FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成 \( P.7-3 \)](#)

## Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理

BAT を使用して Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco CallManager データベースに追加できます。VG200 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco CallManager データベースに Cisco VG200 ゲートウェイを追加するとき、次のタイプのトランクまたはポートが設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート
- ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- 北米における ISDN サービス用の T1 PRI (Primary Rate Interface; 一次群速度インターフェイス) トランク
- ヨーロッパにおける ISDN サービス用の E1 PRI トランク
- T1 Channel Associated Signaling (CAS) プロトコル トランク

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(P.7-3\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの削除 \(P.7-20\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)

## Cisco VG200 ゲートウェイの追加

Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco CallManager に追加するには、**Configure > Gateways > VG200** の順に選択して Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウにアクセスする必要があります。VG200 Gateway Options ウィンドウで、**Insert VG200 Gateways** を選択して次のタスクを実行します。

1. FXS ポートを追加する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。
2. Cisco VG200 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義する。詳細については、[P.7-4 の「Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成」](#)を参照してください。
3. CSV データファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義する。詳細については、[P.7-12 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成」](#)を参照してください。
4. ゲートウェイとポートを Cisco CallManager データベースに追加する。詳細については、[P.7-18 の「Cisco VG200 ゲートウェイの Cisco CallManager への挿入」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成

Cisco VG200 ゲートウェイまたは Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュール上の FXS ポートに電話番号を追加するときは、Gateway Directory Number テンプレートを使用します。

パーティション、コーリング サーチ スペースなどの共通した電話番号の詳細情報がある BAT テンプレートを、POTS ポート タイプ用に作成できます。



**(注)** Cisco VG200 ゲートウェイに FXS 以外のポート（たとえば、FXO ポート）を追加する場合は、[P.7-4 の「Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成」](#)を参照してください。

Gateway Directory Number テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドはオプションです。

### 手順

- ステップ 1** **Add, view, or modify Gateway Directory Number template for FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Gateway Directory Number Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Gateway Directory Number Template Name フィールドに、このテンプレートの固有の名前を、50 文字以下の英数字で入力します。
- ステップ 3** このフィールドに設定値を入力します。詳細については、[P.7-32 の「Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 4** 新しいテンプレートを追加するには、**Insert** をクリックします。そのテンプレートがテンプレートのリストに表示されます。
- ステップ 5** Steps to Insert Gateways ウィンドウに戻るには、**Back** をクリックします。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。ゲートウェイ テンプレートの作成がすでに済んでいて、まだエンドポイント識別子を追加していない場合は、[P.7-10 の「Cisco VG200 Gateway テンプレート用のエンドポイント識別子の更新」](#)に進みます。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

- FXO トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

### 始める前に

VG200 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。
- ステップ 2** **Add, view, or modify VG200 template** を選択して **Next** をクリックします。VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次のフィールドに値を入力します。
- **VG200 Gateway Template Name** : BAT テンプレート用の固有の名前を 50 文字以下の英数字で入力する。
  - **Cisco CallManager Group** : このゲートウェイ用の Cisco CallManager Group を選択する。
- ステップ 4** Installed Voice Interface Cards 領域の Module in Slot 1 フィールドで、スロット 1 に取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します。
- **NM-1V** : Network Module-1Voice には、Sub-Unit 0 に、FXS または FXO 用の 1 枚の音声インターフェイス カード (VIC) がある。
  - **NM-2V** : Network Module-2Voice には、FXS または FXO 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚、Sub-Unit 1 に 1 枚、合計 2 枚の VIC がある。
  - **NM-HDV** : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚の VIC がある。
  - **None** : ネットワーク モジュールが取り付けられていない。

**ステップ 5** Product Specific Configuration 領域で、次のフィールドに値を入力します。

- **Switchback Timing** : プライマリ Cisco CallManager へのスイッチバックに使用されるタイミング メカニズムを選択する。
- **Switchback Uptime-Delay** : 遅延スイッチバック使用時に適用される遅延時間を分単位で選択する。このフィールドに入力する必要があるのは、Switchback Timing フィールドで「Delayed」を選択した場合です。
- **Switchback Schedule** : スケジュールされたスイッチバック使用時に適用されるスケジュールを時間と分で指定する。このフィールドに入力する必要があるのは、Switchback Timing フィールドで「Scheduled」を選択した場合です。
- **DTMF リレーのタイプ** - 次のオプションから、使用したいDTMF(デュアルトーン多重周波数)のタイプを選択します。
  - Out of Band
  - Cisco
  - NSE
  - NTE-CA
  - NTE-GW
  - Current GW Config

**ステップ 6** **Insert** をクリックします。挿入が完了したことが Status によって示されると、新しいフィールドがペイン上に表示されます。

**ステップ 7** Sub-Unit フィールドで、各 sub-unit フィールドに適切なタイプを選択します。

- VIC-2FXS : FXS 音声インターフェイス カード
- VIC-2FXO : FXO 音声インターフェイス カード
- VWIC-1MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-2MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-1MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-2MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード

- ステップ 8** Update をクリックします。更新が完了したことが Status によって示されると、サブユニット ドロップダウン リスト ボックスの右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。



**(注)** VG200 ゲートウェイ テンプレートを完成するには、P.7-7 の「[エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加](#)」を続けて行います。

## エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加

FXS ポート、FXO トランク、および T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのインターフェイス用のエンドポイントをテンプレートに追加する手順は、次のとおりです。T1 CAS エンドポイントを設定する場合は、Port Configuration ウィンドウを使用したポートの設定も必要です。

追加するすべてのポートは、BAT テンプレートを使用して設定する必要があります。たとえば、エンドポイント識別子 (1/0) にポート 1、2、および 3 を追加するには、まず BAT テンプレートでポート 1、2、および 3 を設定してから、CSV データ ファイルを使用してこれらのポートを追加する必要があります。

### 手順

- ステップ 1** VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウで、アイコン上に小さな疑問符が表示されているエンドポイント識別子のリンクをクリックします。疑問符はエンドポイントが設定されていないことを示します。

Cisco VG200 Gateway Template Endpoint Configuration ウィンドウが、エンドポイントの設定値と一緒に表示されます。

- ステップ 2** このエンドポイントに設定するトランクまたはポートのタイプに対して次のいずれかのオプションを実行します。

- POTS デバイス用の FXS ポートを設定する場合は、適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-44 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明」](#)を参照してください。これらのポートで使用する Gateway Directory Number テンプレートを指定する必要があります。
- FXO トランクを設定する場合は、適切なトランク設定値を入力する。詳細については、[P.7-47 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- T1 トランクを設定する場合は、T1 CAS シグナリング プロトコルまたは T1 PRI シグナリング プロトコルを選択する。
  - T1 PRI トランク インターフェイス プロトコル：適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-54 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明」](#)を参照してください。
  - T1 CAS トランク インターフェイス プロトコル：[P.7-9 の「T1 CAS エンドポイントとポートの Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加」](#)を参照する。
- E1 トランクを設定する場合は、適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-54 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明」](#)を参照してください。

**ステップ 3** エンドポイントの設定値を入力したら、**Update** をクリックします。更新が完了したことを Status が示すと、エンドポイント識別子アイコンは疑問符の代わりにインターフェイス タイプを表示します。

**ステップ 4** 追加のエンドポイントを設定するには、[ステップ 1](#) ~ [ステップ 3](#) を繰り返して、すべてのエンドポイントを設定します。

**ステップ 5** **Back to VG200 Template Configuration** をクリックしてから **Back** をクリックして Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウに戻ります。

---

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## T1 CAS エンドポイントとポートの Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加

VG200 Gateway テンプレートに T1 CAS エンドポイントを追加する手順は、次のとおりです。さらに Port Configuration を使用して、T1 CAS 用の E&M ポートを設定する必要があります。T1 CAS トランク インターフェイス エンドポイントそれぞれに、1 ~ 24 の間の任意のポートを設定できます。

追加するすべてのポートは、BAT テンプレートを使用して設定する必要があります。たとえば、エンドポイント識別子 (1/0) にポート 1、2、および 3 を追加するには、まず BAT テンプレートでポート 1、2、および 3 を設定してから、CSV データ ファイルを使用してこれらのポートを追加する必要があります。



(注)

3 桁のポート識別子はエンドポイント識別子番号とポート番号の組み合わせを表します。最初の桁がエンドポイントを、その後続く 2 桁がポート番号を示します。たとえば、エンドポイント 0 とポート番号 7 のポート識別子は 007 です。

### 手順

- ステップ 1** T1 CAS トランク用の VG200 Endpoint Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します。詳細については、[P.7-49 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 2** エンドポイントの設定値を入力したら、**Update** をクリックします。更新が完了したことを Status が示すと、エンドポイント識別子アイコンは疑問符の代わりにインターフェイス タイプを表示します。
- ステップ 3** T1 CAS 用の E&M ポートを設定するには、左ペインの **Add a New Port** をクリックします。Port Configuration ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 次のフィールドに対して値を選択します。
  - Beginning Port Number : All Ports または 1 ~ 24 の番号が付いた個々のポートを選択する。
  - End Port Number : 1 ~ 24 の番号が付いたすべてのポートまたは個々のポートを選択する。

- ポートの設定値を入力する。詳細については、[P.7-52 の「T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明」](#)を参照してください。

**ステップ 5** さらに設定するポートがある場合は、**Insert** をクリックして**ステップ 3 ~ ステップ 5**を繰り返します。

T1 CAS エンドポイント用の E&M ポートすべてを設定した場合は **Insert and Close** を選択します。ポップアップ ウィンドウが閉じ、VG200 Gateway Template ウィンドウの左カラムに Port: <番号> としてポートが表示されます。

- 左ペインのポート識別子をクリックして Port Configuration ウィンドウを開くと、テンプレートのポート アトリビュートを修正できます。詳細情報に変更を加えて、**Update** または **Update and Close** をクリックします。
- 左ペインのポート識別子をクリックして Port Configuration ウィンドウを開くと、テンプレートのポートを削除できます。**Delete** をクリックして、ポートを削除します。

**ステップ 6** **Back to VG200 Template Configuration** をクリックします。

---

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 Gateway テンプレート用のエンドポイント識別子の更新

Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成がすでに済んでいて、まだエンドポイント識別子を追加していない場合、テンプレートを完成させる手順は、次のとおりです。**Configure > Gateways > VG200** の順に選択して、エンドポイント識別子オプションにアクセスします。

### 手順

---

**ステップ 1** VG200 Options ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** **Add, view, or modify VG200 template** を選択して **Next** をクリックします。VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** VG200 Gateway Templates のリストで、エンドポイント識別子のアトリビュートを追加する BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 4** Installed Voice Interface Cards 領域で、Sub-Unit 用の適切な音声インターフェイスカードを選択します。
- ステップ 5** **Update** をクリックします。更新が完了したことが Status に示され、エンドポイント識別子が左ペインに表示されます。
- ステップ 6** 設定するエンドポイント識別子を選択します。設定が必要なエンドポイント識別子は、アイコンに未設定を示す疑問符が付いて表示されるので、見分けることができます。
- Cisco VG200 Endpoint Configuration ウィンドウが、エンドポイントの設定値と一緒に表示されます。設定手順全体については、[P.7-7 の「エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加」](#)を参照してください。
- ステップ 7** [ステップ 4 ~ ステップ 6](#) を繰り返して、すべてのエンドポイント識別子を設定します。
- ステップ 8** **Back to VG200 Template Configuration** をクリックしてから **Back** をクリックして Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウに戻ります。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT を使用して Cisco CallManager データベースに VG200 ゲートウェイおよびポートを挿入する場合は、新しいポートの追加または既存ポートの更新ができます。

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 FXS または FXO ゲートウェイ用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.7-12\)](#)
- [Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.7-15\)](#)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-27\)](#)

## Cisco VG200 FXS または FXO ゲートウェイ用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の FXS ポートまたは FXO ポートそれぞれの詳細情報、たとえば、電話番号、ポート説明、およびパーティションを含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-28](#) の「[FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式](#)」の情報と例を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。

**ステップ 3** ゲートウェイのアトリビュートを追加するには、スプレッドシートの下部にある **VG200 FXS FXO** タブをクリックします。

**ステップ 4** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。

- **MGCP Domain Name** : ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力する。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg200-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg200-1`）。ホスト名が `vg200-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg200-1.cisco.com` と入力します。

- **Description** : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力する。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- **Port 1 Description** : ポート 1 の説明を 50 文字以下で入力する。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の Description フィールドに入力する場合にも当てはまります。
- **Port 1 Directory Number** : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力する。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の Directory Number フィールドに入力する場合にも当てはまります。



**(注)** Port 1 Directory Number フィールドと Port 1 Partition フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドはブランクのままにします。

- **Port 1 Partition** : このポートが属するルートパーティションの名前を、50 文字以下で入力する。そのルートパーティションが Cisco CallManager Administration ですでに設定されていることを確認してください。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の Partition フィールドに入力する場合にも当てはまります。

**ステップ 5** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles (または、指定した別の既存フォルダ) に保存されます。

VG200Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



#### ヒント

いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles から、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダに、CSV ファイルをコピーします。



#### (注)

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

#### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ゲートウェイおよびポート用 CSV データファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ポートの詳細情報、たとえば、ドメイン名、MGCP 説明、およびポート識別子を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-29](#) の「[T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式](#)」の情報と例を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** VG200 T1-Pri T1-CAS E1-Pri タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、Number of Port Identifiers フィールドが表示されるまで右にスクロールします。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。1 つのポート識別子だけを使用する場合は、このステップをスキップしてください。
- ステップ 5** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。
  - **MGCP Domain Name** : ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力する。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg200-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg200-1`）。ホスト名が `vg200-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg200-1.cisco.com` と入力します。

- **MGCP Description** : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力する。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- **Port Identifier 1** : ポート識別子の説明を 3 桁以下の数字で入力する。最初の数字を 0 または 1（エンドポイント識別子 0 またはエンドポイント識別子 1 を示す）にし、その後にはポート番号 01 ~ 24 を続けます。許容される値の範囲は 001 ~ 024、または 101 ~ 124 です。



**(注)** T1 CAS の場合に限り、ここで指定するポートは、VG200 テンプレートに指定されているポートと同じでなければなりません。CSV データファイルでは、テンプレートで設定されているポートは、`none`、`some`、または `all ports` と指定できます。テンプレートで設定されていないポートを CSV データファイルに設定しないでください。設定した場合、BAT VG200 テンプレートと CSV ファイルを挿入しようとするとエラーが発生します。

たとえば、テンプレートでポート 1、2、3、および 4 を設定した場合、これらのポートをどれも設定しないか、ポート 1、2、3、4、またはポート 1、2 などを CSV ファイルに設定すれば、挿入は受け入れられます。ただし、CSV ファイルでポート 5 および 6 を設定した場合、それらがテンプレートで設定されていないと、BAT で挿入エラーが発生します。

**ステップ 6** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、`C:\XLSDataFiles`（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

`VG200Gateways#timestamp.txt`

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。

**ヒント**

いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles から、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダに、CSV ファイルをコピーします。

**(注)**

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイの Cisco CallManager への挿入

Cisco VG200 ゲートウェイおよびポートを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- トランクまたはポート用の Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを用意します。詳細については、[P.7-4 の「Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- FXS ポート用の電話番号の詳細を挿入する場合、Gateway Directory Number テンプレートを用意します。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- VG200 ゲートウェイ ポート用の CSV データ ファイルを用意します。詳細については、[P.7-12 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Insert Gateways ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** File Name フィールドで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報が格納されている CSV データ ファイルの名前を選択します。
  - ステップ 3** VG200 Gateway Template Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した VG200 Gateway テンプレートの名前を選択します。
  - ステップ 4** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起りそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

- ステップ 5** VG200 ゲートウェイを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

- ステップ 6** **View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイの削除

一部、またはすべての Cisco VG200 ゲートウェイ レコードを Cisco CallManager データベースから削除できます。VG200 Options にアクセスするには、**Configure > Gateways > VG200** の順に選択します。Cisco VG200 ゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** VG200 Options ウィンドウで、**Delete VG200 Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Delete Gateways ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Select VG200 gateways where 領域で、ドロップダウン リストから検索対象フィールド、たとえば MGCP Domain Name や Description を選択します。
- ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
- ステップ 4** 検索フィールドに、検索対象の値、たとえば、MGCP ドメイン名またはゲートウェイの説明を入力します。
- ステップ 5** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** 複数のフィルタをクエリーに追加するには、AND または OR をクリックします。
- ステップ 7** View Query Result をクリックして、削除対象のレコードを確認します。



### 注意

クエリー（[ステップ 2](#) ~ [ステップ 5](#) で説明）を指定していない場合、Delete をクリックすると、すべての Cisco VG200 ゲートウェイが削除されます。

**ステップ 8** Delete をクリックすると、選択したレコードが削除されます。

Cisco VG200 ゲートウェイが Cisco CallManager から削除された後、BAT は、削除されたレコード数と削除に失敗したレコード数を示すログ ファイル (エラーコードを含む) を生成します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュール用に FXS ポートを追加する前に、次のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールする必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用して、ゲートウェイを設定する。設定方法については、ゲートウェイに付属しているマニュアルを参照してください。
2. Cisco CallManager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加するには Cisco CallManager Administration を使用する。Cisco CallManager Administration で、**Device > Add a New Device > Gateway > Next** の順に選択します。Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway とデバイス プロトコルを選択して、**Next** をクリックします。

BAT を使用して、アナログ デバイス用に、FXS ポートを Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュールに追加できます。Gateway Directory Number テンプレートを設定して、これらの FXS ポートおよび Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートに関連付けしてから、これらのポートを Cisco CallManager データベースに追加する必要があります。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加 \(P.7-23\)](#)
- [Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新 \(P.7-29\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除 \(P.7-31\)](#)

## Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートを Cisco CallManager に挿入するには、**Configure > Gateways > Catalyst 6000 (FXS)** の順に選択して Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウにアクセスする必要があります。Catalyst 6000 Options ウィンドウで、**Insert Catalyst 6000 (FXS) ports** を選択して次のタスクを実行します。

1. 電話番号の詳細を必要とする FXS ポートを追加するために、Gateway Directory Number テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。
2. FXS ポートのセットに共通の値を定義するために、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成」](#)を参照してください。
3. 追加する FXS ポート用に個々の値を定義するために、CSV データ ファイルを作成する。詳細については、[P.7-24 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
4. FXS ポートを Cisco CallManager データベースに追加する。[P.7-26 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポートの Cisco CallManager への挿入」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) Ports テンプレートの作成

ポート テンプレートとコンマ区切り値 (CSV) ファイルは、連携してバルク トランザクションを行います。そのバッチ内のすべてのポートに共通のアナログ詳細情報 (たとえば、ポート方向やポート レベル) を記載するテンプレートを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS Ports テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

## 手順

- ステップ 1** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウで、**Add, view, or modify Catalyst 6000 (FXS) Ports template** を選択して **Next** をクリックします。Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Name フィールドに、固有のテンプレート名を入力します。
- ステップ 3** フィールドに設定値を入力します。詳細については、[P.7-66 の「Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 4** **Insert** をクリックします。更新が完了したことが **Status** に示されると、テンプレートが左ペインに表示されます。
- ステップ 5** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウに戻るには、**Back** をクリックします。

## その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成

個々の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートそれぞれの詳細情報、たとえば、電話番号、ポート説明、およびパーティションを含む CSV データ ファイルを作成するには、BAT スプレッドシートを使用します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13 の「BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法」](#)を参照してください。

Catalyst 6000 (FXS) ポート用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-31 の「Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** **Catalyst 6000 (FXS) Ports** タブをクリックします。
- ステップ 4** ポート レコードそれぞれの情報を 1 行に入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各欄の見出しは、フィールドの長さを指定しています。
  - **MAC Address** : ゲートウェイの MAC アドレスを 12 文字で入力する。
  - **Port Number** : ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24) を数値で入力する。
  - **Directory Number** : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力する。Partition を指定した場合は、この値を必ず入力してください (オプション)。
  - **Partition** : このポートが属するルート パーティションを 50 文字以下で入力する。電話番号を指定している場合以外は、この値を指定しないでください (オプション)。



### 注意

スプレッドシート内のブランク行は End of File (ファイルの終わり) として扱われ、それ以降のレコードは廃棄されます。

- ステップ 5** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDDataFiles (または、指定した別の既存フォルダ) に保存されます。

Catalyst6000\_24PortsFXSGateway#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピーディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、CSV ファイルを、C:\XLSDataFiles から Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\Catalyst6000\_24PortsFXSGateway フォルダにコピーします。



**(注)** エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートの Cisco CallManager への挿入

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールのポートを、Cisco CallManager に挿入する手順は、次のとおりです。

### 始める前に

- Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートをこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- ポートの詳細を含む CSV データ ファイルをこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-24 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
- Directory Number の詳細を追加または更新する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する必要があります。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウで、**Insert FXS Ports** を選択します。Insert Ports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した Cisco Catalyst 6000 ポート用の CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するために作成した BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 4** Gateway Directory Number Template Name フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートに電話番号を追加するために作成した BAT テンプレートを選択します (オプション)。



**(注)** CSV データ ファイル上で電話番号の詳細を指定していない場合、BAT はそのポートにアナログの詳細だけを挿入します。そのポートは電話番号を持ちません。

- ステップ 5** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

- ステップ 6** Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ7** View Latest Log File をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「BAT ログ ファイル」を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「関連項目」を参照してください。

## Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール用の既存のポートを、Cisco CallManager に対して更新する手順は、次のとおりです。Configure > Gateways > Catalyst 6000 FXS の順に選択して、ポートの更新オプションにアクセスします。

### 始める前に

- Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートをこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- このバルク トランザクション用に修正されたポートの詳細を含む CSV データ ファイルを用意します。詳細については、[P.7-24 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
- Directory Number の詳細を更新する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する必要があります。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウで、**Update Catalyst 6000 FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Steps to Update Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Update FXS Ports** を選択します。Update Ports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用の Catalyst 6000 ポート用 CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template フィールドで、FXS ポート更新用の BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 5** (オプション) Gateway Directory Number Template Name フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートに対して電話番号を更新するために作成した BAT テンプレートを選択します。



(注) CSV データ ファイル上で電話番号の詳細を指定していない場合、Gateway Directory Number Template は必要ありません。

**ステップ 6** Update をクリックします。

Cisco CallManager データベースからレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

**ステップ 7** Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを更新するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

**ステップ 8** **View Latest Log File** をクリックすると、更新されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

---

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除

Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS ゲートウェイからすべてのポートを削除する手順は、次のとおりです。Configure > Gateways > Catalyst 6000 FXS の順に選択して、ポートの削除オプションにアクセスします。

### 手順

**ステップ 1** Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウで、**Delete Catalyst 6000 FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Delete Ports ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** すべてのポートを削除する Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイの名前を選択し、矢印ボタンをクリックして、**Available Gateways** リストと **Selected Gateways** リスト間でゲートウェイを移動させます。

BAT は、Selected Gateways リストボックスに表示されているゲートウェイに限り、そのポートをすべて削除します。

**ステップ 3** **Delete All Ports** をクリックします。

このトランザクションの実行に必要な時間を通知するメッセージが表示されます。

BAT は、Delete All 操作が成功したゲートウェイ数、およびその操作が失敗したゲートウェイ数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）を生成します。

**ステップ 4** このトランザクションのログ ファイルを開くには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。エラーの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

## ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

ここでは、次のゲートウェイ テンプレートで使用されるフィールドについて説明します。

- [Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-32\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS Ports テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-44\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 \(P.7-47\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 \(P.7-49\)](#)
- [T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 \(P.7-52\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(P.7-54\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 \(P.7-66\)](#)

### Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明

Gateway Directory Number テンプレートの値を追加または更新するときは、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもありません。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力オプションです。

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
Line Details (回線の詳細)	
Partition	電話番号が追加される先のパーティションを選択します。

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Directory Number Settings (電話番号の設定)</b>	
Voice Mail Profile	電話番号のボイス メッセージ フィールドを、デフォルトで電話番号と同じ値にするには、このチェックボックスをオンにします。つまり、コールは、その電話番号を呼び出すだけで、ボイス メッセージには進みません。
Calling Search Space	このグループの電話番号が属するコーリング サーチ スペースを選択します。  コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
<b>AAR 設定値</b>	
AAR Voice Mail	フィールドのこの列にある設定では、宛先に達するには不十分な帯域幅になっているコールの処理を指定します。これらのコールは、自動代替ルーティング (AAR) によって処理され、AAR Destination Mask または Voice Mail に転送されます。  Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。   <b>(注)</b> このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。
AAR Destination Mask	ダイヤルする AAR 宛先を決定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定を使用します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。  AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Keep Call History	<p>このフィールドで、コールの AAR 部分を Call Forwarding History に残すかどうかが決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- Remove this destination from the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残りません。</li> <li>- Retain this destination in the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残ります。</li> </ul>
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコール パークを開始したとき) に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
<b>Call Forward and Pickup Settings (Call Forward と Call Pickup の設定)</b>	
Forward All Voice Mail	<p>コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward All Destination フィールドと Forward All Calling Search Space ボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward All Destination	<p>すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward All Calling Search Space	<p>コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に、コールが転送される先の内部電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Voice Mail	<p>外線コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Coverage Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Voice Mail	<p>外線コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Coverage External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Unregistered Internal Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用しないで電話番号に転送される内部コールの転送処理を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <hr/> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージ システムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Forward Unregistered Internal Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <hr/> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト メニューから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <hr/> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Unregistered External Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用しないで電話番号に転送される外部コールの転送処理を指定します。次の値を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージ システムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Forward Unregistered External Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送したい場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered External Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。
Call Pickup Group	Pickup Group Name を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに回答することができます。
<b>Multilevel Precedence and Preemption Alternate Party Settings (マルチレベル優先順位およびプリエンプション代替パーティ設定)</b>	
Target (Destination)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。  値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。  Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Line Settings for This Device (このデバイスに対する回線設定)</b>	
Display (Internal Caller ID)	<p>このフィールドは、回線の着信表示に電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。半角カタカナを指定することができますが、着信側の電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないため、注意が必要です。</p>
External Phone Number Mask	この電話番号からコールを行うときに発信者 ID 情報用に送信される電話番号 (マスク) を 24 桁以下で入力します。
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示する必要がある名前を入力します。非共有電話番号の場合、アラート時には Display フィールドに入力された名前が使用されます。
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルートポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
<b>Forwarded Call Information Display for this Device (デバイスの転送コール情報の表示)</b>	
Caller Name	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトはこのチェックボックスはオンになっています。
Redirected Number	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Caller Number	転送されたコールの受信時に、表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Dialed Number	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトはこのチェックボックスはオンになっています。

### その他の情報

詳細については、P.7-68 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

## Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS Ports テンプレートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の FXS ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Device Information (デバイス情報)</b>	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット(たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース)を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。  コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング(AAR)の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコールパークを開始したとき) に再生される保留オーディオソースの音楽を選択します。
Location	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。</p>
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
Network Locale	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用する一連のトーンと断続周期を提供します。</p>
Gateway Directory Number Template Name	<p>POTS ポート タイプを追加しようとするときに、そのポートに電話番号を割り当てる場合は、Gateway Directory Number テンプレートを設定しておく必要があります。</p> <p>これらのポートに使用される Gateway Directory Number テンプレートを選択します。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information( マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)</b>	
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
MLPP Indication	このデバイスでは使用不可。
MLPP Preemption	このデバイスでは使用不可。
<b>Port Information (ポート情報)</b>	
Prefix DN	(オプション)着信コールで受信された数字に付加されるプレフィックス番号を指定します。
Num Digits	収集する数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有効数字をカウントします。
Expected Digits	トランクの着信側で必要な桁数を指定します。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) を使用してください。
SMDI Port Number (0-4096)	このフィールドはボイスメール システムに接続するアナログ アクセスポート用に使用します。  SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイスメール システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。
	 <b>(注)</b> ボイスメール システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクの値をテンプレート内で追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Device Information (デバイス情報)</b>	
Port Type	ポートのタイプ (Ground Start または Loop Start) を選択します。
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。  コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。  MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
Location	このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。  ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
Network Locale	このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。  Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用する一連のトーンと断続周期を提供します。
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)</b>	
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
<b>Port Information (ポート情報)</b>	
Port Direction	このポートを通過するコールの方向を指定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Inbound : 着信コールだけに使用。</li> <li>• Outbound : 発信コールに使用。</li> <li>• Both Ways : 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。</li> </ul>

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Attendant DN	着信コールを転送する先の電話番号を入力します。たとえば、0 は、オペレータです。

**Product-Specific Configuration (ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用)**

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Device Information (デバイス情報)</b>	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポートが属するデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット(たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース)を定義します。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Call Classification	ドロップダウン リスト ボックスで、on net、off net、または system default の中からデバイスの設定オプションを選択します。  デバイス レベルで「Use System Default」を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (on net) か外部 (off net) かが決定されます。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。  コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
Media Resource Group List	このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。  MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
Location	このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。  ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
Handle DTMF Precedence Signaling	このゲートウェイを有効にして、特殊 DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈させるには、このチェックボックスをオンにします。
Load Information	ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。  デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
Port Selection Order	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、TOP_DOWN を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• TOP_DOWN : 最初のポート (ポート 1) から最後のポートまで、降順にポートを選択します。</li> <li>• BOTTOM_UP : 最後のポートから最初のポート (ポート 1) まで、昇順にポートを選択します。</li> </ul>
Digit Sending	ダイヤルアウト方式に、次の数字送信タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DTMF : DTMF (通常のプッシュホンのダイヤル方式)。デフォルトでは、このタイプが選択されています。</li> <li>• MF : Multifrequency。</li> </ul>
Network Locale	このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用する一連のトーンと断続周期を提供します。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
SMDI Base Port	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。

**Product-Specific Configuration (製品固有の設定)**

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

**T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明**

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもありません。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はおプションです。

表 7-5 T1 CAS 用の E &amp; M ポートのフィールドの説明

フィールド	説明
<b>Port Details (ポートの詳細)</b>	
Port Direction	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Inbound：着信コールだけに使用。</li> <li>Outbound：発信コールに使用。</li> <li>Bothways：着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。</li> </ul>

表 7-5 T1 CAS 用の E &amp; M ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できるので、どの電話番号を送信するかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator : コールを発信したデバイスの電話番号を送信します。(デフォルト)</li> <li>• First Redirect Number : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• First Redirect Number (External) : リダイレクトするデバイスの外部電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number (External) : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの外部電話番号を送信します。</li> </ul>
Caller ID Type	<p>コールの着信側に表示される、発信者 ID のタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ANI : Automatic Number Identification。発信側の番号 (デフォルト)</li> <li>• DNIS : Dialed Number Identification Service。発信者がダイヤルした番号。</li> </ul>
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> <li>• 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> </ul>
Prefix DN	<p>着信コールで着信側番号に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、Num Digits の設定値にしたがって番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有効数字をカウントします。デフォルトは 4 です。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。不明な場合は、ゼロを使用してください。デフォルトは 4 です。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-5 T1 CAS 用の E &amp; M ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Product Specific Configuration (製品固有の設定)	
Signaling Type	トランク インターフェイス上の E & M プロトコル用のシグナリング タイプを選択します。Wink Start または Delay Dial。

## その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもありません。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
Device Information (デバイス情報)	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。  デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『 <i>Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド</i> 』を参照してください。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Call Classification	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、on net、off net、または system default からデバイスの設定オプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで「Use System Default」を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (on net) か外部 (off net) かが決定されます。</p>
Network Locale	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
Media Resource Group List	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
Location	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
Load Information	<p>ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p> <p>デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Interface Information (インターフェイス情報)</b>	
PRI Protocol Type	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PRI AUSTRALIAN : Australian ISDN</li> <li>• PRI EURO : European ISDN</li> <li>• PRI ISO QSIG E1 : European PBX 間シグナリング プロトコル</li> </ul> <p>T1 PRI スパンには、通信会社または交換機に応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PRI 4ESS : AT&amp;T 長距離通信会社、Lucent Definity 交換機</li> <li>• PRI 5E8 Custom : Cisco IP Phone、Nortel Meridian 交換機、Lucent Definity 交換機</li> <li>• PRI 5E8 Teleos : Madge Teleos ボックス</li> <li>• PRI 5E8 Intecom : Intecom PBX</li> <li>• PRI 5E9 : AT&amp;T 系の市内電話会社または通信会社</li> <li>• PRI NI2 : Sprint 市内電話会社または通信会社</li> <li>• PRI DMS-100 : Sprint 市内電話会社または通信会社</li> <li>• PRI DMS-250 : MCI および Sprint 市内電話会社または通信会社</li> <li>• PRI ETSI SC : T1 ベースの欧州市内電話会社、および日本の市内電話局</li> <li>• PRI ISO QSIG T1 : PBX 間シグナリング プロトコル</li> </ul>
Protocol Side	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続するか、User デバイスに接続するかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端が、逆の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときに、PBX がプロトコル側として User を使用する場合、このデバイスには Network を選択します。一般に、Central Office (CO) 接続には User を使用します。</p>

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり最初（最小番号のポート）から最後（最大番号のポート）の順か、最後から最初の順かを選択します。</p> <p>有効な入力値は、TOP_DOWN（最後から最初）または BOTTOM_UP（最初から最後）です。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、TOP_DOWN を選択してください（デフォルトは BOTTOM_UP）。</p>
Channel IE Type	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Number : B チャンネルの使用は、常にチャンネル マップ形式です。</li> <li>Slotmap : B チャンネルの使用は、常にスロットマップ形式です。</li> <li>Use Number When 1B : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルにはチャンネル マップですが、複数の B チャンネルが存在する場合は、スロットマップです（デフォルト）。</li> </ul>
PCM Type	<p>デジタル符号化フォーマットを指定します。次の形式のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a-law : ヨーロッパおよび下記以外の国で使用します。</li> <li>mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用します。</li> </ul>
Delay for First Restart	<p>(オプション) スパンが開始するレートを、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、システム上で多数の PRI スパンが使用可能になっているときに、Inhibit Restarts at PRI Initialization チェックボックスがオフになっている場合です（デフォルト値は 32）。</p> <p>たとえば、最初の 5 つのカードを 0 に設定し、次の 5 つのカードを 16 に設定します（カードが使用開始になるまで 2 秒待ちます）。</p>
Delay Between Restarts	<p>再起動間の間隔を、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合に、PRI RESTART が送信されるときです（デフォルト値は 4）。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Inhibit Restarts at PRI Initialization	再起動メッセージによって、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートが使用中であると想定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。  D チャンネルは、別の PRI トランクの D チャンネルと正常に接続されると、このチェックボックスがオフの場合は、Restart を送信します。
Enable Status Poll	Cisco CallManager の拡張サービス パラメータである「Change B-Channel Maintenance Status」を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このサービス パラメータによって B チャンネルがアクティブのときに個別の B チャンネルをサービスから除外できます。  「Change B-Channel Maintenance Status」サービス パラメータを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。  デフォルトではこのチェックボックスはオフになっています。
<b>Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information( マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)</b>	
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
<b>Call Routing Information - Inbound Calls ( コール ルーティング情報 : 着信コール)</b>	
Significant Digits	このフィールドは、PRI スパンが着信コールで保持しなければならない末尾の桁数を表します。Significant Digits ( 有効数字 ) が有効になっているトランクは、着信コールで提供されるアドレスの最後の数桁以外をすべて切り捨てます。  Significant Digits ( 有効数字 ) を収集するかどうかに応じて、このチェックボックスをオンまたはオフにします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てない。</li> <li>このチェックボックスをオンにする場合、収集する Significant Digits ( 有効数字 ) の桁数も選択する必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。</li> </ul>

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
AAR Calling Search Space	<p>デバイスが自動代替ルーティング(AAR)の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
Prefix DN	<p>(オプション)着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、Num Digits の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
<b>Call Routing Information - Outbound Calls (コールルーティング情報：発信コール)</b>	
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者電話番号を送信するか、ブロックするかを選択します。</p> <p>発信者回線番号の表示を変更しない場合は <i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が「Calling Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「Calling Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Originator：コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。この番号がデフォルト値です。</li> <li>• First Redirect Number：リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。</li> <li>• Last Redirect Number：コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。</li> </ul>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Number Type IE Unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が、発信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager: Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します(デフォルト)。</li> <li>• International: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• National: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul>
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco CallManager が、着信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager: Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。</li> <li>• International: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• National: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul>

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p data-bbox="419 284 960 311">着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p data-bbox="419 337 1247 581">Cisco CallManager が、着信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p data-bbox="419 607 960 634">次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul data-bbox="419 660 1247 953" style="list-style-type: none"><li data-bbox="419 660 1247 688">• CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定します。</li><li data-bbox="419 698 1247 758">• ISDN : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。</li><li data-bbox="419 768 1247 828">• National Standard : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。</li><li data-bbox="419 837 1247 898">• Private : プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。</li><li data-bbox="419 907 1247 953">• Unknown : ( オプション ) ダイヤル計画が不明です。</li></ul>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が、発信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• CallManager: Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定します。</li> <li>• ISDN: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• National Standard: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• Private: プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。</li> <li>• Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。</li> </ul>
Number of Digits to Strip	<p>発信コールに関して除去する桁数を、0 ~ 32 で選択します (デフォルト値は 0)。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルし、除去する桁数が 3 であるとし、この例では Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> <li>• 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。</li> </ul>
SMDI Base Port	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>PRI Protocol Type Specific Information ( PRI プロトコル タイプに固有の情報)</b>	
Display IE Delivery	(オプション)発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) の通知を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
Redirecting Number IE Delivery—Outbound	(オプション)コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。  この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。
Redirecting Number IE Delivery—Inbound	(オプション)コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。  この設定値は、デジタル アクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。
Send Extra Leading Character in DisplayIE	DisplayIE フィールドに特殊先頭文字バイト (非 ASCII 文字、表示不能) を含めるには、このチェックボックスをオンにします。  DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外するには、このチェックボックスをオフにします。  このチェックボックスは DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルだけに適用します。  デフォルトでは、このフィールドは無効 (オフ) になっています。

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Setup of Non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>(オプション)一部の PBX 上でリングバックを強制するには、このフィールドに値を指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。ユーザが発信コールでリングバック音を受信しない場合だけ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> <p>この設定値が使用可能である場合、Cisco CallManager は、Q.931 セットアップメッセージを、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル (つまり、非 H.323 ) ゲートウェイに送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスが帯域内呼び出し音を再生しなければならないことを、宛先デバイスに知らせます。</p> <p>通常、この問題は、デジタル ゲートウェイを介して PBX に接続する Cisco CallManager に関連しています。</p>
MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
Send Calling Name in Facility IE	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。
Interface Identifier Present	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
Interface Identifier Value	このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager が着信側電話番号の表示を許可するか、ブロックするかを選択します。</p> <p>着信回線番号の表示を変更しない場合は <i>Default</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が「Connected Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「Connected Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Connected PBX Model	<p>このゲートウェイが通信する構内交換機 (PBX) または VoIP スイッチのタイプおよびモデルを選択します。</p> <p>このフィールドは QSIG プロトコルを使用するゲートウェイだけに適用します。</p> <p>オプションは次を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Siemens Hicom</li> <li>• Ericsson MD-110</li> <li>• Alcatel PBX</li> <li>• Meridian Option 11C</li> <li>• Lucent Definity G3</li> <li>• IPC MX</li> <li>• Cisco CallManager (CCM)</li> </ul>
<b>UUIE Configuration (UUIE 設定)</b>	
Passing Precedence Level Through UUIE	<p>PRI 4ESS UUIE フィールドを使用した MLPP 情報の受け渡しを可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチの操作に使用されます。</p> <p>このチェックボックスは、このゲートウェイで PRI Protocol Type 値に PRI 4ESS が指定されている場合にだけ使用可能になります。</p> <p>デフォルト値では、このチェックボックスはオフになっています。</p>
Security Access Level	<p>セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。このフィールドは、Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスがオンの場合にだけ使用可能になります (デフォルト値は 2)。</p>

## ■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
<b>Product-Specific Configuration (製品固有の設定)</b>	
Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、 <b>Product Specific Configuration</b> 見出しの右側にある <b>i</b> 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。	

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

**Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明**

Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ アナログ インターフェイス モジュール上の FXS ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-7 Cisco Catalyst 6000 モジュール上の FXS ポートのフィールドの説明

フィールド	説明
Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Name	テンプレートの名前を 50 文字以下の英数字で入力します。
Port Direction	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Inbound：着信コールだけに使用。</li> <li>Outbound：発信コールに使用。</li> <li>Both Ways：着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。</li> </ul>

表 7-7 Cisco Catalyst 6000 モジュール上の FXS ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Prefix DN	着信コールで受信された数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。
Num Digits	収集する数字の桁数を 0 ~ 32 で入力します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有効数字をカウントします。
Expected Digits	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。不明な場合は、ゼロを使用してください。
SMDI Port Number	SMDI ポート番号を入力します。アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号を使用してください。

**Product Specific Configuration (製品固有の設定)**

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理 \(P.7-2\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(P.7-3\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの削除 \(P.7-20\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理 \(P.7-22\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加 \(P.7-23\)](#)
- [Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新 \(P.7-29\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除 \(P.7-31\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-32\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)



# Client Matter Codes と Forced Authorization Codes の一括処理

Forced Authorization Codes (FAC) と Client Matter Codes (CMC) を使用すると、コールへのアクセスとアカウントिंगを管理できます。CMC は、課金可能なクライアントに対するコール アカウントिंगと課金を支援し、FAC は特定のユーザが発信できるコールのタイプを規定します。

CMC を使用すると、コールが特定のクライアント マターに関連していることを示すコードを入力するように強制されます。CMC は、コール アカウントिंगや課金を目的として、顧客や学生、またはその他の個人に対して割り当てることができます。FAC 機能を使用すると、コールを完了する前に有効な認証コードを入力するように強制されます。

CMC 機能と FAC 機能を使用するには、ルートパターンを変更し、各ルートパターンに対する FAC や CMC の有効化または無効化を反映するようにダイヤルブランドキュメントを更新する必要があります。

この章は、次の内容で構成されています。

- [CMC および FAC の設定チェックリスト \(P.8-3\)](#)
- [BAT の重要な考慮事項 \(P.8-4\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.8-6\)](#)
- [テキストエディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データ ファイルの作成 \(P.8-8\)](#)

- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.8-9)
- コードの設定の削除 (P.8-11)
- CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.8-15)
- BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新 (P.8-17)

## CMC および FAC の設定チェックリスト

表 8-1 は、BAT を使用して CMC と FAC を実装する手順を示しています。

表 8-1 Cisco CMC および FAC の設定チェックリスト

設定手順	関連する手順とトピック
<b>ステップ 1</b> BAT に関する重要情報、および CMC 機能と FAC 機能の概要を確認します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT の重要な考慮事項 (P.8-4)</li> <li>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</li> </ul>
<b>ステップ 2</b> CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC と FAC の設定情報を入力します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 (P.8-6)</li> <li>テキスト エディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データ ファイルの作成 (P.8-8)</li> <li>CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 (P.8-15)</li> </ul>
<b>ステップ 3</b> Cisco CallManager データベースを更新するために CSV ファイルを BAT に挿入します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新 (P.8-17)</li> <li>Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定 (P.8-19)</li> </ul>
<b>ステップ 4</b> Cisco CallManager Administration でルート パターンを追加または更新して、FAC または CMC を有効にします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド</li> <li>Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド</li> </ul>
<b>ステップ 5</b> ダイアル プラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイアル プラン ドキュメントとともに保管します。	ダイアル プラン ドキュメントを参照
<b>ステップ 6</b> ユーザに対して、コードなどの必要な情報をすべて提供し、機能の内容を説明します。	Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド

## BAT の重要な考慮事項

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認します。

- CMC と FAC で別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルにこの 2 つの機能を混在させないでください。
- CMC または FAC の設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- CMC または FAC の設定を更新、削除、または追加する（初めての追加ではない）場合は、既存の CSV ファイルを編集するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のコード（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各コード（およびそれに対応する設定値）に 1 行を指定します。たとえば、FAC 用のコードを入力する場合は、次の形式になります。

( Authorization Code, Authorization Code Name, Authorization Level )

1234,John Smith,20

1235,Lisa Mendez,10

5551,Debbie Dunn,30

- 既存の CSV ファイルで新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。新規コードを追加する場合は、すべての必須フィールド（たとえば、Forced Authorization Code、Authorization Code Name、Authorization Level、Client Matter Code など）を入力する必要があります。手順で特定のエントリが必須として指定されている場合は、ファイルにその情報を指定する必要があります。
- ファイルから情報を削除して情報を空白にしても、その情報は Cisco CallManager データベースから削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- パブリッシャ データベース サーバで、BAT は、C:\BATFiles\CMC\Insert と C:\BATFiles\FAC\Insert のように、CMC と FAC に個別のディレクトリを指定します。該当する CSV ファイルを正しいディレクトリにコピーするようにしてください。

- CSV ファイルは、BAT が特定の操作用に指定するディレクトリに保存する必要があります。たとえば、認証コードの設定を削除する場合は、CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの C:\BATFiles\FAC\Delete にコピーする必要があります。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、[P.8-17 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

### その他の情報

詳細については、[P.8-20 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用して CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルはパブリッシャ データベース サーバにありますが、通常、パブリッシャ データベース サーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、パブリッシャ データベース サーバからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** パブリッシャ データベース サーバで、C:\CiscoWebs\BAT\ExcelTemplate を参照します。
- ステップ 3** BAT.xlt を Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにコピーします。
- ステップ 4** Microsoft Excel で BAT.xlt を開きます。



**ヒント** 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

- ステップ 5** 次のタブのいずれかをクリックします。
  - **Insert CMC** : CMC 用の CSV ファイルを作成する場合
  - **Insert FAC** : FAC 用の CSV ファイルを作成する場合
- ステップ 6** 表 8-2 に従って、各カラムに CMC または FAC の設定値を入力します。
- ステップ 7** ステップ 6 を繰り返し、すべてのコードを入力します。

**ステップ 8** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、**Export to BAT Format** をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカル マシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。別のロケーションを選択するには、**Browse** をクリックします。

**ステップ 9** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの次のディレクトリにコピーします。

- CMC の場合 : C:\BATFiles\CMC\Insert
- FAC の場合 : C:\BATFiles\FAC\Insert

**ステップ 10** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.8-17 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.8-20 の「関連項目」](#)を参照してください。

## テキスト エディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データ ファイルの作成

値がコンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、コンマ区切り値 (CSV) データ ファイルを作成することができます。コンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与られます。Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースの CSV データ ファイルの詳細については、[P.A-34 の「Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.8-20 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、Notepad で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、または Notepad で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** 以前にコードを挿入した既存の CSV ファイルを編集するには、パブリッシャーデータベースサーバの次のディレクトリを参照します。

- CMC の場合 : C:\BATFiles\CMC\Insert
- FAC の場合 : C:\BATFiles\FAC\Insert

**ステップ 2** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集します。表 8-2 のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コードの追加、または既存の設定の更新を行います。

CMC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は必須の Client Matter Code、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。

FAC 用 CSV ファイルを更新する場合は、たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。



### 注意

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な FAC や CMC などは必ず含めなければなりません。情報を削除したり空白にしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、空白の値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

## ■ 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集

**ステップ 3** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの次のディレクトリにコピーします。

- CMC の追加または更新の場合：C:\BATFiles\CMC\Insert
- CMC の削除の場合：C:\BATFiles\CMC>Delete
- FAC の追加または更新の場合：C:\BATFiles\FAC\Insert
- FAC の削除の場合：C:\BATFiles\FAC>Delete

**ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.8-17 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)を参照してください。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.8-20 の「関連項目」](#)を参照してください。

## コードの設定の削除

システムからコードを削除するには、削除対象のコードが含まれるカスタム ファイルを使用します。以前に認証コードを挿入または更新したカスタム ファイルを編集するか、または、新規の CSV ファイルを作成して削除対象のコードを手動で入力することができます。

既存の CSV ファイルを編集する場合は、削除対象のコードが含まれる行だけを残すようにファイルを更新する必要があります。

### CMC の例（既存の CSV ファイル）

次の情報が含まれるファイルを取得し、CMC 5550、5551、および 5555 を削除します。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5552,Happy Pharmaceuticals
- 5553,Weddings by Joyce
- 5554,Peterson Plumbing
- 5555,Acme Toys
- 5556,Chicago Paralegals

エントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5555,Acme Toys

### CMC の例（新規の CSV ファイル）

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

5550

5551

5555

## ■ コードの設定の削除

**FAC の例 (既存の CSV ファイル)**

次の情報が含まれるファイルを取得し、John、Dave、および Bill に割り当てられている認証コードを削除するとします。

- 1233,Sandy Brown,30
- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1236,John David,20
- 1237,Alex Anderson,30
- 1238,Bill Jones,20
- 1239,Jennifer Summers,20

John、Dave、および Bill のエントリを削除するには、次のように削除対象のエントリだけをファイルに残します。

- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1238,Bill Jones,20

**FAC の例 (新規の CSV ファイル)**

新規ファイルを作成してコードを削除する場合は、次のように各行にコードだけをリストします。

1234

1235

1238

複数のコードを一括して削除するには、次の手順を実行します。

**手順**

---

**ステップ 1** 次のタスクのいずれかを実行します。

- 削除対象のコード用に新規ファイルを作成する場合 (P.8-11 の「[CMC の例 \(新規の CSV ファイル\)](#)」および P.8-12 の「[FAC の例 \(新規の CSV ファイル\)](#)」を参照) は、CSV ファイルを BAT に挿入した後に、[ステップ 4 ~ ステップ 11](#) を参照してください。

- 既存の CSV ファイルから既存のコードを削除する場合は、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 11](#) を参照してください。

**ステップ 2** パブリッシャ データベース サーバで、次のディレクトリを参照します。

- CMC の場合：C:\BATFiles\CMC\Insert
- FAC の場合：C:\BATFiles\FAC\Insert

**ステップ 3** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集し、エントリを削除します。

**ステップ 4** CSV ファイルを保存し、パブリッシャ データベース サーバの次のディレクトリにコピーします。

- CMC の場合：C:\BATFiles\CMC\Delete\
- FAC の場合：C:\BATFiles\FAC\Delete\

**ステップ 5** Client Matter Code ( CMC ) と Forced Authorization Code ( FAC ) のどちらを削除するかに応じて、BAT で次のオプションのいずれかを選択します。

- CMC の場合：Configure > Client Matter Codes
- FAC の場合：Configure > Forced Authorization Codes

**ステップ 6** Client Matter Code ( CMC ) と Forced Authorization Code ( FAC ) のどちらを削除するかに応じて、次のオプションのいずれかを選択します。

- CMC の場合：Delete Client Matter Codes
- FAC の場合：Delete Forced Authorization Codes

**ステップ 7** ドロップダウン リスト ボックスからカスタム ファイルを選択して、Add to Query をクリックします。

**ステップ 8** システムによって削除されるレコードを表示するには、View Query Result をクリックします。ファイルに目的のレコードが含まれていない場合は、Clear Query をクリックして[ステップ 1](#)に戻ります。

## ■ コードの設定の削除

**ステップ 9** ファイルに削除対象のレコードが含まれている場合は、**Delete** をクリックします。

**ステップ 10** 確認のダイアログボックスに、処理の所要時間が表示されます。**OK** をクリックします。



---

**ヒント** 処理の進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。

---

**ステップ 11** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックしてログ ファイルを表示し、すべてのファイルが正常に追加されたかどうかを確認します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.8-20](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値

次の各項と表 8-2 を併せて参照してください。

- [BAT.xlt](#) を使用した CSV ファイルの作成 (P.8-6)
- テキストエディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データファイルの作成 (P.8-8)
- 既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 (P.8-9)
- コードの設定の削除 (P.8-11)

表 8-2 CMC および FAC の設定値

設定 / カラム	説明
<b>For CMC CSV file (CMC 用 CSV ファイル)</b>	
Client Matter Code	ユーザがコールを発信するときに入力する 16 桁以内の固有のコードを入力します。CMC は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
Description	50 文字以内の名前を入力します。このフィールドでは & (アンパーサンド) も使用できます。このオプションのフィールドは、クライアントコードとクライアントの関連付けに役立ちます。
<b>For FAC CSV File (FAC 用 CSV ファイル)</b>	
Authorization Code	16 桁以内の固有の認証コードを入力します。ユーザは FAC 対応のルートパターンでコールを発信するときこのコードを入力します。

表 8-2 CMC および FAC の設定値 (続き)

設定 / カラム	説明
Authorization Code Name	<p>50 文字以内の固有の名前を入力します。この認証コード名は、認証コードを特定のユーザまたはユーザのグループに結び付けます。この名前は、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。</p> <p> <b>ヒント</b> システム内のすべてのユーザに認証コードを割り当てる場合は、コード名にユーザの識別情報を含めるようにしてください。この識別情報には、ユーザ名やその他の機密性のない固有の識別情報（たとえば、電子メールのエイリアス、社員番号、学生番号）などを使用してください。認証コード名は CDR に書き込まれ、安全でないため、社会保障番号などの識別情報は使用しないでください。</p>
Authorization Level	<p>0 ~ 255 の範囲内の 3 桁の認証レベルを入力します (デフォルトは 0)。認証コードに割り当てるレベルによって、ユーザが FAC 対応のルート パターンでコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザの認証レベルがそのコールのルート パターンに指定された認証レベル以上である必要があります。</p>

**その他の情報**

詳細については、[P.8-20](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新

Cisco CallManager データベースを更新するには、BAT に CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco CallManager を更新する前に、CMC 用または FAC 用の CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

### 手順

**ステップ 1** CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、BAT で次のいずれかのオプションを選択します。

- CMC の場合：**Configure > Client Matter Codes**
- FAC の場合：**Configure > Forced Authorization Codes**

**ステップ 2** CMC 用と FAC 用のどちらの CSV ファイルを使用したかに応じて、次のいずれかのオプションを選択します。

- CMC の場合：**Insert Client Matter Codes**
- FAC の場合：**Insert Forced Authorization Codes**

**ステップ 3** File Name ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたコードが含まれる CSV ファイルを選択します。



**ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、**View File** をクリックします。

**ステップ 4** 既存のコードのリストを更新した場合は、[表 8-3](#) で説明されているように、**Override the existing configuration** チェックボックスをオンにします。

**ステップ 5** **Insert** をクリックします。

**ステップ 6** 確認のダイアログボックスに、処理の所要時間が表示されます。OK をクリックします。



**ヒント** 処理の進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。

**ステップ 7** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックしてログ ファイルを表示し、すべてのファイルが正常に追加されたかどうかを確認します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.8-20 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定

P.8-17 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」と表 8-3 を併せて参照してください。

表 8-3 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
Field Name	ドロップダウン リスト ボックスから、挿入する CMC ファイルまたは FAC ファイルを選択します。
Override the existing configuration	<p>このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、既存の認証コード名 (FAC)、認証レベル (FAC)、または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の認証コードと CMC は変更されません)。このチェックボックスをオンにしないと、該当の認証コードまたは CMC がすでに存在することを示すエラーがログ ファイルに書き込まれ、更新は行われません。</p> <p> (注) Override the existing configuration チェックボックスをオンにした場合でも、更新されたファイルに含まれる新規コードは挿入されます。</p>

### その他の情報

詳細については、P.8-20 の「関連項目」を参照してください。

## 関連項目

- [CMC および FAC の設定チェックリスト \(P.8-3\)](#)
- [BAT の重要な考慮事項 \(P.8-4\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.8-6\)](#)
- [テキストエディタを使用した Client Matter Codes および Forced Authorization Codes の CSV データ ファイルの作成 \(P.8-8\)](#)
- [既存の CMC 用または FAC 用の CSV ファイルの編集 \(P.8-9\)](#)
- [コードの設定の削除 \(P.8-11\)](#)
- [CMC 用および FAC 用の CSV ファイルの設定値 \(P.8-15\)](#)
- [Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド](#)
- [Cisco CallManager 機能およびサービス ガイド](#)



# コール ピックアップ グループ の使用方法

---

コール ピックアップ グループを使用すると、該当するピックアップ グループ番号をダイヤルしたときに、自分のグループ内またはその他のグループ内の着信コールを受けることができます。

この章は、次の内容で構成されています。

- [BAT の重要な考慮事項 \( P.9-2 \)](#)
- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \( P.9-3 \)](#)
- [テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データファイルの作成 \( P.9-4 \)](#)
- [既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集 \( P.9-5 \)](#)
- [クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除 \( P.9-7 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ CSV ファイルの設定値 \( P.9-9 \)](#)
- [BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新 \( P.9-11 \)](#)
- [Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定 \( P.9-13 \)](#)

## BAT の重要な考慮事項

BAT を使用してコールピックアップグループを設定する前に、次の情報を確認します。

- コールピックアップグループの設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt を使用して CSV ファイルを作成するか、カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成することができます。
- コールピックアップグループの設定を更新するには、既存の CSV ファイルを編集するか、テキストベースのカスタム CSV ファイルを作成します。
- ファイルおよびスプレッドシートでは、1 行に 2 つ以上のピックアップグループ名（およびそれに対応する設定値）を入力しないでください。各ピックアップグループ名（およびそれに対応する設定値）を 1 行に指定します。たとえば、ピックアップグループの情報を入力する場合は、次の形式になります
  - (Pickup Group Name, Pickup Group Number, Partition, Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10)
  - Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
- 新規ピックアップグループを追加する場合は、ピックアップグループ名、ピックアップグループ番号、パーティションなど、必要なすべてのフィールドに入力する必要があります。手順で特定のエントリが必須として指定されている場合は、ファイルにその情報を指定する必要があります。
- ファイルから情報を削除して情報を空白にしても、その情報は Cisco CallManager データベースから削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。データベース内の既存の値は、値を更新すると上書きされます。
- パブリッシュ データベース サーバでは、BAT によってコールピックアップグループのディレクトリ C:\BatFiles\CPG\Insert\ が用意されています。該当する CSV ファイルを正しいディレクトリにコピーするようにしてください。
- CSV ファイルを作成または変更する際には、[P.9-11 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)で説明されているように、必ずその CSV ファイルを BAT に挿入する必要があります。

### その他の情報

詳細については、[P.9-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

## BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成

BAT.xlt を使用してコールピックアップグループ用の CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルはパブリッシャ データベース サーバにありますが、通常、パブリッシャ データベース サーバには Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、パブリッシャ データベース サーバからこのファイルをコピーして、Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに移動する必要があります。
- ステップ 2** パブリッシャ データベース サーバで、C:\CiscoWebs\BAT\ExcelTemplate を参照します。
- ステップ 3** BAT.xlt を Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンにコピーします。
- ステップ 4** Microsoft Excel で BAT.xlt を開きます。
- ステップ 5** Call Pickup Group タブをクリックします。
- ステップ 6** 表 9-1 に従って、各カラムにコールピックアップグループの設定値を入力します。
- ステップ 7** ステップ 6 を繰り返し、すべてのピックアップグループを入力します。
- ステップ 8** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに変換するために、Export to BAT Format をクリックします。

CSV ファイルが自動的にローカルマシンの C:\XlsDatafiles に保存されます。CSV ファイルの保存場所として別のロケーションを選択する場合は、Browse をクリックして希望のロケーションを選択します。

## ■ テキストエディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データファイルの作成

- ステップ 9** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの C:\BatFiles\CPG\Insert\ ディレクトリにコピーします。
- ステップ 10** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.9-11 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)を参照してください。
- 

**その他の情報**

詳細については、[P.9-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

## テキストエディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データファイルの作成

値がコンマで区切られた ASCII テキストを複数行使用して、コンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成することができます。コンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報は表形式で与えられます。コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルの詳細については、[P.A-38 の「コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルの作成」](#)を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.9-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 既存のコールピックアップグループ CSV ファイルの編集

既存のコードを更新する場合は、Notepad で既存の CSV ファイルを手動で更新するか、または Notepad で新規のファイルを作成します。

次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** コールピックアップグループを挿入した、既存の CSV ファイルを編集するには、パブリッシャ データベース サーバの C:\BatFiles\CPG\Insert\ ディレクトリを参照します。
- ステップ 2** Notepad で既存の CSV ファイルを開いて編集します。表 9-1 のテキストベースの表現を使用して、既存の設定の削除、新規コールピックアップグループの追加、または既存の設定の更新を行います。

コールピックアップグループの CSV ファイルを更新するには、たとえば、Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training と入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップグループ名、7815 は必須のピックアップグループ番号です。Part1 はパーティション、Marketing、Managers、および Training はピックアップグループ Marketing に関連するその他のピックアップグループ名です。



### 注意

新規コードの追加やコールピックアップグループの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードのどの部分でも変更できますが、ピックアップグループ名とピックアップグループ番号を組み込む必要があります。情報を削除したり空白にしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、空白の値では上書きされませんが、前述の例にある値を Sales from Marketing などに更新すると上書きされます。

- ステップ 3** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの C:\BatFiles\CPG\Insert\ ディレクトリにコピーします。

## ■ 既存のコール ピックアップ グループ CSV ファイルの編集

- ステップ 4** CSV ファイルを BAT に追加します。CSV ファイルを BAT に挿入する方法については、[P.9-11 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)を参照してください。
- 

**その他の情報**

詳細については、[P.9-14 の「関連項目」](#)を参照してください。

## クエリーを使用したコールピックアップグループの削除

コールピックアップグループを削除するには、クエリーを作成して、削除するピックアップグループレコードを見つけます。

コールピックアップグループを削除するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** BAT で、**Configure > Pickup Group** を選択します。
- ステップ 2** Pickup Group Options ウィンドウで **Delete Pickup Groups** を選択して、**Next** をクリックします。Delete Pickup Groups ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 最初の Select Pickup Groups Where ドロップダウン リスト ボックスで、Pickup Group Number、Pickup Group Name、または Partition などクエリー用のフィールドを選択します。
- ステップ 4** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、ends with、is exactly、not equal to、is not empty、または is empty などの検索基準を選択します。
- ステップ 5** 検索フィールド テキスト ボックスで、検索する値（リストのコールピックアップグループ名など）を選択するか、入力します。
- ステップ 6** Add To Query をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 7** 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、[ステップ 3](#) ~ [ステップ 6](#) を繰り返します。
- ステップ 8** View Query Results をクリックして、クエリーが必要な結果をもたらすことをチェックします。



**(注)** 削除するコールピックアップグループを正しく選択したことを確認してください。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

## ■ クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 3](#) からやり直します。

**注意**

クエリー テキストボックスに情報を何も入力しないと、すべてのピックアップグループレコードが削除されます。削除は最終的な操作なので、削除したレコードは復元できません。

**ステップ 9** **Delete** をクリックすると、レコードが削除されます。

**ステップ 10** Cisco CallManager データベースからレコードを削除するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

**ステップ 11** BAT が生成したログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、削除された電話機数と失敗したレコード数 (エラー コードを含む) が示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#) を参照してください。

**その他の情報**

詳細については、[P.9-14 の「関連項目」](#) を参照してください。

## コールピックアップグループ CSV ファイルの設定値

次の各項と表 9-1 を併せて参照してください。

- [BAT.xlt](#) を使用した CSV ファイルの作成 (P.9-3)
- [テキスト エディタ](#) を使用したコールピックアップグループ用の CSV データファイルの作成 (P.9-4)
- [既存のコールピックアップグループ CSV ファイルの編集](#) (P.9-5)
- [クエリーを使用したコールピックアップグループの削除](#) (P.9-7)

表 9-1 コールピックアップグループの設定値

設定 / カラム	説明
<b>For CPG CSV file (CPG 用 CSV ファイル)</b>	
Pickup Group Name	この必須フィールドには、50 文字以内のコールピックアップグループ名を入力します。
Pickup Group Number	この必須フィールドには、ユーザが着信コールを受ける際に入力する、24 桁以内のピックアップグループ番号を入力します。
Partition	<p>電話番号が属するルートパーティションを選択します。</p> <p> (注) 電話番号は複数のパーティションに現れる可能性があります。</p> <p> (注) Pickup Group Number と Partition の組み合わせは固有である必要があります。</p> <p>このフィールドはオプションです。</p>

## ■ コールピックアップグループ CSV ファイルの設定値

表 9-1 コールピックアップグループの設定値 (続き)

設定 / カラム	説明
Other Pickup Group Name-Member(x)	<p data-bbox="615 284 1245 456">新規ピックアップグループに関連付けるその他のピックアップグループの名前を入力します。このオプションフィールドでは、各ピックアップグループをその他の10のピックアップグループと関連付けることができます。</p> <p data-bbox="615 483 1245 656">  <b>(注)</b> このピックアップグループをその他のピックアップグループと関連付ける際には、その他のピックアップグループリストに必ず指定してください。 </p>

## その他の情報

詳細については、P.9-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新

Cisco CallManager データベースを更新するには、BAT にコールピックアップグループ用の CSV ファイルを挿入する必要があります。データベースを更新するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco CallManager を更新するには、コールピックアップグループ用の CSV ファイルを作成または編集し、パブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\CPG\Insert\ に保存する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ 1** BAT で、**Configure > Pickup Group** を選択します。
  - ステップ 2** Pickup Group Options ウィンドウで **Insert Pickup Groups** を選択して、**Next** をクリックします。Insert Pickup Groups ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 3** **File Name** ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたピックアップグループが含まれる CSV ファイルを選択します。



---

**ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、**View File** をクリックします。

---

- ステップ 4** 既存のピックアップグループのリストを更新した場合は、[表 9-2](#) で説明されているように、**Override the existing configuration** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** **Insert** をクリックします。
- ステップ 6** 確認のダイアログボックスに、処理の所要時間が表示されます。**OK** をクリックします。



---

**ヒント** 処理の進行状況を表示するには、**Show Latest Status** ボタンをクリックします。

---

**ステップ7** トランザクションが完了したら、**View Latest Log File** をクリックしてログ ファイルを表示し、すべてのファイルが正常に追加されたかどうかを確認します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.9-14](#) の「**関連項目**」を参照してください。

# Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定

P.9-11 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」と表 9-2 を併せて参照してください。

表 9-2 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定

BAT の設定	説明
Field Name	ドロップダウン リスト ボックスから、挿入するコールピックアップファイルを選択します。
Override the existing configuration	<p>このチェックボックスは、既存の設定のコードを更新する場合に適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、挿入するファイルに含まれている情報が Other Pickup Group Name-Member に上書きされます。このチェックボックスをオンにしないと、該当するその他のピックアップグループ名がすでに存在することを示すエラーが、ログファイルに書き込まれ更新されません。</p> <p> (注) ピックアップグループごとに、Pickup Group Number と Partition の組み合わせが固有であることを確認します。</p> <p> (注) ピックアップグループを更新する際、Pickup Group Number と Partition の値は無視され、既存の Other Pickup Groups は関連付けを解除されません。</p>

表 9-2 CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (続き)

BAT の設定	説明
<b>コールピックアップグループ通知設定</b>	
Call Pickup Group Notification Policy	ドロップダウン リスト ボックスで、次の通知タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• No Alert</li> <li>• Audio Alert</li> <li>• Visual Alert</li> <li>• Audio and Visual Alert</li> </ul>
Call Pickup Group Notification Timer	もとの着信側にコールが到着した時刻と、残りのコールピックアップグループへの通知が発生した時刻との間の遅延秒数 (1 ~ 300 の間の整数) を入力します。

### その他の情報

詳細については、P.9-14 の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [BAT.xlt を使用した CSV ファイルの作成 \(P.9-3\)](#)
- [テキスト エディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データファイルの作成 \(P.9-4\)](#)
- [既存のコールピックアップグループ CSV ファイルの編集 \(P.9-5\)](#)
- [コールピックアップグループ CSV ファイルの設定値 \(P.9-9\)](#)
- [クエリーを使用したコールピックアップグループの削除 \(P.9-7\)](#)
- [Cisco CallManager データベースを更新する場合の BAT の設定 \(P.9-13\)](#)



# エクスポート ユーティリティ の使用方法

システム管理者には、部門の異動、再編成、または機器のアップグレードのために、別の Cisco CallManager データベースに大量の電話機レコードを移動する機能が必要です。BAT のエクスポート ユーティリティには、大量の電話機、ユーザ、およびユーザ デバイス プロファイルの各レコードを Cisco CallManager データベースからデータ ファイルに CSV 形式でエクスポートする機能があります。さらに、そのレコードを別の Cisco CallManager データベースにインポートできます。テキスト エディタで CSV データ ファイルを編集できますが、このファイルは非常に複雑なので注意して編集する必要があります。

BAT で電話機レコードを Cisco CallManager データベースからエクスポートする場合には、電話機のモデルとモデルの回線の数データがデータを構成する基礎となります。BAT データ ファイルには、1 つの電話機モデルのレコードだけが必要であることに注意してください。Export Specific Details オプションを使用する場合、BAT は 1 回線の電話機モデルの別個のデータ ファイルを生成し、2 回線の同じ電話機モデルについては別のデータ入力ファイルを生成します。

管理者をエクスポート機能によって支援するために、Device Summary Report には、Cisco CallManager データベース内のすべての電話機モデルと設定済み回線のスナップショット ビューが用意されています。

## その他の情報

詳細については、[P.10-21 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動

エクスポート ユーティリティを使用すると、複数の Cisco CallManager サーバ上のレコードを 1 台の Cisco CallManager サーバにマージできます。Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバにレコードを移動する手順は、次のとおりです。エクスポートするのは、移動の対象となるレコードだけにしてください。次の手順を実行します。

1. ユーザレコードのエクスポート (P.10-13)
2. 電話機レコードのエクスポート (P.10-7)
3. ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート (P.10-18)
4. (オプション) テキスト エディタでの CSV ファイルの編集。レコード形式は、そのファイル形式に指定された形式に従っている必要があります。たとえば、電話機レコードは電話機ファイル形式に従っている必要があります。



### 注意

CSV ファイルを編集するときは、十分に注意してください。誤った形式でレコードを挿入すると、電話機が動作しない場合があります。

5. CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバ上の適切なフォルダにコピーします。
  - 電話機ファイルを C:\BATFiles\Phones\Insert フォルダに
  - ユーザ ファイルを C:\BATFiles\Users\Insert Users フォルダに
  - ユーザデバイスプロファイル ファイルを C:\BATFiles\User Device Profiles フォルダに



### 注意

レコードの挿入順序は、重要な意味を持っています。ユーザレコードを最初に挿入する必要があります。この方法によって、既存ユーザに対して、デバイスが適切に関連付けられます。

6. ユーザレコードを挿入します。エクスポートされなかった次のアトリビュートを設定します。
  - Enable authentication proxy rights
  - Enable CTI Application usage
  - Call Park Retrieval Allowed
  - Enable Calling Party Number modification
7. 電話機レコードを挿入します。
8. ユーザデバイスプロファイルレコードを挿入します。
9. ログファイルでエラーをチェックします。詳細については、[P.10-20 の「エクスポート ログ ファイルの表示」](#)を参照してください。

#### その他の情報

詳細については、[P.10-21 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話機エクスポートの使用法

電話機レコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式オプションから選択できます。

**Default Phone** : 同様の設定の電話機の場合。

**All Phone Details** : 複数パーティションやコーリングサーチスペースなどの、回線設定の異なる電話機の場合。

### Default Phone ファイル形式

Default Phone ファイル形式を選択した場合は、定義済みクエリーを使用してレコードをエクスポートできます。定義済みクエリーを使用してエクスポートする場合、エクスポートできる電話機レコードは、一定数の回線を持つ特定の電話機タイプに関するものだけです。たとえば、1 回線を持つ Cisco IP Phone Model 7960 のレコードをいくつかエクスポートし、2 回線を持つ Cisco IP Phone Model 7960 のレコードをいくつかエクスポートする場合は、異なる 2 つのクエリーを使用する必要があります。結果として得られる CSV ファイルも、2 つの別個のファイルになります。

表 10-1 に、Default Phone ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 10-1 Default Phone ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	MAC Address、Description、Location
回線フィールド	Directory Number、Display、Line Text Label、Forward Busy External、Forward Busy Internal、Forward No Answer Internal、Forward No Answer External、Forward No Coverage Internal、Forward No Coverage External、Call Pickup Group
ユーザ フィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dials

### All Phone Details ファイル形式

All Phone Details オプションを使用して電話機レコードをエクスポートする場合は、特定モデルの電話機の電話機レコードをエクスポートすることになります。すべてのデバイス フィールド情報、各種の回線アトリビュート、および電話機に関連付けられているサービスがエクスポートされます。クエリーを使用してレコード数を制限することはできません。

表 10-2 に、All Phone Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。



(注) All Phone Details ファイル形式を使用してエクスポートする場合は、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。

表 10-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイス フィールド	Device Name、Description、Owner User ID、Device Pool、CSS、AAR CSS、Media Resource Group List、User Hold Audio Source、Network Hold Audio Source、Location、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module type I、Expansion Module type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、Login user ID、Built in Bridge、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain、Retry Video call as Audio、Privacy、Security Mode、Ignore Presentation Indicators、Single Packet Capture mode、Packet Capture Duration、Certificate Operation、Authentication Mode、Authentication String、Key Size (bits)、Operation Completes By
モデル固有のデバイス フィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time、Product Specific XML

表 10-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド(続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name、AARVoiceMailEnabled、AARDestinationMask、AARKeepCallHistory、Call forward Unregistered Internal Voice Mail Enabled、Call forward Unregistered Internal Destination、Call forward Unregistered Internal CallingSearchSpace、Call forward Unregistered External VoiceMailEnabled、Call forward Unregistered External Destination、Call forward Unregistered External CallingSearchSpace、Call Pickup Group Audio Alert Setting ( Phone Idle )、Call Pickup Group Audio Alert Setting ( Phone Active )

表 10-2 All Phone Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド(続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
ユーザ フィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、 Speed Dial Label
サービス	Service Name、 Subscribed Service Name、 Parameter Name、 Parameter Value

### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機レコードのエクスポート

Cisco CallManager から電話機レコードをエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Phones** の順に選択します。Phones Options ウィンドウが表示されません。
- ステップ 2** **Export Phones** オプション ボタンをクリックして、**Next** をクリックします。Export Phones ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Export file name フィールドに、ファイル名を入力します。
- ステップ 4** File Format Name フィールドで、Default Phone ファイル形式または All Phone Details ファイル形式を選択します。選択項目によりエクスポート オプションが決定され、該当するエクスポート オプションのオプション ボタンが設定されません。
  - All Phone Details** ファイル形式を選択した場合は、**All Details** オプション ボタンの下にある Model リストボックスで、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。この形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、[表 10-1](#) を参照してください。[ステップ 6](#) に進みます。

## ■ 電話機エクスポートの使用法

- **Default Phone** ファイル形式を選択した場合は、**Specific Details** オプション ボタンの下にある **Model** リストボックスで、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。Default Phone 形式でエクスポートされるフィールドの一覧は、表 10-2 を参照してください。

**ステップ 5** エクスポートする電話機セットを選択するとエクスポート ファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細は設定できません。次のフィールドから値を選択します。

- a. この電話機モデルについての回線数を入力します。
- b. 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、Device Name、Location）を選択します。
- c. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準（たとえば、begins with（～で始まる）、contains（を含む）、is empty（空白））を選択します。
- d. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値（たとえば、デバイス名）を選択するか、入力します。
- e. 定義したフィルタをクエリーに追加するには、**Add To Query** をクリックします。複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ b. ~ d. を繰り返します。
- f. 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ b. からやり直します。
- g. エクスポート対象のレコードが正しいことを確認するには、**View Query Result** をクリックします。

**ステップ 6** レコードをエクスポートするには、ページの最上部左側の **Export** をクリックします。

**ステップ 7** Cisco CallManager データベースからレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

トランザクションが完了すると、Export Completed ステータスまたは Export Failed ステータスが表示されます。エクスポートに失敗したレコードがある場合は、Export Failed メッセージが表示されます。

**ステップ 8** BAT で生成されたログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。ログ ファイルには、エクスポートされた電話機レコードの数、エクスポートに失敗した電話機レコードの数（エラー コード含む）、作成されたエクスポート ファイルの数、およびファイルの場所が示されます。

---

**View/Download Exported File** リンクを選択すると、エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードすることもできます。このリンクは、複数のエクスポート ファイルが作成された場合は表示されません。

#### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エクスポートされた電話機レコードの検索

エクスポートされたファイルは、パブリッシャ サーバ上の  
C:\BATFiles\Export\Phones に保存されます。

電話機の挿入時に、このファイル名を確認することで、回線の再設定が容易になります。Specific Details オプションを使用してファイルをエクスポートすると、エクスポート ファイルの名前に数字のサフィックス `_n` が付加されます。このサフィックスは、電話機に設定された回線の数を示しています。たとえば、エクスポート ファイルの名前を「sales」と入力し、回線 1 と回線 3 が設定された 2 回線用の電話機がある場合、ファイルの名前は `sales_1_3.txt` になります。

ダミーの MAC アドレスで電話機をエクスポートすると、エクスポート ユーティリティによりエクスポート ファイル名に「bat」と数字のサフィックス `_n` が付加されます。たとえば、ダミー MAC アドレスの電話機のエクスポート ファイル名の名前を「newsales」と入力した場合、ファイル名は `newsales_bat_1.txt` となります。

#### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 複数ユーザを持つ電話機レコードのエクスポートおよびインポート

電話機を制御する複数のユーザを持つ電話機レコードをエクスポートすると、エクスポート ユーティリティにより各ユーザについて一意の電話機レコードが生成されます。電話機情報は同じままですが、各レコードのユーザ ID は異なります。

複数ユーザを持つ電話機が含まれたエクスポート ファイルをインポートすると、最初の電話機レコードは関連付けられたユーザで挿入されます。後続の電話機レコードの挿入は失敗することに注意してください。ただし、BAT はすべてのレコードを挿入しようと試み、電話機に対するユーザ アソシエーションを受け入れます。

インポート トランザクションのログ ファイルには、電話機と関連付けられた最初のユーザ以外のすべてのユーザの電話機の挿入が失敗したことが示されます。

### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザエクスポートの使用法

BAT を使用してユーザレコードをエクスポートすると、エクスポートユーティリティによりディレクトリ内の組織階層に基づいてユーザがソートされます。エクスポートユーティリティはマネージャのユーザIDフィールドに入力した値を調べて、同じ報告レベルのユーザを同じファイルに記録します。エクスポートユーティリティはサフィックス「\_user」または「\_MgrLevel#」(# は 1 ~ 20 の数字) を付加してファイル名を変更します。

マネージャのユーザIDは、ユーザレコードの Manager User ID フィールドで使用される前に、ディレクトリに存在する必要があります。ファイルは、マネージャレベルを示す数字サフィックスに基づいて、降順で挿入してください。user サフィックスを持つファイルは最後に挿入します。この方法によって、マネージャのユーザレコードが、ユーザレコードで使用される前に格納されます。

Active Directory ユーザの場合、パスワードはエクスポートされません。PIN は、クリアテキストでエクスポートされます。レコードをインポートした後に、Active Directory を使用してユーザのパスワードを設定する必要があります。

エクスポートユーティリティでエクスポートされるのは、ユーザに関連付けられているデフォルトユーザデバイスプロファイルだけです。そのユーザ用の他のユーザデバイスプロファイルは、Cisco CallManager Administrator を使用して別途挿入する必要があります。

エクスポートでは、次の設定は同じファイルに記録されます。

- CTI アプリケーションの使用
- コールパーク取得の許可
- 認証プロキシ権限の有効化
- 発信側番号の変更

設定に応じてファイル名には \_t(有効)または \_f(無効)というサフィックスが付加されます。ファイル名に含まれているサフィックスフラグは、認証プロキシ権限、CTI アプリケーションの使用、コールパーク取得、および発信側番号の変更という順序で指定されています。

## ■ ユーザエクスポートの使用法

たとえば、エクスポートユーティリティを使用して Test.txt というエクスポートファイルを作成するとします。Cisco CallManager データベースには、マネージャ MarieA を持つユーザ TomT が保持されています。MarieA のマネージャは JamesM です。TomT は、認証プロキシ権限が有効、CTI アプリケーションの使用とコールパーク取得が無効、および発信側番号の変更が有効になっており、MarieA と JamesM は、認証プロキシ権限と CTI アプリケーションの使用が有効、コールパーク取得が無効、および発信側番号の変更が有効になっているとします。この場合にエクスポートユーティリティを使用すると、これらのユーザの情報は、それぞれ別個の 3 つのファイルに保存されます。TomT は CSV ファイル Test\_user\_t\_f\_t.txt に、MarieA は CSV ファイル Test\_MgrLevel1\_t\_t\_f\_t.txt に、JamesM は CSV ファイル Test\_MgrLevel2\_t\_t\_f\_t.txt にそれぞれ保存されます。表 10-3 にこの例を示します。

表 10-3 例

初期ファイル名						Test
ユーザ ID	Manager	認証プロキシ権限	CTI アプリケーション	コールパーク取得	発信側番号の変更	生成されるファイル名
TomT	MariaA	有効	無効	無効	有効	Test_user_t_f_t.txt
MariaA	JamesM	有効	有効	無効	有効	Test_MgrLevel1_t_t_f_t.txt
JamesM		有効	有効	無効	有効	Test_MgrLevel2_t_t_f_t.txt

ユーザを挿入するときは、サフィックスを確認することで、認証プロキシ権限、CTI アプリケーションの使用、コールパーク取得、および発信側番号の変更が適切に設定されたファイルを選択できます。

## その他の情報

詳細については、P.10-21 の「関連項目」を参照してください。

## ユーザレコードのエクスポート

ユーザレコードをエクスポートする場合、ユーザレコードが Cisco CallManager 3.1 以前に作成されたために、そのユーザの PIN がブランクの場合があります。この場合は、デフォルトの PIN を指定してから、ユーザレコードを BAT ユーザインターフェイスに再挿入する必要があります。

ユーザレコードを Cisco CallManager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** **Configure > Users** の順に選択します。User Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Export Users** オプション ボタンをクリックして、**Next** をクリックします。  
Export Users ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Export file name フィールドに、エクスポート ファイルのファイル名を入力します。
- ステップ 4** File Format Name フィールドで、ファイル形式を選択します。デフォルトでは、Default Users が指定されています。
- ステップ 5** 最初のドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド（たとえば、User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。
- ステップ 6** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、contains または exactly を選択します。
- ステップ 7** 3 番目のボックス（検索フィールドまたはリストボックス）で、検索する値（たとえば、特定の名前またはユーザ ID）を入力します。



**(注)** ユーザを複数の部署から選択する場合は、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに 12, 34 と入力します。操作を 2 回繰り返す必要はありません。

## ■ ユーザエクスポートの使用法

**ステップ 8** Add To Query ボタンをクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

誤りがあった場合は、Clear Query ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、[ステップ 5](#) からやり直します。

**ステップ 9** View Query Result をクリックして、エクスポート対象のレコードを表示します。

**ステップ 10** Export をクリックして、選択したユーザレコードをエクスポートします。

Cisco CallManager データベースからレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または OK をクリックして処理を続行することができます。

トランザクションが完了すると、Export Completed ステータスまたは Export Failed ステータスが表示されます。エクスポートに失敗したレコードがある場合は、Export Failed メッセージが表示されます。

**ステップ 11** BAT で生成されたログファイルを表示するには、View Latest Log File リンクをクリックします。ログファイルには、エクスポートされた電話機レコードの数、エクスポートに失敗した電話機レコードの数（エラーコード含む）、作成されたエクスポートファイルの数、およびファイルの場所が示されます。

**ステップ 12** View/Download Exported File リンクを選択すると、エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードできます。このリンクは、複数のエクスポートファイルが作成された場合は表示されません。

エクスポートされたファイルは、パブリッシャサーバ上の  
C:\BATFiles\Export\Users に保存されます。

---

### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザデバイスプロフィールエクスポートの使用法

ユーザデバイスプロフィールレコードをエクスポートする場合、次の 2 つのファイル形式名から選択できます。

- All User Device Profile Details
- Default User Device Profile

### All User Device Profile Details 形式

複数パーティションやコーリングサーチスペースなどの、回線設定の異なる電話機の場合、All User Device Profile Details 形式を使用します。

表 10-4 に、All User Device Profile Details ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

**表 10-4 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド**

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイスフィールド	User Device Profile Name、Description、Device Pool、Calling Search Space、AAR Calling Search Space、Media Resource Group List、User Hold Audio Service、Network Hold Audio Source、Login User ID、User Locale、Network Locale、Phone Button Template、Expansion Module Type I、Expansion Module Type II、Softkey Template、Phone Load Name、Module 1 Load Name、Module 2 Load Name、MLPP Indication、MLPP Preemption、MLPP Domain
モデル固有のデバイスフィールド	Information、Directory、Messages、Services、Authentication Server、Proxy Server、Idle、Idle Timer、Enable Extension Mobility、Logout Profile、Login User ID、Login Time、Logout Time

表 10-4 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド (続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
回線フィールド	Directory Number、Partition、Voice Mail Profile、Line CSS、AAR Group、Line User Hold Audio Source、Line Network Hold Audio Source、Auto Answer、Forward All to Voice Mail、Forward All Destination、Forward All CSS、Forward Busy External to Voice Mail、Forward Busy External Destination、Forward Busy External CSS、Forward No Answer External to Voice Mail、Forward No Answer External Destination、Forward No Answer External CSS、Forward On Failure to Voice Mail、Forward On Failure Destination、Forward on Failure CSS、Call pickup group、Forward Busy Internal to Voice Mail、Forward Busy Internal Destination、Forward Busy Internal CSS、Forward No Answer Internal to Voice Mail、Forward No Answer Internal Destination、Forward No Answer Internal CSS、Forward No Call Coverage External to Voice Mail、Forward No Call Coverage External Destination、Forward No Call Coverage External CSS、Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail、Forward No Call Coverage Internal Destination、Forward No Call Coverage Internal CSS、Display、External Phone Number Mask、Message Waiting Lamp Policy、Ring Setting When Idle、Line Text Label、Ring Setting When Active、No Answer Ring Duration、MLPP Target Destination、MLPP Calling Search Space、MLPP No Answer Ring Duration、Max Num Calls、Busy Trigger、Call Info Display Mask、Alerting Name、AARVoiceMailEnabled、AARDestinationMask、AARKeepCallHistory、Call forward Unregistered Internal Voice Mail Enabled、Call forward Unregistered Internal Destination、Call forward Unregistered Internal CallingSearchSpace、Call forward Unregistered External VoiceMailEnabled、Call forward Unregistered External Destination、Call forward Unregistered External CallingSearchSpace、Call Pickup Group Audio Alert Setting ( Phone Idle )、Call Pickup Group Audio Alert Setting ( Phone Active )

表 10-4 All User Device Profile Details ファイル形式でエクスポートされるフィールド (続き)

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
ユーザフィールド	User ID
短縮ダイヤル	Speed Dial Number、 Speed Dial Label
サービス	Service Name、 Subscribed Service Name、 Parameter Name、 Parameter Value

## Default User Device Profile 形式

ユーザデバイスプロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、Default User Device Profile 形式を使用します。特定のクエリーオプションを選択してエクスポートファイルをカスタマイズできます。

表 10-5 に、Default User Device Profile 形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを示します。

表 10-5 Default User Device Profile ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドの種類	エクスポートされるフィールド
デバイスフィールド	MAC Address、 Description、 Login User ID
回線フィールド	Directory Number、 Display、 Line Text Label、 Forward Busy External、 Forward Busy Internal、 Forward No Answer External、 Forward No Answer Internal、 Forward No Coverage External、 Forward No Coverage Internal、 Call pickup group
短縮ダイヤル	Speed Dials

### その他の情報

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート

ユーザ デバイス プロファイルを Cisco CallManager からエクスポートする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** BAT から、**Configure> User Device Profile** の順に選択します。User Device Profile Options ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Export User Device Profiles** を選択します。Export User Device Profiles ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** Export File Name フィールドに、使用するファイル名を入力します。
- ステップ 4** File Format Name フィールドで、次のいずれかのオプションを選択します。選択したファイル形式によって、該当するエクスポート オプションのオプション ボタンが設定されます。

**All User Device Profiles Details** : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられたすべての回線アトリビュート、サービス、およびユーザ ID をエクスポートするには、次のフィールドに入力する必要があります。

- **All Details** オプション ボタンの Model リストボックスで、デバイス タイプまたは特定のモデルを選択します。
- 回線の数を指定して **Add to Query** をクリックします。
- [ステップ 5](#) に進みます。

**Default User Device Profile** : ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられた詳細の限定されたセットをエクスポートするには、このオプションを使用します。

エクスポート ファイルをカスタマイズするには、次の任意の詳細オプションを設定するか、または None を選択します。

- 最初のドロップダウン リストボックスで、いずれかのクエリー オプション (Device Name、Description、または Directory Number) を選択します。

- 2 番目のドロップダウン リストボックスで、いずれかのクエリー条件 ( contains ( を含む ) is exactly ( 完全一致 ) not equal to ( 不一致 ) begins with ( ~ で始まる ) ends with ( 後方 ) is empty ( 空白 ) または is not empty ( 空白以外 ) ) を選択します。
- 3 番目のボックス ( 検索フィールドまたはリストボックス ) で、検索する値 ( たとえば、特定の電話番号 ) を入力します。
- **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- **View Query Result** をクリックして、エクスポート対象のレコードを表示します。
- 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除して、やり直します。

**ステップ 5** Export Options の選択を行った後、ウィンドウの一番上の **Export** をクリックして、選択したユーザデバイスプロファイルレコードをエクスポートします。

Cisco CallManager データベースにレコードをエクスポートするために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。

**ステップ 6** トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

Export ボタンの上の Status 領域に Export Completed または Export Failed が表示されます。

**ステップ 7** エクスポートされたユーザデバイスプロファイルレコード数およびエクスポートに失敗したユーザデバイスプロファイルレコード数を示すログファイル ( エラーコードを含む ) を表示するには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。

**ステップ 8** エクスポートされたファイルを表示またはダウンロードするには、**View/Download Exported File** リンクを選択します。

エクスポートされたファイルは、パブリッシャサーバ上の C:\BatFiles\Export\User Device Profiles に保存されます。

## ■ エクスポート ログ ファイルの表示

**その他の情報**

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## エクスポート ログ ファイルの表示

BAT は、エクスポート トランザクションごとにログ ファイルを生成し、パブリッシュ データベース サーバ上の C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT\Export ディレクトリに保存します。

**View Latest Log File** リンクをクリックすると、エクスポート トランザクションの要約と、障害の詳細が表示されます。

エクスポート トランザクションのログ ファイルを表示するには、エクスポート ウィンドウで **View Latest Log File** をクリックするか、次のディレクトリに進みます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT\Export

ログ ファイル名は、次のような形式になっています。

<レコード エクスポートの種類>\_<選択したファイル名># タイムスタンプ  
ログ ファイル名のタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。

**その他の情報**

詳細については、[P.10-21](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [Cisco CallManager サーバから別の Cisco CallManager サーバへのレコードの移動 \(P.10-2\)](#)
- [電話機エクスポートの使用方法 \(P.10-4\)](#)
- [ユーザエクスポートの使用方法 \(P.10-11\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルエクスポートの使用方法 \(P.10-15\)](#)
- [エクスポートログファイルの表示 \(P.10-20\)](#)
- [Cisco CallManager への電話機の挿入 \(P.3-67\)](#)
- [Cisco CallManager へのユーザの挿入 \(P.4-7\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルの挿入 \(P.6-31\)](#)
- [BAT ログファイル \(P.13-2\)](#)

■ 関連項目



# レポートの生成

BAT には、レコードを効率的に管理するためのレポート機能があります。レポートを作成し、保存して、電話機、ユーザ デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードについての情報を利用できます。これらのレポートは、ファイル名を指定して保存できます。また、パブリッシュャサーバ上のフォルダに格納して再表示および印刷できます。

デバイス フィールドおよび回線フィールドの一覧から項目を選択して、特定のニーズに適合するように、電話機およびユーザ デバイス プロファイルについて BAT レポートをカスタマイズできます。レポート内のフィールドの整列方法を選択することもできます。レポートは CSV ファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定形式であるため、カスタマイズできません。

## 例

電話機モデル別に、転送宛先を持つすべての電話番号の一覧が必要です。Cisco IP Phone model 7960 の Phone Report を生成して、クエリー詳細 (Device Name、Directory Number、Forward Busy Destination、Forward No Answer Destination、および Label) を選択できます。レポート フィールドを整理して、Label フィールドが Directory Number フィールドの後ろ、2 つの転送宛先番号の前に位置するように調整できます。

## その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機のレポートの生成

電話機および他の IP テレフォニー デバイスのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Phone Options ウィンドウで、**Generate Phones Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Phones Reports (Step 1 of 2) ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** クエリーを指定せずにすべての電話機についてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定の電話機モデルまたは電話機アトリビュートのレポートを生成できます。
- a. **Select Phones to Query** ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド (Model や Directory Number など) を選択します。
  - b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
  - c. 検索フィールドまたはリストボックスで、検索する値 (たとえば、リストからのモデル名または電話番号範囲) を選択するか、入力します。
  - d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
  - e. 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ d. を繰り返します。
  - f. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。
- 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。
- ステップ 3** **Next** をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。Phone Reports Step 2 of 2 ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。
- ステップ 4** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

- ステップ 5** Available Device Fields ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの Selected Device Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。デバイス フィールドおよび回線フィールドについては、P.11-4 の「電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート」を参照してください。
- ステップ 6** このレポート リストの Selected Device Fields 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。
- ステップ 7** Available Line Fields ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの Selected Line Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 8** このレポート リストの Selected Line Fields 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



**(注)** レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

- ステップ 9** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。
- ステップ 10** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- 最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。
- ステップ 11** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡された電話機レコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗した電話機レコードの数も記録されます。

**ステップ 12** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がレポートに指定した順序でヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。



(注)

レポートファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BatFiles\Reports\Phones に保存されます。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機および IP テレフォニー デバイスのレポート

すべての電話機および IP テレフォニー デバイスの電話機レポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- Phone Model : クラスタに設定されているモデルのリストから 1 つを選択します。
- Device Name : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- Description : フィルタまたは正確な説明を指定します。
- Phone Load Name : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- Device Pool : クラスタに設定されているデバイス プールのリストから 1 つを選択します。
- Calling Search Space : クラスタに設定されている CSS のリストから 1 つを選択します。
- Location : クラスタに設定されているロケーションのリストから 1 つを選択します。
- Directory Number : フィルタまたは正確な番号を指定します。

電話機レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- Model
- Device Name
- Description
- Device Pool
- Calling Search Space
- Location
- Extension Mobility
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- Media Resource Group List
- User Locale
- Network Locale

次の回線フィールドから選択できます。

- Directory Number
- Partition
- CSS (Line)
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- CSS (Forward All)
- CSS (Forward Busy External)
- CSS (Forward Busy Internal)
- CSS (Forward No Answer External)
- CSS (Forward No Answer Internal)
- CSS (Forward On Failure)
- CSS (Forward No Coverage External)
- CSS (Forward No Coverage Internal)
- Forward All Destination
- Forward Busy Destination External
- Forward Busy Destination Internal

- Forward No Answer Destination External
- Forward No Answer Destination Internal
- Forward on Failure Destination
- Forward No Coverage Destination External
- Forward No Coverage Destination Internal
- Display
- Label

### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ダミー MAC アドレスを使用する電話機リストの作成

ダミー MAC アドレスを使用している電話機のリストを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Phone Options ウィンドウで、**Generate Phone Reports** を選択します。Phone Reports Step 1 of 2 ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初のドロップダウン リスト ボックスで、**Device Name** を選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、**begins with** を選択します。
- ステップ 4** フィールドに、**BAT** と入力します。ダミー MAC アドレスを使用して追加されたすべての電話機のデバイス名は、先頭が **BAT** で始まります。
- ステップ 5** **Add To Query** をクリックします。「**BAT**」で始まるテキストの **Device Name** がクエリー テキストボックスに表示されます。
- ステップ 6** **Next** をクリックします。Phone Reports Step 2 of 2 が表示されます。

**ステップ 7** 電話機のレポートの生成手順の [ステップ 4](#) に進んで、レポートを完成します。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザのレポートの生成

ユーザのレポートは固定形式です。クエリー オプションを指定せずにすべてのユーザのレポートを生成できます。また、限定されたクエリー オプション セットを指定できます。

ユーザのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** User Options ウィンドウで、**Generate User Reports** を選択して、**Next** をクリックします。User Reports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します（必須）。
- ステップ 3** クエリーを指定せずにすべてのユーザについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のユーザのレポートを生成できます。
  - a.** Select Users Where スクロール ボックスで、クエリー オプション（User ID、Department、First Name、Last Name）を選択します。
  - b.** 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準（contains または is exactly）を選択します。
  - c.** 検索フィールド ボックスに、検索対象の値（たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓）を入力します。  
検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、コンマで区切ります（例：JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ）。
  - d.** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
  - e.** **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。  
誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。
- ステップ 4** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。

- ステップ 5** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- ステップ 6** 最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。
- ステップ 7** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡されたユーザレコードの数が記録されます。また、レポートで生成に失敗したユーザレコードの数も記録されます。
- ステップ 8** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。



レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の C:\BatFiles\Reports\Users に保存されます。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

ユーザ デバイス プロファイルのレポートを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** User Device Profile Options ウィンドウで、**Generate User Device Profiles Report** を選択して、**Next** をクリックします。User Device Profiles Report Step 1 of 2 ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** クエリーを指定せずにすべてのユーザ デバイス プロファイルについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のアトリビュートを持つユーザ デバイス プロファイルのレポートを生成できます。
- Select User Device Profiles ドロップダウン リストボックスで、クエリー対象のフィールド (たとえば、Model、Device Name、Description) を選択します。
  - 2 番目のドロップダウン リストボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
  - 検索フィールドまたはリストボックスで、検索するモデル名をリストから選択するか、検索する値を入力します。
  - Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
  - 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ d. を繰り返します。
  - View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。
- 誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。
- ステップ 3** **Include Autogenerated Device Profiles** チェックボックスをクリックして、これらのプロファイルレポートに追加します。
- ステップ 4** **Next** をクリックして、レポートのタイプについての詳細を選択します。User Device Profiles Reports Step 2 of 2 ウィンドウが表示されて、選択したクエリーを表示します。クエリーのタイプを変更する場合は、**Back** をクリックします。
- ステップ 5** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

- ステップ 6** Available Device Fields ドロップダウン リストボックスでデバイス項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポートリストの Selected Device Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 7** このレポート リストの Selected Device Fields 内の項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。
- ステップ 8** Available Line Fields ドロップダウン リストボックスで回線項目を選択し、矢印をクリックして項目をこのレポート リストの Selected Line Fields に移動します。レポートに含めるフィールドは複数選択できます。
- ステップ 9** このレポート リストの Selected Line Fields 内の回線項目の順序を変更するには、項目を選択し、上向き矢印または下向き矢印をクリックして項目をリスト内の別の位置に移動します。



**(注)** レポートを生成するには、少なくとも 1 つのデバイス フィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

- ステップ 10** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。
- ステップ 11** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。
- 最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。
- ステップ 12** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、レポートのクエリー タイプとレポートに含まれるユーザ デバイス プロファイル レコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗したユーザ デバイス プロファイル レコードの数も記録されます。

## ■ ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成

**ステップ 13** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がレポートに指定した順序でヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。

---

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の  
C:\BatFiles\Reports\UserDeviceProfiles に保存されます。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルのレポート

すべてのユーザ デバイス プロファイルのレポートを作成できます。また、次のオプションのうち 1 つに限定したレポートを作成できます。

- Model : クラスタに設定されているモデルの一覧から 1 つを選択します。
- Device Name : フィルタまたは正確な名前を指定します。
- Description : フィルタまたは正確な説明を指定します。

レポート タイプを選択したら、レポートに組み込む対象のデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドから選択できます。

- Model
- Device Profile Name
- Description
- User Hold Audio Source
- User Locale

次の回線フィールドから選択できます。

- Directory Number
- Partition

- CSS (Line)
- User Hold Audio Source
- Network Hold Audio Source
- CSS (Forward All)
- CSS (Forward Busy External)
- CSS (Forward Busy Internal)
- CSS (Forward No Answer External)
- CSS (Forward No Answer Internal)
- CSS (Forward on Failure)
- CSS (Forward No Coverage External)
- CSS (Forward No Coverage Internal)
- Forward All Destination
- Forward Busy Destination External
- Forward Busy Destination Internal
- Forward No Answer Destination External
- Forward No Answer Destination Internal
- Forward on Failure Destination
- Forward No Coverage Destination External
- Forward No Coverage Destination Internal
- Display
- Label

### その他の情報

詳細については、[P.11-18 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成

VG200 ゲートウェイのレポートは固定形式です。すべての VG200 ゲートウェイの、または限定されたゲートウェイのセットのレポートを生成できます。



(注)

Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイのレポートは利用できません。

VG200 ゲートウェイのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** VG200 Options ウィンドウで、**Generate VG200 Gateway Reports** を選択して、**Next** をクリックします。VG200 Gateway Reports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。
- ステップ 3** クエリーを指定せずにすべての VG200 ゲートウェイについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定の VG200 ゲートウェイのレポートを生成できます。
  - a. **Select VG200 Gateways** ドロップダウン リストボックスで、クエリー オプション (MGCP Domain Name または Description) を選択します。
  - b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準の 1 つ (たとえば、contains、is exactly、is empty) を選択します。
  - c. 検索フィールド ボックスに、検索対象の値 (たとえば、正確な MGCP Domain Name、名前や説明に含まれる 1 文字) を入力します。
  - d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
  - e. 複数のフィルタを追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。クエリーをさらに定義するには、サブステップ a. ~ d. を繰り返します。
  - f. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。

**ステップ 4** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。

**ステップ 5** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

VG200 Gateway Report ウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。

**ステップ 6** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、日付と時刻、クエリーのタイプ、およびレポートに組み込まれたレコード数が記録されます。また、レポートで生成に失敗したレコードの数も記録されます。

**ステップ 7** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。レポート名、レポートの日付と時刻、クエリーのタイプが先頭に表示されます。レポート ヘッダーにフィールド名が表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。

---

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の  
C:\BatFiles\Reports\VG200Gateways に保存されます。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18 の「関連項目」](#)を参照してください。

## IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成

Cisco IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートは固定形式です。マネージャまたはアシスタントのクエリー オプション セットを指定してレポートを生成できます。

マネージャおよびアシスタントのレポートを生成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** Manager/Assistant Options ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。

- **Generate IPMA Manager Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Manager Reports ウィンドウが表示されます。
- **Generate IPMA Assistant Reports** を選択して、**Next** をクリックします。Assistant Reports ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Report File Name フィールドに、このレポートの名前を入力します。

**ステップ 3** クエリーを指定せずにすべてのマネージャまたはアシスタントについてのレポートを生成できます。また、次に示す手順で、特定のマネージャまたはアシスタントのレポートを生成できます。

- a. Select managers (または、Select assistants) スクロール ボックスで、クエリー オプション (User ID、Department、First Name、Last Name) を選択します。
- b. 2 番目のドロップダウン リストボックスで、検索基準 (contains または is exactly) を選択します。
- c. 検索フィールド ボックスに、検索対象の値 (たとえば、正確なユーザ ID またはユーザの姓) を入力します。  
検索フィールド ボックスに複数の値を入力するには、コンマで区切ります (例: *JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ*)
- d. **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。

e. **View Query Results** をクリックして、レポートに必要な情報が含まれていることを確認します。

誤りがあった場合は、**Clear Query** ボタンをクリックして、そのクエリーを削除します。その後、サブステップ a. からやり直します。

**ステップ 4** **Generate** をクリックして、レポートを作成します。

**ステップ 5** Cisco CallManager データベースからレポートを生成するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。トランザクションを取り消すか、または **OK** をクリックして処理を続行することができます。

最初のウィンドウの Status 領域に Report Completed または Report Failed が表示されます。

**ステップ 6** このレポートのログ ファイルを表示するには、**View Latest Log File** をクリックします。ログ ファイルに、クエリーのタイプとレポートに正常に渡されたレコードの数が記録されます。また、レポートの生成に失敗したレコードの数も記録されます。

**ステップ 7** **View Latest Report File** をクリックして、このレポートの結果を表示します。クエリーのタイプが先頭に表示され、フィールド名がヘッダーに表示されます。レポートには、クエリー結果が CSV 形式で出力されます。



(注)

レポート ファイルは、パブリッシャ サーバ上の  
C:\BatFiles\Reports\ManagesAssistants に保存されます。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18 の「関連項目」](#)を参照してください。

## レポート ログファイルの表示

レポート トランザクションごとにログ ファイルが生成され、パブリッシャー データベース サーバ上の次の場所に格納されます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT

**View Latest Log File** リンクをクリックすると、レポート トランザクションの要約と、障害の詳細が表示されます。

レポート操作のログ ファイルを表示するには、レポート ウィンドウで **View Latest Log File** リンクをクリックするか、次のロケーションに進みます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT

ログ ファイル名は、次のような形式になっています。

Generate<item>#timestamp

ログ ファイル名のタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。

### その他の情報

詳細については、[P.11-18](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [電話機のレポートの生成 \(P.11-2\)](#)
- [ユーザのレポートの生成 \(P.11-8\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのレポートの生成 \(P.11-10\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)
- [IPMA マネージャおよびアシスタントのレポートの生成 \(P.11-16\)](#)
- [レポート ログ ファイルの表示 \(P.11-18\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)



# Tool for Auto-Registered Phones Support の使用方法

Tool for Auto-Registered Phone Support (TAPS) アプリケーションを使用すると、電話機ユーザが TAPS 電話番号をコールして、ユーザの電話番号に関して事前に設定した電話機設定をダウンロードできます。TAPS は Cisco CallManager Administration と共に動作して、次の機能を提供します。

**Configure TAPS:** 自動登録機能を使用するすべての電話機について TAPS を使用できるようにしたり、ダミー MAC アドレスを持つ BAT を使用して追加される電話機にだけ TAPS を限定したりできます。詳細については、[P.12-14 の「TAPS 用の自動登録オプションの設定」](#)を参照してください。

**Secure TAPS:** 一部の電話番号を TAPS でアップデートできないように保護できます。詳細については、[P.12-15 の「電話番号の保護の設定」](#)を参照してください。

**User Locales for TAPS:** TAPS プロンプトの言語を選択できます。詳細については、[P.12-20 の「TAPS のユーザ ロケールの設定」](#)を参照してください。

次のトピックでは、TAPS の使用方法、インストール方法、および設定方法について説明しています。

- [TAPS の概要 \(P.12-2\)](#)
- [TAPS のインストール \(P.12-6\)](#)
- [Cisco CallManager での TAPS の設定 \(P.12-8\)](#)
- [TAPS のアンインストール \(P.12-10\)](#)
- [TAPS の起動 \(P.12-12\)](#)

- [TAPS の停止 \( P.12-13 \)](#)
- [TAPS オプションの設定 \( P.12-14 \)](#)
- [エンド ユーザ用の TAPS 情報 \( P.12-22 \)](#)

## TAPS の概要

自動登録機能を使用するには、一部の TAPS コンポーネントを Cisco CallManager パブリッシャ サーバにインストールする必要があります。TAPS が動作するためには、Cisco CallManager Administration で、自動登録機能を使用可能にする必要があります。

TAPS アプリケーションは Cisco Customer Response Solution ( Cisco CRS ) サーバにもインストールします。TAPS には、ユーザ インターフェイスおよびプロンプトについて Cisco CRS サーバ上で稼動する Cisco IP Interactive Voice Response ( IP IVR ) アプリケーションが必要です。

管理者は、新規電話機を設定するための TAPS の使用方法について、エンド ユーザに手順を示す必要があります。エンド ユーザの手順については、[P.12-22 の「エンド ユーザ用の TAPS 情報」](#)を参照してください。



(注)

---

Cisco CallManager データベースに電話機を追加するとき TAPS を使用していない場合、TAPS サービスを停止することをお勧めします。詳細については、[P.12-13 の「TAPS の停止」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS の自動登録オプション

TAPS を使用して電話機の自動登録を更新するための、次のオプションを設定できます。

- MAC アドレスを更新し、事前定義済みの新しい電話機用の設定をダウンロードする。
- 既存の電話機と交換した新しい電話機に設定をリロードする。



(注) Cisco CallManager 上の自動登録電話数の範囲が、TAPS を使用する電話の数と同じか、またはそれより多いことを確認します。自動登録情報の設定に関する詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。



(注) TAPS オプション使用後に作成された未割り当ての電話番号を削除することを勧めます。未割り当ての電話番号を削除することで、さらに多くの電話で TAPS を使用するために自動登録の範囲を増やす必要がなくなります。

## 新しい電話機での TAPS の使用方法

ダミー MAC アドレスを持つ新しい電話機設定が Cisco CallManager Administration に追加されると、電話機をネットワークに接続できます。システム管理者または電話機のユーザが、TAPS 電話番号をダイヤルすると、電話機にその設定がダウンロードされます。同時に、その電話機の情報は、正しい MAC アドレスを使用して、Cisco CallManager Administration 内で更新されます。TAPS が正しく動作するためには、Cisco CallManager Administration (System > Cisco CallManager) で、自動登録機能が使用可能になっていることを確認する必要があります。



(注) 電話機のプロファイルをダウンロードし、パブリッシュとディレクトリに必要な更新を行うには、約 20 ~ 25 秒かかります。

## 例

100 名の新入社員が月曜日から入社するとします。前の週末にはこれらのユーザとその新しい電話機を Cisco CallManager Administration に追加する必要があります。BAT を使用すると、その 100 台の電話機の電話機テンプレート、および電話機とユーザ用の CSV データ ファイルを作成できます。CSV データ ファイルでダミー MAC アドレス オプションを使用すると、新しい電話機に個々に MAC アドレスを追加する必要がありません。自動登録機能が Cisco CallManager で有効になっていると、電話機をネットワークに直接接続できます。システム管理者または新入社員は、TAPS 電話番号をダイヤルし、ボイス プロンプトの指示に従って設定をロードできます。

## 設定をリロードするための TAPS の使用方法

機能していない既存の電話機を交換する必要がある場合、TAPS を使用して既存の電話機設定を新しい電話機にダウンロードできます。ユーザは新しい電話機を受け取ってネットワークに接続すると、TAPS 電話番号をダイヤルして以前の電話機の設定をダウンロードできます。この処理中、ユーザは設定を変更できません。



(注) 電話機のプロファイルをダウンロードし、パブリッシュとディレクトリに必要な更新を行うには、約 20 ~ 25 秒かかります。

Cisco CallManager Administration で、自動登録機能を有効にする必要があります。すべての電話機に対して TAPS を使用するように設定して、ユーザが既存の電話機設定をダウンロードできるようにする必要があります。詳細については、[P.12-14 の「TAPS 用の自動登録オプションの設定」](#)を参照してください。

## 例

John の Cisco IP Phone 7940 に、雷雨で回路短絡が発生したとします。彼は、新しい Cisco IP Phone 7940 を受け取り、ネットワークに接続します。John が TAPS 電話番号をダイヤルすると、損傷した電話機で以前に使用していた設定が新しい電話機にダウンロードされます。TAPS により Cisco CallManager Administration 内のデバイス情報が自動的に更新されます。

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話番号の保護

TAPS では電話番号を置き換えることができるので、所定の電話番号を上書きしないように保護できます。重要な電話番号を保護するには、Secure TAPS オプションを使用します。詳細については、[P.12-15 の「電話番号の保護の設定」](#)を参照してください。

### 例

電話番号 5000 には、システム用のボイス メッセージ アクセスが用意されています。このような場合、新しいユーザが誤って新しい電話機上で 5000 を設定しないようにします。Secure TAPS オプションを使用すると、TAPS が電話番号「5000」にアクセスできないように指定できます。

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS ユーザ用の言語プロンプト

TAPS のユーザ プロンプトを複数の言語で再生できるように設定できます。管理者は、ユーザが使用できる言語を選択できます。詳細については、[P.12-20 の「TAPS のユーザ ロケールの設定」](#)を参照してください。

英語以外の言語プロンプトを使用する必要がある場合は、クラスタ内の各 Cisco CallManager および Cisco CRS サーバに Cisco IP Telephony Locale Installer がインストールされていることを確認してから、TAPS をインストール、更新、または設定します。Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国 / 地域固有の電話トーン、および各国 / 地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できます。Cisco IP Telephony Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS のインストール

この項では、TAPS のインストール、再インストール、およびアンインストールについて説明します。TAPS は Cisco CallManager パブリッシャ サーバおよび Cisco Customer Response Solution ( CRS ) 3.5(2) サーバの両方とのインターフェイスとなるので、インストールはこの両方のサーバに影響します。

TAPS をパブリッシャ データベース サーバにインストールまたは再インストールしている間、セットアップ プログラムは、次のサービスを一時的に停止させます。

- IIS Admin
- World Wide Web パブリッシング
- FTP パブリッシング

インストールが完了すると、上記のサービスは再開します。

Windows Terminal Services を使用して TAPS をインストールすることはできません。Cisco CallManager パブリッシャ サーバおよび Cisco CRS サーバから直接 TAPS をインストールする必要があります。

### 始める前に

BAT Release 5.2(1) 用の TAPS をインストールするには、次の前提条件が必要です。

- Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースが設定され、実行されている。パブリッシャ データベースは、このデータベース専用のサーバ上に置くことも、Cisco CallManager と同じサーバ上に置くこともできます。
- TAPS をインストールする前に、最新の BAT リリースが Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベース サーバにインストールされている。
- Cisco CallManager パブリッシャ サーバの IP アドレスとインストール手順のプライベート フレーズがある。
- Cisco CRS サーバが設定されている。Cisco CRS 3.5(2) アプリケーションは、独自の専用サーバ上に配置することも、Cisco CallManager と同じサーバ上に配置することもできます。
- 各国 / 地域に合わせて TAPS プロンプトを作成する場合は、必ず Locale Installer を使用する。
- Windows 2000 Services ウィンドウがクローズしている。

TAPS をインストールする手順は、次のとおりです。

## 手順

- ステップ 1** 管理者特権を使用して、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているシステムにログオンします (BAT をインストールした場所)。
  - ステップ 2** Cisco Bulk Administration Tool にアクセスします。
  - ステップ 3** **Applications > Install Plugins** の順に選択します。
  - ステップ 4** TAPS ( Tool for Auto-Registered Phone Support ) を検索して、セットアップ アイコンをダブルクリックします。
  - ステップ 5** インストール ウィザードの Welcome ウィンドウが開きます。このインストールプログラムは、アプリケーションが同じサーバ上に配置されている場合、Cisco CallManager パブリッシャ サーバと CRS アプリケーション サーバに同時に TAPS をインストールします。Next をクリックします。
-  **(注)** 専用 CRS サーバが接続されたネットワークで TAPS をインストールする場合は、CRS サーバで TAPS インストール プログラムを再実行する必要があります。インストールおよび設定の詳細については、CRS オンライン ヘルプを参照してください。
- ステップ 6** IP Address フィールドに Cisco CallManager パブリッシャ サーバの IP アドレスを入力して、Next をクリックします。
  - ステップ 7** Installing Cisco CallManager Components ウィンドウに Cisco CallManager パブリッシャ サーバのプライベート フレーズを入力して、Next をクリックします。
  - ステップ 8** Installing TAPSonCCM and TAPSonAppsServer ウィンドウに進行状況バーが表示されて、インストールの状況を示します。Next をクリックしてインストールを開始します。

- ステップ 9** インストールが終了すると、Installation Completed ウィンドウが表示されます。Finish をクリックします。

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco CallManager での TAPS の設定

Cisco IP テレフォニー システムの他のアプリケーションと同じように、TAPS にも設定要件があります。Cisco CallManager Administration で CTI ルート ポイント、CTI ポート、およびユーザを追加する必要があります。TAPS アプリケーションには、CTI ルート ポイントが 1 つだけ必要です。TAPS をユーザが使用できるようにするには少なくとも 1 つの CTI ポートが必要ですが、必要であれば、ユーザに対して複数の CTI ポートを設定できます。

Cisco CallManager Administration を使用して次の作業を行います。

- CTI ルート ポイントを作成し、固有の電話番号を割り当てる。
- call forward busy、call forward no answer、および call forward on failure を、TAPS CTI ルート ポイント上のオペレータ番号に設定する。
- 電話番号を使用して、1 つ以上の CTI ポートを作成する。CTI ポートは、BAT または Cisco CallManager Administration で作成できます。

TAPS がサポートする最大セッション数は、TAPS 用に設定された CTI ポート数に相当します。たとえば、5 つの CTI ポートを設定した場合、最大 5 名のユーザが同時に TAPS にダイヤルできます。6 番目に発信したユーザは、TAPS に接続できません。

- ユーザを作成する。TAPS のルート ポイントとポートが、ユーザの制御デバイス リスト内に含まれている必要があります。ユーザに対して、「Enable CTI Application Use」を設定します。
- 自動登録した電話機が、TAPS CTI ルート ポイントに割り当てられた電話番号以外の番号へダイヤルしないようにするために、自動登録用のパーティションまたはコーリング サーチ スペースを作成する。この電話番号へのアクセスを制限することにより、ユーザは自分の電話機に適切な設定情報のダウンロードが保証されます。

これらの値の追加方法または割り当て方法については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Cisco TAPS Service を起動するには、Windows 2000 で Services ウィンドウを使用する必要があります。

### その他の情報

詳細については、P.12-23 の「関連項目」を参照してください。

## CRS アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーションの設定

Cisco CRS 3.5(2) Application Server のマニュアルを参照するには、<http://www.cisco.com> の Cisco Voice Applications and Tools にアクセスしてください。アプリケーションの設定方法については、『Cisco Customer Response Administration Guide』を参照してください。



**(注)** 専用 CRS サーバが接続されたネットワークで TAPS をインストールする場合は、CRS サーバで TAPS インストール プログラムを再実行する必要があります。インストールおよび設定の詳細については、CRS オンライン ヘルプを参照してください。

### その他の情報

詳細については、P.12-23 の「関連項目」を参照してください。

## TAPS のアンインストール

アンインストール プログラムは、CRS と Cisco CallManager の両方が同じサーバで稼働している（共存している）場合に、システムから TAPS アプリケーションを削除します。

Cisco CallManager パブリッシャおよび CRS が別のサーバにインストールされている場合は、両方のサーバから TAPS を削除する必要があります。

Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行するサーバ上で次の手順を実行した後で、Cisco CRS サーバ上で TAPS のアンインストールを実行する必要があります。



(注)

BAT をアンインストールしても、TAPS コンポーネントはサーバにインストールされたままです。ただし、TAPS ユーザ インターフェイスにアクセスするには、BAT Configure メニューを使用する必要がありますので、TAPS ユーザ インターフェイスを開くことはできません。TAPS 電話番号はユーザに使用可能のままであり、電話機を更新できます。

Control Panel の Add/Remove Programs を使用して TAPS をアンインストールする手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上で、**Start > Settings > Control Panel > Add/Remove programs** の順に選択します。
- ステップ 2** TAPS を選択し、**Change/Remove** ボタンをクリックします。アンインストール操作を確認するメッセージが表示されます。
- ステップ 3** TAPS をアンインストールするには、**Yes** をクリックします。取り消すには **No** をクリックします。IIS Admin サービスが停止し、ファイルが削除された後、IIS Admin サービスが再開されます。

**解決策** OK をクリックして、アンインストールを終了します。

共存システムの場合、Cisco CallManager と TAPS の CRS コンポーネントの両方が削除されます。

TAPS が専用 CRS サーバ上でも実行されている場合は、[P.12-11 の「TAPS のアンインストールの完了」](#)の手順も完了する必要があります。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS のアンインストールの完了

Cisco CRS サーバから TAPS をアンインストール手順は、次のとおりです。次の手順で、TAPS のアンインストールは完了します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CRS サーバで、**Start > Settings > Control Panel > Add/Remove Programs** の順に選択します。
  - ステップ 2** TAPS を選択し、**Change/Remove** ボタンをクリックします。アンインストール操作を確認するメッセージが表示されます。
  - ステップ 3** TAPS をアンインストールするには、**Yes** をクリックします。取り消すには **No** をクリックします。Yes をクリックした場合、TAPS は Cisco CRS サーバからアンインストールされます。
  - ステップ 4** **OK** をクリックして、アンインストールを終了します。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS の起動

TAPS サービスは、手動で起動する必要があります。TAPS を起動する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上で、**Start > Programs > Administrative Tools > Services** の順に選択します。

Services ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** Cisco TAPS をダブルクリックまたは右クリックし、**Start** をクリックします。

これで、TAPS サービスが起動します。サービスが失敗した場合は、手動で TAPS を再起動する必要があります。



---

Cisco CallManager データベースに電話機を追加するときに TAPS を使用していない場合、TAPS サービスを停止することをお勧めします。詳細については、[P.12-13 の「TAPS の停止」](#)を参照してください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS の停止

Cisco CallManager データベースに電話機を追加するときに TAPS を使用していない場合、TAPS サービスを停止することをお勧めします。TAPS サービスは、BAT がインストールされているパブリッシャ サーバ上の Services ウィンドウから停止します。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上で、**Start > Programs > Administrative Tools > Services** の順に選択します。Services ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** サービスのリストで、**Cisco TAPS** をダブルクリックまたは右クリックし、**Stop** をクリックします。
- 

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS オプションの設定

管理者は、Cisco CallManager システムでの TAPS の使用方法を選択できます。次に示す TAPS 機能オプションによって、電話機の更新や電話機プロファイルのダウンロードをユーザがより柔軟に行えるようになります。TAPS オプションには、次のものがあります。

- [TAPS 用の自動登録オプションの設定 \(P.12-14\)](#)
- [電話番号の保護の設定 \(P.12-15\)](#)
- [TAPS のユーザ ロケールの設定 \(P.12-20\)](#)

TAPS Options にアクセスするには、BAT を実行しているマシン上で、**Start > Programs > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool** の順に選択します。BAT メイン ウィンドウが表示されます。

**Configure>TAPS** を選択すると、TAPS Options ウィンドウが表示されます。

## TAPS 用の自動登録オプションの設定

Configure TAPS オプションを使用すると、Cisco CallManager データベースに自動登録する電話機を TAPS を使用して更新できます。次の 2 つの方法が用意されています。

- BAT を使用して追加され、ダミー MAC アドレスを持つ電話機用
- Cisco CallManager Administration の既存の電話機用

デフォルトの設定では、TAPS の使用はプレフィックス「BAT」で始まるデバイス名で、ダミー MAC アドレスを持つ電話機に限定しています。

Configure TAPS オプションを設定して、標準 MAC アドレスを持つ電話機などの、すべての電話機を Cisco CallManager システムに自動登録できます。

Configure TAPS オプションを設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **Configure TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Configure TAPS ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** 次の 2 つのオプションの内のいずれかを選択してください。

- **Allow Auto-Registered phones to reset with a profile with a dummy MAC address**

TAPS は、ダミー MAC アドレス オプションを持つ電話機だけを更新します。

- **Allow Auto-Registered phones to reset with any profile**

TAPS は、自動登録するすべての電話機を更新します。

**ステップ 3** Update をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。

**ステップ 4** Back をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話番号の保護の設定

Secure TAPS オプションにより、TAPS がアクセスできない電話番号を指定できます。この機能は、電話番号が誤って別の電話機に割り当てられないように保護する場合に使用します。

TAPS Options にアクセスするには、BAT を実行しているマシン上で、**Start > Programs > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool** の順に選択します。BAT メイン ウィンドウが表示されます。

**Configure>TAPS** を選択すると、TAPS Options ウィンドウが表示されます。

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 電話番号の制限

TAPS で使用できないように電話番号を指定する手順は、次のとおりです。TAPS は、保護対象の電話番号のリストに含まれる電話番号を使用できません。

### 手順

- 
- ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **Secure TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Secure Directory Numbers ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** Directory Number フィールドに、TAPS から保護する電話番号を入力します。
  - ステップ 3** **Secure** をクリックします。保護対象の電話番号のリストに電話番号が追加されたことを示すプロンプトが表示されます。
  - ステップ 4** **OK** をクリックします。
  - ステップ 5** 電話番号の追加を続けるには、**ステップ 2** ~ **ステップ 4** を繰り返します。電話番号の追加を終了したら、**View Secured DN** をクリックします。

リストボックスに、保護対象の電話番号が表示されます。TAPS は、このリストに示されている電話番号を使用できません。ユーザが、このリスト内の電話番号のいずれかを入力して、デバイス プロファイルの更新を試みると、TAPS は、その要求を拒否します。



- 
- (注)** View Secure DN リストボックスは、自動的に更新されません。保護対象の電話番号の最新リストを参照するには、**Refresh List** をクリックして、更新されたリストを表示します。
- 

- ステップ 6** **Back** をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。
-

## その他の情報

詳細については、[P.12-23](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話番号に対する制限の解除

TAPS で使用できない電話番号のリストから、電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **Secure TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Secure Directory Numbers ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** TAPS からの保護を解除する電話番号をフィールドに入力します。
- ステップ 3** **Remove** をクリックします。保護対象の電話番号のリストから、その電話番号が削除されたことを示すプロンプトが表示されます。
- ステップ 4** **OK** をクリックします。
- ステップ 5** 電話番号の削除を続けるには、[ステップ 2](#) ~ [ステップ 4](#) を繰り返します。電話番号の削除を終了したら、**View Secured DN** をクリックします。

リストボックスに、保護対象の電話番号が表示されます。ユーザが、このリスト内の電話番号のいずれかを入力して、デバイス プロファイルの更新を試みると、TAPS は、その要求を拒否します。



**(注)** View Secure DN リストボックスは、自動的に更新されません。保護対象の電話番号の最新リストを参照するには、**Refresh List** をクリックして、更新されたリストを表示します。

- ステップ 6** **Back** をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。



(注) 複数の電話回線で制限のない電話番号が共有され、そのような電話機を更新しようとしている場合は、電話機の外部電話マスクを入力するように求められます。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## すべての電話番号の削除

保護対象の電話番号のリストからすべての電話番号を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **Secure TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Secure Directory Numbers ウィンドウが表示されます。
  - ステップ 2** **Remove All** をクリックします。TAPS から保護する電話番号がないことを示すプロンプトが表示されます。
  - ステップ 3** **OK** をクリックして、すべての電話番号をクリアします。クリア操作を取り消すには、**Cancel** をクリックします。TAPS から保護する電話番号のリストがクリアされたことを示すプロンプトが表示されます。
  - ステップ 4** **OK** をクリックします。
  - ステップ 5** **Back** をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。
-

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 制限された電話番号のリストの表示

TAPS がアクセスできない電話番号のリストを表示する手順は、次のとおりです。

### 手順

---

**ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **Secure TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Secure Directory Numbers ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** **View Secured DN** をクリックします。

リストボックスが表示されます。TAPS は、このリストに示されている電話番号を使用できません。ユーザが、このリスト内の電話番号のいずれかを入力して、デバイス プロファイルの更新を試みると、TAPS は、その要求を拒否します。

**ステップ 3** リストボックスをクローズします。

**ステップ 4** **Back** をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS のユーザ ロケールの設定

管理者は、User Locales for TAPS オプションを使用して TAPS ボイス プロンプトの言語を指定できます。TAPS のユーザ プロンプトを複数の言語で使用できるように設定できます。TAPS のインストールまたはアップグレードを行う前に、クラスタ内のすべての Cisco CallManager サーバと Cisco CRS サーバに Cisco IP Telephony Locale Installer がインストールされていることを確認してください。Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイス プロンプト、各国 / 地域固有の電話トーン、および各国 / 地域固有のゲートウェイトーンを電話機で利用できます。Cisco IP Telephony Locale Installer の詳細については、それぞれの Locale Installer のマニュアルを参照してください。

TAPS Options にアクセスするには、BAT を実行しているマシン上で、**Start > Programs > Cisco CallManager 4.2 > Bulk Admin Tool** の順に選択します。BAT メイン ウィンドウが表示されます。

**Configure>TAPS** を選択すると、TAPS Options ウィンドウが表示されます。

## TAPS プロンプトの言語の追加

TAPS プロンプトの言語を設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

- ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **User Locales for TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Select User Locales ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Cisco CallManager にインストールされている言語のリストである User Locales リストボックスで、ユーザ プロンプトに使用する言語を選択します。矢印をクリックして、選択した言語を Selected User Locales リストボックスに移動します。
- ステップ 3** 必要に応じて、ユーザ プロンプト用に複数の言語を選択して、Selected User Locales リストボックスに移動できます。
- ステップ 4** ユーザ プロンプトの言語を選択したら、**Update** をクリックします。ステータスメッセージで更新の完了が示されます。

**ステップ 5** Back をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS プロンプトの言語の削除

TAPS プロンプトの言語を削除する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** TAPS Options ウィンドウで **User Locales for TAPS** を選択して、**Next** をクリックします。Select User Locales ウィンドウが表示されます。

**ステップ 2** ユーザ プロンプト用に選択された言語のリストである Selected User Locales リストボックスで、削除する言語を選択します。

**ステップ 3** 矢印をクリックして、選択した言語を User Locales リストボックスに移動します。

必要に応じて、ユーザ プロンプトから複数の言語を選択して、User Locales リストボックスに移動できます。

**ステップ 4** Update をクリックします。ステータス メッセージで更新の完了が示されます。

**ステップ 5** Back をクリックして、TAPS Options ページに戻ります。

---

#### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## エンドユーザ用の TAPS 情報

新しい電話機を設定する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** 電話機をポートに差し込みます。

電話機の番号が自動的に登録され、表示されます。



**(注)** 電話機のプロファイルをダウンロードし、パブリッシュとディレクトリに必要な更新を行うには、約 20 ~ 25 秒かかります。

**ステップ 2** システム管理者から提供された CTI ルート ポイント番号をダイヤルし、プロンプトに従います。

**ステップ 3** システム管理者によって指定された TAPS 内線番号をダイヤルします。

**ステップ 4** 使用言語を選択するように求める音声の流れます。適切な言語を選択します。

**ステップ 5** システム管理者によって指定された個人用内線番号とその後に続けて # をダイヤルします。



**(注)** 市外局番を含む完全な電話番号を入力するように求められる場合があります。

**ステップ 6** 確認のために、もう一度、個人用内線番号とその後に続けて # をダイヤルします。確認プロンプトが聞こえます。

**ステップ 7** 電話を切ります。

電話機がリセットされ、ユーザの内線番号が表示されます。

問題が発生した場合は、システム管理者にお問い合わせください。

---

### その他の情報

詳細については、[P.12-23 の「関連項目」](#)を参照してください。

## 関連項目

- [TAPS の概要 \( P.12-2 \)](#)
- [TAPS のインストール \( P.12-6 \)](#)
- [Cisco CallManager での TAPS の設定 \( P.12-8 \)](#)
- [TAPS のアンインストール \( P.12-10 \)](#)
- [TAPS の起動 \( P.12-12 \)](#)
- [TAPS の停止 \( P.12-13 \)](#)
- [TAPS オプションの設定 \( P.12-14 \)](#)
- [エンド ユーザ用の TAPS 情報 \( P.12-22 \)](#)

■ 関連項目



# BAT および TAPS のトラブルシューティング

---

BAT または TAPS の使用時に発生する問題およびエラー メッセージの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)
- [BAT ログ ファイルの表示 \(P.13-2\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(P.13-4\)](#)
- [TAPS のトラブルシューティング \(P.13-9\)](#)
- [TAPS ログ ファイルの表示 \(P.13-9\)](#)

## BAT ログファイル

バルク トランザクションごとにログ ファイルが生成され、パブリッシャ データベース サーバ上の次の場所に格納されます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT

このログ ファイルにはレコードのキー値も表示されるので、管理者は容易にレコードを再検討できます。電話機の MAC アドレスは、電話機の追加、更新、または変更時のキー値の役目を果たします。ユーザが追加されるときには、User ID がキー値の役目を果たします。

**View Latest Log File** リンクをクリックすると、バルク トランザクションの要約と、障害の詳細が表示されます。



注意

---

トランザクションの処理中に画面を切り替えないでください。他の画面にすると、ログ ファイルまたは状況メッセージが表示されません。

---

### その他の情報

詳細については、[P.13-11](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## BAT ログファイルの表示

バルク トランザクションのログ ファイルを表示するには、BAT インターフェイス上で **View Latest Log File** リンクをクリックするか、次のディレクトリに進みます。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT ディレクトリ

エクスポート ユーティリティのログ ファイルは、次のディレクトリにあります。

C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT\Export

BAT 挿入トランザクションの場合は、C:\Program Files\Cisco\Trace\BAT ディレクトリに詳細なトランザクション トレース ファイルがあります。

ログ ファイルの名前には、実行された操作の内容、およびその操作が終了した時刻が示されます。

- ログ ファイル名：ファイル名は、挿入トランザクションに使用される CSV ファイルの名前、または他のアクションのトランザクション タイプを示します。
- タイムスタンプ：ログ ファイル名に含まれるタイムスタンプ形式は、*mmddyyyyhhmmss* です。
- 表 13-1 例：ログ ファイル名とタイムスタンプの例を示します。

表 13-1 ログ ファイル名

操作	ログ ファイル名	例
Insert	File name#TimeStamp.log	File1#05022000133431
Update	UpdatePhone#TimeStamp.log	UpdatePhone#05022000133431
Delete	DeletePhone#TimeStamp.log	DeletePhone#05022000133431
Validate	Validate_File name_TimeStamp.txt	Validate_batphones_0502200013343

### その他の情報

詳細については、[P.13-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT のトラブルシューティング

BAT をインストールする場合は、Cisco CallManger サーバ コンソール上でインストールする必要があります。Windows Terminal Services を使用して BAT をインストールしようとする、Terminal Services では BAT のインストールがサポートされないことを通知するエラー メッセージが表示されます。

次のリストでは、発生する可能性があるシナリオやエラー メッセージについて説明し、解決するために必要な処置を記述しています。

**症状** Export to BAT Format button does not work in BAT.xlt file.

**説明** BAT.xlt ファイルで **Export to BAT Format** ボタンをクリックしても、何も実行されません。

**推奨処置** ブランクのセルをクリックします。カーソルがセル内のテキスト上にあるか、テキストボックス内にあるときには、ボタンが使用不可になっているように見える場合があります。

**症状** BAT Excel spreadsheet gives a compilation error while exporting data to the CSV format.

**説明** 使用している Microsoft Excel のバージョンを確認します。Excel 97 を使用している場合に、BAT.xlt で問題があったことが報告されています。

**推奨処置** Microsoft Excel 2000 以降のバージョンを使用してください。

**症状** The page cannot be displayed.

**説明** IIS Administrative サービスが予定外に終了すると、メッセージが表示される場合があります。

**推奨処置** これは、単なる表示の問題を示しています。処理はバックグラウンドで続行します。ログ ファイルを参照して、トランザクションの詳細を調べてください。

**症状** Data files (CSV) format do not match Phone Template/Sample File.

**説明** データ ファイル内の回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数以下である必要がありますが、そのようになっていません。たとえば、電話機テンプレートに 3 回線があり、これらのうち Line 1、2、および 3 が設定されている場合です。最大 3 回線に設定された電話機データファイルを使用する必要があります。1111、2222、4444 は、Line1-1111、Line2-2222、Line3-none、Line4-4444 となります。

**推奨処置** 使用する予定の BAT 電話機テンプレートを調べてください。CSV データ ファイルに指定される回線数は、BAT 電話機テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。また、CSV データ ファイルで指定する短縮ダイヤル数は、使用する予定の BAT 電話機テンプレートの最大短縮ダイヤル数を超えないようにしてください。

**症状** Errors occur when the dummy MAC address option is used.

**説明** ダミー MAC アドレスのレコードで、エラーが発生しました。

**推奨処置** この症状を実際に問題があったレコードにマッピングするには、`<Modified + DataFileName>#<TimeStamp>.dat` という名前の、別の生成済みファイルを参照します。このファイルは、ダミー MAC アドレスを持つ実際のレコードを含んでいます。C:\BAT\LogFiles フォルダ内のこのファイルにアクセスしてください。

**症状** When inserting FXS ports for a VG200 gateway, the selected template does not contain DN details for directory number.

**説明** CSV ファイルで電話番号を指定する場合、FXS ポート用の Cisco VG200 テンプレートには、Gateway Directory Number テンプレートを指定する必要があります。

**推奨処置** VG200 Gateway Template 設定の FXS ポート設定ステップで指定された、FXS エンドポイント識別子用の Gateway Directory Number テンプレートを特定してください。

**症状** Port identifier contains invalid endpoint prefix.

**説明** ポート識別子の値に、無効なエンドポイントプレフィックスが含まれているか、ポート識別子の値が、BAT テンプレートで設定されていません。ポート識別子は、CSV ファイルで指定する前に、BAT テンプレートで設定しておく必要があります。CSV ファイルでは、エンドポイントプレフィックスの最初の桁は 0 または 1 (sub-unit 0 か sub-unit 1 を示す) であり、その後にポート番号 01 ~ 24 が続きます。許容値は 001 ~ 024 (sub-unit 0 の場合) または 101 ~ 124 (sub-unit 1 の場合) です。

**推奨処置** CSV ファイルでポート識別子の値を訂正するか、BAT テンプレートを調べて、ポートが設定されていることを確認してください。

**症状** Port identifier contains invalid port number.

**説明** ポート識別子の最後の 2 桁は、ポート番号を表します。ポート番号は 01 ~ 24 でなければなりません。

**推奨処置** CSV ファイルでポート番号を訂正してください。

**症状** Port number not configured in the template.

**説明** CSV ファイルにはポート番号が指定されていますが、対応するポートが BAT テンプレートに設定されていません。

**推奨処置** BAT テンプレートで、CSV ファイルで指定したポートを設定してください。

**症状** MAC address values are not allowed in the file if dummy MAC address values are desired.

**説明** この CSV ファイルには、MAC アドレスが入っています。MAC アドレスが CSV ファイル内のいずれかの行に含まれている場合、ダミー MAC アドレスは指定できません。

**推奨処置** ダミー MAC アドレスを使用する場合は、MAC アドレスを指定していないレコードだけが入っている、新しい CSV ファイルを作成してください。または別の方法として、CSV ファイルで MAC アドレスを指定し、Create Dummy MAC Address チェックボックスをオフにしてください。

**症状** The BAT.xlt spreadsheet will not work with Microsoft Excel XP (Office XP)

**説明** Office XP に付属している Microsoft Excel では、マクロ セキュリティがデフォルトで高に設定されています。この設定のため、BAT.xlt 内のマクロを実行できず、BAT.xlt が使用不可になります。

**推奨処置** BAT.xlt 内のマクロを使用できるようにするには、次のステップを実行します。

- a. BAT.xlt を開きます。
- b. **Menu > Tools > Macro > Security** へ移動します。
- c. Security Level を Medium に設定します。
- d. BAT.xlt を閉じ、再び開きます。プロンプトが表示されたら、Enable Macros を選択します。

### その他の情報

詳細については、[P.13-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## BAT パフォーマンスのトラブルシューティング

バルク トランザクションは、トラフィックの少ない時間帯に送信することをお勧めします。Cisco CallManager が大量のコールを処理しているときに BAT ファイルをパブリッシャ データベースに挿入すると、BAT トランザクションが低速になることがあります。実際に、Cisco CallManager によるコールの処理に悪影響を及ぼすことがあります。

BAT ファイルをパブリッシャ データベースに挿入する前に TFTP サービスを停止すると、BAT パフォーマンスを向上させることができます。挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。

Cisco CallManager パブリッシャ サーバ上の TFTP サービスを停止する手順は、次のとおりです。

### 手順

- 
- ステップ 1** Cisco CallManager 用のパブリッシャ サーバにアクセスします。
  - ステップ 2** Start > Programs > Administrative Tools > Services の順にクリックします。
  - ステップ 3** CTFTP Services を検索して右クリックします。
  - ステップ 4** Stop を選択し、OK をクリックします。
- 



**(注)** 挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。同じ手順によって、Start を選択してサービスを再起動します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.13-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS のトラブルシューティング

TAPS をインストールする場合は、Cisco CallManger サーバ コンソールおよび CRS サーバ コンソール上でインストールする必要があります。Windows Terminal Services を使用して TAPS をインストールしようとすると、Terminal Services では TAPS のインストールがサポートされないことを通知するエラー メッセージが表示されます。

原則として、TAPS を使用していない場合は Cisco TAPS サービスを停止することをお勧めします。サービスを停止するとそのサービスを不必要に使用することを防止でき、CPU 時間を多少節約することもできます。

### その他の情報

詳細については、[P.13-11 の「関連項目」](#)を参照してください。

## TAPS ログ ファイルの表示

トラブルシューティング情報については、次のファイルを参照してください。

- TAPS はトランザクションのログ ファイルを生成して、C:\Program Files\Cisco\Trace\TAPS に格納します。
- TAPS サービスが起動できない場合は、次のログ ファイルを収集します。  
C:\Program Files\Cisco\Trace\TAPS
- TAPS のトレース ファイルをアクティブにすると、トレース ファイルは C:\Program Files\Cisco\Trace\TAPS に格納されます。

## TAPS エラー メッセージ

Cisco CRS サーバで TAPS の実行中に、次のエラーメッセージが表示される場合があります。

**症状** When dialing the TAPS route point number, the caller hears a busy tone.

**説明** ビジー トーンにより、TAPS の最大同時セッション数に達したことが示されます。TAPS の最大セッション数は、CRS 設定で TAPS アプリケーションに割り当てられたポート数と同じです。

**推奨処置** この状況を防止するには、CRS 設定で TAPS アプリケーションに割り当てられたポート数を増やす必要があります。

**症状** When the Cisco CRS server starts, the JTAPI subsystem shows partial service or out of service

**説明** Cisco CallManager または Cisco CRS サーバ内の設定に問題があるので、メッセージが表示されました。

**推奨処置** 問題が解決するまで、次のステップを実行して行ってください。

- Cisco CallManager が起動されていることを確認する。
- Cisco CRS サーバ上に JTAPI がインストールされていることを確認する。
- CRS サーバ上の JTAPI バージョンは Cisco CallManager にインストールされている JTAPI と同じバージョンであることを確認する。バージョンが異なる場合は、CRS サーバ上の Cisco CallManager プラグイン ページで JTAPI クライアントをインストールします。
- CRS エンジン設定に有効なアプリケーション エンジン ホスト名があることを確認する。IP アドレスを使用することによって、名前解決の問題を避けることができます。
- Cisco CallManager 上でルート ポイントと CTI ポートが正しく設定されていることを確認する。
- JTAPI ユーザに対して Enable CTI Application Use チェックボックスがオンになっていることを確認する。これは、Cisco CallManager Administration のユーザ ページで確認できます。
- CTI Manager サービスが起動していることを確認する。

- ポートとルート ポイントが、Cisco CallManger ユーザ設定でユーザに関連付けられていることを確認する。

さらにトラブルシューティングを行うには、Cisco CRS サーバの MIVR ログ ファイルを収集して調査します。これらのファイルは、CRS サーバ上の C:\program files\wfvavid\log フォルダに存在します。

### その他の情報

詳細については、[P.13-11](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [BAT ログ ファイル \(P.13-2\)](#)
- [BAT ログ ファイルの表示 \(P.13-2\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(P.13-4\)](#)
- [BAT パフォーマンスのトラブルシューティング \(P.13-8\)](#)
- [TAPS のトラブルシューティング \(P.13-9\)](#)
- [TAPS ログ ファイルの表示 \(P.13-9\)](#)

■ 関連項目



# テキストベースの CSV ファイル

BAT は、コンマ区切り値 (CSV) ファイル形式で入力されたデータを使用して、パブリッシャ サーバ上の Cisco CallManager データベースへの挿入トランザクションの情報を提供します。CSV データ形式を使用すると、表形式のデータ レコードを含むテキスト ファイルを作成できます。

CSV データ ファイルを作成するには、Microsoft Notepad などのテキスト エディタを使用します。各レコードのデータは、別個の行で入力する必要があります。各データ フィールドはコンマで区切り、ブランク フィールドにはコンマ区切り文字を指定します。CSV ファイルにブランク行があると挿入トランザクション中にエラーが発生するので、データ ファイル内のすべての行にデータを入力します。

Cisco CallManager データベースにデータ レコードを挿入する場合、BAT はパブリッシャ データベースを実行するサーバに常駐する指定されたフォルダ セットにアクセスします。BAT がトランザクションの該当する CSV データ ファイルにアクセスできるように、データ内容ごとに固有のフォルダに CSV データ ファイルを格納またはコピーする必要があります。たとえば、電話機の CSV データ ファイルは、Cisco CallManager 用のパブリッシュ データベースを実行する C:\BATFiles\Phones\Insert フォルダに格納します。BAT は、適切なフォルダ以外に格納された CSV データ ファイルにはアクセスできません。

次のトピックで、各テキストベース CSV ファイルの情報およびファイル形式を説明します。

- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-3\)](#)
- [ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-13\)](#)

- ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 ( P.A-18 )
- Cisco IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成 ( P.A-24 )
- Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 ( P.A-27 )
- Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成 ( P.A-31 )
- Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成 ( P.A-34 )
- コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成 ( P.A-38 )

## 電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成

電話機を追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

電話機、IP テレフォニー デバイス、およびユーザの組み合わせの CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** テキスト エディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** Cisco CallManager に追加する電話機、IP テレフォニー デバイス、またはユーザの組み合わせごとに、行を変えて値を入力します。デバイスのタイプごとに別の CSV ファイルを作成する必要があります。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。

- すべてのチェックボックスの値は、True または False のブール値で指定する。
- フィールドが空白であっても、必ず、コンマ区切り文字を入力する。
- ルートパーティションによってコールピックアップグループへのアクセスが制約される場合は、電話番号とルートパーティション名の組み合わせとしてコールピックアップグループを指定する。たとえば、9725557121/TollByPass です。コールピックアップグループに関連するパーティションがない場合は、電話番号だけを指定します。
- 電話機をユーザに関連付ける場合は、ユーザ ID を指定する。
- 回線が設定されていない BAT テンプレートで使用するために CSV ファイルを作成する場合にだけ、Directory Number フィールドをオプションにする。BAT 電話機テンプレートで回線が設定されている場合は、デバイスごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
- ブランク行のある CSV ファイルを挿入するとエラーが発生するので注意する。

さまざまな電話機タイプに使用する CSV データ ファイル形式の詳細については、P.A-4 の「電話機用の CSV データ ファイル形式」を参照してください。

## ■ 電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成

- ステップ 3** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行するサーバ上の BATFiles ディレクトリに、作成する CSV ファイルのタイプ（電話機、CTI ポートとユーザ、ユーザ）に対応する名前を付けたフォルダを作成し、作成済みのファイルはそのフォルダに保存またはコピーします。



**(注)** BAT は該当するトランザクションの C:\BATFiles\Phones フォルダ（または IP テレフォニー デバイスのタイプの適切なフォルダ）にだけアクセスします。

その他の電話機タイプの CSV ファイル形式の詳細については、次のトピックを参照してください。

- [電話機用の CSV データ ファイル形式 \(P.A-4\)](#)
- [All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド \(P.A-8\)](#)
- [電話機 CSV ファイルの例 \(P.A-11\)](#)

## 電話機用の CSV データ ファイル形式

電話機のタイプごとに特定のデータ形式が必要です。電話機のファイル形式でオプションのラベルが付いているフィールドであっても、所定の条件が満たされる場合は、必須となることに注意してください。

- CSV ファイルでは Password フィールドおよび PIN フィールドはオプションです。これらは CSV ファイルを挿入するときに BAT のユーザ インターフェイス ウィンドウで指定できるからです。
- Directory Number フィールドは、対応する電話機または電話機とユーザの BAT テンプレートに、1 つ以上の回線が設定されている場合は、必須になります。CSV ファイルに指定する Directory Number フィールドの数は、BAT テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。

次のトピックで、各電話機タイプの形式およびサンプルについて説明します。

- [IP Phone、VGC Phone、および VGC Virtual Phone のファイル形式 \(P.A-5\)](#)
- [電話機とユーザの組み合わせのファイル形式 \(P.A-6\)](#)

- CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式 (P.A-6)
- CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式 (P.A-7)

## IP Phone、VGC Phone、および VGC Virtual Phone のファイル形式

次の形式と例は、電話機のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。デバイスと回線の詳細の順序を CSV データ ファイルに定義するファイル形式を使用して、電話機のファイル形式を調整できます。

MAC アドレスの形式は、VGC 電話機のタイプにより異なることに注意してください。

- Cisco VGC Phone はゲートウェイの MAC アドレスとポート番号の組み合わせを使用します。Cisco VGC Phone の MAC アドレスの先頭から 10 桁、および設定するポートの下 2 桁を入力します (最後の 2 桁は 01 ~ 24 です)。
- Cisco VGC Virtual Phone の MAC アドレスは、VGC ゲートウェイの先頭から 10 桁と下 2 桁の 00 で構成されています。

**Number of Lines** (必須、1 桁または 2 桁の数字), **MAC Address** (必須、12 文字), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **User ID** (オプション、30 文字以内), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内), **Speed Dial** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

### 例

```
1,1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## ■ 電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成

## 電話機とユーザの組み合わせのファイル形式

次の例は、電話機および固定ユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (必須、1 ~ 50 文字), **Last Name** (必須、1 ~ 50 文字), **User ID** (必須、30 文字以内), **Password** (オプション、20 文字以内), **Manager** (オプション、30 文字以内), **Department** (オプション、50 文字以内), **PIN** (オプション、20 桁以内の数字), **User Device Profile** (オプション、50 文字以内), **User Locale** (オプション、50 文字以内), **Number of Lines** (必須、1 桁または 2 桁の数字), **MAC Address** (必須、12 文字), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内), **Speed Dial** (オプション、50 桁以内の数値または特殊文字), **Speed Dial Label** (オプション、30 文字以内)

## 例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,johnProfile,English United States,1,1231123245AB,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## CTI ポート /H.323 クライアントのファイル形式

次の例は、CTI ポートおよび H.323 クライアントの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Number of Lines** (必須、1 桁または 2 桁の数字), **Device Name** (必須、CTI ポートの場合 15 文字以内、H.323 クライアントの場合 50 文字以内), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **User ID** (オプション、1 ~ 30 文字), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、

30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内)

### 例

```
1,TAPS Port 1,CTI TAPS Port 1,Dallas,johns,9728437154,9728437154,  
Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,  
9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## CTI ポートとユーザの組み合わせ、および H.323 クライアントとユーザの組み合わせのファイル形式

次の例は、CTI ポートとユーザ、および H.323 クライアントとユーザの形式のテキストベース CSV ファイルのフィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (必須、1 ~ 50 文字), **Last Name** (必須、1 ~ 50 文字), **User ID** (必須、30 文字以内), **Password** (オプション、20 文字以内), **Manager** (オプション、30 文字以内), **Department** (オプション、50 文字以内), **PIN** (オプション、20 桁以内の数字), **User Device Profile** (オプション、50 文字以内), **User Locale** (オプション、50 文字以内), **Number of Lines** (必須、1 桁または 2 桁の数字), **Device Name** (必須、CTI ポートとユーザの組み合わせの場合 15 文字、H.323 クライアントとユーザの組み合わせの場合 50 文字), **Description** (オプション、50 文字以内), **Location** (オプション、50 文字以内), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display** (オプション、30 文字以内), **Line Text Label** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage External** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward Busy Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Answer Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Forward No Coverage Internal** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字), **Call Pickup Group** (オプション、50/50 文字以内)

**例**

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,johnProfile,English United
States,1,TAPS Port 1,CTI TAPS Port
1,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,97255571
27,9725557158,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

**(注)**

いずれかのフィールドの中で、コンマまたは二重引用符を値の一部として使用する場合は、テキスト値全体を二重引用符で囲んで、これを 1 つの値として指定する必要があります。

たとえば、John,Bill をテキスト値として入力する場合は、“John,Bill” と入力する必要があります。

値に二重引用符を入力する場合は、二重引用符を 2 つの連続した二重引用符に置き換え、その値全体を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、John “Chief” は、“John”“Chief” と入力します。

**その他の情報**

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

**All Phone Details オプション用のエクスポート ファイルのフィールド**

エクスポート ユーティリティを使用して電話機レコードのすべての詳細を含むファイルを生成する場合、エクスポート ファイルは次の形式でなければなりません。次の例に、すべての詳細エクスポート ファイル内のフィールドの長さおよびタイプを示します。

**注意**

エクスポート ユーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などのフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。login user ID フィールドと Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要がありますので、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

<<DEVICE>>MAC Address( 必須 ),Description( オプション、50 文字以内 ),Device Pool ( 必須、50 文字以内 ),Calling Search Space ( オプション、50 文字以内 ),AAR Calling Search Space ( オプション、24 文字以内 ),Media Resource Group List ( 必須、50 文字以内 ),User Hold Audio Service ( オプション、50 文字以内 ),Network Hold Audio Source( オプション、50 文字以内 ),Location( オプション、50 文字以内 ),User Locale ( オプション、50 文字以内 ),Network Locale ( オプション、100 文字以内 ),Phone Button Template ( 必須、50 文字以内 ),Expansion Module Type I( オプション、50 文字以内 ),Expansion Module Type II( オプション、50 文字以内 ),Softkey Template ( オプション、50 文字以内 ),Phone Load Name ( オプション、32 文字以内 ),Module 1 Load Name ( オプション、32 文字以内 ),Module 2 Load Name ( オプション、32 文字以内 ),Login User ID ( オプション、1 ~ 30 文字 ),Built in Bridge( オプション、32 文字以内 ),MLPP Indication ( オプション、32 文字以内 ),MLPP Preemption( オプション、32 文字以内 ),MLPP Domain ( オプション、32 文字以内 ),Retry Video Call as Audio ( オプション ),Privacy( オプション ),Security Mode( オプション ),Ignore presentation Indicators ( オプション ),Single Packet Capture Mode( オプション ),Packet Capture Duration ( オプション ),Certification Operation,Authentication Mode ( オプション ),Authentication String,Key Size ( ビット ),Operation Completes By ( オプション )

<<MODEL SPECIFIC>> Information ( オプション、255 文字以内 ),Directory ( オプション、255 文字以内 ),Messages ( オプション、255 文字以内 ),Services ( オプション、255 文字以内 ),Authentication Server ( オプション、255 文字以内 ),Proxy Server ( オプション、255 文字以内 ),Idle ( オプション、255 文字以内 ),Idle Timer ( オプション、5 桁以内の数字 ),Enable Extension Mobility ( オプション、ブール ),Logout Profile ( オプション、1 ~ 50 文字 ),Login User ID ( オプション、1 ~ 30 文字 ),Login Time ( ログイン サービスにより書き込み ),Logout Time ( ログイン サービスにより書き込み ),Disable Speaker Phone ( オプション ),Disable Speaker Phone and Headset ( オプション ),Forwarding Delay ( オプション ), PC Port ( オプション ),SRS Telephony Enable ( オプション )

<<LINE>>Directory Number ( オプション、24 桁以内の数字または特殊文字 ),Partition ( オプション、50 文字以内 ),Voice Mail Profile ( オプション、50 文字以内 ),Calling Search Space ( オプション、50 文字以内 ),AAR Group ( オプション、20 文字以内 ),Line User Hold Audio Source( オプション、50 文字以内 ),Line Network Hold Audio Source( オプション、50 文字以内 ),Auto Answer ( 必須、50 文字以内 ),Forward All to Voice Mail ( オプション ),Forward All Destination ( オプション、50 文字以内 ),Forward All CSS オプション、24 桁以内の数字 ),Forward

**Busy External to Voice Mail**( オプション ),**Forward Busy External Destination**( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward Busy External CSS** ( オプション、24 桁以内の数字 ),**Forward No Answer External to Voice Mail** ( オプション ),**Forward No Answer External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward No Answer External CSS** ( オプション、24 桁以内の数字 ),**Forward on Failure to Voice Mail** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward on Failure destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward on Failure CSS** ( オプション、24 桁以内の数字 ),**Call Pickup Group**( オプション、50/50 文字以内 ),**Forward Busy Internal to Voice Mail** ( オプション ),**Forward Busy Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward Busy Internal CSS** ( オプション、24 桁以内の数字 ),**Forward No Answer Internal to Voice Mail** ( オプション ),**Forward No Answer Internal Destination**( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward No Answer Internal CSS**( オプション、24 桁以内の数字 ),**Forward NoCall Coverage External to Voice Mail** ( オプション ),**Forward No Call Coverage External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward No Call Coverage External CSS**( オプション、24 桁以内の数字 ),**Forward NoCall Coverage Internal to Voice Mail** ( オプション ),**Forward No Call Coverage Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ),**Forward No Call Coverage Internal CSS**( オプション、24 桁以内の数字 ),**Display** ( オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内 ),**External Phone Mask** ( オプション、30 桁以内の数字または X。X はマスクを表す ),**Message Waiting Lamp Policy** ( オプション、50 文字以内 ),**Ring Setting when idle** ( オプション、50 文字以内 ),**Line Text Label** ( オプション、30 文字以内 ),**Ring Setting when Active**( オプション、50 文字以内 ),**No Answer Ring Duration** ( オプション、3 桁以内の数字 ),**MLPP Target Destination** ( オプション、50 文字以内 ),**MLPP Calling Search Space** ( オプション、50 文字以内 ),**MLPP No Answer Ring Duration** ( オプション、3 桁以内の数字 ),**Max Num Calls**( オプション、3 桁以内の数字 ),**Busy Trigger** ( オプション、3 桁以内の数字 ),**Call Info Display Mask**,**Alerting Name**

<<USER>>**User ID** ( オプション、1 ~ 30 文字 )

<<SPEEDDIALS>>**Speed Dial Number 1** ( オプション、50 桁以内の数字または特殊文字 ),**Speed Dial Label 1** ( オプション、30 文字以内 )

<<SERVICES>>**Service Name 1** ( オプション、100 文字以内 ),**Subscribed Service Name 1** ( オプション、50 文字以内 ),**Parameter Name 1** ( オプション、50 文字以内 ),**Parameter Value 1** ( オプション、100 文字以内 )

## その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 電話機 CSV ファイルの例

次のリストは、一般的に使用される電話機 CSV データ ファイルの例です。

### テンプレート アトリビュート : Forward Busy Destination の使用

電話機テンプレートで Forward Busy Destination が 3001 の場合、CSV ファイル内で Forward Busy Destination に値の指定がないすべてのレコードは、3001 を使用します。

```
1,1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### 電話機の説明を入力しない

電話機の説明がブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
1,1231123245AB,,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

### アクティブな回線またはロケーションを入力しない

アクティブの回線が必要ない場合で、ロケーションもブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
0,1231123245AB,SEP1231123245AB,,,1230000000,HelpDesk
```

### 2 回線のアクティブ回線

アクティブの回線が 2 回線必要な場合は、次の形式で指定します。

```
1,1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,9728437112,9728437145,9728437187,9728437198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注) MAC Address に対しては、MAC アドレス値を入力するか、ダミー MAC アドレスの作成オプションのチェックボックスをオンにしてください。

### 必須の電話機入力

単一の回線が必要であるときに、必須値だけを組み込み、オプション値をまったく組み込まない場合は、次の形式で指定します。

```
1,,1231123245AB,,,,,9725557154,,,,,
```

### ダミー MAC アドレス オプションの使用

ダミー MAC アドレスのオプションを選択しているときに、1 回線を使用する場合は、次の形式で指定します。

```
1,,SEP1231123245AB,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,johns,1230000000,Helpdesk
```

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

ユーザ用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** テキスト エディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成が可能なアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** Cisco CallManager に追加するユーザごとに、行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[P.A-14 の「ユーザのファイル形式」](#)を参照してください。

すべてのデバイスのデバイス名をコンマで区切って、レコードの終わりに入力すると、任意の数の既存デバイスを新しいユーザに関連付けることができます。

デバイスを制御しないユーザに対しても、電話番号を関連付けることができます。



**(注)** CSV ファイル内にブランク行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

**ステップ 3** Cisco CallManager 用のパブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\Users\Insert Users フォルダにこのファイルを保存またはコピーします。



**(注)** BAT は、CSV ファイルへのアクセスに C:\BATFiles\Users\Insert Users フォルダしか使用しません。

## ■ ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成

## その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザのファイル形式



## ヒント

PIN と Password の値は、CSV ファイル上に指定するか、BAT でファイルを挿入するときに指定する必要があります。ユーザまたはユーザのグループごとに個別の PIN またはパスワードを適用する場合は、CSV ファイルで PIN とパスワードを指定してください。すべてのユーザが使用できるデフォルトの PIN とパスワードを使用する場合は、CSV で PIN またはパスワードの値を指定するのではなく、BAT を使用して CSV ファイルを Cisco CallManager に挿入するときに指定してください。

次のサンプル形式と例は、ユーザ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**First Name** (必須、1 ~ 50 文字), **Last Name** (必須、1 ~ 50 文字), **User ID** (必須、30 文字以内), **Password** (オプション、20 文字以内), **Manager** (オプション、30 文字以内), **Department** (オプション、50 文字以内), **PIN** (オプション、20 文字以内), **User Device Profile** (オプション、50 文字以内), **User Locale** (オプション、50 文字以内), **Controlled Device Name 1** (オプション、50 文字以内), **Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Controlled Device Name 2** (オプション、50 文字)

**Device Name1** に値を入力しないと、**Device Name2** には値を入力できません。

## 例

```
John, Smith, johns, abc123de, karend, 0012055, 9989, johns profile, English
United States, SEP1231123245AB, 9725557154, SEP0010EB001234
```

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

**例 1**

ユーザのマネージャがブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,,0012055,9989,johns profile,English United States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

**例 2**

必須フィールドだけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,,,,,,,,,
```

**例 3**

必須フィールドだけを指定して、ユーザを電話機に関連付ける場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,,,,,,,,,SEP1231123245AB,
```

**例 4**

ユーザは、複数のデバイスを制御できます。追加デバイスのデバイス名を、レコードの終わりに追加できます。

- ユーザが 1 台のデバイスだけを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English United States,SEP1231123245AB,9725557154
```

- ユーザが 3 台のデバイスを制御する場合は、次の形式で指定します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English UnitedStates,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234,SEP0010EB432101
```

## ユーザのファイル形式の更新

ユーザ更新用の CSV テキストファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。このファイルをパブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\Users\Update Users に保存またはコピーします。

レコードを更新する場合は、ファイルのすべての必須フィールドを指定する必要があります。すでに値を格納しているにもかかわらず、オプション フィールドを空白にしてレコードを更新すると、その値は空白にリセットされます。すでに格納されている値を保持する方法については、[P.4-12](#) の「[格納済みの値の保持](#)」を参照してください。

次のサンプル形式はユーザ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**UserID** ( 必須、1 ~ 30 文字 ), **Manager** ( オプション、30 文字以内、グローバルディレクトリ内の既存 ID を使用する必要あり ), **Department** ( オプション、50 文字以内 ), **User Device Profile** ( オプション、50 文字以内 ), **User Locale** ( オプション、50 文字以内 ), **MAC Address** ( オプション、12 文字以内 ), **Directory Number** ( オプション、24 桁以内の数字または特殊文字 )

### 例

```
johns,Daviss,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```



(注)

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例とサンプル CSV レコードを参照してください。

### 例 1

ユーザのマネージャが空白である場合は、次の形式で指定します。

```
johns,,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

**例 2**

優先する言語を最初に入力し、次に国 / 地域名を入力します。次の 3 つの例を参考にしてください。

```
English United States, French France, German Germany
```

**例 3**

必須フィールドには、次を含みます。

```
John,Daviss,123,johnProfile,,,
```

**その他の情報**

詳細については、[P.A-41](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

ユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。



(注) いくつかのフィールドの中で、コンマまたは二重引用符を文字列として使用する場合は、テキスト全体を二重引用符で囲む必要があります。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** CSV ファイルを作成するために、Microsoft Notepad を開きます。
- ステップ 2** Cisco CallManager に追加するユーザ デバイス プロファイルごとに行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[P.A-19 の「ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式」](#)を参照してください。



(注) CSV ファイル内にブランク行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

- ステップ 3** CiscoCallManager 用のパブリッシャ サーバ上の C:\BATFiles\User Device Profiles フォルダにこのファイルを保存またはコピーします。



(注) BAT は、CSV ファイルへのアクセスに C:\BATFiles\User Device Profiles フォルダしか使用しません。

## その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式はユーザ デバイス プロファイル用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Number of Lines** ( 必須、1 桁または 2 桁の数字 ) , **Device Profile Name** ( 必須、1 ~ 50 文字 ) , **Description** ( オプション、1 ~ 50 文字 ) , **Login UserID** ( オプション、4 ~ 30 文字 ) , **Directory Number** ( オプション、24 桁以内の数字または特殊文字 ) , **Display** ( オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内 ) , **Line Text Label** ( オプション、30 文字以内 ) , **Forward Busy External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Forward No Answer External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Forward No Coverage External** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Forward Busy Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Forward No Answer Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Forward No Coverage Internal** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Call Pickup Group** ( オプション、50/50 文字以内 ) , **Speed Dial Number** ( オプション、50 桁以内の数字 ) , **Speed Dial Label** ( オプション、30 文字以内 )

### 例

```
1,John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,,Mike,9725557172,9725557196,9725557
126,9725557154,9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,
Helpdesk
```

### 例 1

フィールドが空白であっても、区切り文字を指定する必要があります。次の例は、`Display` の設定値を指定しない場合の正しい形式を示しています。

```
1,John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,972555
7154,9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

## ■ ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

**例 2**

プロフィールに回線を設定せず、必須フィールドだけを追加する場合は、次の例のように指定します。

```
John Profile,,,,
```

**例 3**

必須フィールドだけを入力し、ユーザ デバイス プロファイルを電話番号 1 つだけに関連付ける場合は、次のようになります。

```
John Profile,,,9725557154,,,,,
```

**2 回線と 2 短縮ダイヤルを持つユーザ デバイス プロファイル**

次の形式例では、2 回線を持つユーザ デバイス プロファイル用の CSV ファイルのフィールド長と文字列タイプを示しています。

**Number of Lines** (必須、1 桁または 2 桁の数字), **User Device Profile Name** (必須、1 ~ 50 文字), **Description** (オプション、1 ~ 50 文字), **Login UserID** (オプション、4 ~ 30 文字), **Directory Number1** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display1** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内), **Line Text Label1** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage External Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward Busy Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage Internal Destination1** (オプション、50 桁以内の数字), **Call Pickup Group1** (オプション、50/50 文字以内), **Directory Number2** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Display2** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内), **Line Text Label2** (オプション、30 文字以内), **Forward Busy External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage External Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward Busy Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Answer Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Forward No Coverage Internal Destination2** (オプション、50 桁以内の数字), **Call Pickup Group2** (オプション、

50/50 文字以内),Speed Dial Number1 (オプション、50 桁以内の数字),Speed Dial Label1 (オプション、30 文字以内),Speed Dial Number2 (オプション、50 桁以内の数字),Speed Dial Label2 (オプション、30 文字以内)

### 例

```
1,John Profile,John's
Profile,John's,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,972555
7126,9725557154,9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,9725557155
,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,9725557113,9725557145,9725557
187,9725557198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk,2149523460,Ke
ith
```

## All Details オプションを使用するユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド

エクスポートユーティリティを使用してユーザ デバイス プロファイルのすべての詳細を含むファイルを生成する場合、エクスポート ファイルは次の形式になります。次の例で、すべての詳細エクスポート ファイル内のフィールドの長さおよびタイプを示します。

エクスポート ユーティリティは、ユーザ デバイス プロファイルのモデル固有フィールドは生成しません。



### 注意

エクスポート ユーティリティで生成したファイルは、編集しないことをお勧めします。Logout time や Login time などの一部のフィールドはシステムが動的に生成するため、一切編集しないでください。login user ID と Product Specific XML フィールドは、適切に動作するには正確である必要がありますので、編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用します。

<<DEVICE>>User Device Profile name (必須、1 ~ 50 文字),Description (オプション、1 ~ 50 文字),Device Pool (必須、50 文字以内),Calling Search Space (オプション、50 文字以内),AAR Calling Search Space (オプション、24 文字以内),Media Resource Group List (必須、50 文字以内),User Hold Audio Service (オプション、50 文字以内),Network Hold Audio Source (オプション、50 文字以内),Login UserID (オプション、30 文字以内),User Locale (オプション、50

## ■ ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成

文字以内),**Network Locale** ( オプション、100 文字以内),**Phone Button Template** ( 必須、50 文字以内),**Expansion Module Type I** ( オプション、50 文字以内),**Expansion Module Type II** ( オプション、50 文字以内),**Softkey Template** ( オプション、50 文字以内),**Phone Load Name** ( オプション、32 文字以内),**Module I Load Name** ( オプション、32 文字以内),**Module II Load Name** ( オプション、32 文字以内),**MLPP Indication** ( オプション、32 文字以内),**MLPP Preemption** ( オプション、32 文字以内),**MLPP Domain** ( オプション、32 文字以内)

<<MODEL SPECIFIC>>**Information** ( オプション、255 文字以内),**Directory** ( オプション、255 文字以内),**Messages** ( オプション、255 文字以内),**Services** ( オプション、255 文字以内),**Authentication Server** ( オプション、255 文字以内),**Proxy Server** ( オプション、255 文字以内),**Idle** ( オプション、255 文字以内),**Idle Timer** ( オプション、5 桁以内の数字),**Enable Extension Mobility** ( オプション、プール),**Logout Profile** ( オプション、1 ~ 50 文字),**Login User ID** ( オプション、1 ~ 30 文字),**Login Time** ( ログイン サービスにより書き込み),**Logout Time** ( ログイン サービスにより書き込み),**Product Specific XML**

<<LINE>>**Directory Number** ( オプション、24 桁以内の数字または特殊文字),**Partition** ( オプション、50 文字以内),**Voice Mail Profile** ( オプション、50 文字以内),**Line Calling Search Space** ( オプション、50 文字以内),**AAR Group** ( オプション、20 文字以内),**Line User Hold Audio Source** ( オプション、50 文字以内),**Line Network Hold Audio Source** ( オプション、50 文字以内),**Auto Answer** ( 必須、50 文字以内),**Forward All to Voice Mail** ( オプション),**Forward All Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward All CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Forward Busy External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward Busy External CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Forward No Answer External Destination**( オプション、50 桁以内の数字),**Forward No Answer External CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Forward on Failure destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward on Failure CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Call Pickup Group** ( オプション、50/50 文字以内),**Forward Busy Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward Busy Internal CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Forward No Answer Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward No Answer Internal CSS** ( オプション、24 桁以内の数字),**Forward No Call Coverage External Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward No Call Coverage External CSS**( オプション、24 桁以内の数字),**Forward No Call Coverage Internal Destination** ( オプション、50 桁以内の数字),**Forward No Call Coverage Internal CSS** ( オプション、24 桁以内の数字)

字),**Display** (オプション、内部発信者 ID の場合は 30 文字以内),**External Phone Mask** (オプション、30 桁以内の数字または X。X はマスクを表す 30 桁以内の数字または X。X はマスクを表す),**Message Waiting Lamp Policy** (オプション、50 文字以内),**Ring Setting When Idle** (オプション、50 文字以内),**Line Text Label** (オプション、30 文字以内),**Ring Setting When Active** (オプション、50 文字以内),**No Answer Ring Duration** (オプション、3 桁以内の数字),**MLPP Target Destination** (オプション、50 文字以内),**MLPP Calling Search Space** (オプション、50 文字以内),**MLPP No Answer Ring Duration** (オプション、3 桁以内の数字),**Max Num Calls** (オプション、3 桁以内の数字),**Busy Trigger** (オプション、3 桁以内の数字),**Call Info Display Mask**,**Alerting Name**

<<USER>>**User ID** (オプション、1 ~ 30 文字)

<<SPEEDDIALS>>**Speed Dial Number 1** (オプション、50 桁以内の数字または特殊文字),**Speed Dial Label 1** (オプション、30 文字以内)

<<SERVICES>>**Service Name 1** (オプション、100 文字以内),**Subscribed Service Name 1** (オプション、50 文字以内),**Parameter Name 1** (オプション、50 文字以内),**Parameter Value 1** (オプション、100 文字以内)



---

ブール値の設定には、True と False を使用します。

---

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「**関連項目**」を参照してください。

## Cisco IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成

IPMA マネージャおよびアシスタントを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

IPMA マネージャおよびアシスタント用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco CallManager に追加するマネージャとアシスタントのアソシエーションごとに、行を変えて値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[P.A-25 の「マネージャおよびアシスタントのファイル形式」](#)を参照してください。



**(注)** CSV ファイル内にブランク行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

マネージャとアシスタントのユーザ ID をコンマで区切ってレコードの末尾に入力すると、1 人のマネージャにアシスタントを複数割り当てることができません。

- ステップ 3** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の次のフォルダに、CSV ファイルを保存またはコピーします。
  - 挿入または更新の場合 : C:\BATFiles\ManagersAssistants\Insert
  - 削除の場合 : C:\BATFiles\ManagersAssistants>Delete



(注) BAT は、指定されたフォルダ内のマネージャ アシスタント トランザクション用のファイルだけにアクセスして、該当する処理を行います。

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## マネージャおよびアシスタントのファイル形式

次のサンプル形式と例は、IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション用のフィールド長と文字列タイプを示します。Manager ID にはマネージャのユーザ ID を、Assistant ID にはアシスタントのユーザ ID を指定します。Assistant ID を最初にセットしてその後に Manager ID のリストを続けると、1 人のアシスタントに複数のマネージャを関連付けることもできます。CSV ファイルを挿入するときに、アソシエーションのタイプを選択します。

## デフォルトのマネージャとアシスタントのアソシエーション

ManagerID (必須、1 ~ 30 文字),AssistantID 1 (必須、1 ~ 30 文字),AssistantID 2 (必須、1 ~ 30 文字) ...AssistantID # (必須、1 ~ 30 文字)

### 例

Johns, Mikeh, Larryh

## デフォルトのアシスタントとマネージャのアソシエーション

AssistantID (必須、1 ~ 30 文字),ManagerID 1 (必須、1 ~ 30 文字),ManagerID 2 (必須、1 ~ 30 文字) ...ManagerID # (必須、1 ~ 30 文字)

### 例

Larryh, Johns, Mikeb, Karend

## カスタムのマネージャとアシスタントのアソシエーション

プロキシ回線設定の場合、アシスタント電話機にプロキシ回線を指定する CSV データファイルを次の形式で作成できます。

**ManagerID** (必須、1 ~ 30 文字), **Device Name** (オプション、15 文字), **Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字), **Assistant User ID** (必須、1 ~ 30 文字), **Device Name** (オプション、15 文字), **Intercom DN** (オプション、1 ~ 24 文字), **Proxy Line DN** (必須、1 ~ 24 文字), **Manager Line DN** (必須、1 ~ 24 文字)

### 例

Johns, SEP1231123245AB, 90001, Mikeh, SEP2342342342AB, 20001, 20002, 90002

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco VG200 ゲートウェイを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

VG200 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** ゲートウェイごとに行を変えて、Cisco CallManager に追加するゲートウェイとポートごとに、値を入力します。

説明および例については、[P.A-28 の「FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式」](#)と [P.A-29 の「T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式」](#)を参照してください。



**(注)** CSV ファイル内にブランク行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

**ステップ 3** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダに、CSV ファイルを保存またはコピーします。



**(注)** BAT は、CSV ファイルへのアクセスに C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダしか使用しません。

## その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式

次のサンプル形式は Cisco VG200 ゲートウェイ用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**MGCP Domain Name** (必須、1 ~ 64 文字), **Description** (オプション、100 文字以内), **Port 1 Description** (オプション、50 文字以内), **Port 1 Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Port 1 Partition** (オプション、50 文字以内), **Port 2 Description** (オプション、50 文字以内), **Port 2 Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Port 2 Partition** (オプション、50 文字以内), **Port 3 Description** (オプション、50 文字以内), **Port 3 Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Port 3 Partition** (オプション、50 文字以内), **Port 4 Description** (オプション、50 文字以内), **Port 4 Directory Number** (オプション、24 桁以内の数字または特殊文字), **Port 4 Partition** (オプション、50 文字以内)

### 例

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, Port 1, 97255572001, Partition1,
Port 2, 97255572002, Partition2, Port 3, 97255572003, Partition3,
Port 4, 97255572004, Partition4
```



(注)

フィールドがブランクであっても、コンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションは、Cisco VG200 Gateway テンプレート内のポートタイプが POTS の場合にだけ指定してください。

### 例 1

Cisco VG200 ゲートウェイの Description がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest, , Port 1, 97255572001, Partition1, Port 2, 97255572002, Partition2,
Port 3, 97255572003, Partition3, Port 4, 97255572004, Partition4
```



## 両トランク オプションの例

必須値だけを指定する場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest,
```

## T1 CAS の例

Cisco VG200 ゲートウェイの Description がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
MGCPTest,,001
```

ポート識別子の場合、最初の数字は 0 または 1 (Sub-Unit 0 か Sub-Unit 1 のいずれかを示す) であり、その後にポート番号 01 ~ 24 が続きます。許容値は 001 ~ 024 または 101 ~ 124 です。Cisco VG200 Gateway テンプレートに 3 つのポート識別子がある場合は、次のようになります。

```
MGCPTest,VG200 Lab Gateway,001,002,003
```

## その他の情報

詳細については、[P.A-41 の「関連項目」](#)を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成

Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用せずに ASCII テキスト行を使用し、値をコンマで区切ったコンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用の CSV テキスト ファイルを作成する手順は、次のとおりです。

### 手順

**ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** ポートごとに行を変えて、Cisco CallManager に追加するポートごとに、値を入力します。テキストベースの CSV ファイルで使用する形式の詳細については、[P.A-32 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポートのファイル形式」](#)を参照してください。



**(注)** CSV ファイル内に空白行があると、BAT の挿入時にエラーが発生します。

**ステップ 3** Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\Catalyst6000\_24PortsFXSGateway に、CSV ファイルを保存またはコピーします。



**(注)** BAT は、CSV ファイルへのアクセスに C:\BATFiles\Catalyst6000\_24PortsFXSGateway フォルダしか使用しません。

## その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートのファイル形式

CSV ファイルには、各ポートの情報がレコードとして含まれています。各レコードには、ポートの詳細を追加または更新する先のゲートウェイの MAC アドレス、およびそのゲートウェイ上のポート番号を指定します。



**(注)** BAT は、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイを追加しません。既存のゲートウェイにポートを追加するか、ポートを更新するだけです。

MAC アドレスには、既存の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイの MAC アドレス値を入力してください。この MAC アドレスは、Gateway Name の末尾の 12 文字分で構成されています。

CSV ファイル上のレコードで Partition に値を指定しない場合、これらのフィールドには BAT テンプレートからの値が使用されます。

CSV ファイルで電話番号を指定する場合、Gateway Directory Number テンプレートも作成する必要があります。詳細については、[P.7-3](#) の「[FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成](#)」を参照してください。

次のサンプル形式は Catalyst 6000 (FXS) ポート用の必要なフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**MAC Address**( 必須、12 文字 ),**Port Number**( 必須、2 桁の数字 ),**Directory Number** ( オプション、24 文字以内の数字または特殊文字 ),**Partition** ( オプション、50 文字以内 )

### 例

```
1231123245AB,23,9725557250,Partition1
```



**(注)** フィールドがブランクであっても、コンマ区切り文字を指定する必要があります。  
電話番号も指定している場合以外は、Partition を指定しないでください。

### 例

ポートの電話番号がブランクである場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,,
```

必須値だけを追加する場合は、次の形式で指定します。

```
1231123245AB,23,,
```

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

# Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

## 手順

**ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。

**ステップ 2** コードごとに個別の行を使用して、カスタムの Client Matter Codes (CMC) 用 CSV ファイルまたは Forced Authorized Codes (FAC) 用 CSV ファイルを作成します。手順は、次のとおりです。

- CMC の場合：[ステップ 3](#)、[ステップ 5](#)、および[ステップ 6](#)
- FAC の場合：[ステップ 4](#)、[ステップ 5](#)、および[ステップ 6](#)



**ヒント** 個別に 2 つの CSV ファイル (CMC 用と FAC 用の CSV ファイル) を作成する必要があることに注意してください。

**ステップ 3** CMC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y は次のフィールドを表します。

- x : Client Matter Code (すべての追加、更新、および削除の必須エントリ)
- y : Description (エントリの更新の場合はオプション)

たとえば、5555,Acme Toys のように入力することができます。ここで、5555 は必須の Client Matter Code、Acme Toys は Description にそれぞれ相当します。

**ステップ 4** FAC 用 CSV ファイルを作成するために、該当する情報を入力します。ここで、x、y、z は次のフィールドを表します。

- x : Forced Authorization Code (すべての追加、更新、および削除の必須エンタリ)
- y : Authorization Code Name (エンタリの更新の場合はオプション)
- z : Authorization Level (エンタリの更新の場合はオプション)

たとえば、1234,John Smith,20 のように入力することができます。ここで、1234 は Forced Authorization Code、John Smith は Authorization Code Name、20 は Authorization Level にそれぞれ相当します。



### 注意

新規コードの追加やコードの更新を行う場合は、必要な情報をすべて入力してください。既存のレコードでは、任意の部分を変更できますが、認証に必要な FAC や CMC などは必ず含めなければなりません。情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Acme Toys, Inc. や John L. Smith などに更新すると上書きされます。

**ステップ 5** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバのディレクトリに保存します。保存先のディレクトリは、次のように、実行する内容によって異なります。

- CMC の追加または更新の場合 : C:\BATFiles\CMC\Insert
- FAC の追加または更新の場合 : C:\BATFiles\FAC\Insert

**ステップ 6** 次のタスクのいずれかを実行します。

- 追加または更新を行った場合は、[P.8-17 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)で説明されているように、ファイルを BAT に挿入します。
- コードの設定を削除する場合は、[P.8-11 の「コードの設定の削除」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.A-41 の「関連項目」](#)を参照してください。

## CMC ファイル形式

次のサンプル形式と例は、Client Matter Code 用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Client Matter Code** ( 必須、1 ~ 16 桁の数字 ), **Description** ( オプション、1 ~ 50 文字または & 文字 )

### 例

```
1234567890123456,Marketing
```

### 例

フィールドの値にコンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲んでください。コンマが含まれているフィールドは、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,"Marketing, team"
```

## CMC ファイル形式の更新

Client Matter Code 更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキストエディタを使用します。

次のサンプル形式は Client Matter Code 更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Client Matter Code** ( 必須、1 ~ 16 桁の数字 ), **Description** ( オプション、1 ~ 50 文字または & 文字 )

### 例

```
1234567890123456,Marketing
```

### 例

説明が空の場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,
```

## FAC ファイル形式

次のサンプル形式と例は、Forced Authorization Codes 用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションが必須かを示します。

**Forced Authorization Code** ( 必須、1 ~ 16 桁の数字 ) ,**Authorization Code Name** ( 必須、1 ~ 50 文字 ) ,**Authorization Level** ( 必須、値の範囲は 1 ~ 255 )

### 例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

### 例

フィールドの値にコンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲んでください。コンマが含まれているフィールドは、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,"John, FAC",251
```

## FAC ファイル形式の更新

Client Matter Code 更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式は Forced Authorization Code 更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Forced Authorization Code** ( 必須、1 ~ 16 桁の数字 ) ,**Authorization Code Name** ( 必須、1 ~ 50 文字 ) ,**Authorization Level** ( 必須、値の範囲は 1 ~ 255 )

### 例

```
1234567890123456,John FAC,251
```

### 例

更新しない値にも区切り文字を組み込む必要があります。Authorization Code Name だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,John FAC,
```

Authorization Level だけを更新する必要がある場合は、次の形式で指定します。

```
1234567890123456,,251
```

## ■ コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルの作成

## コールピックアップグループ用のテキストベース CSV ファイルの作成

カスタムのテキストベース CSV ファイルを作成するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** テキストエディタ (Notepad など) または CSV ファイルのエクスポートや作成を可能にするアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** コールピックアップグループ名ごとに個別の行を使用し、次のステップに従ってカスタム コールピックアップグループ CSV ファイルを作成します。
- ステップ 3** 次の値を入力します。Pickup Group Name, Pickup Group Number, Partition, Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10。

たとえば、Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training のように入力します。ここで、Marketing は必須のピックアップグループ名、7815 は必須のピックアップグループ番号です。Part1 はパーティション、Marketing、Managers、および Training はピックアップグループ Marketing に関連するその他のピックアップグループ名です。



### 注意

情報を削除したりブランクにしたりしても、その情報はデータベースから削除されません。データベース内の既存の値は、ブランクの値では上書きされませんが、前述の例にある値を Sales from Marketing などに更新すると上書きされます。

- ステップ 4** CSV ファイルをパブリッシャ データベース サーバの C:\BatFiles\CPG\Insert\ ディレクトリに保存します。

**ステップ 5** 次のタスクのいずれかを実行します。

- 追加または更新を行った場合は、[P.9-11 の「BAT を使用した Cisco CallManager データベースの更新」](#)で説明されているように、ファイルを BAT に挿入します。
- コール ピックアップ グループの設定を削除する場合は、[P.9-7 の「クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除」](#)を参照してください。

### その他の情報

詳細については、[P.A-41 の「関連項目」](#)を参照してください。

## CPG ファイル形式

次のサンプル形式と例は、コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルのフィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示します。

**Pickup Group Name** (必須、1 ~ 50 文字), **Pickup Group Number** (必須、1 ~ 24 桁の数字), **Partition** (オプション、1 ~ 50 文字),

**Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10** (オプション、1 ~ 50 文字)

### 例

```
Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
```

### 例

Other Pickup Group Member 以外は、この時点で指定しないオプション値にも区切り文字 (コンマ) を付ける必要があります。

Pickup Group の Partition がブランクの場合は、次の形式で指定します。

```
Marketing,7815,
```

### その他の情報

詳細については、[P.A-41 の「関連項目」](#)を参照してください。

## CPG ファイル形式の更新

Client Matter Code 更新用の CSV テキスト ファイルを作成するには、テキスト エディタを使用します。

次のサンプル形式はコールピックアップグループ更新用のフィールド長と文字列タイプを示し、その後に CSV ファイルの例を示します。

**Pickup Group Name** ( 必須、1 ~ 50 文字 ), **Pickup Group Number** ( 必須、1 ~ 24 桁の数字 ), **Partition** ( オプション、1 ~ 50 文字 ),

**Other Pickup Group Name-Member1...Other Pickup Group Name-Member10** ( オプション、1 ~ 50 文字 )

### 例

```
Marketing,,,Marketing,Managers,Training
```

### 例

Other Pickup Group Member を更新しない場合は、区切り文字 ( コンマ ) を付けな  
いでください。次の形式で指定します。

```
Marketing,,,Managers,Marketing,Training
```

### その他の情報

詳細については、[P.A-41](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

## 関連項目

- [電話機用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-3 \)](#)
- [ユーザ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-13 \)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-18 \)](#)
- [Cisco IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-24 \)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-27 \)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-31 \)](#)
- [Client Matter Codes と Forced Authorization Codes のテキストベースのカスタム CSV ファイルの作成 \( P.A-34 \)](#)
- [コール ピックアップ グループ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \( P.A-38 \)](#)

■ 関連項目



## B

### BAT

アップグレード	2-3
アプリケーションの概要	1-1
アンインストール	2-6
インストール	2-4
インストールの概要	2-1
エラー メッセージ	13-4
オンライン ヘルプ	1-21
起動	1-20
仕様	1-18
使用、メニューの	1-20
設定プロセスの概要	1-4
停止、トランザクションの	1-23
トラブルシューティング	13-4
トラブルシューティング、パフォーマンスの	13-8
バージョン	1-22
ブラウザの要件	1-19
ユーザ インターフェイス、ナビゲート	1-20
ログ ファイルのロケーション	13-2
ログオン	1-20
ロケーション、エクスポート ログ ファイルの	10-20
ロケーション、レポート ログ ファイルの	11-18

### BAT スプレッドシート

BAT.xlt のインストール	2-5
BAT.xlt ファイルのロケーション	2-5
Catalyst 6000 FXS ポート	7-24
IP テレフォニー デバイス	3-46
T1 CAS または T1/E1 PRI 用 VG200 ゲートウェイ	7-15
VG200 ゲートウェイ (FXS または FXO)	7-12
概要	1-13
使用、CSV データ ファイルのための	1-13
追加、既存の電話機への回線の	3-99
デフォルトの IPMA マネージャとアシスタント	5-16
電話機	3-46
電話機とユーザ	4-29
フィールドの説明	
回線の追加	3-101
ユーザ デバイス プロファイル	6-12
ユーザの更新	4-14
プロキシ モードでの IPMA カスタムのマネージャとアシスタント	5-18
マネージャとアシスタントのアソシエーション	5-15
ユーザ	4-3
ユーザ デバイス プロファイル	6-9
BAT スプレッドシート (BAT.xlt) ファイルのロケーション	2-5

BAT.xlt、「BAT スプレッドシート」を参照

## C

### Catalyst 6000 FXS ポート

- 概要 7-22, 7-23
- 更新 7-29
- 削除、ポートの 7-31
- 作成、CSV データ ファイルの 7-24
- 作成、テンプレートの 7-23
- 挿入、Cisco CallManager への 7-26
- テキストベースの CSV ファイル、作成 A-31
- テキストベースの CSV ファイル形式 A-32
- フィールドの説明、テンプレートの 7-66

### Cisco CallManager

- 概要、レコードの挿入の 1-16
- 設定、TAPS の 12-8
- 挿入
  - Catalyst 6000 FXS ポート 7-26
  - CTI ポート 3-67
  - H.323 クライアント 3-67
  - IPMA マネージャとアシスタントのアソシエーション 5-21
  - VG200 ゲートウェイ (FXS または FXO) 7-18
  - VG200 ゲートウェイ (T1 CAS または T1/E PRI) 7-18
  - 電話機 3-67
  - 電話機とユーザ 4-31
  - ユーザ 4-7
  - ユーザ デバイス プロファイル 6-31
- 有効化、TAPS のための自動登録機能の 12-3

### Cisco CRS

- アンインストール、TAPS の 12-11
- 設定、TAPS の 12-9
- トラブルシューティング、TAPS の 13-10
- 必要な、TAPS に 12-2

### Cisco IP IVR

- 必要な、TAPS に 12-2

### Cisco IPMA Configuration ウィザード 5-2

### Client Matter Codes

- BAT の考慮事項 8-4
- CSV ファイルの設定値 (表) 8-15
- CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) 8-19
- 更新、既存の CSV ファイルの 8-9
- 削除、コードの設定 (BAT) の 8-11
- 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 8-6
- 作成、カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の A-34
- 設定チェックリスト (表) 8-3
- 挿入、BAT への CSV ファイルの 8-17

### CSV、コンマ区切り値テキスト ファイル 1-3, A-1

### CSV データ ファイル

- 概要 1-7
- 更新、既存のデバイスの 1-9
- 使用、BAT スプレッドシート (BAT.xlt) の 1-13
- 追加、新しいデバイスの 1-8

### CSV、テキストベース

- Catalyst 6000 FXS ポート、作成 A-31
- Catalyst 6000 FXS ポート形式 A-32
- CPG
  - オプション 9-4

- CMC
  - オプション 8-8
- CTI ポート形式 A-6
- CTI ポートとユーザ形式 A-7
- FAC
  - オプション 8-8
- FXO または FXS ポート形式 A-28
- H.323 クライアント形式 A-6
- H.323 クライアントとユーザ形式 A-7
- IP phone、VGC phone、VGC Virtual Phone 形式 A-5
- T1 CAS、T1/E1 PRI 形式 A-29
- VG200 ゲートウェイ、作成 A-27
- 概要 A-1
- 電話機
  - エクスポート ファイル、詳細 A-8
  - オプション 3-59
  - 作成 A-3
  - 作成する場合のヒント A-4
  - ユーザ形式での A-6
- マネージャとアシスタントのアソシエーション
  - カスタム形式 A-26
  - 作成 A-24
- マネージャとアシスタントのデフォルト形式 A-25
- ユーザ
  - 形式 A-14
  - 更新 A-16, A-36, A-37, A-40
  - 作成 A-13
- ユーザ デバイス プロファイル
  - 2 回線形式 A-20
  - エクスポート ファイル A-21
  - 作成 A-18
  - ユーザ デバイス プロファイル形式 A-19
  - ユーザ デバイス プロファイルのオプション 6-24
- CTI アプリケーションの使用
  - 電話機 3-68
  - 追加、電話機とユーザの 4-32
  - 有効化、ユーザ追加時の 4-9
  - ユーザの更新 4-17
- CTI ポート
  - 削除 3-104
  - ダミーの MAC アドレス、使用 3-68, 4-32
  - テキストベースの CSV 形式 A-6
  - 有効化、CTI アプリケーション使用の 3-68
- CTI ポートとユーザ
  - テキストベースの CSV 形式 A-7
- E
  - E1 PRI
    - 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの 7-15
    - 追加、Cisco CallManager への VG200 ゲートウェイの 7-18
    - テキストベースの CSV ファイル形式 A-29
    - フィールドの説明、VG200 Gateway テンプレートの 7-54
- F
  - Forced Authorization Codes
    - BAT の考慮事項 8-4
    - CSV ファイルの設定値 (表) 8-15
    - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) 8-19

- 更新、既存の CSV ファイルの 8-9
  - 削除、コードの設定 (BAT) の 8-11
  - 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 8-6
  - 作成、カスタムの CSV ファイル(テキストベース)の A-34
  - 設定チェックリスト(表) 8-3
  - 挿入、BAT への CSV ファイルの 8-17
- FXO
- 作成、VG200 ゲートウェイ用 CSV ファイルの 7-12
  - 挿入、Cisco CallManager への VG200 ゲートウェイの 7-18
  - テキストベースの CSV ファイル形式、VG200 ゲートウェイ用 A-28
  - フィールドの説明、テンプレートの 7-47
- FXS
- Catalyst 6000 ポート
    - 更新 7-29
    - 削除 7-31
    - 作成、CSV データ ファイルの 7-24
    - 挿入、Cisco CallManager への 7-26
    - テキストベースの CSV 形式 A-32
    - フィールドの説明、テンプレートの 7-66
  - Gateway Directory Number テンプレート、作成 7-3
  - VG200 ゲートウェイ 7-44
    - 作成、CSV ファイルの 7-12
    - 挿入、Cisco CallManager への 7-18
    - テキストベースの CSV ファイル形式 A-28
  - 作成、Catalyst 6000 ポート用テンプレートの 7-23
- G
- Gateway Directory Number テンプレート
    - 作成 7-3
    - フィールドの説明 7-32
  - Ground Start、フィールドの説明 7-47
- H
- H.323 クライアント
    - 削除 3-104
    - テキストベースの CSV 形式 A-6
  - H.323 クライアントとユーザ
    - テキストベースの CSV 形式 A-7
- I
- IP テレフォニー デバイス
    - サポート、BAT による 3-1
    - テキストベースの CSV ファイル形式 A-5
  - IP テレフォニー デバイス、「電話機」を参照
  - IPMA
    - アシスタント テンプレート、プロキシ モードのための 5-4
    - 概要 5-1
    - 削除、アシスタントの
      - カスタム ファイルの使用 5-32
      - クエリーの使用 5-30
      - 説明 5-30
    - 削除、マネージャとアシスタントのアソシエーションの 5-24
    - 削除、マネージャの
      - カスタム ファイルの使用 5-28

- クエリーの使用 5-26
- 説明 5-26
- 作成、CSV データ ファイルの 5-15
- 生成、レポートの 11-16
- 設定、電話機と回線の 5-2
- 挿入、マネージャとアシスタントのアソシエーションの 5-21
- テキストベースの CSV ファイル、作成 A-24
- テキストベースの CSV ファイルのカスタム形式 A-26
- 電話機
  - アシスタントの設定オプション 5-7
  - 共有回線の例 5-13
  - 共有回線モード 5-11
  - プロキシ モード 5-2
  - プロキシ回線、新しい電話機の 5-9
  - プロキシ回線、既存の電話機の 5-10
  - プロキシ回線の例 5-8
  - マネージャの設定オプション 5-6
- マネージャ テンプレート、プロキシ モードのための 5-3
- マネージャとアシスタントの回線設定、プロキシモード 5-5
- マネージャとアシスタントの共有回線設定 5-13
- IPMA Configuration ウィザード 5-2
- L
  - Loop Start、フィールドの説明 7-47
  - LSC 3-112
- N
  - NM-1V 7-5
  - NM-2V 7-5
  - NM-HDV 7-5
- P
  - PIN
    - 電話機とユーザ、追加 4-33
    - リセット 4-23
- S
  - sub-unit 7-6
- T
  - T1 CAS
    - 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV データファイルの 7-15
    - 追加、Cisco CallManager への VG200 ゲートウェイの 7-18
    - テキストベースの CSV ファイル形式 A-29
    - フィールドの説明、VG200 テンプレートの 7-49
  - T1 PRI
    - 作成、VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの 7-15
    - 追加、Cisco CallManager への VG200 ゲートウェイの 7-18
    - テキストベースの CSV ファイル形式 A-29
    - フィールドの説明、VG200 Gateway テンプレートの 7-54

## TAPS

- Cisco CRS を必要とする 12-2
- Cisco IP IVR を必要とする 12-2
- アンインストール 12-10
- インストールの概要 12-6
- 概要 12-1
- 完了、アンインストールの 12-11
- 起動 12-12
- 言語プロンプト 12-5
  - 削除 12-21
  - 追加 12-20
- 設定、Cisco CallManager 内の 12-8
- 設定、Cisco CRS サーバ上の 12-9
- 設定、自動登録機能のオプションの 12-14
- 設定、使用のためのオプションの 12-14
- 設定、ユーザ ロケールの 12-20
- 停止 12-13
- 手順、エンドユーザ用の 12-22
- トラブルシューティング 13-9
- 必要条件 12-2
- 保護、電話番号の 12-5, 12-15
- 有効化、自動登録機能の 12-3
- リロード、設定の 12-4
- ログ ファイルのロケーション 13-9

- 更新、エンドポイント識別子の 7-10
- 削除、ゲートウェイの 7-20
- 作成、FXS または FXO 用の CSV データ ファイルの 7-12
- 作成、T1 CAS または T1/E1 PRI 用の CSV データ ファイルの 7-15
- 作成、テキストベースの CSV ファイル A-27
- 作成、テンプレートの 7-4
- 生成、レポートの 11-14
- 挿入、Cisco CallManager (FXS または FXO) への 7-18
- 挿入、Cisco CallManager (T1 CAS または T1/E1 PRI) への 7-18
- 追加、ゲートウェイとポートの 7-2
- フィールドの説明
  - FXO テンプレート 7-47
  - FXS テンプレート 7-44
  - T1 CAS テンプレート 7-49
  - T1/E1 PRI テンプレート 7-54
- VIC-2FXO 7-6
- VIC-2FXS 7-6
- VWIC-1MFT-E1 7-6
- VWIC-1MFT-T1 7-6
- VWIC-2MFT-E1 7-6
- VWIC-2MFT-T1 7-6

## U

- UDP、「ユーザ デバイス プロファイル」を参照

## V

- VG200 ゲートウェイ
  - 概要 7-1

## あ

- アップグレード、BAT の 2-3
- アンインストール
  - BAT 2-6
  - TAPS 12-10
- 削除、Cisco CRS Server からの TAPS の 12-11

- い
- インストール
  - BAT の前提条件 2-4
  - Release 3.0(3) からアップグレードする場合はテンプレートの移行が行われない 2-3
  - TAPS の概要 12-6
  - TAPS を ~ する場合の前提条件 12-6
  - 概要 2-1, 2-4
  - テンプレートの移行、アップグレード中の 2-3
  - 前のバージョンへのテンプレートの移行は行われない 2-3
- う
- 上書き、テンプレート値の 1-7
- え
- エクスポート
  - 移動、Cisco CallManager 間のレコードの 10-2
  - 概要 10-1
  - 検索、電話機レコードの 10-9
  - 検索、ログ ファイルの 10-20
  - 使用、エクスポート ファイルの 1-9
  - 手順、電話機レコードのエクスポートの 10-7
  - 電話機と 1 人以上のユーザ 10-10
  - 電話機レコードのオプション フィールド 10-4
    - All Phone Details 10-5
    - All User Device Profile Details 10-15
    - Default Phone 10-4
    - Default User Device Profile 10-17
  - ユーザ デバイス プロファイルのオプション 10-18
  - ユーザ デバイス プロファイルのレコード形式 10-15
    - ユーザ レコードのオプション 10-13
    - ユーザのレコード形式 10-11
- エクスポートされるフィールド
  - All Phone Details 10-5
  - All User Device Profile Details 10-15
  - Default Phone 10-4
  - Default User Device Profile 10-17
- エラー メッセージ、BAT の 13-4
- エンドポイント識別子の更新 7-10
- か
- 回線
  - 更新 3-84
  - 更新、ユーザ デバイス プロファイルへの 6-36
  - 最大数 3-6
  - 追加と更新、テンプレート上での フィールドの説明、追加または更新用のテンプレートの 3-5
  - 3-30
  - マスター電話機テンプレート 1-7
- 回線の追加
  - 既存の電話機への 3-97
  - 既存の電話機への、BAT スプレッドシートを使用した 3-99
  - 既存のユーザ デバイス プロファイルへの 3-97

- 電話機テンプレートへの      3-5
- フィールドの説明、BAT スプレッドシートの  
3-101
- フィールドの説明、テンプレートの      3-30
- 概要
  - BAT アプリケーション      1-1
  - BAT スプレッドシート      1-13
  - Catalyst 6000 FXS ポート      7-23
  - Cisco IPMA      5-1
  - CSV データ ファイル      1-7
  - TAPS ツール      12-1
  - VG200 ゲートウェイとポート      7-2
  - インストール、BAT の      2-1
  - エクスポート、レコードの      10-1
  - 検証      1-15
  - 挿入、Cisco CallManager へのレコードの  
1-16
  - テキストベースの CSV ファイル      A-1
  - テンプレート      1-6
  - トラブルシューティング、BAT と TAPS の  
13-2
  - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイル  
の      1-10
  - ユーザ      4-1
  - ユーザ デバイス プロファイル      6-2
  - レポート      11-1
- カスタム ファイル
  - 更新、電話機の      3-72
  - 削除、IPMA マネージャの      5-28, 5-32
  - 削除、電話機の      3-106
  - 削除、ユーザの      4-21
  - 使用      1-9
  - 使用、パスワードと PIN のリセットのための  
4-25
- 関連付け、ファイル形式の、テキストベースの CSV  
ファイルについての      3-65, 6-29
- き
- 起動
  - BAT      1-20
  - TAPS      12-12
- く
- クエリー
  - 回線の更新、使用      3-84
  - カスタマイズ、フィルタの      1-9
  - 更新、回線の      6-36
  - 更新、電話機の      3-71
  - 削除、IPMA アシスタントの      5-30
  - 削除、IPMA マネージャの      5-26
  - 削除、コール ピックアップ グループの      9-7
  - 削除、電話機の      3-104
  - 削除、ユーザの      4-19
  - 使用、パスワードと PIN のリセットのための  
4-23
- け
- ゲートウェイ
  - Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの概要      7-22
  - Cisco VG200 の概要      7-1
- 言語 プロンプト、TAPS の      12-5, 12-20
- 検証
  - オプション      1-15
  - 概要      1-15

- 電話機とユーザのレコード 4-30
  - 電話機のレコード 3-66
  - ユーザ デバイス プロファイルのレコード 6-30
- こ
- 更新
    - 回線、ユーザ デバイス プロファイルへの 6-36
    - 電話機設定の、TAPS を使用した 12-22
  - 更新、回線の
    - フィールドの説明 3-86
  - コール パーク取得
    - 追加、電話機とユーザの 4-32
    - 有効化、ユーザ追加時の 4-9
    - ユーザの更新 4-17
  - コール ピックアップグループ
    - BAT の考慮事項 9-2
    - CSV ファイルの設定値 (表) 9-9
    - CSV ファイルを挿入する場合の BAT の設定 (表) 9-13
    - クエリーを使用したコール ピックアップ グループの削除 9-7
    - 更新、既存の CSV ファイルの 9-5
    - 作成、CSV ファイル (BAT.xlt) の 9-3
    - 作成、カスタムの CSV ファイル (テキストベース) の A-38
    - 挿入、BAT への CSV ファイルの 9-11
  - コピー
    - テンプレート 6-7
    - 電話機テンプレート 3-9
    - ファイル形式、テキストベースの CSV の 6-26
  - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 3-62
- さ
- サービスの追加または更新 3-6
  - 再起動、電話機の
    - カスタム ファイルの使用 3-110
    - クエリーの使用 3-108
    - 更新後 3-108
  - 削除
    - Catalyst 6000 FXS ポート 7-31
    - IPMA アシスタント 5-30
    - IPMA マネージャ 5-26
    - VG200 ゲートウェイ 7-20
    - コール ピックアップグループ 9-7
    - テンプレート 6-8
    - 電話機テンプレート 3-11
    - 電話機の、カスタム ファイルを使用した 3-106
    - 電話機の、クエリーを使用した 3-104
    - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 3-64, 6-28
    - マネージャとアシスタントのアソシエーション 5-24
    - ユーザ 4-19
    - ユーザ デバイス プロファイル 6-37
- し
- 指定、BAT の 1-18
  - 自動登録機能、有効化、TAPS での 12-3
  - 自動登録機能のオプション、設定 12-14

- せ
- 設定、Cisco CallManager レコードの、プロセス  
1-4
- 前提条件
- BAT 2-4
  - TAPS 12-6
- そ
- 挿入、Cisco CallManager へのレコードの、概要  
1-16
- た
- ダウンロード、TAPS を使用した電話機の設定の  
12-22
- ダミーの MAC アドレス 3-49, 3-68, 4-32
- リストの生成 11-6
- 短縮ダイヤル設定の追加または更新 3-8
- て
- 停止
- BAT トランザクション 1-23
  - TAPS 12-13
- 停止、TAPS の 12-13
- 手順、エンドユーザ用の TAPS の 12-22
- テンプレート
- BAT テンプレートの概要 1-6
  - 移行、アップグレード中の 2-3
  - 上書き、値の 1-7
  - コピー 6-7
  - コピー、電話機の 3-9
  - 削除 6-8
  - 削除、電話機の 3-11
  - 追加または更新、IP サービスの 3-6
  - 追加または更新、回線の 3-5
  - 追加または更新、短縮ダイヤルの 3-8
  - フィールドの説明
    - Catalyst 6000 FXS ポート 7-66
    - Gateway Directory Number 7-32
    - VG200 ゲートウェイ 7-44
    - VG200 ゲートウェイ - FXO テンプレート  
7-47
    - VG200 ゲートウェイ - T1 CAS ゲートウェイ  
7-49
    - 追加または更新、回線の 3-30
    - 電話機 3-11
    - ユーザ デバイス プロファイル 6-4
  - 変更 6-6
  - 変更、電話機の 3-9
  - 前のバージョンへの移行は行われぬ 2-3
  - マスター電話機 1-7
- テンプレート タイプ
- Catalyst 6000 FXS ポート 7-23
  - Gateway Directory Number 7-3
  - IP テレフォニー デバイス 3-4
  - IPMA アシスタント、プロキシ モード用の  
5-4
  - IPMA マネージャ、プロキシ モード用の 5-3
  - VG200 ゲートウェイ 7-4
  - 電話機 3-4
  - ユーザ デバイス プロファイル 6-4
- 電話機
- CAPF の設定 3-112
  - LSC のアップグレード

- 3-112
- IPMA アシスタント 5-7
- IPMA マネージャの設定 5-6
- TAPS を使用した設定 12-3
- エクスポート ファイル、すべての詳細を含む  
A-8
- エクスポートのオプション、レコードの  
10-4
- エクスポートの手順、レコードの 10-7
- 検索、エクスポート レコードの 10-9
- 検証、レコードの 3-66
- 更新 3-71
- 更新、回線の 3-84
- 更新、カスタム ファイルを使用した 3-72
- 更新、クエリーを使用した 3-71
- 削除 3-104
- 作成、テキストベースの CSV ファイル A-3
- 生成、レポートの 11-2
- 挿入、Cisco CallManager への 3-67
- ダミーの MAC アドレス、使用 3-49, 3-68,  
4-32
- ダミーの MAC アドレス リスト 11-6
- 追加
  - IP サービス 3-6
  - 回線 3-5
  - 既存の電話機への回線の 3-97
  - 新規 3-2
  - 短縮ダイヤルの設定 3-8
  - ユーザと ~ 4-27
- テキストベースの CSV 形式 A-5
- 手順、追加の 3-2
- テンプレート
  - IP テレフォニー サービス用 3-4
  - コピー 3-9
  - 削除 3-11
  - 作成、新規に 3-4
  - フィールドの説明 3-11
  - 変更 3-9
  - プロキシ モード、IPMA の 5-2
  - 有効化、CTI アプリケーション使用の 3-68
  - リロード、設定の 12-4
  - レポートのオプション 11-4
- 電話機とユーザ
  - 検証、レコードの 4-30
  - 使用、BAT スプレッドシートの 4-29
  - 挿入、Cisco CallManager への 4-31
  - テキストベースの CSV 形式 A-6
- 電話番号
  - 解除、制限の 12-17
  - 削除、TAPS からのすべての制限の 12-18
  - 制限、TAPS からの 12-16
  - テンプレート、ゲートウェイの 7-3
  - 保護、TAPS からの 12-15
  - リスト、制限された ~ の 12-19
- と
- トラブルシューティング
  - BAT 13-4
  - BAT のパフォーマンス 13-8
  - TAPS 13-9
  - 概要 13-2
- トラブルシューティング用メッセージ
  - BAT spreadsheet gives a compilation error while  
exporting data 13-4

- BAT.xlt spreadsheet will not work with Excel XP (Office XP) 13-7
  - CSV data files do not match phone template/sample file 13-5
  - errors occur when using dummy MAC address option 13-5
  - export to BAT does not work in BAT.xlt file 13-4
  - MAC address values are not allowed in CSV file if dummy MAC address option selected 13-6
  - port identifier contains invalid endpoint prefix 13-6
  - port identifier contains invalid port number 13-6
  - port number not configured in template 13-6
  - selected template does not contain DN details for directory number 13-5
  - the page cannot be displayed 13-4
  - when Cisco CRS starts, JTAPI shows partial service or out of service 13-10
  - when dialing TAPS number, caller hears bus 13-10
- に
- 認証プロキシ権限
    - 追加、電話機とユーザの 4-32
    - 有効化、ユーザ追加時の 4-9
    - ユーザの更新 4-17
- は
- バージョン、表示 1-22
  - パスワード
    - 電話機とユーザ、追加 4-33
    - リセット 4-23
  - 発信側番号の変更
    - 追加、電話機とユーザの 4-33
    - 有効化、ユーザ追加時の 4-9
    - ユーザの更新 4-17
- ひ
- 表示、ログファイルの 13-2
- ふ
- ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの
    - 概要 1-10
    - 関連付け 3-65, 6-29
    - コピー 3-62, 6-26
    - 削除 3-64, 6-28
    - 電話機の作成 3-60
    - 変更 3-63, 6-27
    - ユーザ デバイス プロファイル 6-24
  - フィールドの説明、テンプレートの 7-44
  - フィールドの説明
    - BAT スプレッドシート
      - 回線の追加 3-101
      - ユーザ デバイス プロファイル 6-12
      - ユーザの更新 4-14
    - Catalyst 6000 FXS ポート テンプレート 7-66
    - Gateway Directory Number テンプレート 7-32
    - Ground Start 7-47
    - Loop Start 7-47
    - VG200 ゲートウェイ - FXO テンプレート 7-47

- VG200 ゲートウェイ - FXS テンプレート 7-44
- VG200 ゲートウェイ - TI CAS テンプレート 7-49
- VG200 ゲートウェイ - T1/E1 PRI テンプレート 7-54
- 更新、BAT スプレッドシートを使用したユーザの 4-14
- 更新、回線の 3-86
- 追加または更新、回線の 3-30
- 電話機テンプレート 3-11
- ユーザ デバイス プロファイル テンプレート 6-4
- ブラウザの要件 1-19
  
- へ
- ヘルプ、オンライン 1-21
- 変更
  - 電話機テンプレート 3-9
  - ファイル形式、テキストベースの CSV の 6-27
  - ファイル形式、テキストベースの CSV ファイルの 3-63
  
- ほ
- 保護、TAPS からの電話番号の 12-5, 12-15
- 保持、更新時のユーザ レコードの 4-12
  
- ま
- マスター電話機テンプレート 1-7
  
- ゆ
- ユーザ
  - CTI アプリケーションの使用 4-9
  - エクスポート、レコードの 10-13
  - エクスポートされるレコード形式 10-11
  - 更新 4-12
  - コール パーク取得 4-9
  - 削除 4-19
    - カスタム ファイルの使用 4-21
    - クエリーの使用 4-19
  - 作成、CSV データ ファイルの 4-3
  - 生成、レポートの 11-8
  - 挿入、Cisco CallManager への 4-7
  - 追加の概要 4-1
  - テキストベースの CSV 形式 A-14
  - テキストベースの CSV ファイル、更新 A-16, A-36, A-37, A-40
  - テキストベースの CSV ファイル、作成 A-13
  - ~と電話機の追加 4-27
  - 認証プロキシ権限 4-9
  - 発信側番号の変更 4-9
  - フィールドの説明、BAT スプレッドシートを使用した更新についての 4-14
  - 保持、格納されている値の 4-12
  - ユーザの更新に使用するフィールドの説明 4-14
  - リセット、パスワードと PIN の 4-23
- ユーザ デバイス プロファイル
  - BAT スプレッドシート
    - 使用 6-9
    - フィールドの説明 6-12
  - エクスポート ファイル、すべての詳細を含む A-21

- エクスポート ファイルの形式 10-15
  - エクスポートのオプション、レコードの  
10-18
  - 概要 6-2
  - 検証、レコードの 6-30
  - 更新、回線の 6-36
  - 削除 6-37
  - 作成、CSV データ ファイルの 6-9
  - 挿入、Cisco CallManager への 6-31
  - 追加、既存の ~ への回線の 3-97
  - テキストベースの CSV ファイル、作成 A-18
  - テキストベースの CSV ファイル形式 A-19
  - 手順、追加の 6-2
  - テンプレート
    - コピー 6-7
    - 削除 6-8
    - 作成 6-4
    - 変更 6-6
  - レポート、生成 11-10
  - レポートのオプション 11-12
  - ユーザと電話機
    - 検証、レコードの 4-30
    - 使用、BAT スプレッドシートの 4-29
    - 挿入、Cisco CallManager への 4-31
- り
- リセット、電話機の
    - カスタム ファイルの使用 3-110
    - クエリーの使用 3-108
    - 更新後 3-108
  - リセット、パスワードと PIN の
    - カスタム ファイルの使用 4-25
- クエリーの使用 4-23
  - すべてのユーザ 4-17
- れ
- レポート
    - IPMA マネージャとアシスタント 11-16
    - VG200 ゲートウェイ 11-14
    - 概要 11-1
    - 検索、ログ ファイルの 11-18
    - ダミーの MAC アドレス 11-6
    - 電話機 11-2
    - 電話機のオプション 11-4
    - ユーザ 11-8
    - ユーザ デバイス プロファイル 11-10
    - ユーザ デバイス プロファイルのオプション  
11-12
- ろ
- ログ ファイル
    - エクスポート、 ~ の 10-20
    - 表示 13-2
    - ファイル名の表記法 11-18, 13-3
    - レポート ログ ファイル 11-18
    - ロケーション 13-2
  - ログオン、BAT への 1-20